

病 院 年 報

第 2 8 号
(令和 2 年度)

市 立 池 田 病 院

〒563-8510 大阪府池田市城南3丁目1番18号

理念・基本方針

《理念》

■ 基本理念とシンボルマーク



シンボルマークは、「五月山」と「猪名川」をモチーフとして「飛翔」を描き、基本理念である「創意に富み 思いやりのある 信頼される 病院をめざして」の、創意 Innovative Hospital、思いやり Kind Hospital、信頼 Dependable Hospital を表現しています。

飛翔の姿は、市立池田病院が地域の公的機関として、3つの理念である「創意」「思いやり」「信頼」による医療を通じて、地域とともに、暮らしやすく、豊かで、活力に満ちた“安全・安心な地域社会”に向けて飛躍する姿を描き、その貢献への決意を込めています。

《7つの基本方針》

使命を達成するために、次の基本方針を実行する。

実行にあたって職員は、「職員指針」、「臨床倫理原則」、「医療安全管理指針」、「個人情報保護方針」を徹底し、全職員の計画的・主体的・協働的な参画のもと品格高い病院づくりに努めています。

1. 地域社会

私たちは、公立病院の使命として、地域社会に応える計画的な病院事業を推進します。

2. 患者本位

私たちは、誠実で思いやりのある患者さまの立場にたった、医療を実践します。

3. 地域医療

私たちは、地域の医療水準の向上をめざし、広域的な医療連携・保健連携を推進します。

4. 医療の質

私たちは、地域の急性期病院として、安全で質の高い医療を提供します。

5. チーム医療

私たちは、全ての職種が互いに信頼し協働して、チーム医療および組織横断的活動を推進します。

6. 医療人の育成

私たちは、働きがいのある病院づくりに努め、地域医療を支える優れた医療人を育成します。

7. 経営健全化

私たちは、たえず意識変革をもって病院事業を遂行し、安定した経営基盤の確立を目指します。

はじめに

令和2年は、新型コロナウイルス感染症によって生活様式に大きな変化を来した一年でした。

1月に日本で最初の新型コロナウイルス感染例が確認され、2月にクルーズ客船「ダイヤモンド・プリンセス号」において集団感染が発生、3月には、その後の世界的な感染拡大を受けて東京オリンピックの1年延期が決定されました。

そして、4月に最初の緊急事態宣言が出され、飲食店・大型店舗などの営業時間の短縮、テレワークの推進、学校の休校などの対策がとられるとともに、「相手と身体的距離を確保すること」、「マスクの着用や手洗いや咳エチケット」、「三密（密集、密接、密閉）」を避けるといった新たな生活様式の実践も示されました。また、「PCR検査」や「変異株」といった聞き慣れない言葉が一般の人にも知れ渡るようになりました。

医療現場においては、当初は、自院で診断ができない、治療法がないといったもどかしさを感じていたものが、PCR検査や抗原検査での診断ができるようになり、治療薬も少しずつ出始めています。しかしながらその後も、感染制御の困難さから感染者数が増減を繰り返しており、数か月に1回感染拡大の大きな波が訪れています。今後、ワクチン接種が進み、ウイルスに対する簡易な経口薬の開発がなされることで、感染の波が小さくなることを期待したいものです。

こうした状況の中、市立池田病院では令和2年4月の緊急事態宣言以降、他院と同様に外来・入院患者数は減少し、新型コロナウイルス感染患者に対応する病床を確保したことなどもあって、令和2年度の病床稼働率は81.6%と、前年度に比べて9.9ポイントも低下しました。

また、令和3年1月末から2月にかけては、院内で新型コロナウイルス感染者が確認され、一時的に入院や救急の受け入れを制限せざるをえない状況となり、多くの方々にご迷惑をお掛けしました。その一方で、大阪府では医療崩壊と言われた令和3年4月から5月にかけての「第4波」においては、当院でも「コロナ病床」が満床となり、さらには、人工呼吸管理患者の対応もせざるをえない状況でしたが、地域の基幹病院として通常診療を維持しながら新型コロナウイルス感染症患者対応にも取り組み続けました。

今後も当面は新型コロナウイルスの猛威が続くと想定されますが、「with コロナ」下での医療を模索しながら、公立病院としての役割を果たせるよう努めてまいります。

令和3年9月
病院長 尾下 正秀

目 次

■病院の概要	病理診断科.....	118
病院の沿革.....	臨床検査科.....	120
病院の概要.....	精神科.....	125
病院組織機構.....	◇救急総合診療部.....	126
病院管理運営組織図.....	◇中央手術部.....	127
職員配置数.....	◇臨床研修部.....	129
病院職員.....	◇がん治療センター部	
病院の財政状況.....	外来化学療法センター.....	135
■業務概要	がん相談支援センター.....	138
患者状況.....	◇共同診療部	
診療収入状況.....	内視鏡センター.....	141
退院患者年次統計.....	生活習慣病・糖尿病センター.....	146
■各部門の活動	人工透析センター.....	148
◇医務局	口腔ケアセンター.....	150
内科	超音波診断・治療センター.....	151
総合内科.....	健診センター.....	153
腎臓内科.....	◇薬剤部.....	156
血液内科.....	◇看護部.....	163
内分泌・代謝内科.....	◇医療技術部	
呼吸器内科.....	栄養管理科.....	169
消化器内科.....	医療機器管理室.....	173
循環器内科.....	◇臨床研究管理部.....	175
神経内科.....	◇地域医療連携部.....	179
小児科.....	◇感染制御部.....	182
外科	◇医療安全・質管理部.....	190
乳腺・内分泌外科.....	◇経営企画室 情報システム.....	192
呼吸器外科.....	◇診療情報管理部	
消化器外科.....	診療情報管理・診療支援.....	194
脳神経外科.....	◇チーム医療関連	
整形外科.....	栄養サポートチーム(NST).....	198
形成外科.....	褥瘡対策チーム.....	201
皮膚科.....	呼吸療法サポートチーム(RST).....	206
泌尿器科.....	緩和ケアチーム.....	208
(結石治療センター含む)	高齢者サポートチーム(OST).....	211
産婦人科.....	精神科リエゾンチーム.....	214
眼科.....	◇その他の部門	
耳鼻いんこう科.....	ライフサポートチーム.....	215
リハビリテーション科.....	患者サポートチーム.....	217
放射線科.....	臨床心理室.....	218
麻酔科.....	からだのとしよしつ.....	220
歯科・歯科口腔外科.....	■病院だより	221

病 院 の 概 要

- 病院の沿革
- 病院の概要
- 病院組織機構
- 病院管理運営組織図
- 職員配置数
- 病院職員
- 病院の財政状況

■ 病 院 の 沿 革

	変遷の時期	変	遷	の	内	容
昭和	26. 10. 30	市立池田病院開設	(9科、81床)			
	27. 9. 19	伝染病棟開設	(本館敷地内、30床)			
	27. 10. 1	看護婦寄宿舍新設				
	30. 7. 25	結核病棟開設	(本館敷地内、50床)			
	31. 4. 1	地方公営企業法全部適用	(法第2条第2項・第3項)			
	32. 7. 30	総合病院承認	(9科、一般病床106床・結核病床60床・伝染病床30床)			
	33. 3. 11	中央検査室・コバルト室及び西病棟増設				
	37. 7. 23	4階病棟増築				
	37. 10. 19	基準給食承認				
	38. 10. 1	看護婦寄宿舍建替				
	39. 10. 26	救急病院告示				
	46. 10. 14	循環器系X線及びシンチ・カメラ室増築				
	51. 5. 18	伝染病棟(30床)廃止				
	51. 9. 27	新診療棟増築				
		管理棟増改築				
	54. 5. 23	伝染病棟建設(本館敷地内)	一般病床264床	伝染病床15床	計279床	
	57. 4. 1	整形外科及び理学診療科新設	(既設 外科診察室に併設)			
	57. 7. 14	看護婦寄宿舍増築				
	57. 8. 5	新診療棟増築				
	59. 10. 1	基準看護1類承認				
59. 12. 1	医事用コンピュータシステム導入					
60. 10. 1	基準看護特2類承認	(特1類より)				
61. 4. 1	給食配膳業務委託開始					
62. 7. 1	時間外小児救急365日体制実施					
平成	4. 4. 1	婦長・主任の管理当直	(土・日・祝日)開始			
	4. 7. 1	泌尿器科新設				
	5. 3. 31	市立池田病院移転新築計画基本構想策定				
	5. 7. 1	麻酔科新設				
	5. 7. 13	4階病棟に新生児室完成				
	5. 10. 1	内科予約診察開始				
	6. 2. 1	手術室中央化開始				
	6. 2. 28	新病院基本設計完了				
6. 3. 25	新病院用地(大阪教育大学池田分校跡地の一部)取得					
6. 9. 30	新病院実施設計完了					

変遷の時期	変	遷	の	内	容
	6.	11.	1	IDカード（磁気付き診察券）導入	
	6.	12.	2	新病院建築工事着工	
平成	8.	10.	1	新看護体系2.5対1看護（A）15対1看護補助	
	9.	10.	1	新市立池田病院開院（13科、264床）	
	10.	4.	1	歯科口腔外科新設	
	11.	3.	30	旧病院敷地（2,500㎡）売却	
	11.	7.	1	旧伝病一般転用で個室8床増（入院料加算額対象個室52床から60床に）	
	12.	2.	18	病棟薬局、リハビリテーション科改修	
	12.	3.	29	職員定数を294人から317人に改定	
	12.	3.	31	厚生省臨床研修病院指定	
	12.	4.	3	旧病院敷地（4,269.32㎡）を市に無償移管	
	12.	8.	1	看護婦寄宿舍を廃止し民間住宅を借上	
	13.	4.	1	厚生労働省臨床研修病院指定（歯科） 神経内科新設 2対1看護体制の導入 外来受付業務を委託化（3か年で完了予定）	
	13.	4.	2	看護婦寄宿舍（敷地及び建物）を市に無償移管	
	13.	6.	1	初診時特定療養費の導入	
	13.	10.	1	診療録管理室の稼働	
	13.	10.	27	市立池田病院開院50周年記念式典（池田市民文化会館）	
	14.	2.	18	病院機能評価の認定（Ver. 3.1、H14.2.18からH19.2.17まで）	
	14.	3.	20	豊能保健医療推進協議会で開放型病床（50床）開設の承認	
	14.	5.	10	増築工事実施設計業務（H14.5.13～H14.12.27）	
	14.	9.	30	急性期入院加算の届出受理	
	14.	11.	19	生体腎移植の実施	
	15.	2.	1	医療法等の一部改正に伴う病床区分の届出（その他病床から一般病床へ）	
	15.	2.	3	医療情報システム（更新）の稼働	
	15.	2.	28	増築工事着工（H16.5.31まで）	
	15.	4.	1	病院職員の定数改定（317人→402人）	
	15.	10.	1	医療相談窓口の開設	
	15.	11.	28	新医師臨床研修制度による臨床研修病院の指定	
	16.	1.	1	院内全面禁煙の実施	
	16.	2.	2	院外処方せんの全面発行の実施	
	16.	3.	5	大阪府より一般病床100床の病床配分の認可	
	16.	4.	1	看護師長による総合受付案内の実施	
	16.	5.	31	増築棟工事完成	
	16.	6.	1	新医師臨床研修制度による臨床研修の開始	
	16.	7.	1	増築棟病棟オープン	

変遷の時期	変	遷	の	内	容
16. 7.	5	増築棟外来部門オープン			
16. 10.	1	本館改築オープン			
16. 10.	27	心血管カテーテル検査治療室の稼動			
平成 17. 1.	4	逆紹介コーナーの稼動			
		外来化学療法室の稼動			
17. 4.	1	病院組織機構一部改正、院内委員会組織の改正			
18. 1.	4	内科午後一般診療廃止			
18. 4.	1	事業管理者設置			
18. 6.	1	地域医療連携登録医制度の創設			
		DPC参加病院の適用			
		池田市病院事業経営健全化計画の公表			
19. 1.	1	病院敷地内禁煙の実施			
19. 2.	18	病院機能評価Ver. 5. 0の更新認定 (H19. 8. 20に条件付認定の解除)			
19. 3.	31	神経内科の標榜廃止による診療中止			
19. 4.	1	7対1看護体制の実施			
		病院職員の定数改定 (402人→431人)			
		病院組織を11部局から10部局に改正			
19. 4.	2	セカンドオピニオン外来の開始			
19. 5.	1	消化器科、循環器科を標榜			
		生活習慣病・糖尿病センターの改称			
		乳腺・甲状腺センターの開設			
19. 6.	1	室料差額の統一			
19. 7.	1	外来診療受付時間の変更 (午前8時～11時30分を午前8時～11時に)			
19. 10.	1	1階ホール受付カウンターの配置の一部変更			
19. 10.	16	看護部2交代制の試行実施 (3階東病棟、5階南病棟)			
20. 1.	1	看護部2交代制の試行実施 (4階北病棟)			
20. 2.	1	看護部2交代制の試行実施 (5階北病棟)			
20. 4.	1	看護部2交代制の試行実施 (4階東病棟)			
		褥瘡外来の開設			
		院内保育所の開設			
20. 6.	1	亜急性期病床の導入 (4階北病棟、2室・8床)			
20. 8.	1	整形外科診療体制の変更 (外来診療の予約制)			
20. 10.	1	健診センターの開設			
		医師事務作業補助者の配置			
21. 1.	1	産科医療補償制度保険加入開始			
21. 2.	1	看護部2交代制の試行実施 (4階南病棟 [CCU除く])			

変遷の時期			変	遷	の	内	容
	21.	3. 31	大阪府がん診療拠点病院の指定（指定期間はH21. 4. 1からH25. 3. 31まで）				
	21.	4. 1	開放型病床50床を5床に変更				
			禁煙外来の開始				
			乾癬外来の開始				
			市立池田病院改革プランの公表				
	21.	5. 25	病院ホームページの更新				
平成	21.	8. 1	神経内科の標榜				
	21.	11. 25	救急車の導入				
	21.	11. 30	大阪府から地域医療支援病院の承認				
	22.	4. 1	脳神経外科を標榜				
			耳鼻いんこう科 二次後送病院体制へ参画				
	22.	5. 1	医師事務作業補助配置50対1に				
	22.	6. 1	急性期看護補助体制75対1に				
	22.	8. 1	総合入院体制加算開始				
	22.	8. 20	電波障害地域の地上デジタル放送対策完了				
	22.	9. 1	急性期看護補助体制50対1に				
	22.	9. 27	院内保育所の拡張（定員9名から12名）				
	23.	2. 28	電子カルテの稼動				
	23.	4. 1	池田市看護師等修学資金貸与条例の施行				
	23.	4. 15	治療費のクレジットカード決済開始				
	23.	6. 1	医師事務作業補助配置25対1に				
	23.	11. 1	医師事務作業補助配置20対1に				
	24.	2. 18	病院機能評価Ver. 6. 0の更新認定（5月18日発行）				
	24.	4. 1	病院職員の定数改正（431人→492人）				
			腎移植センターの廃止				
	24.	7. 1	消化器外科及び形成外科を標榜				
	24.	10. 1	亜急性期病床8床を一般病床に変更				
	25.	1. 1	ガスコージェネレーション発電設備の稼動（発電量210kW）				
	25.	3. 5	大阪府がん診療拠点病院指定の更新（指定期間はH25. 4. 1からH29. 3. 31まで）				
	25.	4. 1	乳腺センターに機構改正				
			病児保育の開始				
			SPD（物品供給センター）を院外倉庫預託方式で稼動				
	25.	6. 1	救急総合診療部の設置				
	25.	10. 19～20	緩和ケア研修会の開催（修了者数 医師29名、その他5名）				
	26.	3. 1	中期経営計画の策定				
	26.	4. 1	新公会計制度の導入				
	26.	10. 1	病理診断科を標榜				
	27.	1. 1	分娩料の改定				

変遷の時期	変	遷	の	内	容
	27.	3.	27		指定要件見直しによる大阪府がん診療拠点病院の指定 (指定期間はH27. 4. 1からH32. 3. 31まで)
	27.	4.	1		手数料の一部改定
	28.	2.	29		消化器病センターの開設
	28.	3.	14		リニアックの更新
	28.	3.	22		MRI (1. 5T) の追加
	28.	4.	1		乳腺・甲状腺センターを「乳腺・乳房再建センター」に改称 前立腺癌二次検診センターの廃止
平成	28.	7.	16 ~17		緩和ケア研修会の開催 (修了者数 医師33名、その他5名)
	28.	12.	1		空調設備更新 (第1期) 4階北病棟及び5階北病棟
	29.	1.	4		健診センターにて肺ドック開始
	29.	2.	18		病院機能評価3rdG : Ver. 1. 1の更新認定 (9月1日交付)
	29.	4.	1		呼吸器内科及び呼吸器外科を標榜 乳腺・内分泌外科を院内標榜
	29.	7.	1		病院食調理業務の直営化 (H30. 9. 30まで)
	29.	8.	31		X線血管撮影装置の更新
	29.	10.	1		分娩費用の見直し 3階北病棟 (産科フロア) の改修
	29.	10.	28 ~29		緩和ケア研修会の開催 (修了者数 医師28名、その他3名)
	29.	12.	1		特定集中治療室 (ICU) を改修して2床から4床に増床 病棟別病床数の変更 (4階南病棟 49床→48床、4階東病棟 50床→51床) 空調設備更新 (第2期) 4階南病棟及び5階南病棟
	30.	3.	30		医療情報システム (電子カルテほか) の更新 (システムの切替作業は5月25日から5月27日にかけて実施) 喫茶コーナーの廃止
	30.	4.	1		NPO法人卒後臨床研修評価機構 (JCEP) による臨床研修評価の認定
	30.	4.	27		売店の廃止
	30.	5.	7		1階中央待合ホールのリニューアル 〔カウンターのレイアウト変更、妊婦用スマートレーンの設置、 各種窓口の移設、入退院サポートセンターの拡充 など〕 エスカレーターの新稼働 コンビニエンスストアの設置
	30.	7.	1		医療職員用ユニフォームのリニューアル
	30.	10.	1		病院食調理業務の全面委託化
	30.	12.	1		空調設備更新 (第3期) 3階北病棟等
	31.	2.	7		MRI (3T) の更新
	31.	3.	27		電話設備及びナースコール設備の更新
平成	31.	4.	1		病院職員の定数を改正 (492人から542人に50人の増員) 心臓血管外科、小児外科及び放射線治療科を院内標榜
令和	1.	9.	28		緩和ケア研修会の開催 (修了者数 医師23名)

変遷の時期	変遷の内容
2. 1. 6	自動分析装置並びに検体搬送システムの更新
2. 1. 7	外来化学療法センターの拡張
2. 9. 26	緩和ケア研修会の開催（修了者数 医師・歯科医師17名）
2. 12. 21	I Cルーム増設・運用開始
3. 3. 31	院内 Free Wi-Fi設置

■ 概 要

2021. 4. 1現在

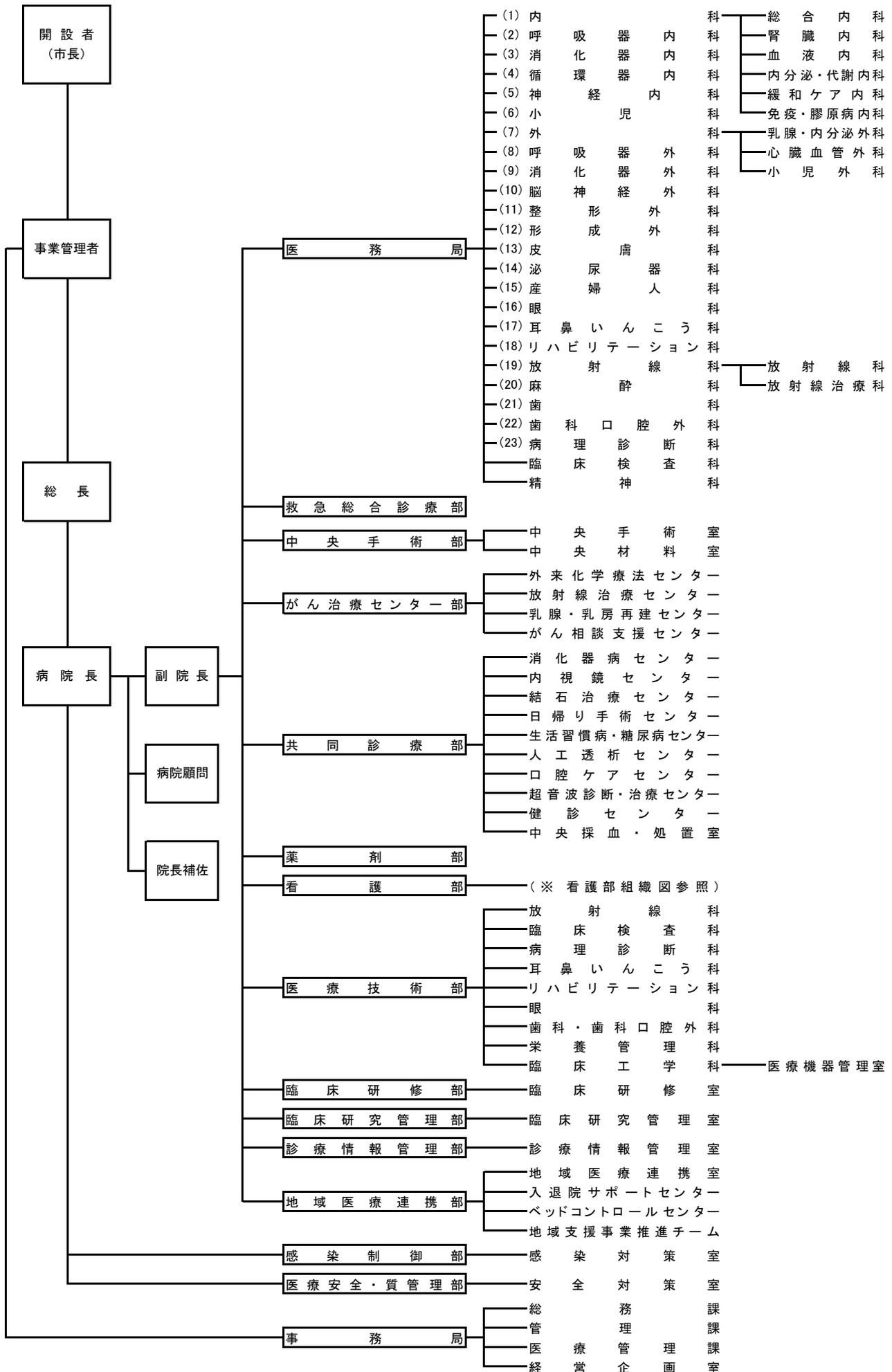
- (1) 所在地 池田市城南3丁目1番18号
- (2) 面積 敷地面積 18,113㎡ (うち増築用地2,400㎡)
延床面積 39,005㎡ (うち東館10,522㎡、MRI棟118㎡)
- (3) 構造 本館：鉄骨鉄筋コンクリート造 地下1階(一部2階) 地上5階(塔屋2階)
東館：鉄骨鉄筋コンクリート造 地下1階 地上4階
- (4) 施設 診療科：内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、神経内科、小児科、外科、
(全23科) 呼吸器外科、消化器外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、皮膚科、
泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、
放射線科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科、病理診断科
病床数：364床 (一般7病棟)
その他：手術室8室、分娩室1室、人工透析室等
- (5) 駐車場 地上自走式 52台、地下機械式 180台、地下自走式 48台 計 280台
- (6) 駐輪場 435台 (バイク置場含む)
- (7) 付属施設 院内学級(池田小学校の一学級)、リハビリ庭園、子どもの遊び場、バス停留所
- (8) 病院施設
認定一覧
- ・ 地域医療支援病院
 - ・ 厚生労働省臨床研修指定病院 (医科・歯科)
 - ・ 大阪府がん診療拠点病院
 - ・ 日本医療機能評価機構認定病院 (一般病院2 [3rdG : Ver. 1.1])
 - ・ 卒後臨床研修評価機構認定病院
 - ・ 日本臨床腫瘍学会認定研修施設
 - ・ 日本腎臓学会研修施設
 - ・ 日本透析医学会教育関連施設
 - ・ 日本糖尿病学会認定教育施設
 - ・ 日本内分泌学会認定教育施設
 - ・ 日本甲状腺学会認定専門医施設
 - ・ 日本呼吸器学会認定施設
 - ・ 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設
 - ・ 日本アレルギー学会アレルギー専門医準教育研修施設
 - ・ 日本消化器病学会専門医制度認定施設
 - ・ 日本消化管学会胃腸科指導施設
 - ・ 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
 - ・ 日本肝臓学会認定施設
 - ・ 日本超音波医学会認定超音波専門医研修基幹施設
 - ・ 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
 - ・ 日本神経学会専門医制度認定准教育施設
 - ・ 日本認知症学会教育施設
 - ・ 日本臨床神経生理学会認定施設
 - ・ 日本小児科学会小児科専門医研修施設
 - ・ 日本外科学会外科専門医制度修練施設
 - ・ 日本乳癌学会認定施設
 - ・ 呼吸器外科専門医合同委員会認定専門研修連携施設
 - ・ 日本消化器外科学会専門医修練施設
 - ・ 日本大腸肛門病学会認定施設
 - ・ 日本食道学会食道癌全国登録認定施設

病院施設
認定一覧

- ・ 日本胆道学会認定指導医制度指導施設
- ・ 日本整形外科学会専門医制度研修施設
- ・ 日本形成外科学会認定施設
- ・ 日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会認定インプラント実施施設
- ・ 日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会認定エキスパンダー実施施設
- ・ 下肢静脈瘤血管内治療実施管理委員会認定実施施設
- ・ 日本泌尿器科学会泌尿器科専門医教育施設
- ・ 日本産婦人科学会専門研修連携施設
- ・ 日本産婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
- ・ 日本周産期・新生児医学会周産期専門医（母体・胎児）暫定認定施設
- ・ 日本眼科学会専門医制度研修施設
- ・ 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
- ・ 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
- ・ 日本麻酔科学会麻酔科認定病院
- ・ 日本ペインクリニック学会指定研修施設
- ・ 日本緩和医療学会認定研修施設
- ・ 日本口腔外科学会専門医制度認定研修施設
- ・ 日本口腔ケア学会認定口腔ケアセンター
- ・ 日本病理学会研修登録施設
- ・ 日本臨床細胞学会認定施設
- ・ 日本静脈経腸栄養学会NST（栄養サポートチーム）稼動施設
- ・ 日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門療法士認定教育施設
- ・ 日本栄養療法推進協議会認定NST（栄養サポートチーム）稼動施設
- ・ 日本医療薬学会認定薬剤師制度研修施設
- ・ 日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設
- ・ 日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師研修施設
- ・ 日本医療薬学会地域薬学ケア専門薬剤師研修施設
- ・ 日本がん治療認定医機構認定研修施設

■ 病院組織機構

2021.4.1



■ 看護部会議

本病院事業の充実を期し、看護業務の管理運営の円滑化を図るため、以下のとおり「看護部会議」を設置する。

2021.4.1

名 称	構 成 員	目 的 等	開 催
師 長 会	看護部長、副看護部長、 看護次長、看護師長	看護に関する研究に努め、看護業務の充実を図ると共に、看護職員の看護の質向上に対する支援を行い、師長相互の連携を密にして、看護部門内における意思決定と病院事業の円滑な運営に貢献する。	第4火曜日15時
感 染 M M	看護部長、副看護部長、 看護次長、看護師長、主任看護師	感染管理認定看護師と看護部の各委員長が看護部と共に方針を決め、感染管理と感染対策を一丸となって取り組むための戦略を練る。	第2水曜日15時
教 育 M M			第1火曜日11時
業 務 M M			第1月曜日11時
記 録 M M			第2木曜日11時
教 育 委 員 会	看護師長、主任看護師	看護職員全員を対象とした継続教育について企画・実施し、専門職として資質の向上を図る。	第3火曜日14時
業 務 委 員 会	看護師長、主任看護師	効果的な看護業務の遂行のため業務の改善・検討・調整を図る。	第3木曜日14時
記 録 委 員 会	看護師長、主任看護師	看護の専門性と独自性を発揮し、より質の高い看護をめざして、看護記録の充実と推進を図る。	第3月曜日14時
地 域 生 活 支 援 委 員 会	副看護部長、看護師長、 主任看護師	退院調整が有効かつ円滑に行われるよう、リンクナースの情報共有・検討・知識の向上を図る。	第2金曜日14時
M R M 主 任 会	看護次長、看護師長、主任看護師	医療安全に関する情報共有と共に現場の安全管理について検討し、知識の向上を図る。	第4水曜日16時
専 門 ・ 認 定 看 護 師 会	専門看護師、認定看護師	看護部の理念に基づき、看護ケアの質向上を目的とした専門的看護活動、院内教育などを看護部と協働して行う。	第1金曜日16時
薬 剤 部 ・ 師 長 連 絡 会	薬剤部長、薬剤師、 副看護部長、看護師長、 副看護師長	薬剤部と病棟・外来との連携を密にし、業務がスムーズに行うことが出来るよう調整する。	第3金曜日15時
医 療 管 理 課 ・ 管 理 課 ・ 師 長 連 絡 会	医療管理課長、管理課長、 副看護部長、看護次長、 看護師長、副看護師長	医療管理課と病棟・外来との連携を密にし、業務がスムーズに行うことが出来るよう調整する。	第3水曜日15時
医 療 管 理 課 ・ 総 務 課 ・ 看 護 部 連 絡 会	事務局次長、医療管理課長、 総務課人事担当者、 看護部長、副看護部長	看護部の適切な人事管理を行うための情報共有、及び人材確保のための戦略について検討する。	第3水曜日11時

■ 病院職員

2021. 4. 1

年度	事業管理者	総 長	病 院 長	看 護 部 長	事 務 局 長
昭和26年	—	—	築 山 義 雄	—	小 山 茂
27年	—	—	〃	森 脇 榮	豊 島 善 五 郎
28年	—	—	〃	〃	〃
29年	—	—	〃	〃	〃
30年	—	—	〃	〃	〃
昭和31年	—	—	〃	〃	〃
32年	—	—	〃	〃	〃
33年	—	—	〃	〃	〃
34年	—	—	〃	〃	〃
35年	—	—	〃	〃	〃
昭和36年	—	—	〃	〃	〃
37年	—	—	〃	〃	〃
38年	—	—	〃	〃	〃
39年	—	—	〃	〃	〃
40年	—	—	〃	〃	〃
昭和41年	—	—	〃	〃	〃
42年	—	—	〃	〃	上 羽 秀 一
43年	—	—	〃	〃	〃
44年	—	—	〃	〃	〃
45年	—	—	〃	〃	〃
昭和46年	—	—	〃	〃	〃
47年	—	—	〃	〃	〃
48年	—	—	〃	〃	〃
49年	—	—	〃	〃	〃
50年	—	—	久 保 田 義 弘	〃	田 中 久 人
昭和51年	—	—	〃	〃	〃
52年	—	—	〃	〃	〃
53年	—	—	〃	〃	〃
54年	—	—	〃	北 川 貞 子	〃
55年	—	—	〃	〃	〃
昭和56年	—	—	〃	〃	〃
57年	—	—	〃	〃	〃
58年	—	—	中 山 賢	〃	〃
59年	—	—	〃	〃	〃
60年	—	—	〃	〃	〃

年 度	事業管理者	総 長	病 院 長	看 護 部 長	事 務 局 長
昭和61年	—	—	中 山 賢	北 川 貞 子	中 本 峰 孝
62年	—	—	〃	〃	〃
63年	—	—	〃	〃	〃
平成元年	—	—	〃	〃	〃
2年	—	—	〃	〃	〃
平成3年	—	—	〃	山 本 導 子	西 口 貞 徳
4年	—	—	〃	〃	〃
5年	—	—	〃	〃	〃
6年	—	—	米 沢 毅	〃	〃
7年	—	—	〃	〃	〃
平成8年	—	—	〃	島 末 喜 美 子	〃
9年	—	—	〃	〃	〃
10年	—	—	〃	〃	美 濃 岡 成
11年	—	—	〃	〃	〃
12年	—	—	〃	〃	〃
平成13年	—	—	〃	〃	〃
14年	—	—	〃	〃	福 井 英 治
15年	—	米 沢 毅	黒 川 正 典	〃	〃
16年	—	〃	〃	〃	〃
17年	—	—	〃	〃	〃
平成18年	生 島 義 輝	—	〃	〃	太 田 憲 吾
19年	〃	—	〃	大 塚 尊 子	〃
20年	〃	—	〃	〃	乾 谷 晃
21年	〃	—	〃	〃	〃
22年	〃	—	〃	〃	〃
平成23年	〃	黒 川 正 典	小 林 哲 郎	〃	〃
24年	〃	〃	〃	〃	杉 本 義 彦
25年	〃	〃	今 井 康 陽	〃	〃
26年	〃	〃	〃	〃	〃
27年	〃	篠 村 恭 久	〃	〃	石 田 勝 重
平成28年	石 田 勝 重	〃	〃	林 由 美	福 田 哲 郎
29年	〃	〃	〃	〃	〃
30年	〃	今 井 康 陽	柴 田 邦 隆	〃	〃
令和元年	〃	〃	〃	〃	東 勇 輔
2年	福 島 公 明	〃	〃	〃	〃
3年	〃	〃	尾 下 正 秀	〃	衛 門 昭 彦

病院事業管理者	福島公明	(平成18年4月1日設置)
総院長	今井康陽	(消化器内科) 兼地域医療連携部長
病院院長	尾下正秀	(消化器内科) 兼診療情報管理部長
副院長	大河内敏行	(整形外科) 兼医療安全・質管理部長
副院長	福田和人	(消化器内科) 兼臨床研究管理部長、消化器病センター長
副院長	太田博文	(消化器外科) 兼がん治療センター部長、がん相談支援センター長
副院長	林由美	兼看護部長
院長補佐	津川真美子	(内科) 兼内科主任部長、共同診療部長、 生活習慣病・糖尿病センター長、健診センター長
院長補佐	尾崎由和	(小児科) 兼医務局長、小児科主任部長
顧問	松本昌泰	(神経内科)
顧問	湯川真生	(外科) 兼乳腺・乳房再建センター長

【医務局】

診療科	職名	氏名	備考
	医務局長	尾崎由和	院長補佐
内科	主任部長	津川真美子	院長補佐
	〃	梶原信之	
	〃	森山康弘	兼臨床検査科主任部長、中央採血・処置室長
	部長	片岡良久	
	〃	岡田拓也	兼臨床研修部長
	〃	山本聡子	兼人工透析センター長
	副部長	大塚正恭	
	〃	上岡孝人	兼救急総合診療部副部長
	〃	滝本佳子	麻酔科副部長
	〃	柴田大	
	〃	井上佳菜	
	医長	村上慎一郎	兼救急総合診療部医長
	〃	西村賢二	
	主任医員	中尾真一郎	
	〃	吉川麻以	
〃	三砂雅裕		
医員	藁田明希		
〃	影山美沙紀		
〃	末崎慎也		
〃	大河原桃子		
呼吸器内科	主任部長	橋本重樹	兼感染制御部長
	副部長	田幡江利子	
	主任医員	清水裕平	

(常勤嘱託医を含む。ただし、専攻医・研修医を除く。)

【医務局】

診療科	職名	氏名	備考
消化器内科	主任部長	井 倉 技	兼内視鏡センター長
	〃	中 原 征 則	
	部長	澤 井 良 之	
	副部長	小 来 田 幸 世	
	〃	山 口 典 高	
	〃	氣 賀 澤 齐 史	
	主任医員	島 越 洋 美	
循環器内科	主任部長	永 井 邦 彦	
	部長	北 川 元 昭	
	副部長	二 宮 智 紀	
	〃	柴 本 将 人	
	部長	古 川 哲 生	
	〃	井 手 本 明 子	
	主任医員	田 中 啓 介	
神経内科	主任部長	那 波 一 郎	兼脳神経外科主任部長
	部長	上 原 拓 也	
小児科	主任部長	尾 崎 由 和	院長補佐
	副部長	新 谷 研	
	〃	上 野 圭 司	
外科	主任部長	安 座 間 隆	兼外来化学療法センター長
	主任医員	阿 部 瑞 穂	
呼吸器外科	部長	須 崎 剛 行	
消化器外科	主任部長	高 地 耕	
	部長	濱 直 樹	
	副部長	瀧 内 大 輔	
	〃	宗 方 幸 二	
	〃	和 田 範 子	
	部長	松 浦 雄 祐	
	医員	佐 藤 広 陸	
脳神経外科	主任部長	那 波 一 郎	神経内科主任部長
	部長	若 林 元 子	
整形外科	副部長	今 井 優 子	
	部長	金 山 完 哲	
	主任医員	石 田 和 大	
	主任医員	中 村 正 人	
形成外科	部長	藤 田 和 敏	
	医員	常 田 沙 紀	
精神科	部長	中 島 陽	
	部長	近 藤 由 佳 理	
皮膚科	主任医員	東 典 子	
	主任医員	吉 村 亜 紀	
	〃	田 邊 稔 明	

(常勤嘱託医を含む。ただし、専攻医・研修医を除く。)

【医務局】

診 療 科	職 名	氏 名	備 考
泌 尿 器 科	主 任 部 長	井 上 均	兼中央手術部長、結石治療センター長
	医 長	金 城 孝 則	
	主 任 医 員	大 島 純 平	
	医 員	金 城 友 紘	
	”	山 本 哲 也	
産 婦 人 科	”	岡 本 崇 佑	
	主 任 部 長	竹 原 幹 雄	
	副 部 長	舟 田 里 奈	
	”	芦 原 敬 允	
	”	向 井 ゆ かり	
医 員	石 川 渚		
眼 科	部 長	中 尾 武 史	
	”	小 島 啓 尚	
医 員	医 員	宮 岡 怜 美	
	部 長	滝 本 泰 光	
	”	中 川 あ や	
医 員	嶋 田 琢 磨		
リハビリテーション科	”	末 方 由 由	
	医 長	宮 本 直	
放 射 線 科	主 任 部 長	藤 田 典 彦	兼放射線治療センター長
	部 長	伊 藤 康 志	
	医 長	立 川 琴 羽	
麻 酔 科	主 任 部 長	小 野 ま ゆ	兼内科副部長
	副 部 長	森 梓	
	”	滝 本 佳 予	
	”	中 田 由 梨 子	
	”	別 府 曜 子	
	”	神 崎 由 莉	
	医 長	神 崎 亮	
	”	西 村 祐 希	
	主 任 医 員	吉 藤 正 泰	
”	藤 田 三 千 恵		
歯科・歯科口腔外科	部 長	雨 河 茂 樹	兼口腔ケアセンター長
	副 部 長	小 川 芙 美	
	”	須 澤 佳 香	
臨 床 検 査 科	主 任 部 長	森 山 康 弘	内科主任部長
病 理 診 断 科	部 長	大 橋 寛 嗣	

(常勤嘱託医を含む。ただし、専攻医・研修医を除く。)

【救急総合診療部】

診療科	職名	氏名	備考
	主任部長	伊藤基敏	
	副部長	上岡孝人	内科副部長
	医長	村上慎一郎	内科医長
	看護師長	藤久保絢子	
	主任看護師	小屋幸子	
	〃	近藤由利	

【中央手術部】

診療科	職名	氏名	備考
	部長	井上均	泌尿器科主任部長
中央手術室	室長	竹原陽子	看護師長
中央材料室	室長	竹原陽子	兼務

【がん治療センター部】

診療科	職名	氏名	備考
	部長	太田博文	副院長
外来化学療法センター	センター長	安座間隆	外科主任部長
放射線治療センター	〃	藤田典彦	放射線科主任部長
乳腺・乳房再建センター	〃	湯川真生	顧問
がん相談支援センター	〃	太田博文	兼務

【共同診療部】

診療科	職名	氏名	備考
	部長	津川真美子	院長補佐
消化器病センター	センター長	福田和人	副院長
	副センター長	太田博文	副院長
内視鏡センター	センター長	中原征則	消化器内科主任部長
結石治療センター	〃	井上均	泌尿器科主任部長
生活習慣病・糖尿病センター	〃	津川真美子	兼務
人工透析センター	〃	山本聡子	内科部長
口腔ケアセンター	〃	雨河茂樹	歯科・歯科口腔外科部長
超音波診断・治療センター	〃	関康	医療技術部長
健診センター	〃	津川真美子	兼務
中央採血・処置室	室長	森山康弘	内科主任部長

【医療技術部】

診 療 科	職 名	氏 名	備 考
	医 療 技 術 部 長	関 康	兼放射線科技師長
放 射 線 科	技 師 長	関 康	医療技術部長
	技 師 次 長	木 下 亨	
	〃	幸 村 吉 博	
	〃	一 樋 政 宏	
	主任診療放射線技師	伊 藤 栄 一	
	〃	磯 谷 圭 介	
	〃	比 嘉 ありさ	
臨 床 検 査 科	技 師 長	越 知 博 之	
	技 師 次 長	堀 場 裕 輝	
	主任臨床検査技師	関 口 桃 子	
	〃	山 本 毅	
	〃	兒 谷 香 里	
	〃	藤 堂 奈 穂	
病 理 診 断 科	技 師 長	向 井 英 代	
	技 師 次 長	河 合 賢	
リハビリテーション科	技 師 長	松 山 博 文	
	技 師 次 長	柳 沢 崇	
	〃	横 山 由 梨 子	
	〃	面 田 真 也	
	主任理学療法士	丹 羽 徹	
	主任言語聴覚士	安 藤 敏 夫	
眼 科	技 師 長	宮 崎 伸 子	
	主任視能訓練士	福 井 里 奈	
歯科・歯科口腔外科	技 師 長	嶋 本 政 嗣	
	主任歯科衛生士	山 田 みつ美	
栄 養 管 理 科	技 師 長	今 仲 直 美	
	技 師 次 長	今 西 成 雄	
臨 床 工 学 科	技 師 次 長	杉 山 隆 志	
	主任臨床工学技士	穴 井 恵 理	

【薬剤部】

職 名	氏 名	備 考
薬 剤 部 長	下 村 一 徳	
副 薬 剤 部 長	瀬 名 波 宏 昌	
薬 剤 次 長	村 山 洋 子	
主 任 薬 剤 師	中 西 晶 子	
〃	岩 本 千 晶	
〃	大 河 万 顕	

【看護部】

職 名	氏 名	備 考
副 院 長 兼 看 護 部 長	林 由 美	
副 看 護 部 長	渡 辺 かつ子	
〃	武 田 礼 子	
〃	松 本 保 子	
〃	小 田 倫 子	地域医療連携室長
看 護 次 長	和 田 和 美	医療安全・質管理部
〃	榮 口 秀 子	外来診療
〃	松 本 登 美 江	5階北病棟
看 護 師 長	難 波 さおり	地域医療連携室
〃	藤 久 保 絢 子	救急総合診療部
〃	竹 原 陽 子	中央手術室
〃	小 原 順 子	看護ケア推進室
〃	満 田 昌 代	教育担当責任者
〃	河 野 恵 美	外来診療
〃	岸 谷 征 子	放射線科・内視鏡センター
〃	小 谷 朱 根	健診センター
〃	横 山 朋 之	看護部
〃	安 部 圭 子	3階北病棟
〃	鬼 追 美 也 子	3階東病棟
〃	松 浦 千 佐 子	4階北病棟
〃	宮 下 亜 希	4階南病棟
〃	小 林 身 和 子	4階東病棟
〃	山 中 美 穂	5階南病棟
副 看 護 師 長	西 田 智 恵 美	外来診療
〃	高 橋 典 子	4階南病棟
〃	岩 原 直 子	5階北病棟

職 名	氏 名	備 考
主任助産師	藤 井 雅 美	外来診療
〃	佐々木 幸 江	3階北病棟
主任看護師	小 屋 幸 子	救急総合診療部
〃	近 藤 由 利	〃
〃	塩 見 弘 子	中央手術室
〃	高 雲 奈 津 美	〃
〃	上久保 ま ゆ	〃
〃	三 井 八 千 代	外来診療
〃	矢 野 民 子	〃
〃	地 道 敏 美	放射線科・内視鏡センター
〃	三 竹 よ う 子	〃
〃	生 地 あ ゆ み	感染対策室
〃	林 紫	〃
〃	音 地 真 理	入退院サポートセンター
〃	柴 山 敬 子	3階北病棟
〃	脇 山 か ほ る	〃
〃	西 淳 子	3階東病棟
〃	越 智 貴 子	〃
〃	新 川 由 里	4階北病棟
〃	入 野 日 奈 子	〃
〃	越 智 佳 織	〃
〃	黒 田 良 江	4階南病棟
〃	澤 宏 美	〃
〃	吉 澤 里 美	〃
〃	前 多 初 美	4階東病棟
〃	田 上 育 子	〃
〃	岩 崎 真 由 美	5階北病棟
〃	岩 垣 奈 津 子	〃
〃	横 山 奈 緒 子	5階南病棟
〃	山 崎 め ぐ み	〃

【臨床研修部】

職 名	氏 名	備 考
部 長	岡 田 拓 也	内科部長

【臨床研究管理部】

職 名	氏 名	備 考
部 長	福 田 和 人	副院長
臨床研究管理室長	入 潮 佳 子	副薬剤部長

【診療情報管理部】

職 名	氏 名	備 考
部 長	尾 下 正 秀	病院長
診療情報管理室長	嶋 吉 敦 子	技師長
技 師 次 長	道 上 敏 之	

【地域医療連携部】

職 名	氏 名	備 考
部 長	今 井 康 陽	総長
地域医療連携室長	小 田 倫 子	副看護部長
看 護 師 長	難 波 さおり	
主任医療ソーシャルワーカー	林 浩 美	地域医療連携室

【感染制御部】

職 名	氏 名	備 考
部 長	橋 本 重 樹	呼吸器内科主任部長
主 任 看 護 師	生 地 あゆみ	
〃	林 紫	

【医療安全・質管理部】

職 名	氏 名	備 考
部 長	大 河 内 敏 行	副院長
安 全 対 策 室 長	和 田 和 美	看護次長

【事務局】

職 名	氏 名	備 考
事 務 局 長	衛 門 昭 彦	
事 務 局 次 長	斎 藤 芳 朗	兼総務課長
事 務 局 付 課 長	上 西 正 行	
総 務 課 長	斎 藤 芳 朗	
主 幹	布 施 芳 文	
管 理 課 長	中 原 純 義	
主 幹	跡 部 香 織	
医 療 管 理 課 長	田 邊 義 文	
主 幹	青 木 真 名 美	
経 営 企 画 室 長	山 本 朗 央	
主 幹	上 保 美 由 紀	
〃	梶 本 幸 彦	

■ 病院の財政状況

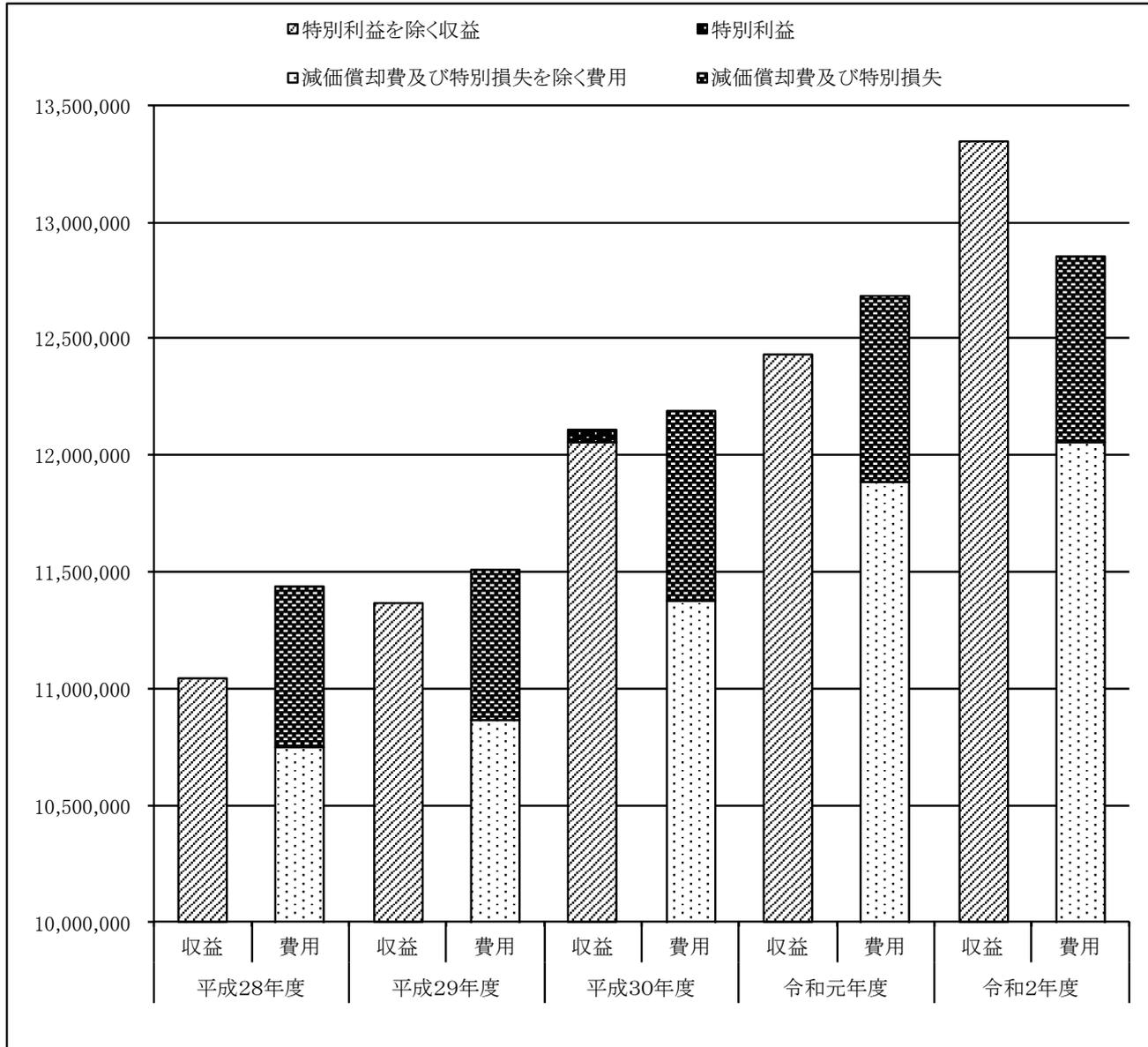
1. 年度別損益計算書

(単位:円)

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
収 の 部	医業収益	10,745,736,169	11,068,885,587	11,642,621,726	12,153,668,415	11,972,566,696
	入院収益	6,575,321,008	6,975,649,005	7,387,430,024	7,759,707,516	7,473,893,402
	外来収益	3,581,782,603	3,525,577,775	3,662,001,708	3,917,605,680	4,127,804,259
	その他医業収益	588,632,558	567,658,807	593,189,994	476,355,219	370,869,035
	医業外収益	294,121,049	296,786,171	413,009,696	276,053,648	1,370,727,872
	受取利息	18,022	11,677	13,329	16,603	17,792
	負担金・補助金	189,031,000	175,388,000	283,477,000	150,521,600	1,252,831,600
	長期前受金戻入	8,981,476	8,735,476	6,819,389	9,139,300	10,730,498
	その他医業外収益	96,090,551	112,651,018	122,699,978	116,376,145	107,147,982
	特別利益	—	—	50,000,000	—	—
	その他特別利益	—	—	50,000,000	—	—
	合計	11,039,857,218	11,365,671,758	12,105,631,422	12,429,722,063	13,343,294,568
	費 の 部	医業費用	10,802,796,127	10,827,826,660	11,509,546,096	12,012,035,667
給与費		5,581,916,223	5,590,366,146	5,850,919,343	5,929,666,374	6,063,123,123
材料費		2,884,261,868	2,963,887,418	3,076,722,066	3,284,004,229	3,397,747,099
経費		1,595,692,105	1,577,358,842	1,752,033,705	1,927,040,341	1,859,992,925
減価償却費		685,627,633	641,797,561	768,167,789	801,839,659	797,189,399
資産減耗費		14,942,535	9,895,634	22,379,962	30,301,864	3,228,870
研究研修費		40,355,763	44,521,059	39,323,231	39,183,200	28,808,486
医業外費用		631,619,501	678,177,230	630,513,844	672,637,507	700,811,025
支払利息及び 企業債取扱諸費		261,313,333	241,226,262	219,497,058	197,118,666	173,124,534
消費税雑損失		370,306,168	436,950,968	411,016,786	475,518,841	527,686,491
特別損失		796,812	—	50,000,000	5,000	—
過年度損益修正損		796,812	—	—	5,000	—
その他特別損失		—	—	50,000,000	—	—
合計	11,435,212,440	11,506,003,890	12,190,059,940	12,684,678,174	12,850,900,927	
当年度純損(△)益		△ 395,355,222	△ 140,332,132	△ 84,428,518	△ 254,956,111	492,393,641

2. 病院事業収益・費用の推移

(単位:千円)



	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
病院事業収益 ①	11,039,857	11,365,672	12,105,631	12,429,722	13,343,295
特別利益	—	—	50,000	—	—
特別利益を除く収益 ②	11,039,857	11,365,672	12,055,631	12,429,722	13,343,295
病院事業費用 ③	11,435,212	11,506,004	12,190,060	12,684,678	12,850,901
減価償却費	685,627	641,798	768,168	801,840	797,189
特別損失	797	—	50,000	5	—
減価償却費及び特別損失を除く費用 ④	10,748,788	10,864,206	11,371,892	11,882,833	12,053,712
当年度純損(△)益 ①-③	△ 395,355	△ 140,332	△ 84,429	△ 254,956	492,394
減価償却費を除く経常損(△)益 ②-④	291,069	501,466	683,739	546,889	1,289,583

3. 年度別貸借対照表

(単位:円)

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
資産	固定資産	14,421,968,891	14,850,969,808	14,547,080,093	13,962,319,087	13,338,234,318
	土地	6,145,361,079	6,145,361,079	6,145,361,079	6,145,361,079	6,145,361,079
	建物	6,747,222,364	6,373,814,321	6,139,106,270	5,771,963,226	5,422,263,182
	構築物	24,676,902	19,765,302	14,590,302	9,415,303	7,057,653
	器械及び備品	1,407,643,202	2,150,506,383	2,040,728,055	1,832,675,428	1,568,081,089
	車両	1,184,328	931,992	679,656	427,320	174,984
	リース資産(有形)	70,702,285	135,212,000	180,636,000	178,298,000	164,207,600
	建設仮勘定	—	—	—	—	8,110,000
	電話加入権	2,243,189	2,243,189	2,243,189	2,243,189	2,243,189
	リース資産(無形)	13,055,429	—	—	—	—
	その他無形固定資産	5,880,113	18,935,542	18,935,542	18,935,542	18,935,542
	修学資金貸付金	4,000,000	4,200,000	4,800,000	3,000,000	1,800,000
	流動資産	2,350,524,936	2,592,360,280	2,383,377,214	2,503,697,322	3,363,796,003
	現金預金	314,442,797	584,533,952	405,952,116	511,333,176	890,082,594
	未収金	1,997,374,662	1,968,034,998	1,939,414,155	1,955,091,911	2,436,293,988
貯蔵品	38,707,477	39,791,330	38,010,943	37,272,235	37,419,421	
資産合計	16,772,493,827	17,443,330,088	16,930,457,307	16,466,016,409	16,702,030,321	
負債	固定負債	10,851,522,269	10,803,900,228	10,068,923,379	9,084,642,125	7,830,779,290
	企業債	9,132,469,663	9,157,713,533	8,329,418,048	7,248,609,399	6,024,767,807
	リース債務	66,646,567	126,152,914	164,082,214	153,437,464	131,503,216
	退職給付引当金	1,652,406,039	1,520,033,781	1,575,423,117	1,682,595,262	1,674,508,267
	流動負債	3,309,946,492	3,573,319,902	3,242,001,877	3,265,034,244	3,390,969,448
	一時借入金	500,000,000	0	0	0	0
	企業債	1,001,118,979	1,029,756,130	1,261,295,485	1,320,108,649	1,308,641,592
	リース債務	9,290,422	14,306,551	20,091,655	21,569,011	21,934,248
	未払金	1,472,013,107	2,185,292,259	1,590,786,999	1,520,001,318	1,699,286,651
	引当金	273,744,000	291,575,000	312,549,000	342,222,000	294,568,000
	預り金	53,779,984	52,389,962	57,278,738	61,133,266	66,538,957
	繰延収益	162,991,113	134,844,137	131,136,748	121,782,848	198,897,750
	長期前受金	235,088,057	209,676,557	211,486,557	211,271,957	299,014,357
	収益化累計額	△ 72,096,944	△ 74,832,420	△ 80,349,809	△ 89,489,109	△ 100,116,607
	負債合計	14,324,459,874	14,512,064,267	13,442,062,004	12,471,459,217	11,420,646,488
資本	資本金	20,117,905,196	20,741,469,196	21,383,027,196	22,144,145,196	22,938,578,196
	自己資本金	20,117,905,196	20,741,469,196	21,383,027,196	22,144,145,196	22,938,578,196
	剰余金	△ 17,669,871,243	△ 17,810,203,375	△ 17,894,631,893	△ 18,149,588,004	△ 17,657,194,363
	資本剰余金	11,380,000	11,380,000	11,380,000	11,380,000	11,380,000
	欠損金	17,681,251,243	17,821,583,375	17,906,011,893	18,160,968,004	17,668,574,363
	繰越欠損金年度末残高	17,285,896,021	17,681,251,243	17,821,583,375	17,906,011,893	18,160,968,004
	当年度純損(△)益	△ 395,355,222	△ 140,332,132	△ 84,428,518	△ 254,956,111	492,393,641
資本合計	2,448,033,953	2,931,265,821	3,488,395,303	3,994,557,192	5,281,383,833	
負債・資本合計	16,772,493,827	17,443,330,088	16,930,457,307	16,466,016,409	16,702,030,321	
内部留保資金	324,731,845	354,678,059	402,670,822	558,771,727	1,281,468,147	

4. 固定資産増加状況（医療器械・備品他）

① 医療器械

（単位：円）

	品名	規格等	所属	取得年月日	数量	取得金額	取得先
1	アイケア手持眼圧計	(株)エムイーテクニカ アイケアic200 TA031	眼科	R2.4.20	1	1,050,000	(株)リッツメディカル
2	内視鏡用光源装置	カールストルツ(株) パワーLED300 KTL300	中央手術部	R2.4.28	1	1,400,000	宮野医療器(株)
3	鉗子ユニット (φ5mmマイクロメツェンバウム型)	オリンパス(株) WA69378M	中央手術部	R2.5.15	1	176,000	宮野医療器(株)
4	自動血球洗浄遠心機	工機ホールディングス(株) himac MC450	臨床検査科	R2.5.20	1	1,600,000	(株)メディセオ
5	電動ファン付呼吸用保護具	(株)モレーンコーポレーション HALO パワーシステム CS3020	感染制御部	R2.5.26	4	※1 448,000	グリーンホスピタル サブライ(株)
6	ヴィジクリア排煙システム	コンメッド・ジャパン(株) ヴィジクリア排煙システム本体 VC120 他	消化器外科	R2.5.28	1	750,000	宮野医療器(株)
7	ファンリトラクタ	Integra Japan(株) ファンリトラクタ 10mm 38cm 600540	中央手術部	R2.6.30	1	150,000	宮野医療器(株)
8	リアルタイムPCR解析 システム	バイオ・ラッドラボラトリーズ(株) CFX96 Touch Deep Well 185-409511	臨床検査科	R2.6.30	1	※2 2,400,000	(株)メディセオ
9	卓上式クリーンベンチ	アズワン(株) CT-600UVAX	臨床検査科	R2.6.30	1	123,000	(株)メディセオ
10	サージエアトームⅡ	ジンマーバイオメット合同会社 00-5058-001-00	中央手術部	R2.7.10	1	600,000	(株)三笑堂
11	安全キャビネット	(株)日本医化器械製作所 VH-1303BH-2B2	臨床検査科	R2.7.10	1	※3 2,960,000	(株)メディセオ
12	飛沫感染予防吸引装置	(株)アクロス フラミンゴ・ナノ	歯科・歯科口腔 外科	R2.7.29	2	990,000	尾崎歯科(株)
13	光学視管	オリンパス(株) WA2T430A (30° φ 4mm)	泌尿器科	R2.7.31	1	650,000	宮野医療器(株)
14	血小板振盪器	(株)大同工業所 ホリシエ DHB-32C	臨床検査科	R2.8.11	1	315,000	(株)メディセオ
15	粉体計量用ドラフト	アズワン(株) FKD-600SAD	臨床検査科	R2.9.23	1	※4 107,200	辻本メディカル(株)
16	聴性誘発反応検査装置 VEMPモジュール 一式	ダイアテックカンパニー VEMPモジュール一式	耳鼻いんこう科	R2.9.29	1	1,054,000	石黒メディカルシステム(株)
17	フレンツェル眼鏡	スカラ(株) AirMicroフレンツェル	耳鼻いんこう科	R2.9.30	1	380,000	宮野医療器(株)
18	電動油圧手術台 一式	ミズホ(株) MOT-VS600Dj	中央手術部	R2.9.30	1	5,400,000	(株)MMコーポレーション
19	経腸栄養ポンプ	テルモ(株) FE-201C	栄養管理科	R2.10.13	2	328,000	(株)やよい
20	ネオテーブル (新生児用身長体重計)	アトムメディカル(株) DS-30	小児科	R2.10.30	1	720,000	(株)やよい
21	冷却療法用装置	日本シングマックス(株) CE4000	整形外科	R2.11.20	1	300,000	辻本メディカル(株)
22	人工呼吸器	(株)フィリップス・ジャパン トリロジー O2 Plus	臨床工学科	R2.11.25	1	※5 2,180,000	石黒メディカルシステム(株)
23	免疫発光測定装置	富士レビオ(株) LUMIPULSE G1200Plus	臨床検査科	R2.11.30	1	※6 7,380,000	(株)メディセオ
24	昇降式ストレッチャー	日進医療器(株) NBST-211FS-DB	救急総合診療部	R2.12.22	1	280,000	(株)やよい

(単位:円)

	品名	規格等	所属	取得年月日	数量	取得金額	取得先
25	卓上遠心機	久保田商事(株) S300T	臨床検査科	R2.12.24	1	※7 199,000	(株)メディセオ
26	トータルサージカルシステム	(株)ナカニシ P200-CU-100	整形外科	R2.12.28	1	1,420,000	(株)三笑堂
27	スリットランプ 一式	(株)ニコンヘルスケア RO8000	眼科	R2.12.29	1	4,899,800	(株)リツメディカル
28	レムBユニバーサルドライバー	日本ストライカー(株) 6400-099-000	整形外科	R3.1.14	1	457,000	(株)三笑堂
29	検温カメラ 一式	(株)ピーエスエル DC77-P 他	医療管理課	R3.1.27	4	※8 1,700,000	(株)三笑堂
30	エアウェイマネジメント モバイルスコープ	オリンパス(株) MAF-TM2	内視鏡センター	R3.1.31	1	※9 1,326,000	宮野医療器(株)
31	タブレット型超音波画像 診断装置	富士フイルムメディカル(株) SonoSite iViz	内科	R3.2.3	1	1,670,000	石黒メディカルシステム(株)
32	超音波診断装置Aplio400用 プローブ	キヤノンメディカルシステムズ(株) PLT-704SBT/E	臨床検査科	R3.2.22	1	870,000	石黒メディカルシステム(株)
33	移動型X線撮影装置	(株)日立製作所 tiara airy	放射線科	R3.2.25	1	※10 3,070,000	石黒メディカルシステム(株)
34	超音波画像診断装置 一式	キヤノンメディカルシステムズ(株) Xario200G	救急総合診療部	R3.2.25	1	※11 3,700,000	石黒メディカルシステム(株)
35	ハンドレール付体重計	(株)タニタ PH-550A	3階北病棟	R3.2.26	1	112,000	グリーンホスピタル サブライ(株)
36	膀胱用超音波画像診断 装置	(株)大塚製薬工場 リアムα-200	消化器外科	R3.3.4	1	297,500	(株)MMコーポレーション
37	凍結組織切片作製装置	サクラファインテックジャパン(株) ティシュー・テック ポーラーD (POLAR-D)	病理診断科	R3.3.11	1	4,500,000	小西医療器(株)
38	低床電動ベッド	シーホネンス(株) AX-76112T	救急総合診療 部、3階北病棟	R3.3.16	7	2,050,000	(株)やよい
39	リアルタイムPCR解析 システム	バイオ・ラッドラボラトリーズ(株) CFX96 Touch Deep Well 185-409511	臨床検査科	R3.3.18	1	※12 2,385,000	(株)メディセオ
40	超音波画像診断装置 一式	GEヘルスケアジャパン(株) Logiq E10x	超音波診断・ 治療センター	R3.3.23	1	※13 9,800,000	石黒メディカルシステム(株)
41	ベッドサイドモニタ	日本光電工業(株) BSM-1763	臨床工学科	R3.3.30	2	2,000,000	(株)MMコーポレーション
42	大型吸引機	新鋭工業(株) TAF-W	内視鏡センター	R3.3.31	1	168,000	(株)アダチ
43	採血業務支援システム 一式	(株)テクノメディカ Assist More	臨床検査科	R3.3.31	1	※14 14,385,000	(株)MMコーポレーション
44	X線標本撮影装置	アクロバイオ(株) AB-35	乳腺・内分泌 外科	R3.3.31	1	4,479,000	宮野医療器(株)
45	レサシアンシミュレータ 一式	レールダールメディカルジャパン(株) レサシアン シミュレータ PLUS	救急総合診療部	R3.3.31	1	※15 2,640,000	(株)やよい
46	採血管準備装置 一式	(株)テクノメディカ BC・ROBO-8001RFID/P6241T	臨床検査科	R3.3.31	1	7,796,000	(株)MMコーポレーション
合 計					61	101,665,500	

※1、※15 取得金額の全額に寄附金を充当しています。

※2 ~ ※14 取得金額の全額に大阪府補助金を充当しています。

② 備 品

(単位:円)

	品 名	規 格 等	所 属	取 得 年月日	数 量	取 得 金 額	取 得 先
1	電解水生成装置	ホシザキ阪神(株) ROX-30SA	栄養管理科	R2.5.26	1	1,780,000	ホシザキ阪神(株)
2	クリーンパーティション	日本エアーテック(株) ACP-897AH、ACP- 897CH	感染制御部	R2.6.10	10	※16 1,800,000	石黒メディカルシステム(株)
3	診察券発行機	日本データカード(株) CD800H	経営企画室	R2.6.26	1	870,000	(株)富士通マーケティング
4	統計処理用ノートパソコン	Dell Dell G7 17 プラチナ	整形外科	R2.7.3	1	162,000	(株)ヤマダ電機
5	冷蔵ショーケース	パナソニック(株) SSR-Z281	4階東病棟	R2.8.31	1	250,000	日本調理器(株)
6	簡易陰圧装置	(株)日本医化器械製作所 NR-600D	消化器外科	R2.11.21	2	※17 3,050,000	石黒メディカルシステム(株)
7	病院イントラネット用 パソコン 一式	Lenovo 他	経営企画室	R3.2.1	127	8,986,300	(株)大塚商会
8	簡易陰圧装置	(株)日立産機システム FCE-10K	救急総合診療部	R3.3.1	1	850,000	石黒メディカルシステム(株)
9	クリーンパーティション	日本エアーテック(株) ACP-897CH、ACP- 897DH	感染制御部、 救急総合診療部	R3.3.23	7	※18 1,260,000	石黒メディカルシステム(株)
10	ペーパーレス会議・WEB会議 用仮想ブラウザ 一式	(株)ソリトンシステムズ Soliton Secure Browser Pro 他	経営企画室	R3.3.25	1	※19 4,278,000	(株)大塚商会
11	自動精算機	(株)アルメックス TEX-3920SF	医療管理課	R3.3.26	1	※20 5,350,000	富士通Japan(株)
12	インターネットWi-Fi 一式	アライドテレシス(株) AT-TQm5403 他	経営企画室	R3.3.30	1	※21 18,178,200	(株)大塚商会
13	適温配膳車 一式	PHC(株) CD1028E	栄養管理科	R3.3.31	2	3,920,000	(株)メディセオ
14	池田市イントラネット接続用 ファイヤーウォール 一式	フォーティネットワークジャパン(株) FortiGate-60F	経営企画室	R3.3.31	1	865,000	富士ゼロックス(株)
15	電子メールリレーサーバー 一式	富士ゼロックス(株)	経営企画室	R3.3.31	1	9,995,400	富士ゼロックス(株)
16	再来受付機 一式	富士通Japan(株) MEDISTAFF TM2モデル 15インチP(スリムスタンド)	経営企画室	R3.3.31	3	4,851,000	富士通Japan(株)
17	病院長室備品 一式	コクヨ(株) MG-S35D1885P1UNN 他	管理課	R3.3.31	1	781,000	(有)前川紙店
18	副院長室備品 一式	コクヨ(株) MG-S35D1685P1UNN 他	管理課	R3.3.31	1	531,100	(有)前川紙店
合 計					163	67,758,000	

※18 取得金額の全額に寄附金を充当しています。

※16、※17、※19～※21 取得金額の全額に大阪府補助金を充当しています。

③ 建設仮勘定

(単位:円)

	項 目	取 得 年月日	取 得 金 額	取 得 先	備 考
1	防災設備・中央監視装置・空調設備設計	R3.3.31	8,110,000	(株)安井建築設計事務所	
合 計			8,110,000		

業務概要

- 患者状況
- 診療収入状況
- 退院患者年次統計

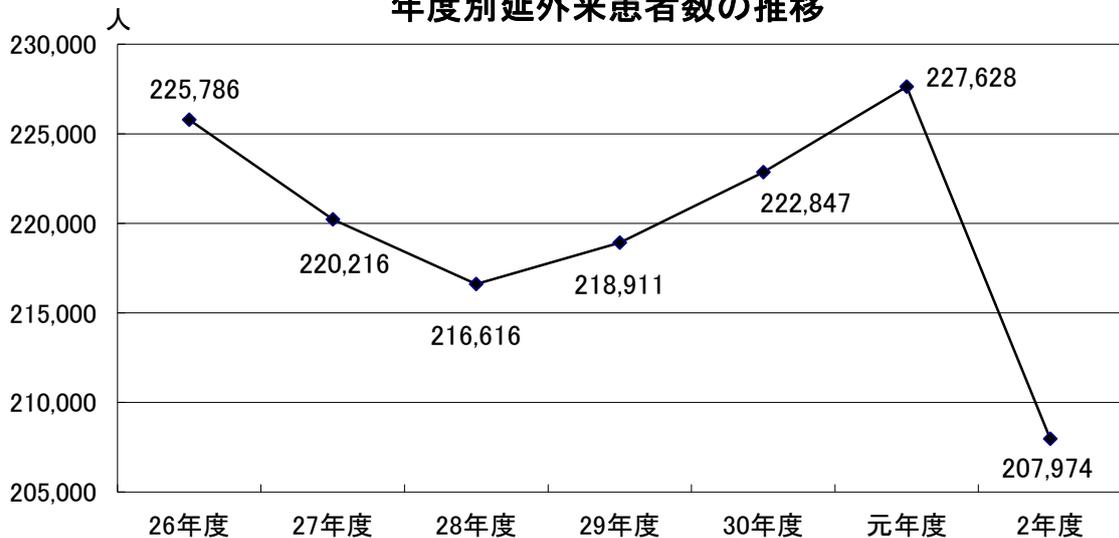
患者状況

■ 科別外来患者数

科 別	初診患者		再診患者		合 計		構成比率
	延患者	1日当り	延患者	1日当り	延患者	1日当り	
内 科	5,723	23.6	30,776	126.6	36,499	150.2	17.6
呼吸器内科	597	2.5	6,139	25.2	6,736	27.7	3.2
消化器内科	1,686	6.9	25,320	104.2	27,006	111.1	13.0
循環器内科	566	2.3	7,397	30.5	7,963	32.8	3.8
神経内科	368	1.5	2,848	11.7	3,216	13.2	1.6
小 児 科	954	3.9	4,240	17.5	5,194	21.4	2.5
外 科	901	3.7	8,484	34.9	9,385	38.6	4.5
呼吸器外科	13	0.1	604	2.4	617	2.5	0.3
消化器外科	420	1.7	10,249	42.2	10,669	43.9	5.1
脳神経外科	47	0.2	556	2.3	603	2.5	0.3
整形外科	1,295	5.3	9,980	41.1	11,275	46.4	5.4
形成外科	614	2.5	4,598	19.0	5,212	21.5	2.5
皮 膚 科	1,426	5.9	7,719	31.7	9,145	37.6	4.4
泌尿器科	758	3.1	13,660	56.2	14,418	59.3	6.9
産 婦 人 科	991	4.1	10,741	44.2	11,732	48.3	5.6
眼 科	607	2.5	9,084	37.4	9,691	39.9	4.7
耳鼻いんこう科	1,199	4.9	6,183	25.5	7,382	30.4	3.6
リハビリテーション科	0	0.0	2,527	10.4	2,527	10.4	1.2
放 射 線 科	2,140	8.8	5,761	23.7	7,901	32.5	3.8
麻 酔 科	131	0.5	6,589	27.2	6,720	27.7	3.2
歯科・歯科口腔外科	3,987	16.4	10,096	41.6	14,083	58.0	6.8
合 計	24,423	100.5	183,551	755.4	207,974	855.9	100.0

*外来診療日数・・・243日

年度別延外来患者数の推移



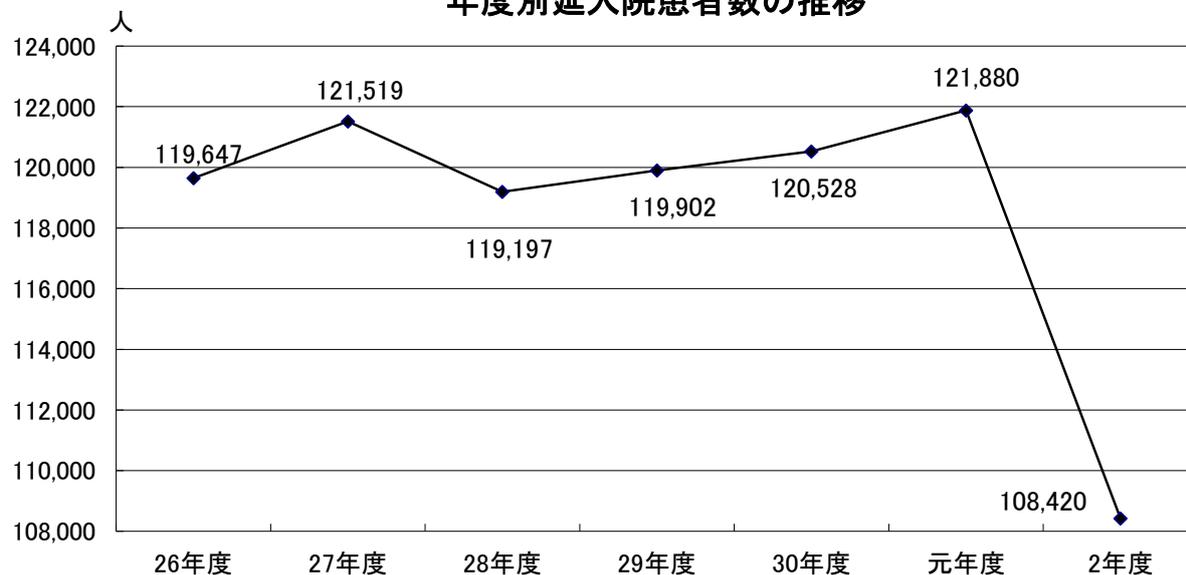
■ 科別入院患者数

科 別	病床数	入院患者		病床稼働率
		延患者	1日当り	
内 科	82	27,082	74.2	90.5%
呼 吸 器 内 科	24	12,197	33.4	139.2%
消 化 器 内 科	62	15,029	41.2	66.5%
循 環 器 内 科	16	6,174	16.9	105.6%
神 経 内 科	10	2,460	6.7	67.0%
小 児 科	12	1,800	4.9	40.8%
外 科	4	1,746	4.8	120.0%
呼 吸 器 外 科	3	567	1.6	53.3%
消 化 器 外 科	40	11,363	31.1	77.8%
脳 神 経 外 科	1	0	0.0	0.0%
整 形 外 科	40	10,795	29.6	74.0%
形 成 外 科	4	1,034	2.8	70.0%
皮 膚 科	10	1,728	4.7	47.0%
泌 尿 器 科	20	5,993	16.4	82.0%
産 婦 人 科	15	4,991	13.7	91.3%
眼 科	7	1,862	5.1	72.9%
耳 鼻 い ん こ う 科	10	2,214	6.1	61.0%
リハビリテーション科	0	0	0.0	0.0%
放 射 線 科	0	0	0.0	0.0%
麻 酔 科	0	2	0.0	0.0%
歯科・歯科口腔外科	4	1,383	3.8	95.0%
合 計	364	108,420	297.0	81.6%

当年度 平均 在院日数	前年度 平均 在院日数
13.9	13.6
14.2	14.5
9.8	11.8
10.8	10.7
18.5	17.2
6.1	4.4
8.8	7.6
9.5	9.6
11.1	11.8
0.0	0.0
20.2	17.5
3.3	2.7
11.1	9.8
8.1	7.2
5.8	5.8
2.9	3.0
6.5	5.5
1.0	5.5
4.9	5.1
11.1	10.7

*入院診療日数・・・365日

年度別延入院患者数の推移



■ 地域別外来・入院延患者数

地域別	外来患者数				入院患者数			
	延患者数		構成比率		延患者数		構成比率	
	元年度	2年度	元年度	2年度	元年度	2年度	元年度	2年度
池田市	110,435	100,782	48.5	48.5	60,421	53,336	49.6	49.2
川西市	62,836	56,281	27.6	27.0	32,472	28,218	26.7	26.0
豊能町	13,601	12,927	6.0	6.2	7,466	7,159	6.1	6.6
豊中市	5,111	5,002	2.2	2.4	3,270	3,145	2.7	2.9
宝塚市	7,412	6,621	3.3	3.2	3,894	2,497	3.2	2.3
箕面市	5,974	5,991	2.6	2.9	3,341	3,254	2.7	3.0
能勢町	4,364	4,131	1.9	2.0	2,371	2,616	1.9	2.4
猪名川町	10,460	9,377	4.6	4.5	4,393	3,972	3.6	3.7
伊丹市	1,082	1,007	0.5	0.5	399	445	0.3	0.4
大阪府下	3,343	3,084	1.5	1.5	1,679	1,918	1.4	1.8
他府県	3,010	2,771	1.3	1.3	2,174	1,860	1.8	1.7
合計	227,628	207,974	100.0	100.0	121,880	108,420	100.0	100.0

■ 保険別外来・入院延患者数

保険種別	外来患者数				入院患者数			
	延患者数		構成比率		延患者数		構成比率	
	元年度	2年度	元年度	2年度	元年度	2年度	元年度	2年度
健康保険	75,784	68,904	33.3	33.1	23,677	19,191	19.4	17.7
国民保険	60,058	53,376	26.4	25.7	27,882	24,888	22.9	23.0
後期高齢者	81,256	74,328	35.7	35.7	64,363	56,568	52.8	52.2
医療保護	4,548	4,115	2.0	2.0	3,604	2,393	3.0	2.2
労働災害	845	792	0.4	0.4	307	143	0.3	0.0
自費その他	5,137	6,459	2.3	3.0	2,047	5,237	1.7	4.8
合計	227,628	207,974	100.0	100.0	121,880	108,420	100.0	100.0

■ 65才以上の老人患者数(外来・入院)

科 別	外 来 患 者 数			入 院 患 者 数		
	延患者数	老人患者数	占有率	延患者数	老人患者数	占有率
内 科	36,499	20,856	57.1	27,082	22,497	83.1
呼吸器内科	6,736	5,174	76.8	12,197	10,257	84.1
消化器内科	27,006	18,695	69.2	15,029	12,278	81.7
循環器内科	7,963	6,394	80.3	6,174	5,563	90.1
神経内科	3,216	2,236	69.5	2,460	2,081	84.6
小 児 科	5,194	0	0.0	1,800	0	0.0
外 科	9,385	4,485	47.8	1,746	957	54.8
呼吸器外科	617	470	76.2	567	371	65.4
消化器外科	10,669	8,416	78.9	11,363	8,931	78.6
脳神経外科	603	416	69.0	0	0	0.0
整形外科	11,275	7,726	68.5	10,795	9,582	88.8
形成外科	5,212	2,512	48.2	1,034	651	63.0
皮 膚 科	9,145	5,284	57.8	1,728	1,300	75.2
泌尿器科	14,418	11,918	82.7	5,993	5,180	86.4
産婦人科	11,732	2,284	19.5	4,991	669	13.4
眼 科	9,691	7,109	73.4	1,862	1,597	85.8
耳鼻いんこう科	7,382	3,510	47.5	2,214	886	40.0
リハビリテーション科	2,527	1,197	47.4	0	0	0.0
放射線科	7,901	4,851	61.4	0	0	0.0
麻 酔 科	6,720	4,494	66.9	2	0	0.0
歯科・歯科口腔外科	14,083	7,533	53.5	1,383	763	55.2
合 計	207,974	125,560	60.4	108,420	83,563	77.1

■ 曜日別外来患者数

科 別	日	月	火	水	木	金	土	祝	合計
内 科	599	5,887	7,447	7,612	8,383	5,773	565	233	36,499
呼吸器内科	20	1,383	1,220	839	2,361	891	16	6	6,736
消化器内科	11	4,973	6,064	6,073	4,422	5,448	10	5	27,006
循環器内科	10	1,183	1,168	2,452	1,361	1,782	4	3	7,963
神経内科	2	563	556	748	683	663	1	0	3,216
小 児 科	29	1,325	756	1,188	1,107	725	51	13	5,194
外 科	165	3,424	3,396	569	1,014	625	138	54	9,385
呼吸器外科	0	297	7	14	31	267	0	1	617
消化器外科	15	970	477	3,224	2,756	3,179	28	20	10,669
脳神経外科	0	30	34	314	9	216	0	0	603
整形外科	112	2,383	2,080	2,512	1,804	2,253	97	34	11,275
形成外科	1	1,106	1,179	1,173	1,233	380	131	9	5,212
皮 膚 科	65	1,457	2,130	1,847	1,834	1,728	46	38	9,145
泌尿器科	59	2,688	2,198	3,263	2,769	3,372	50	19	14,418
産婦人科	43	2,523	2,046	1,849	2,760	2,458	35	18	11,732
眼 科	3	1,628	2,807	574	2,436	2,241	2	0	9,691
耳鼻いんこう科	27	1,938	2,312	1,192	742	1,130	28	13	7,382
リハビリテーション科	0	627	715	456	390	339	0	0	2,527
放射線科	0	1,443	1,508	1,608	1,687	1,552	103	0	7,901
麻 酔 科	0	1,789	839	1,337	821	1,934	0	0	6,720
歯科・歯科口腔外科	7	2,557	3,123	3,295	1,971	3,111	11	8	14,083
合 計	1,168	40,174	42,062	42,139	40,574	40,067	1,316	474	207,974
令和2年度 平日診療日数 243日、土曜日 51日、日曜日 51日、祝(休)日 20日									合計 365日

■ 救急外来受診患者数

		内科	呼吸器内科	消化器内科	循環器内科	神経内科	小児科	外科	呼吸器外科	消化器外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻いんこう科	麻酔科	歯科・歯科口腔外科	合計	
																					人数	構成比率
H30	時間内	2,224	175	273	161	67	440	592	2	122	0	206	8	53	60	22	4	13	0	0	4,422	36.1
	時間外	4,520	56	71	77	17	311	631	3	216	0	446	162	335	325	293	17	312	1	20	7,813	63.9
	合計	6,744	231	344	238	84	751	1,223	5	338	0	652	170	388	385	315	21	325	1	20	12,235	100.0
R1	時間内	2,250	175	215	130	65	416	563	1	137	0	241	11	76	61	20	2	20	2	12	4,397	36.7
	時間外	4,193	57	155	108	26	266	674	2	211	0	503	127	338	317	339	8	227	0	29	7,580	63.3
	合計	6,443	232	370	238	91	682	1,237	3	348	0	744	138	414	378	359	10	247	2	41	11,977	100.0
R2	時間内	2,186	137	231	130	52	194	522	3	103	0	146	8	46	63	11	0	13	1	7	3,853	42.8
	時間外	2,490	47	145	73	21	101	537	1	206	0	401	141	226	248	377	5	86	2	33	5,140	57.2
	合計	4,676	184	376	203	73	295	1,059	4	309	0	547	149	272	311	388	5	99	3	40	8,993	100.0

■ 救急外来からの入院患者数

		内科	呼吸器内科	消化器内科	循環器内科	神経内科	小児科	外科	呼吸器外科	消化器外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻いんこう科	麻酔科	歯科・歯科口腔外科	合計	
																					人数	構成比率
H30	時間内	510	175	272	152	63	117	5	2	113	0	63	1	10	30	10	0	4	0	0	1,527	44.6
	時間外	1,061	51	68	75	16	117	16	1	137	0	88	0	16	65	168	0	16	0	1	1,896	55.4
	合計	1,571	226	340	227	79	234	21	3	250	0	151	1	26	95	178	0	20	0	1	3,423	100.0
R1	時間内	510	174	210	122	63	101	13	1	118	0	68	0	19	36	6	0	3	2	3	1,449	43.0
	時間外	1,037	47	131	97	25	86	21	0	131	0	92	0	12	48	187	0	5	0	1	1,920	57.0
	合計	1,547	221	341	219	88	187	34	1	249	0	160	0	31	84	193	0	8	2	4	3,369	100.0
R2	時間内	444	136	226	125	49	20	9	2	87	0	58	2	17	37	4	0	3	0	0	1,219	45.4
	時間外	706	45	136	59	19	13	9	1	113	0	63	0	13	56	217	0	11	1	2	1,464	54.6
	合計	1,150	181	362	184	68	33	18	3	200	0	121	2	30	93	221	0	14	1	2	2,683	100.0

■ 搬送患者の救急隊別比率

	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	件数	構成比率	件数	構成比率	件数	構成比率
池田救急	2,469	75.4	2,422	72.0	1,877	73.7
箕面救急	187	5.7	214	6.4	109	4.3
豊中救急	126	3.9	136	4.0	113	4.4
川西救急	321	9.8	398	11.8	257	10.1
宝塚救急	29	0.9	29	0.9	16	0.6
豊能救急	53	1.6	77	2.3	97	3.8
猪名川救急	36	1.1	42	1.2	24	1.0
能勢救急	23	0.7	17	0.5	26	1.0
その他	30	0.9	29	0.9	29	1.1
合計	3,274	100.0	3,364	100.0	2,548	100.0

■ 科別手術件数

科 別	令和元年度			令和2年度		
	件数 (外来再掲)	月平均	構成比率	件数 (外来再掲)	月平均	構成比率
内 科	11 (0)	1	0.2	16 (0)	1	0.3
呼 吸 器 内 科	0 (0)	0	0.0	0 (0)	0	0.0
消 化 器 内 科	58 (0)	5	0.9	40 (0)	3	0.7
循 環 器 内 科	0 (0)	0	0.0	1 (0)	0	0.0
神 経 内 科	0 (0)	0	0.0	1 (0)	0	0.0
小 児 科	0 (0)	0	0.0	0 (0)	0	0.0
外 科	180 (34)	15	2.8	193 (26)	16	3.4
呼 吸 器 外 科	50 (0)	4	0.8	61 (0)	5	1.1
消 化 器 外 科	955 (9)	80	15.0	880 (4)	73	15.3
脳 神 経 外 科	0 (0)	0	0.0	0 (0)	0	0.0
整 形 外 科	887 (207)	74	13.9	860 (235)	72	15.0
形 成 外 科	820 (457)	68	12.8	862 (511)	72	15.0
皮 膚 科	0 (0)	0	0.0	0 (0)	0	0.0
泌 尿 器 科	1,001 (42)	83	15.7	891 (59)	74	15.5
産 婦 人 科	387 (1)	32	6.1	415 (0)	35	7.2
眼 科	1,208 (13)	101	18.9	954 (130)	80	16.6
耳 鼻 い ん こ う 科	480 (16)	40	7.5	258 (4)	22	4.5
リハビリテーション科	0 (0)	0	0.0	0 (0)	0	0.0
放 射 線 科	0 (0)	0	0.0	0 (0)	0	0.0
麻 酔 科	0 (0)	0	0.0	0 (0)	0	0.0
歯科・歯科口腔外科	346 (26)	29	5.4	313 (22)	26	5.4
合 計	6,383 (805)	532	100.0	5,745 (991)	479	100.0

診療収入状況

■ 科別・入院外来別収入

(単位:円)

科 別	令和2年度決算 (税抜)			構成比率 (%)
	入 院	外 来	合 計	
内 科	1,596,084,365	920,165,053	2,516,249,418	21.7
呼 吸 器 内 科	770,607,988	291,705,572	1,062,313,560	9.1
消 化 器 内 科	913,686,596	614,761,603	1,528,448,199	13.2
循 環 器 内 科	521,648,140	85,928,368	607,576,508	5.2
神 経 内 科	133,755,924	41,834,273	175,590,197	1.5
小 児 科	82,168,959	37,480,321	119,649,280	1.0
外 科	154,439,777	304,623,668	459,063,445	3.9
呼 吸 器 外 科	89,418,681	10,994,485	100,413,166	0.9
消 化 器 外 科	1,002,233,027	475,325,825	1,477,558,852	12.7
脳 神 経 外 科	0	5,704,967	5,704,967	0.0
整 形 外 科	813,943,249	136,340,334	950,283,583	8.2
形 成 外 科	72,348,769	45,657,165	118,005,934	1.0
皮 膚 科	74,837,480	133,508,932	208,346,412	1.8
泌 尿 器 科	413,732,590	328,746,212	742,478,802	6.4
産 婦 人 科	394,612,219	122,786,666	517,398,885	4.5
眼 科	192,582,867	127,481,477	320,064,344	2.8
耳 鼻 いんこう科	144,682,478	85,044,302	229,726,780	2.0
リハビリテーション科	0	9,198,602	9,198,602	0.1
放 射 線 科	0	183,496,334	183,496,334	1.6
麻 酔 科	135,511	30,660,942	30,796,453	0.3
歯科・歯科口腔外科	102,974,782	136,359,158	239,333,940	2.1
合 計	7,473,893,402	4,127,804,259	11,601,697,661	100.0

■ 行為別・入院外来別収入

(単位:円)

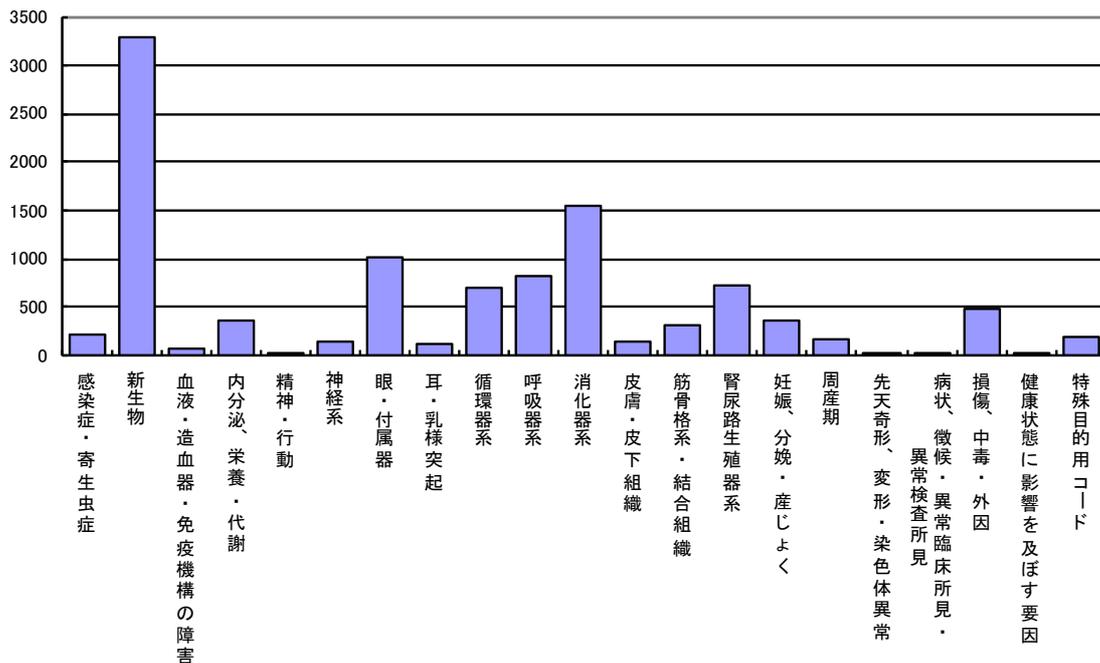
行 為 別	令和2年度決算 (税抜)			構成比率 (%)
	入 院	外 来	合 計	
D P C	3,864,654,623	—	3,864,654,623	33.3
入 院 料	855,898,068	—	855,898,068	7.4
食 事 療 養 料	171,263,184	—	171,263,184	1.5
処 置 料	217,425,901	46,801,672	264,227,573	2.3
手 術 料	1,847,898,374	191,282,530	2,039,180,904	17.6
検 査 料	103,799,736	973,503,750	1,077,303,486	9.3
レントゲン料	25,019,531	590,152,680	615,172,211	5.3
注 射 料	179,985,604	1,273,453,417	1,453,439,021	12.5
薬 治 料	60,229,557	524,301,203	584,530,760	5.0
分 娩 料	18,312,000	—	18,312,000	0.1
診 察 料	127,476,824	499,244,350	626,721,174	5.4
文 書 料	1,930,000	22,211,160	24,141,160	0.2
選 定 療 養 料	—	6,853,497	6,853,497	0.1
合 計	7,473,893,402	4,127,804,259	11,601,697,661	100.0

退院患者年次統計

☆疾病大分類別 退院患者数

章	疾病分類(大分類)	退院患者数	
		患者数	在平均
I	感染症及び寄生虫症	223	11.6
II	新生物	3,294	11.8
III	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	81	14.3
IV	内分泌、栄養および代謝疾患	362	12.9
V	精神および行動の障害	24	10.7
VI	神経系の疾患	147	17.1
VII	眼および付属器の疾患	1,021	2.5
VIII	耳および乳様突起の疾患	109	7.2
IX	循環器系の疾患	702	11.7
X	呼吸器系の疾患	817	13.7
X I	消化器系の疾患	1,552	8.3
X II	皮膚および皮下組織の疾患	138	12.3
X III	筋骨格系および結合組織の疾患	322	21.4
X IV	腎尿路生殖器系の疾患	716	9.5
X V	妊娠、分娩および産じょく	350	6.8
X VI	周産期に発生した病態	168	6.5
X VII	先天奇形、変形および染色体異常	22	5.9
X VIII	症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見	21	6.9
X IX	損傷、中毒およびその他の外因の影響	480	13.6
XX I	健康状態に影響を及ぼす要因・保健サービス	2	14.5
XX II	特殊目的用コード	202	13.1
合計		10,753	10.6

(患者数)



☆診療科別 上位疾病(3桁分類)退院患者数

科	3桁分類	患者数
全科	H25：老人性白内障	855
	C34：気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	414
	C22：肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍>	247
	C16：胃の悪性新生物<腫瘍>	241
	E11：2型<インスリン非依存性>糖尿病<NIDDM>	236
	K63：腸のその他の疾患	234
	C61：前立腺の悪性新生物<腫瘍>	215
	U07：エマージェンシーコードU07	202
	C50：乳房の悪性新生物<腫瘍>	200
	C18：結腸の悪性新生物<腫瘍>	196

内科(全体)	C34：気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	382
	E11：2型<インスリン非依存性>糖尿病<NIDDM>	213
	U07：エマージェンシーコードU07	186
	C83：非ろく濾>胞性リンパ腫	172
	J15：細菌性肺炎、他に分類されないもの	139
内科(総合内科)	J69：固形物及び液状物による肺臓炎	40
	U07：エマージェンシーコードU07	38
	J15：細菌性肺炎、他に分類されないもの	19
	M11：その他の結晶性関節障害	16
内科(糖尿病科)	A41：その他の敗血症	12
	E11：2型<インスリン非依存性>糖尿病<NIDDM>	200
	E10：1型<インスリン依存性>糖尿病<IDDM>	22
	J15：細菌性肺炎、他に分類されないもの	11
	J69：固形物及び液状物による肺臓炎	9
内科(血液内科)	E87：その他の体液、電解質及び酸塩基平衡障害	8
	C83：非ろく濾>胞性リンパ腫	172
	D46：骨髄異形成症候群	82
	C90：多発性骨髄腫及び悪性形質細胞性新生物<腫瘍>	65
	C92：骨髄性白血病	53
内科(呼吸器内科)	C82：ろく濾>胞性リンパ腫	46
	C34：気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	381
	U07：エマージェンシーコードU07	146
	J15：細菌性肺炎、他に分類されないもの	89
	J84：その他の間質性肺疾患	41
内科(腎臓内科)	J44：その他の慢性閉塞性肺疾患	29
	N18：慢性腎不全	55
	N10：急性尿細管間質性腎炎	49
	N04：ネフローゼ症候群	21
	N39：尿路系のその他の障害	20
	E11：2型<インスリン非依存性>糖尿病<NIDDM>	12

科	3桁分類	患者数
神経内科	I63：脳梗塞	53
	H81：前庭機能障害	16
	G12：脊髄性筋萎縮症及び関連症候群	13
	G61：炎症性多発(性)ニューロパチ<シ>ー	12
	G20：パーキンソン<Parkinson>病	12
消化器内科	K63：腸のその他の疾患	230
	C22：肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍>	218
	K57：腸の憩室性疾患	99
	C25：膵の悪性新生物<腫瘍>	91
	K80：胆石症	83
循環器内科	I50：心不全	153
	I20：狭心症	99
	I25：慢性虚血性心疾患	54
	I48：心房細動及び粗動	51
	I21：急性心筋梗塞	28

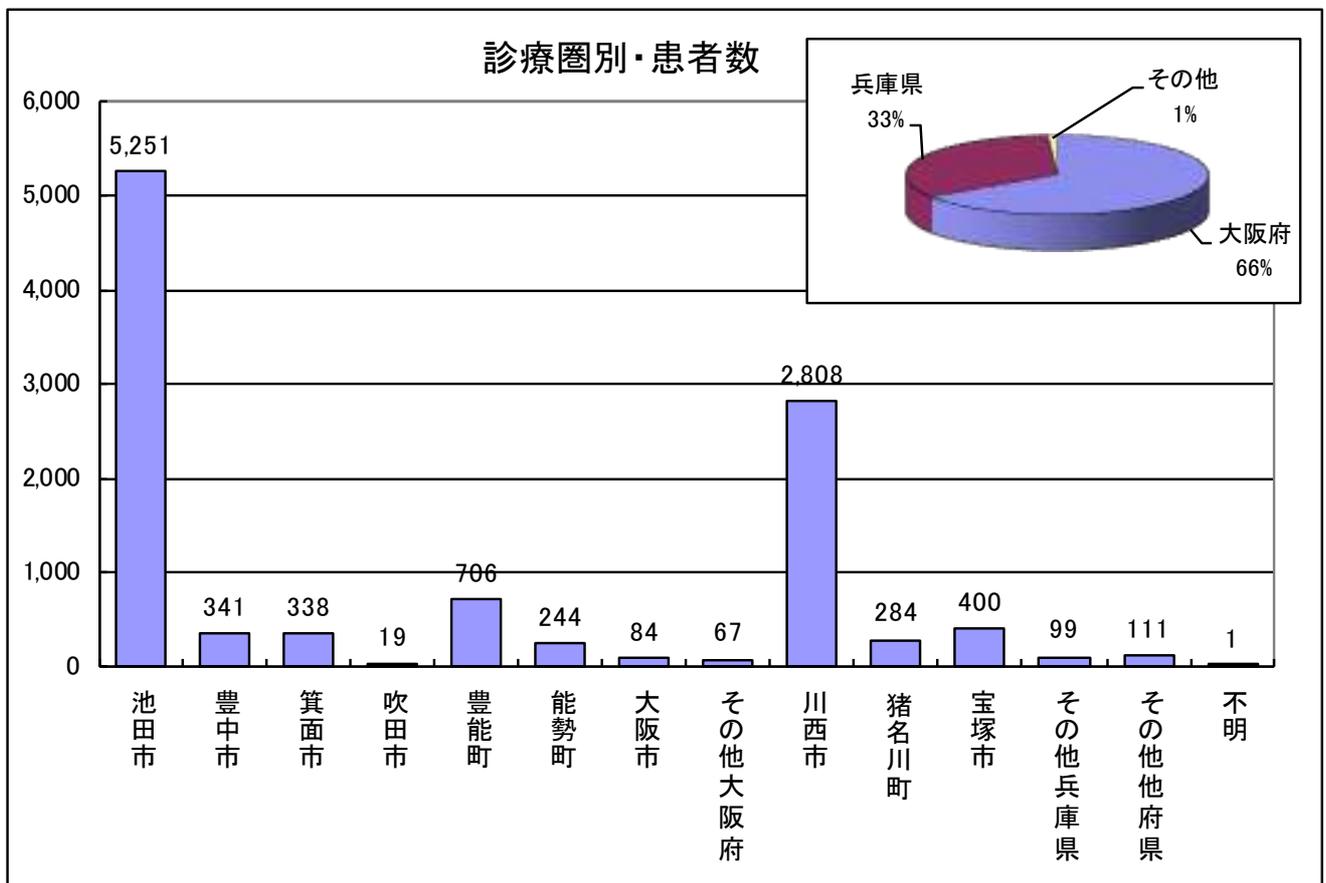
☆診療科別 上位疾病(3桁分類)退院患者数

科	3桁分類	患者数
小児科	P03：その他の分娩合併症により影響を受けた胎児及び新生児	47
	T78：有害作用、他に分類されないもの	37
	P22：新生児の呼吸窮<促>迫	18
	P70：胎児及び新生児に特異的な一過性糖質代謝障害	17
	P59：その他及び詳細不明の原因による新生児黄疸	15
(乳腺・内分泌外科)	C50：乳房の悪性新生物<腫瘍>	192
	D48：その他及び部位不明の性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>	3
	C73：甲状腺の悪性新生物<腫瘍>	3
	D24：乳房の良性新生物<腫瘍>	1
	C85：非ホジキン<non-Hodgkin>リンパ腫のその他及び詳細不明の型	1
呼吸器外科	C34：気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	29
	J93：気胸	10
	C78：呼吸器及び消化器の続発性悪性新生物<腫瘍>	10
	S27：その他及び詳細不明の胸腔内臓器の損傷	2
	J86：膿胸(症)	2
消化器外科	C16：胃の悪性新生物<腫瘍>	162
	K40：そけい<鼠径>ヘルニア	149
	C18：結腸の悪性新生物<腫瘍>	127
	K80：胆石症	110
	K35：急性虫垂炎	74
整形外科	S72：大腿骨骨折	130
	M17：膝関節症 [膝の関節症]	60
	S52：前腕の骨折	59
	M48：その他の脊椎障害	47
	S82：下腿の骨折、足首を含む	42
皮膚科	L03：蜂巣炎<蜂窩織炎>	37
	B02：帯状疱疹 [帯状ヘルペス]	36
	L27：摂取物質による皮膚炎	9
	A46：丹毒	7
	L40：乾せん<癬>	7
形成外科	H02：眼瞼のその他の障害	63
	I83：下肢の静脈瘤	45
	N18：慢性腎不全	40
	D48：その他及び部位不明の性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>	37
	C44：皮膚のその他の悪性新生物<腫瘍>	16
泌尿器科	C61：前立腺の悪性新生物<腫瘍>	214
	C67：膀胱の悪性新生物<腫瘍>	180
	N13：閉塞性尿路疾患及び逆流性尿路疾患	83
	N20：腎結石及び尿管結石	81
	C65：腎盂の悪性新生物<腫瘍>	35

科	3桁分類	患者数
産婦人科	O80：単胎自然分娩	117
	C56：卵巢の悪性新生物<腫瘍>	103
	D25：子宮平滑筋腫	68
	N84：女性性器のポリープ	50
	C54：子宮体部の悪性新生物<腫瘍>	46
眼科	H25：老人性白内障	855
	H35：その他の網膜障害	29
	H26：その他の白内障	28
	E11：2型<インスリン非依存性>糖尿病<NIDDM>	17
	H33：網膜剥離及び裂孔	17
耳鼻いんこう科	J32：慢性副鼻腔炎	49
	G51：顔面神経障害	34
	H91：その他の難聴	33
	H81：前庭機能障害	33
	J35：扁桃及びアデノイドの慢性疾患	32
歯科・口腔外科	K07：歯顎顔面(先天)異常 [不正咬合を含む]	31
	K09：口腔部のう<嚢>胞、他に分類されないもの	28
	K01：埋伏歯	25
	K04：歯髓及び根尖部歯周組織の疾患	23
	D48：その他及び部位不明の性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>	22

☆診療圏別・退院患者数・在院日数

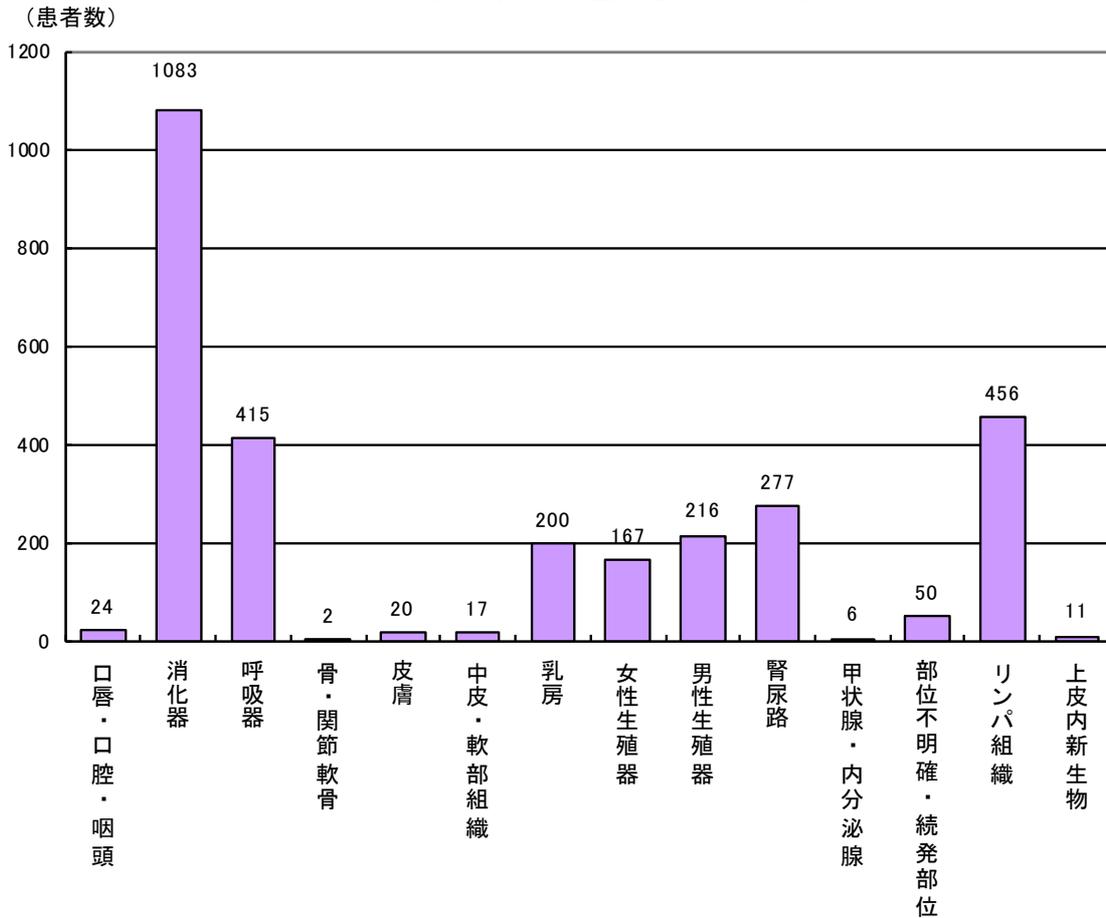
		退院患者数		
診療圏		患者数	在総数	在平均
大阪府	池田市	5,251	55,794	10.6
	豊中市	341	3,477	10.2
	箕面市	338	3,696	10.9
	吹田市	19	165	8.7
	豊能町	706	7,521	10.7
	能勢町	244	2,776	11.4
	大阪市	84	841	10.0
	その他大阪府	67	847	12.6
兵庫県	川西市	2,808	29,946	10.7
	猪名川町	284	2,503	8.8
	宝塚市	400	4,145	10.4
	その他兵庫県	99	1,033	10.4
他	その他他府県	111	1,150	10.4
	不明	1	8	8.0
総計		10,753	113,902	10.6



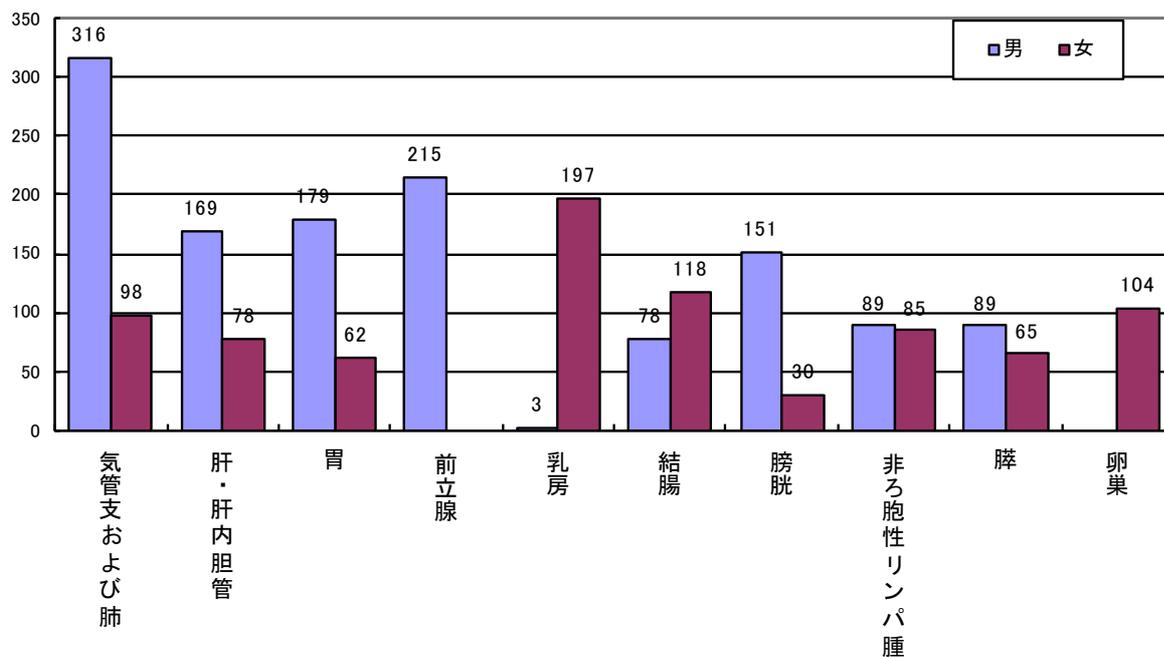
☆悪性新生物患者数（系統別・部位別）

中分類	3桁分類/部位	男性		女性		総計	
		患者数	在平均	患者数	在平均	患者数	在平均
口唇、口腔及び咽頭	C02:舌のその他及び位不明の悪性新生物	11	10.5	5	16.2	16	12.3
	C03:歯肉の悪性新生物	2	37.5	2	20.5	4	29.0
	C04:口(腔)底の悪性新生物	1	5.0			1	5.0
	C06:その他及び部位不明の口腔の悪性新生物	2	15.5			2	15.5
	C13:下咽頭の悪性新生物	1	13.0			1	13.0
消化器	C15:食道の悪性新生物	55	14.1	13	12.0	68	13.7
	C16:胃の悪性新生物	179	9.9	62	8.4	241	9.5
	C17:小腸の悪性新生物	10	16.3	2	15.0	12	16.1
	C18:結腸の悪性新生物	78	11.8	118	10.9	196	11.2
	C19:直腸S状結腸移行部の悪性新生物	8	10.4	3	11.0	11	10.5
	C20:直腸の悪性新生物	63	15.3	21	13.1	84	14.8
	C22:肝及び肝内胆管の悪性新生物	169	10.6	78	11.6	247	10.9
	C23:胆のう<嚢>の悪性新生物	8	40.0	5	12.6	13	29.5
	C24:その他及び部位不明の胆道の悪性新生物	25	19.4	31	17.9	56	18.6
	C25:膵の悪性新生物	89	14.8	65	15.9	154	15.2
呼吸器	C26:その他及び部位不明確の消化器の悪性新生物	1	25.0			1	25.0
	C32:喉頭の悪性新生物	1	27.0			1	27.0
	C34:気管支及び肺の悪性新生物	316	10.9	98	12.7	414	11.3
骨及び関節軟骨	C41:その他及び部位不明の骨及び関節軟骨の悪性新生物	1	9.0	1	2.0	2	5.5
皮膚	C43:皮膚の悪性黒色腫	1	23.0	1	18.0	2	20.5
	C44:皮膚のその他の悪性新生物	13	4.7	5	5.6	18	4.9
中皮・軟部組織	C45:中皮腫	2	21.5			2	21.5
	C48:後腹膜及び腹膜の悪性新生物	1	8.0	11	6.8	12	6.9
	C49:その他の結合組織及び軟部組織の悪性新生物	2	29.0	1	2.0	3	20.0
乳房	C50:乳房の悪性新生物	3	20.7	197	9.0	200	9.2
女性生殖器	C53:子宮頸部の悪性新生物			17	11.6	17	11.6
	C54:子宮体部の悪性新生物			46	6.9	46	6.9
	C56:卵巣の悪性新生物			104	5.0	104	5.0
男性生殖器	C61:前立腺の悪性新生物	215	3.6			215	3.6
	C63:その他及び部位不明の男性生殖器の悪性新生物	1	4.0			1	4.0
腎尿路	C64:腎盂を除く腎の悪性新生物	21	8.0	7	11.7	28	8.9
	C65:腎盂の悪性新生物	26	12.3	10	15.6	36	13.2
	C66:尿管の悪性新生物	27	8.4	4	7.5	31	8.3
	C67:膀胱の悪性新生物	151	9.6	30	10.4	181	9.7
	C68:その他及び部位不明の尿路の悪性新生物	1	3.0			1	3.0
甲状腺・内分泌腺	C73:甲状腺の悪性新生物	3	10.7	3	12.7	6	11.7
部位不明確・続発部位	C76:その他及び部位不明確の悪性新生物			1	5.0	1	5.0
	C77:リンパ節の続発性及び部位不明の悪性新生物	6	8.8	8	5.8	14	7.1
	C78:呼吸器及び消化器の続発性悪性新生物	18	8.7	6	7.5	24	8.4
	C79:その他の部位及び部位不明の続発性悪性新生物	5	14.8	4	17.3	9	15.9
	C80:悪性新生物、部位が明示されていないもの			2	31.5	2	31.5
リンパ組織	C81:ホジキン<Hodgkin>病	10	23.2	10	24.2	20	23.7
	C82:ろ<濾>胞性リンパ腫	16	16.1	30	19.3	46	18.2
	C83:非ろ<濾>胞性リンパ腫	89	22.3	85	17.9	174	20.1
	C84:成熟T/NK細胞リンパ腫	9	15.8	2	16.0	11	15.8
	C85:非ホジキン<non-Hodgkin>リンパ腫のその他及び詳細不明の型	11	11.8	27	12.5	38	12.3
	C86:T/NK細胞リンパ腫のその他の明示された型	1	25.0	15	28.5	16	28.3
	C88:悪性免疫増殖性疾患	7	13.9	1	9.0	8	13.3
	C90:多発性骨髄腫及び悪性形質細胞性新生物	47	24.2	20	22.0	67	23.6
	C91:リンパ性白血病	7	20.9	13	28.2	20	25.6
	C92:骨髄性白血病	37	31.0	16	31.1	53	31.0
上皮内新生物	C93:単球性白血病			3	20.0	3	20.0
	D00:口腔、食道及び胃の上皮内癌			3	6.0	3	6.0
	D04:皮膚の上皮内癌	1	2.0	1	2.0	2	2.0
	D06:子宮頸(部)の上皮内癌			4	4.8	4	4.8
D09:その他及び部位不明の上皮内癌	1	4.0	1	9.0	2	6.5	

☆悪性新生物 部位別退院患者数(中分類)

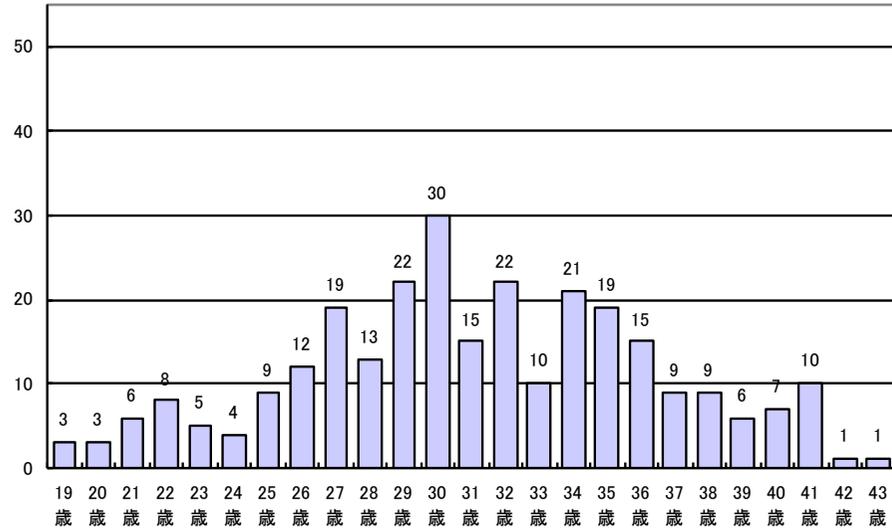


☆悪性新生物 上位疾病 退院患者数(3桁分類)



☆年齢別・分娩件数

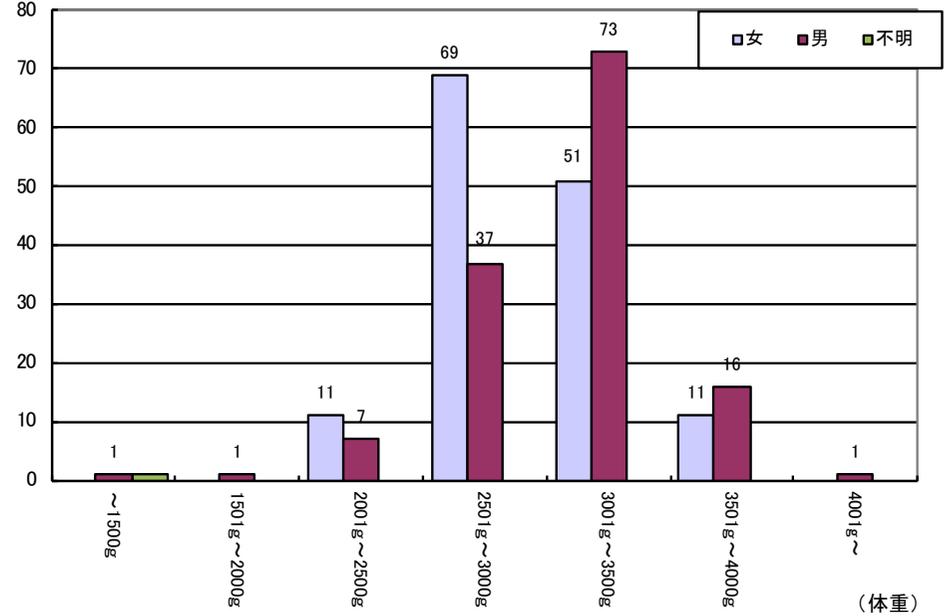
(分娩件数)



(分娩時年齢)

☆体重別・性別 新生児数

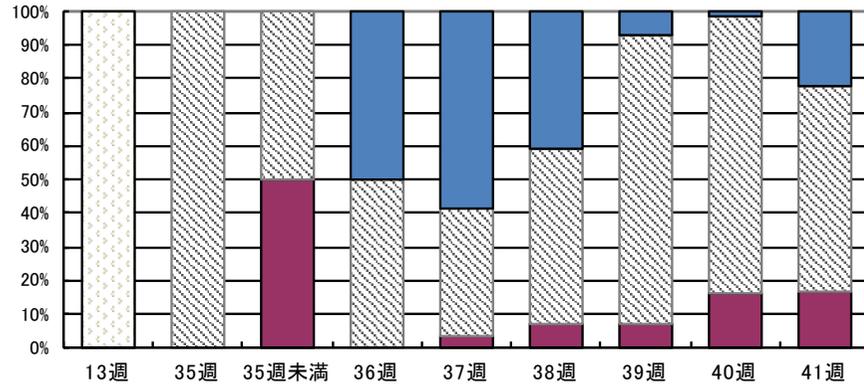
(新生児数)



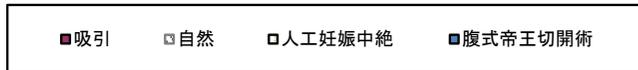
(体重)

☆分娩様式別・妊娠週別・新生児比率

(新生児比率)

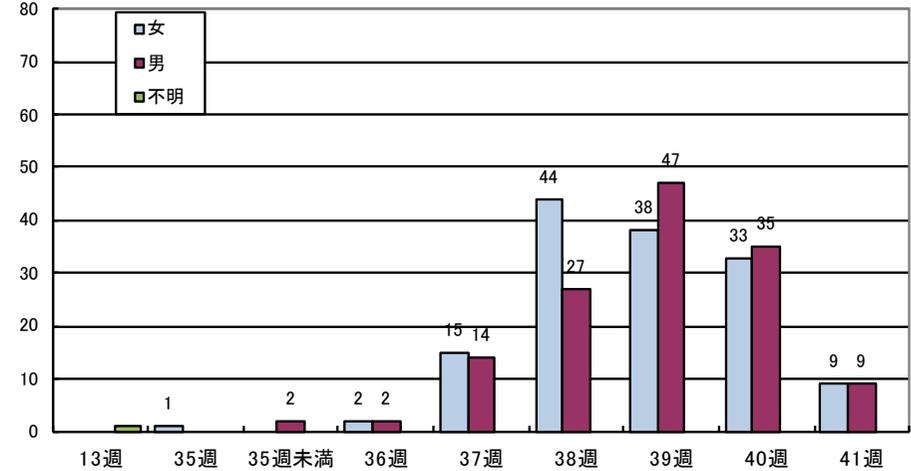


(妊娠週)



☆妊娠週数・性別 新生児数

(新生児件数)



(妊娠週数)

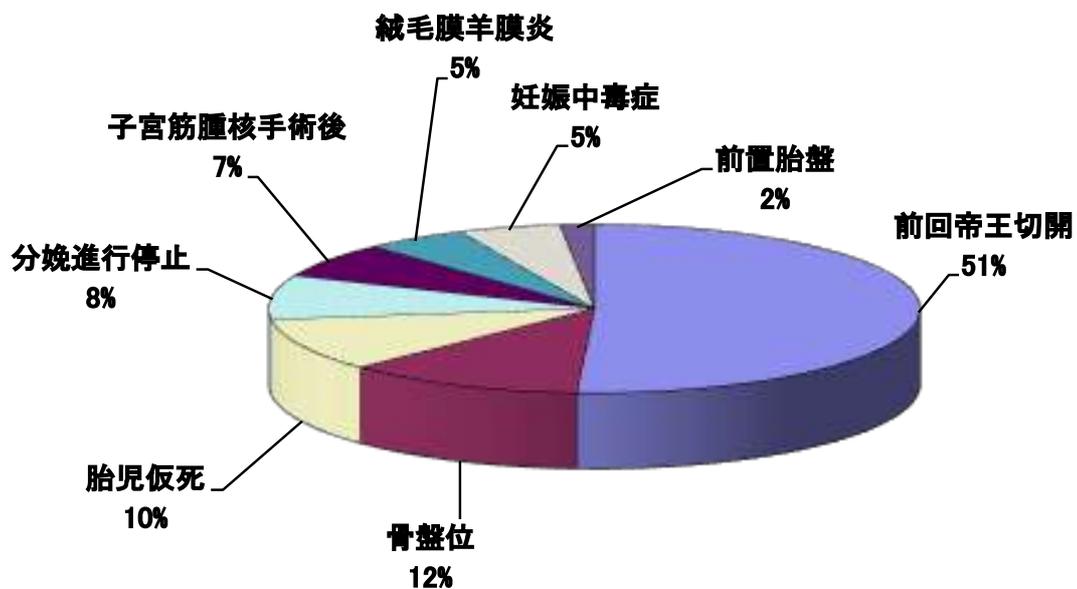
☆帝王切開理由別・分娩件数

帝王切開の理由	合計
前回帝王切開	30
骨盤位	7
胎児仮死	6
分娩進行停止	5
子宮筋腫核手術後	4
絨毛膜羊膜炎	3
妊娠中毒症	3
前置胎盤	1
総計	59

☆月別・帝王切開件数

分娩月	帝王切開数	分娩総数	帝王切開率
1月	3	13	23.1%
2月	2	13	15.4%
3月	4	18	22.2%
4月	8	22	36.4%
5月	2	20	10.0%
6月	3	28	10.7%
7月	5	30	16.7%
8月	5	28	17.9%
9月	9	29	31.0%
10月	5	28	17.9%
11月	7	23	30.4%
12月	6	27	22.2%
総計	59	279	21.1%

帝王切開理由別比率



各部門の活動

◇医務局

■内 科.....	> 総合内科	45
	> 腎臓内科	47
	> 血液内科	50
	> 内分泌・代謝内科	52
■呼吸器内科.....		55
■消化器内科.....		57
■循環器内科.....		64
■神経内科.....		67
■小児科.....		69
■外 科.....	> 乳腺・内分泌外科	73
■呼吸器外科.....		75
■消化器外科.....		76
■脳神経外科.....		82
■整形外科.....		83
■形成外科.....		86
■皮膚科.....		88
■泌尿器科（結石治療センター含む）.....		90
■産婦人科.....		94
■眼科.....		95
■耳鼻いんこう科.....		98
■リハビリテーション科.....		102
■放射線科.....		105
■麻酔科.....		110
■歯科・歯科口腔外科.....		113
■病理診断科.....		118
■臨床検査科.....		120
■精神科.....		125
◇救急総合診療部.....		126
◇中央手術部.....		127
◇臨床研修部.....		129
◇がん治療センター部		
■外来化学療法センター.....		135
■がん相談支援センター.....		138
◇共同診療部		
■内視鏡センター.....		141
■生活習慣病・糖尿病センター.....		146
■人工透析センター.....		148
■口腔ケアセンター.....		150
■超音波診断・治療センター.....		151
■健診センター.....		153
◇薬剤部.....		156

◇看護部	163
◇医療技術部	
■栄養管理科	169
■医療機器管理室	173
◇臨床研究管理部	175
◇地域医療連携部	179
◇感染制御部	182
◇医療安全・質管理部	190
◇経営企画室 情報システム	192
◇診療情報管理部 診療情報管理・診療支援	194
◇チーム医療関連	
■栄養サポートチーム(NST)	198
■褥瘡対策チーム	201
■呼吸療法サポートチーム(RST)	206
■緩和ケアチーム	208
■高齢者サポートチーム(OST)	211
■精神科リエゾンチーム	214
◇その他の部門	
■ライフサポートチーム	215
■患者サポートチーム	217
■臨床心理室	218
■からだのとしよしつ	220

I. 総合内科

《概要》

■ 組織・スタッフ

平成 23 年 3 月末から総合内科として主に入院患者の診療を開始し、令和元年度からは下記 4 名。病棟業務は主に中尾医師・三砂医師が運営している。また救急総合診療科スタッフ、家庭医療後期研修医とも連携して総合内科業務を運営している。

中尾 真一郎：日本内科学会認定内科医、認知症サポート医

三砂 雅裕：日本内科学会認定内科医

村上 慎一郎：家庭医療専門医、日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医、
認知症サポート医

上岡 孝人：日本プライマリ・ケア認定医、日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医、
日本内科学会認定内科医

■ 診療・業務概要

外来：総合内科外来は内科全体で運営されており、午前外来として週 5 回 2 診体制で行っている。主に内科初診患者や検診異常の患者の窓口となっており、予約制で地域からの紹介も受け付けている。

入院：前期・後期研修医とともに主に入院患者の診療に当たっている。入院患者としては救急外来からの緊急入院が多く、高齢者の各種感染症や臓器横断的な問題を抱える症例の割合が高い。家庭医療後期研修医とともに疾病の治療のみでは退院が難しい様々な問題を抱える患者様の診療に貢献するべく活動している。

また NST、ICT、ICU カンファレンス、臨床倫理検討会などの院内におけるチーム医療活動に参加している。

《実績》

■ 統計実績

令和元年度の総合内科入院は入院サマリー数で 378 名。総合内科では高齢者診療（誤嚥性肺炎・老衰・食欲低下ほか）や感染症診療、不明熱診療といった各内科疾患や、圧迫骨折や偽痛風など院内で求められる診療をその都度各スタッフの努力やシステムとの協力で行っている。中でも肺炎を中心とした感染症診療が最も多い割合を占めている。令和元年度は新型コロナウイルス感染症に対し、内科全体で診療するシステムが構築されるまでの期間、病棟での新型コロナウイルス感染症の診療を呼吸器内科と協働して中心的に行った。

II. 総合診療専門研修・家庭医療後期研修

平成 30 年度から、新専門医制度のうちの総合診療専門研修を開始。家庭医療後期研修と同様に、内科だけでなく救急総合診療部や小児科、さらに院外の診療所などの協力を得ながら行っている。各診療科の後期研修については、各診療科の項に記載されているが、総合診療専門研修および家庭医療後期研修については、最も関係が深い総合内科の項に記載させていただく。

《概要》

■ 組織・スタッフ

総合診療専門研修・家庭医療後期研修のプログラム責任者は、村上慎一郎（内科（総合内科）医長、家庭医療専門医）である。村上の他に、上岡孝人（救急総合診療部・内科（総合内科）医長、プライマリ・ケア認定医）、梶原信之（内科（腎臓内科）主任部長、プライマリ・ケア認定医）が指導医の資格を取得し、指導を行っている。

平成 31 年 4 月から青木 大医師、令和 2 年 4 月から末崎 慎也医師が総合診療専門研修を、影山 美沙紀医師が家庭医療後期研修を開始している。

《実績》

■ 研修・教育活動

毎週水曜日朝に臨床研修医向けの症例検討カンファレンスを行っている。

金曜日早朝には総合内科外来カンファレンスを行っている。

平成 29 年度より認知症初期集中支援チームとして活動を行っている。

《概要》

■ 組織・スタッフ

2010年4月から内科の腎臓グループは「腎臓内科」を院内標榜している。2020年4月に藁田明希が大阪労災病院から異動・赴任した。一方で梶原信之は、2020年4月から週1日、10月から週2日、常勤医師が不在となっている豊能町国民健康保険診療所で、外来診療を行った。林和幸は、2021年3月末に退職した。2021年4月には、新任医師が着任して腎臓内科は新しい体制となる。

梶原 信之（主任部長）：

日本内科学会近畿支部評議員、総合内科専門医、日本腎臓学会指導医、
日本プライマリ・ケア連合学会代議員、プライマリ・ケア認定医、
総合診療専門研修指導医、日本透析医学会専門医、
兵庫医科大学臨床教育教授

林 和幸（部長、人工透析センター長）：

日本内科学会総合内科専門医、日本腎臓学会専門医、
日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア認定医、
日本透析医学会専門医、日本糖尿病学会専門医、日本医師会認定産業医

藁田 明希（医員）

■ 診療・業務概要

健康診断での検尿異常者の精密検査から、慢性腎炎症候群、ネフローゼ症候群、保存期慢性腎不全、急性腎不全、急性腎盂腎炎などの各種腎疾患の診断・治療を行っている。1998年9月に人工透析室（現 人工透析センター）の運用を開始してから、ブラッドアクセスについては形成外科の協力を得て、慢性腎不全患者の血液透析導入や、慢性維持透析患者の入院治療のサポートも行っている。（人工透析センターについては別項目にある。）

2020年度は腎臓内科もCOVID-19流行の影響を大きく受けた。2019年度以前から継続していた「肺炎当番」としての病棟業務に加えて、「COVID-19当番」としてのCOVID-19患者の入院診療やCOVID-19の可能性のある発熱外来患者に対応する「特設外来」にも加わった。当院でのCOVID-19入院患者受け入れに伴って、腎臓内科入院患者が主に入院する3階北病棟が一部閉鎖となったことなどから、腎臓内科への入院も一部制限せざるを得なかった。

《実績》

■ 統計実績

腎生検は2020年1月1日から12月31日までの1年間に、19例に施行した。内訳は、IgA腎症(4)、微小変化型(3)、巣状分節性糸球体硬化症(1)、膜性腎症(5)、顕微鏡的多発血管炎(1)、IgM腎症(1)、糖尿病性腎症(1)、尿細管間質性腎炎(2)、急性尿細管壊死(1)であった。

IgA腎症治療としての扁桃摘出術とステロイドパルス療法との併用が、注目されている。当院でも十分なインフォームド・コンセントの得られた患者さんについては、耳鼻いんこう

科に扁桃摘出術を行っていただくとともに、ステロイドパルス療法を行っている。2019 年度に扁桃摘出術を行った 1 例と 2020 年度に扁桃摘出術を行った 2 例との計 3 例が、ステロイドパルス療法を行う予定だが、COVID-19 流行の影響で延期となっている。

2014 年 3 月 24 日から、常染色体優性多発性のう胞腎の進行抑制目的のトルバプタン治療が健康保険で行えることとなった。当科では 2020 年度までに合計 11 例で治療を開始した。それと関連して、腎機能と両腎サイズとの推移をわかりやすくグラフ化するツール (Microsoft Excel マクロ有効テンプレート) を大塚製薬株式会社と協同で開発した。

毎週月曜日午後 4 時から、腎臓内科回診を行っている。毎回腎臓内科が関わっている入院患者さんのリストを作成し、内分泌・代謝内科専攻医、腎臓内科ローテート中の臨床研修医も参加して、診療方針を決定している。

2011 年度末に池田市医師会および池田市教育委員会から要請があり、池田市立の幼稚園、小学校、中学校での学校園検尿システムについて、その改善への協力を求められた。その結果、2012 年度から大阪府立学校腎検診システムに準じて、学校園検尿の二次検査に尿蛋白/クレアチニン比を導入し、尿蛋白/クレアチニン比が 0.2g/gCr 以上の小児については、当院の小児科と腎臓内科が診療を行うシステムを稼働させた。2013 年度からは、豊能町も同様のシステムで学校園検尿を運用することになった。2016 年度から、尿蛋白/クレアチニン比のカットオフ値を 0.15g/gCr に変更した。このシステムにより 2020 年度は小学生 2 名と中学生 3 名が学校園からの紹介で当院を受診された。2020 年度までの学校園検尿の結果をまとめて、日本小児腎臓病学会学術集会で発表した。

協和キリンによる糖尿病性腎臓病患者さんに対するバルドキシロンメチル (RT402) の国内第 3 相臨床試験に協力することとなり、十分な説明の上で同意していただいた 5 名の患者で試験を継続した。

■ 学術業績 (2020 年 4 月 1 日 - 2021 年 3 月 31 日)

市立豊中病院などと協力して「北摂腎疾患座談会」を開催している。2020 年 11 月 7 日に第 29 回北摂腎疾患座談会を開催した。その他、論文を発表し、各種学会・研究会に発表を含めて参加している。

□原 著

著 者	題 名	雑誌名・巻号
Ozawa S, Matsubayashi M, Nanaura H, Yanagita M, Mori K, Asanuma K, Kajiwara N, Hayashi K, Ohashi H, Kasahara M, Yokoi H, Kataoka H, Mori E, Nakagawa T.	Proteolytic cleavage of Podocin by Matriptase exacerbates podocyte injury.	J Biol Chem 2020; 295: 16002-16012.

□著 書

著 者	題 名	書名・発行年月日
梶原 信之	鉄則:慢性合併症管理① 糖尿病腎症・神経障害など	まるわかり糖尿病塾 医学書院 2020/11/1

□学会発表

発表者	演題名	学会名、会場、日時
影山 美沙紀、梶原 信之、林 和幸、 青木 大、三砂 雅裕、玉井 大介、 中尾 真一郎、村上 慎一郎、 上岡 孝人、伊藤 基敏、尾崎 由和、 中山 尋文、藤原 誠	尿蛋白／クレアチニン比を用いた学校 園検尿による小児慢性腎臓病スクリー ニングの報告	第55回日本小児腎臓病学会学術集会 WEB 開催 2021/1/9
杉町 英香、松野 香菜絵、 藁田 明希、林 和幸、梶原 信之、 三浦 道子	血液透析導入後にヘパリン起因性血小 板減少症を発症したが、後日ヘパリンを 用いた血液透析が可能となった1例	第231回日本内科学会近畿地方会 WEB 開催 2021/3/13

□研究会・講演会発表

発表者	演題名	研究会、会場、日時
梶原 信之	薬剤師の皆様に腎臓内科医からお伝え したいこと	豊中市薬剤師会 WEB 研修会 WEB 開催 2021/1/19

■ 研修・教育活動（2020年4月1日－2021年3月31日）

医師臨床研修のガイドラインでは、腎炎や腎不全症例の経験が必須とされており、臨床研修医のサポートも行っている。また、内科専門研修の一貫として、内科系専攻医のうち1名に腎生検係を当てて、その専攻医に重点的に腎疾患患者を受け持ってもらっている。2020年4月から2021年3月までは鍵崎卓也医師が担当となった。

引き続き、日本腎臓学会の認定教育施設であり、日本透析医学会の教育関連施設である。

《概要》

■ 組織・スタッフ

- 森山康弘（血液内科主任部長、臨床検査科部長）：
日本内科学会所属、日本血液学会所属、日本医師会認定産業医
- 片岡良久（部長）：
日本内科学会所属、日本血液学会所属
- 大塚正恭（副部長）：
日本内科学会認定医、日本血液学会認定専門医

■ 診療・業務概要

血液内科は比較的稀な疾患を診る科と思われがちですが、悪性リンパ腫の有病率は5大がん
に次ぐものであり、定数は24床ですが常にそれを超える入院患者さまの加療を行っております。

当科では特に悪性リンパ腫の診療数が多く、厚労省発表の2019年度DPCデータでは入院255件
と大阪府下で9位となっております。

その他にも近年増加傾向にある多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群もそれぞれ府下で3位、6位
の入院数となっております。

【主な疾患】

悪性リンパ腫

診断後速やかに病気の広がりを見定め（ステージング）、抗がん剤または放射線療法による
標準治療が確立していますので、広がりに応じた治療を行います。再発時には条件が整えば、
自分自身の血液細胞をあらかじめ保存しておき、その間に強力な化学療法を行う「自家末梢
血幹細胞移植」を行うこともあります。

白血病

急性白血病は診断後、抗がん剤による治療を行い、条件が揃えば他の方から血液細胞をも
らって再び正常な造血が行われることを目指す「同種造血幹細胞移植」を高次医療機関で行
います。

慢性骨髄性白血病

病期にもよりますが、ほとんどの場合、飲み薬（チロシンキナーゼ阻害剤）単独での治療
で長期にわたる生存が得られます。

多発性骨髄腫

近年もっとも治療法進歩の著しい疾患です。プロテアゾーム阻害剤、免疫調節薬（サリド
マイドの仲間）のほか、今秋には画期的な抗体薬も上市され、一層の長期生存が期待されま
す。

《実績》

■ 統計実績

2020年度は入院において、リンパ腫316件、急性骨髄性白血病28件、急性リンパ性白血病8
件、慢性骨髄性白血病12件、多発性骨髄腫66件、骨髄異形成症候群80件（いずれも延べ回数）
の治療を行った。入院経路は近隣病院からの紹介が多かったが、大学病院からの紹介も目立

った。

患者プロフィールでは、引き続き高齢化社会を反映して例年通り65歳以上の症例がかなりの割合を占め、いかに化学療法のみで良好な予後を確保するかに腐心した。

また、リンパ腫患者の中に低悪性度ながら難治性である濾胞性リンパ腫が占める割合が多く、標準療法リツキシマブ-ベンダムスチン療法を広く適用し、治療成績の向上に取り組んでいる。

一方、多発性骨髄腫症例は高齢者が多く既存療法では早期に耐性となる症例がほとんどであったが、ボルテゾミブに加えてレナリドミドが初発から使用可能となり、自家移植の適応の有無を問わず生存率の向上に寄与している。当院では大阪大学が主幹となって行われている複数の臨床研究に参加し、高齢者においても積極的に完全寛解を目指すとともに、我が国から発信されるエビデンスを構築する一助を担いたいと考えている。

慢性骨髄性白血病については引き続き、第2世代チロシンキナーゼ阻害剤を中心とした治療を進め、ほとんどが分子生物学的major寛解を達成している。今後はstop試験に参加し、治癒への可能性を模索したい。

入院実績(DPCデータに準拠・延べ人数)

急性骨髄性白血病	28件	(前年度56件)
急性リンパ芽球性白血病	8件	(前年度14件)
悪性リンパ腫 (ホジキンリンパ腫、ATLL含む)	316件	(前年度267件)
多発性骨髄腫	66件	(前年度63件)
慢性骨髄性白血病 (分子標的治療薬導入入院)	12件	(前年度7件)
骨髄異形成症候群	80件	(前年度90件)

《概要》

■ 組織・スタッフ

津川 真美子（主任部長）：

日本内科学会近畿支部評議員、日本内科学会総合内科専門医、日本内科学会指導医、日本糖尿病学会学術評議員、日本糖尿病学会研修指導医・専門医、日本内分泌学会評議員、日本内分泌学会指導医・専門医、日本甲状腺学会専門医、大阪大学臨床教授、日本医師会認定産業医、大阪大学医学博士、難病指定医、緩和ケア研修済

岡田 拓也（部長）：

日本内科学会総合内科専門医、日本糖尿病学会研修指導医・専門医、日本内分泌学会指導医・専門医、大阪大学医学博士、難病指定医、緩和ケア研修済

井上 佳菜（副部長）：

日本内科学会総合内科専門医、日本糖尿病学会研修指導医・専門医、日本内分泌学会指導医・専門医、大阪大学医学博士、難病指定医、

塩出 俊亮（専攻医）：日本内科学会所属、日本糖尿病学会所属、日本内分泌学会所属、緩和ケア研修済

猪坂 知子（専攻医）：日本内科学会所属、日本糖尿病学会所属、日本内分泌学会所属、緩和ケア研修済

鍵崎 卓也（専攻医）：日本内科学会所属、日本糖尿病学会所属、日本内分泌学会所属

日本糖尿病学会認定教育施設・日本内分泌学会認定教育施設・日本甲状腺学会認定専門医施設である。

■ 診療・業務概要

内分泌・代謝内科所属3名の糖尿病専門医・内分泌専門医と3名の専攻医の計6名が外来診療・病棟診療・救急診療に毎日従事しています。

専門外来：平日月曜～金曜の毎日開設（火曜は午前のみ、木曜は午後のみ）しています。専門医チームの医師1～2名ずつが外来診療に従事しています。

外来では糖尿病・内分泌疾患の救急、紹介初診・再診、合併症外来を開設しています。内科外来に生活習慣・糖尿病センターを併設しており、専門外来と並行して患者さまの療養ご指導を行っています。救急から慢性期病態まで全ての病態に迅速に対応しています。随時入院・外来受診が可能です。地域医療機関からのご紹介には特に力を入れており、地域連携室経由の紹介受診につきましては現在予約待ちなし、常時当日から対応可能です。

【主な疾患】

糖尿病病態全て（1型・2型・肝性・膝性・ステロイド糖尿病・妊娠糖尿病・周術期血糖管理・化学療法期間血糖管理等）を扱います。外来にて1,878名/月、入院にて1,160名/年の糖尿病患者さまを管理治療しています。原則入院で対応しておりますが、外来での療養指導・インスリン導入・インスリンポンプ管理・24時間持続血糖モニター解析も行っています。また糖尿病合併

症の有無・評価も随時行っています。

内分泌疾患全てを扱っています。内分泌疾患救急（甲状腺クリーゼ・副腎クリーゼ・下垂体クリーゼ・電解質異常）にも対応しております。その他稀な内分泌疾患の診断・検査も行います。

初回診断時の高血圧症例について内分泌異常の有無等の診断もしております。

《実績》

■ 統計実績

2020年度（2020.4.1～2021.3.31）

外来管理糖尿病患者数：1,878名/月、入院管理糖尿病患者数：1,160名/年

■ 学術業績

□ 著書・総説

著者	題名	雑誌名、巻号
Naoto K, Tomoya M, Hidenori Y, Toshihiko S, Tetsuyuki Y, Yosuke O, Keiichi T, Yutaka U, Hideaki K, Takeshi O, Tsunehiko Y, Nobuichi K, Kazuhisa M, Hiroki Y, Keisuke K, Kentaro O, Isao H, Satoru S, Mamiko T, Kayoko R, Hideki T, Tadashi N, Satoshi K, Yasunori S, Hirotsuka W, and Ichihiro Shimomura on behalf of the UTOPIA	Tofogliflozin does not delay progression of carotid atherosclerosis in patients with type 2 diabetes: a prospective, randomized, open-label, parallel-group comparative study	Cardiovascular Diabetology 2020 19:110

□ 学会発表

発表者	演題名	学会名、会場、日時
鍵崎 卓也、井上 佳菜、松野 香菜絵、満塩 研人、三砂 雅裕、岡田 拓也、津川 真美子	腹部外科手術後に急速進行性の重度低ナトリウム血症を来し、ラケ嚢胞の関与が疑われた一例	第93回日本内分泌学会学術総会 Web開催 2020/7/20-8/31
松野 香菜絵、井上 佳菜、鍵崎 卓也、満塩 研人、三砂 雅裕、岡田 拓也、橋本 重樹、津川 真美子	SIADHと異所性ACTH症候群を合併した小細胞癌の1例	第93回日本内分泌学会学術総会 Web開催 2020/7/20-8/31
鍵崎 卓也、井上 佳菜、松野 香菜絵、満塩 研人、三砂 雅裕、岡田 拓也、津川 真美子	内因性高インスリン性低血糖症に対しコーンスターチ摂取、ジアゾキシド、オクトレオチドの効果を認めた高齢男性の一例	第63回日本糖尿病学会年次学術集会 Web開催 2020/10/5-10/16
猪阪 知子、岡田 拓也、松本 祐幸、鍵崎 卓也、塩出 俊亮、三砂 雅裕、井上 佳菜、津川 真美子	びまん性膵腫大を呈し、低血糖からインスリン分泌の推移を捉えた劇症1型糖尿病の一例	第57回日本糖尿病学会近畿地方会 Web開催 2020/10/17-10/31
塩出 俊亮、岡田 拓也、松本 祐幸、鍵崎 卓也、猪阪 知子、三砂 雅裕、井上 佳菜、津川 真美子	急性発症1型糖尿病が家族内集積した一例	第57回日本糖尿病学会近畿地方会 Web開催 2020/10/17-10/31
三砂 雅裕、岡田 拓也、松本 祐幸、鍵崎 卓也、猪阪 知子、塩出 俊亮、井上 佳菜、津川 真美子	糖尿病増悪を契機に診断に至り、異時性に多臓器病変を呈したIgG4関連疾患の一例	第57回日本糖尿病学会近畿地方会 Web開催 2020/10/17-10/31
鍵崎 卓也、岡田 拓也、松本 祐幸、猪阪 知子、塩出 俊亮、井上 佳菜、津川 真美子	重症糖尿病性ケトアシドーシスを発症し、ketosis-prone diabetesと考えられた一例	第57回日本糖尿病学会近畿地方会 Web開催 2020/10/17-10/31
吉田 侑佳、岡田 拓也、松本 祐幸、鍵崎 卓也、猪阪 知子、塩出 俊亮、三砂 雅裕、井上 佳菜、津川 真美子	著明な高中性脂肪血症を伴う急性膵炎を発症した若年肥満の1例	第57回日本糖尿病学会近畿地方会 Web開催 2020/10/17-10/31

発 表 者	演 題 名	学会名、会場、日時
池田 真澄、西澤 千春、寺尾 藍、 根来 絢子、安部 圭子、河野 恵美、 井上 佳菜、岡田 拓也、津川 真美子	看護療養指導により劇的な血糖コントロール改善に至った2型糖尿病の症例	第 57 回日本糖尿病学会近畿地方会 Web 開催 2020/10/17-10/31

《概要》

■ 組織・スタッフ

橋本 重樹（主任部長）：

総合内科専門医、日本呼吸器学会指導医、
日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医、
日本化学療法学会抗菌化学療法認定医、
インфекションコントロールドクター、日本医師会認定産業医、
肺がん CT 検診認定医、大阪医科大学臨床教育准教授

田幡 江利子（副部長）：

総合内科専門医、日本呼吸器学会専門医、
日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医
肺がん CT 検診認定医

清水 裕平：日本内科学会認定内科医・日本呼吸器学会所属

■ 診療・業務概要

肺炎を代表とする急性呼吸器感染症については、喀痰検査により起病菌を推定し治療初期から適切な抗生物質が選択できるよう努力しています。

気胸や胸水症例については、トロッカーカテーテル挿入による治療を施行、原因不明の胸水症例については局所麻酔下での胸腔鏡検査を実施しています。

呼吸不全については、高流量鼻カニューレ（ネーザルハイフロー）や非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）を積極的に導入し安全で苦痛の少ない呼吸管理に努めています。

近年急速に増加しています肺癌については、胸部 X 線・CT・気管支鏡検査などによる迅速な診断と、切除不能例に対しては放射線治療・化学療法を施行しております。また外来化学療法を積極的に推進し QOL の高い診療を目指しています。

【主な疾患】

診療対象は呼吸器疾患全般。肺炎、肺癌をはじめ、びまん性肺疾患、慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、気胸、胸膜炎など、急性期呼吸器疾患のプライマリーケア全般に対応しています。

患者層の高齢化を反映し、肺炎などの急性呼吸器感染症、原発性肺癌、慢性閉塞性肺疾患が増加傾向にあります。原発性肺癌は症例数が増加し在院期間は短縮されており、負担が少なく QOL の高い診療ができていると考えています。

初診外来：月曜午前、水曜午前、木曜午前

気管支鏡検査：火曜午前、金曜午前

《実績》

■ 統計実績

2020年度呼吸器内科診療実績

入院患者 933例（延べ）の疾患別内訳

原発性肺癌	411例
肺癌以外の悪性腫瘍	7例
急性呼吸器感染症	285例
その他の感染症	17例
びまん性肺疾患	77例
慢性閉塞性肺疾患	31例
気管支喘息	20例
自然気胸	33例
胸膜疾患	25例
その他	27例

呼吸器内視鏡検査	
経気管支腫瘍生検	97例
X線透視法	23例
EBUS-GS法	74例
超音波気管支鏡下経気管支リンパ節穿刺生検	12例
気管支肺胞洗浄+経気管支肺生検	14例
その他	12例
局所麻酔下胸腔鏡検査	8例
合計	143例

■ 研修・教育活動

肺炎を代表とする急性呼吸器感染症に対する研修は、感染症の基礎を学ぶのにも適しており、喀痰グラム染色で起原菌を推定し、治療初期から適切な抗生物質が選択できるよう教育した。

気胸や胸水症例については、安全で適切なトロッカーカテーテル挿入法の習得と管理を指導。

呼吸不全に関しては、挿管下人工呼吸管理や非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）の導入・管理・離脱方法の指導と、近年急速に広まっている高流量鼻カニューラ療法の教育に努めた。

肺癌については近年バイオマーカーによる個別化治療の進歩が著しく、その為の病理組織検体の採取が不可欠となっている。当院でも最新の気管支鏡システムを導入し、超音波ガイドシース法や超音波気管支鏡下経気管支リンパ節穿刺法により、正確で安全な検体採取できるようになった。

近年増加の著しい肺がんの薬物治療では有効な治療薬を選択するためにがんの遺伝子変化を調べる、いわゆる「がんゲノム医療」が導入されている。当院は、肺がんゲノムスクリーニングプロジェクトである「LC-SCRUM-Asia」に参加している。

消化器内科

《概要》

■ 組織・スタッフ

今井 康陽 総長（肝胆）	日本肝臓学会専門医・指導医・評議員 日本消化器病学会専門医・指導医・財団評議員 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医・評議員 日本内科学会認定内科医・近畿支部評議員 日本超音波医学会指導医・代議員 日本門脈圧亢進症学会評議員 大阪府医師会感染症予防接種問題検討委員会委員 日本臨床腫瘍学会暫定指導医 大阪大学臨床教授 緩和ケア研修終了済
福田 和人 副院長（肝胆）	日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本肝臓学会専門医・指導医・西部会評議員 日本消化器病学会専門医・指導医・評議員 日本超音波医学会専門医 がん治療認定医 日本臨床腫瘍学会暫定指導医 日本医師会認定産業医 緩和ケア研修終了済 大阪大学臨床教授 兵庫医大臨床教授
井倉 技 主任部長（肝胆）	日本消化器病学会専門医・評議員 日本肝臓学会専門医・西部会評議員 日本内科学会認定内科医 日本補完代替医療学会幹事・学識医 日本統合医療学会評議員 日本医師会認定産業医 THP指導者 緩和ケア研修終了済
中原 征則 主任部長（胃腸脾）	日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会専門医・指導医・近畿支部評議員 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医・近畿支部評議員 日本消化管学会・胃腸科専門医・指導医 日本脾臓学会認定指導医 がん治療認定医 緩和ケア研修終了済 兵庫医大臨床准教授
澤井 良之 部長（肝胆）	日本内科学会認定内科医 日本肝臓学会専門医・西部会評議員 日本消化器内視鏡学会専門医 緩和ケア研修終了済
小来田 幸世 副部長（肝胆）	日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会専門医 日本肝臓学会専門医・指導医 がん治療認定医 緩和ケア研修終了済

山口 典高 医長（胃腸科）	日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会専門医・近畿支部評議員 日本消化器内視鏡学会専門医 ヘリコバクター・ピロリ感染症認定医 緩和ケア研修終了済
氣賀澤 斉史 医長（胆膵）	日本内科学会総合内科専門医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本肝臓学会専門医 日本膵臓学会指導医 がん治療認定医 緩和ケア研修終了済
島越 洋美（主任医 員）	日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会専門医 緩和ケア研修終了済
鬘 瑛（医員）	日本内科学会認定内科医 緩和ケア研修終了済
青地 一樹（専攻医）	緩和ケア研修終了済
目連 愛美（専攻医）	緩和ケア研修終了済
浜辺 友也（専攻医）	緩和ケア研修終了済
岩元 晃子（専攻医）	緩和ケア研修終了済

■ 診療・業務概要

- C型肝炎・B型肝炎に対する抗ウイルス療法（経口剤、インターフェロン）。
- 肝細胞癌に対するラジオ波焼灼療法を中心とした局所治療、肝動脈塞栓術、動注化学療法、分子標的薬治療、放射線治療。
- 自己免疫性疾患（原発性胆汁性肝硬変症・自己免疫性肝炎）の治療。
- 非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）を中心としたNAFLDの診断と治療。
- 非代償性肝硬変の治療。
- 肝疾患を中心とした消化器疾患に対する腹部超音波検査、造影、エラストグラフィ。
- 上部・下部内視鏡、ERCP、超音波内視鏡・EUS-FNA、カプセル内視鏡などの各種内視鏡検査。
- 胃癌・食道癌に対するESD、大腸癌EMR・ポリペクトミー・ESD、胆道系疾患に対するEST・EML、ENBD・ERBD、食道・胃静脈瘤に対するEVL・EIS・APC、PEG造設、胆管・消化管ステント留置などの内視鏡治療。
- 消化性潰瘍、食道・胃静脈瘤などからの出血や閉塞性黄疸の減黄などに対する緊急内視鏡治療。
- 緩和医療ケアチームと協力体制の下に行う進行消化器癌に対する化学療法、放射線化学療法。
- 炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）に対する治療。

上記を中心とした診療・業務を行っている。

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
早朝				抄読会	
午前	肝生検 GF/CF US	GF/CF カプセル内視鏡 US	GF/CF/EMR EUS US	EIS/EVL PEG/CF/EMR EUS/US	GF/CF/EMR US
午後	GF/CF/ESD US	ERCP CF/ESD 造影 US	CF/EMR/ESD 造影 US 緩和ケア回診	RFA/肝生検 CF ERCP	GF/CF 造影 US EMR
夕方	症例回診		画像カンファ		内視鏡病理 検討会 ESD 症例 検討会

《実績》

■ 統計実績

入院症例件数

	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度
肝細胞癌	229	229	225	217
肝硬変	34	80	47	42
慢性肝炎	10	11	20	43
食道癌	16	29	32	19
食道・胃静脈瘤	26	51	17	39
胃潰瘍・出血性胃潰瘍	18	30	37	37
胃癌	83	75	84	83
大腸ポリープ	212	283	330	304
大腸癌	75	72	85	66
クローン病	8	4	3	9
潰瘍性大腸炎	15	12	16	12
胆嚢炎	16	14	18	19
総胆管結石・胆管炎	135	138	126	135
胆管癌	29	24	21	29
膵炎	26	38	21	29
膵癌	87	100	68	57

検査件数

	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度
腹部超音波	8,865	9,366	9,611	9,654
造影超音波	172	208	214	199
エラストグラフィ	179	245	353	500
肝生検	8	16	29	36
上部内視鏡総件数（検査・治療含む）	3,555	4,322	4,031	4,165
下部内視鏡総件数（検査・治療含む）	2,123	2,478	2,251	2,330
超音波内視鏡	155	178	155	74
カプセル内視鏡	9	12	7	8
ERCP	17	88	59	24

治療件数

		2020年度	2019年度	2018年度	2017年度
肝臓	RFA/PEIT	31	41	33	34
	TACE/TAI	114	115	125	130
上部消化管	止血	78	75	72	86
	EIS	11	20	29	24
	EVL	23	17	13	14
	EMR・ポリペクトミー	13	15	16	8
	ESD	52	57	75	53
	APC	12	23	20	27
	食道拡張術	24	10	27	5
	PEG増設・交換	53	61	60	58
下部消化管	EMR・ポリペクトミー	961	1098	879	662
	ESD	44	39	52	42
	止血	22	20	14	14
	APC	2	3	4	2
胆膵	EST	20	37	44	32
	EML	56	9	14	28
	ERBD	112	92	71	73
	ENBD	1	5	6	1

■ 学術業績

□原 著

著 者	題 名	雑誌名、巻号
山口 典高、中原 征則、島越 洋美 氣賀澤 斉史、松本 康史、澤井 良之、 今井 康陽、大橋 寛嗣	リンパ管侵襲陽性であった粘液癌を含む胃 粘膜内癌の1例	日本消化器内視鏡学会雑誌 Gastroenterological Endoscopy 62巻11号 Page2940-2945
Daiku Kazuma, Fukuda kazuto, Morimoto Osakuni, Takiuti Daisuke, Shimakoshi Hiromi, Kwgasawa Tadashi, Yamaguchi Yoshitaka, Kogita Sachiyo, Sawai Yoshiyuki, Nakahara Masanori, Igura Takumi, Shibata Kunitaka, Imai Yasuharu	Primary adenosquamous carcinoma of the liver detected during cancer surveillance in a patient with primary sclerosing cholangitis	Clinical Journal of Gastroenterology(1865-7257) 13巻6号 Page1273-1279
Shunsuke Yoshii, Takuya Yamada, Shinjiro Yamaguchi, Yoshito Hayashi, Masanori Nakahara, Narihiro Shibukawa, Masashi Yamamoto, Ryu Ishihara, Kazuo Kinoshita, Satoshi Egawa, Yoshiki Tsujii, Hideki Iijima, Tetsuo Takehara	Efficacy of vonoprazan for the prevention of bleeding after gastric endoscopic submucosal dissection with continuous use of antiplatelet agents	Endosc int Open 2020 Apr;8(4):E481-E487
Minoru Kato, Yoshito Hayashi, Tsutomu Nishida, Masahide Oshita, Fumihiko Nakanishi, Shinjiro Yamaguchi, Shinji Kitamura, Akihiro Nishihara Tomofumi Akasaka, Hideharu Ogiyama, Masanori Nakahara, Takuya Yamada, Osamu Kishida, Masashi Yamamoto, Akinori Shimayashi, Yoshiki Tsujii, Motohiko Kato, Shinichiro Shinzaki, Hideki Iijima, Tetsuo Takehara	helicobacter pylori eradication prevents secondary gastric cancer in patients with mild-to-moderate atrophic gastritis	J Gastroenterol Hepatol 2021 Jan 5. Online ahead of print.

□著書・総説

著 者	題 名	雑誌名、巻号
福田 和人	C型肝炎を放っておくと・・・	【肝炎 どう診る？どう治す？】 (2章) 肝炎の診かた おさえておきたいポイント C型肝炎の病態と治療 jmed mook66号 Page77-80

□学会発表

発 表 者	演 題 名	学会名、会場、日時
青地 一樹、井倉 技、目連 愛美、 島越 洋美、氣賀澤 斉史、 山口 典高、小来田 幸世、 松本 康史、澤井 良之、中原 征則、 福田 和人、今井 康陽	Clinical Trainee Session 肝硬変に合併した門脈血栓症に対する乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢの治療成績	第56回日本肝臓学会 大阪 2020/5/21
土居 哲、疋田 隼人、田畑 優貴、 中堀 輔、山田 涼子、小玉 尚宏、 阪森 亮太郎、巽 智秀、萩原 秀紀、 今井 康陽、乾 由明、三田 英治、 竹原 徹郎	セッション10 HCV 1 DAA治療により非著効となったC型慢性肝疾患患者における薬剤耐性変異と再治療の可能性	第56回日本肝臓学会 大阪 2020/5/21
大工 和馬、福田 和人、杉尾 諒、 相馬 一超、岡本 明之、島越 洋美、 氣賀澤 斉史、山口 典高、 松本 康史、小来田 幸世、 澤井 良之、井倉 技、今井 康陽	セッション19 NASH臨床 2 糖尿病患者における肝発癌と死因についての検討	第56回日本肝臓学会 大阪 2020/5/21
福田 和人、澤井 良之、 小来田 幸世、大工 和馬、 青地 一樹、目連 愛美、相馬 一超、 杉尾 諒、島越 洋美、氣賀澤 斉史、 中原 征則、井倉 技、今井 康陽	ポスターセッション3 NASH 1 糖尿病内科と連携した肝疾患診療	第56回日本肝臓学会 大阪 2020/5/21
杉尾 諒、澤井 良之、今井 康陽、	ワークショップ9 「画像診断の新展開」 C型肝炎に対するDAA療法前後における肝硬度および脾硬度の推移について一血清バイオマーカーとの比較検討	第56回日本肝臓学会 大阪 2020/5/22
山田 涼子、阪森 亮太郎、土居 哲、 卜部 彩子、田畑 優貴、平松 直樹、 尾下 正秀、三田 英治、脇岡 泰三、 今井 康陽、小玉 尚宏、疋田 隼人、 巽 智秀、竹原 徹郎	セッション44 HBV 6 核酸アナログ投与症例における新規発癌の検討ー多施設共同研究ー	第56回日本肝臓学会 大阪 2020/5/22
中原 征則、山口 典高、 氣賀澤 斉史、太田 博文、 今井 康陽	当院における閉塞性大腸癌に対する術前大腸金属ステント留置術の検討	第104回日本消化器内視鏡学会 近畿支部例会 京都テルサ 2020/6/27-7/10
山口 高典、中原 征則、島越 洋美、 氣賀澤 斉史、今井 康陽	上部消化管のESD治療における現状と課題 食道 ESD において高周波はさみ鉗子 ClutchCutter は 2nd デバイスとして有用である	第104回日本消化器内視鏡学会 近畿支部例会 京都テルサ 2020/6/27-7/10
中原 征則、松本 康史、山口 典高、 氣賀澤 斉史、島越 洋美、 小来田 幸世、澤井 良之、井倉 技、 福田 和人、今井 康陽	新規 MMX-pH 依存型メサラジン製剤の有用性	第106回日本消化器病学会総会 誌上発表 日本消化器病学会雑誌 117 巻 Page A285

発 表 者	演 題 名	学会名、会場、日時
大工 和馬、中原 征則、松本 康史 山口 典高、氣賀澤 斉史、島越 洋美 小来田 幸世、澤井 良之、井倉 技 福田和人、今井康陽	Linked Color Imaging でより明瞭となった早期胃癌の3症例	第99回日本消化器内視鏡学会総会 京都国際会館 WEB ハイブリッド開催 2020/9/2-3
座長 中原 征則	一般演題 ポスター36 上部:食道 症例報告2	第99回日本消化器内視鏡学会総会 京都国際会館 WEB ハイブリッド開催 2020/9/2-3
山口 典高、中原 征則、今井 康陽 島越 洋美、氣賀澤 斉史、松本 康史 澤井 良之	85歳以上の高齢者に対する食道・胃 ESD におけるプロポフォル@を使用した鎮静法の安全性	第99回日本消化器内視鏡学会総会 京都国際会館 WEB ハイブリッド開催 2020/9/2-3
相馬 一超、中原 征則、島越 洋美 松本 康史、山口 典高、氣賀澤 斉史 辻井 悠里、大工 一馬、岡本 明之 杉尾 諒、小来田 幸世、澤井 良之 井倉 技、福田和人、今井 康陽	小腸カプセル内視鏡の胃内滞留による検査不成功例に対して、内視鏡補助下十二指腸内挿入により小腸観察が可能となった1例	第99回日本消化器内視鏡学会総会 京都国際会館 WEB ハイブリッド開催 2020/9/2-3
岩元 晃子、島越 洋美、中原 征則、 山口 典高、氣賀澤 斉史、鬘 瑛、 辻井 悠里、青地 一樹、目連 愛美、 浜辺 友也、小来田 幸世、 澤井 良之、井倉 技、福田 和人、 今井 康陽	糞便性イレウスによりS状結腸穿孔を来した1例	第113回日本消化器病学会近畿支部 例会 大阪国際会議場 2020/10/3
杉尾 諒、澤井 良之、福田 和人、 井倉 技、小来田 幸世、岩元 晃子、 浜辺 友也、相馬 一超、青地 一樹、 目連 愛美、鬘 瑛、島越 洋美、 氣賀澤 斉史、山口 典高、 中原 征則、今井 康陽	C型肝炎DAA治療前後における肝硬度、脾硬度、各種バイオマーカーの推移についての検討	第113回日本消化器病学会近畿支部 例会 大阪国際会議場 2020/10/3
中原 征則、山口 典高、 氣賀澤 斉史、松本 康史、 島越 洋美、小来田 幸世、 澤井 良之、井倉 技、池嶋 遼、 宗方 幸二、太田 博文、福田 和人、 今井 康陽	閉塞性大腸癌に対する術前大腸金属ステント留置術の安全性と有用性	第62回日本消化器病学会 神戸コンベンションセンター WEB ハイブリッド開催 2020/11/5-8
大川 芹、中原 征則、山口 典高 氣賀澤 斉史、島越 洋美、鬘 瑛 青地 一樹、目連 愛美、浜辺 友也 岩元 晃子、小来田 幸世、澤井 良之 井倉 技、福田 和人、今井 康陽	新規 MMX-pH 依存型メサラジン製剤への変更にて臨床的寛解が得られた潰瘍性大腸炎の3例	第114回日本消化器病学会近畿支部 例会 WEB 開催 2021/2/27
東野 克温、福田 和人、瀧内 大輔、 澤井 良之、小来田 幸世、 目連 愛美、青地 一樹、浜辺 友也、 岩元 晃子、鬘 瑛、島越 洋美、 山口 典高、氣賀澤 斉史、 中原 征則、井倉 技、柴田 邦隆、 今井 康陽	肝細胞癌が完全自然退縮を来したと考えられる1例	第114回日本消化器病学会近畿支部 例会 WEB 開催 2021/2/27
氣賀澤 斉史、井倉 技、今井 康陽	胆道癌の早期診断と治療における現状と展望 当院における胆嚢腺筋腫症からの胆嚢癌発症 についての検討	第114回日本消化器病学会近畿支部 例会 WEB 開催 2021/2/27

発 表 者	演 題 名	学会名、会場、日時
山口 高典、中原 征則、島越 洋美、 氣賀澤 齊史、松本 康史、 小来田 幸世、澤井 良之、井倉 技、 福田 和人、今井 康陽	食道 ESD における 2nd デバイスとしての高周 波はさみ鉗子 ClutchCutter の有用性の検討	第 106 回日本消化器病学会総会 誌上発表 日本消化器病学会雑誌 117 巻 Page A266

□受 賞

受 賞 者	演 題 名	学会名、会場、日時
東野 克温	肝細胞癌が完全自然退縮を来したと考えられる 1 例	第 114 回日本消化器病学会近畿支 部例会 WEB 開催 2021/2/27

■ 研修・教育活動 (R2.4~R3.3)

福田和人副院長（大阪大学臨床教授、兵庫医科大学臨床実習教授）、中原征則消化器内科主任部長（兵庫医科大学臨床実習教授）の下、兵庫医科大学医学生の学外研修（クリニカルクラークシップ）に精力的に協力した。

本年度は COVID19 感染拡大の影響で大阪大学からの実習受け入れができなかった。

指導者	指導内容	受入れ日／人数
福田・中原	兵庫医科大 5 年	R3. 3. 8 ~ R3. 3. 19 2 名
福田・中原	兵庫医科大 5 年	R3. 3. 22 ~ R. 3. 3. 26 2 名

《概要》

■ 組織・スタッフ

- 永井 邦彦：循環器全般
(循環器学会専門医、内科学会総合内科専門医、兵庫医科大学臨床教育教授)
- 北川 元昭：循環器全般 スtent治療
(循環器学会専門医、内科学会認定内科医)
- 二宮 智紀：循環器全般 不整脈：カテーテルアブレーションとペースメーカー治療
(不整脈学会、循環器学会、内科学会)
- 柴本 将人：循環器全般 カテーテル治療とペースメーカー治療
(循環器学会専門医、内科学会総合内科専門医、内科学会認定内科医)
- 古川 哲生：循環器全般 カテーテル治療とペースメーカー治療
(循環器学会専門医、超音波学会専門医、内科学会総合内科専門医)
- 井手本 明子：循環器全般 カテーテル治療と超音波検査
(循環器学会専門医、超音波学会専門医、内科学会認定内科医)
- 田中 啓介：循環器全般 カテーテル治療とペースメーカー治療
(循環器学会、心不全学会、内科学会)

■ 診療・業務概要

循環器内科は、心不全、心筋梗塞、不整脈、弁膜症、大動脈/末梢動脈疾患、静脈血栓塞栓症(肺塞栓)など急性期疾患全般に対応しています。

令和2年度は、新型コロナウイルスの影響で外来患者さんおよび予約入院患者さんは相当数減少しましたが、4月から田中先生が加わり、結果的に、外来エコー検査とカテーテル治療実績は前年度を上回り、救急対応能力も維持できました。冠動脈や末梢動脈のカテーテル治療と同時に、心房細動始め各種不整脈に対するカテーテルアブレーションもルーティンに施行されています。

血行動態不安定な症例には、IABP(大動脈バルーンポンプ)とV-A ECMO(経皮的心肺補助装置)を用い救命に努め、また重症呼吸不全には、呼吸器内科と協同でV-V ECMOも導入しています。

冠動脈バイパス術・弁形成術/人工弁置換術・大動脈ステントグラフトなどの手術適応患者さんについては、大阪大学心臓血管外科や国立循環器病研究センターと緊密な連携をとっています。

【主な疾患】

虚血性心疾患(狭心症・心筋梗塞)

冠動脈ステント治療(PCI)は77件で、急性冠症候群(急性心筋梗塞、不安定狭心症)に対する緊急PCIは15件行いました。待機的PCIは、最適な内科的治療(Optimal Medical Treatment)を行ったうえで、負荷心筋シンチやFFR測定で虚血が確認された症例に行うように努めています。

不整脈治療

カテーテルアブレーションは、心房細動37件ほか計42件、徐脈性不整脈に対するペースメーカー植え込み術は36件行いました。最近のトピックスとして、失神(意識消失発作)の原因精査目的に皮下植え込み型心電図モニター(ICM)を3例に行いました。2例は発作性完全房室ブロックが記録されペースメーカー植え込み、1例は頻脈性不整脈に対してカテーテルアブレーションを行い、根治的治療に有用でした。

閉塞性下肢動脈硬化症 (ASO)

腸骨動脈・大腿動脈領域の血管内治療 (PTA) は 23 例 (2 例は救肢のため緊急 PTA) に行いました。末梢動脈領域でも、冠動脈治療と同様に血管内超音波を用いて、最適なバルーン拡張やステント留置を行っています。

弁膜症

高齢化と共に大動脈弁狭窄症と僧帽弁閉鎖不全症が増加しています。両疾患ともに、低侵襲カテーテル治療が積極的に行われており、当院でも最新の心エコーで弁膜病変の精確な診断を行ない、手術適応を評価しています。心エコーは、経食道心エコー・ドブタミン負荷エコー (7 例) も含めて 4,000 件以上を維持しています。

《実績》

■ 統計実績

	令和 1 年度	令和 2 年度
心臓エコー	4,309	4,289
経食道心エコー	35	42
頸動脈エコー	1,247	1,137
下肢血管エコー	1,460	1,625
心血管エコー合計	7,016	7,051
カテーテル件数	346 (緊急 45 例)	354 (緊急 35 例)
カテーテル治療件数	179 (緊急 26 例)	202 (緊急 32 例)
冠動脈ステント治療	72 (緊急 13 例)	77 (緊急 15 例)
下肢動脈血管内治療	25	23
ペースメーカー治療	28	36
アブレーション治療	35 (心房細動 25)	42 (心房細動 37)
皮下植込型心臓モニター	3	3
IABP/ECMO	6 (IABP 3、ECMO 3)	4 (IABP 2、ECMO 2)
その他治療 (IVC フィルターなど)	12	18
入院患者数	608	536

■ 学術業績

□ 学会発表

発表者	演題名	学会名、会場、日時
安里 美夕里、古川 哲生、田中 啓介、井手本 明子、柴本 将人、二宮 智紀、北川 元昭、永井 邦彦	胸水貯留の原因精査に難渋した乳がん化学療法中の1例	第 231 回日本内科学会近畿地方会 京都 2021/3/13
板持 英晃、古川 哲生、田中 啓介、井手本 明子、柴本 将人、二宮 智紀、北川 元昭、永井 邦彦	厳格な脂質コントロールを行っていたにもかかわらず aVR の ST 上昇をともなう急性心筋梗塞が再燃した1例	第 231 回日本内科学会近畿地方会 京都 2021/3/13
吉川 長伸、古川 哲生、田中 啓介、井手本 明子、柴本 将人、二宮 智紀、北川 元昭、永井 邦彦	ピロリン酸シンチにて ATTRwt 心アミロイドーシスと診断した超高齢男性の1例	第 231 回日本内科学会近畿地方会 京都 2021/3/13

■研修・教育実績

平成 21 年度に日本循環器学会認定循環器専門医研修施設に認定されたのを受けて、初期研修医が 6 週交代で循環器内科研修を循環器専門医とともに行っていきます。

教育方針としては、1) メディカル・インタビューと身体診察を重視し、各種画像から得られた診断を、常に病歴・身体所見・簡単な検査(心電図など)に還元し、2) 集中治療室のラウンドを通じて、全身管理を学んでもらえるように努めています。

神 経 内 科

《概 要》

■ 組織・スタッフ

那波 一郎（部長）：日本内科学会総合内科指導医・専門医、
日本神経学会指導医・専門医、日本認知症学会指導医・専門医、
日本臨床神経生理学会指導医・専門医
上原 拓也（医員）：日本内科学会認定医、日本神経学会専門医

■ 診療・業務概要

神経疾患は慢性に経過する変性疾患のようなものから、髄膜炎、ギランバレー、脳卒中などの救急対応が必要なものまで幅広い対応が必要となります。当科では外来診療、検査、診断、治療目的の入院から、急性期対応が必要な疾患まで対象としています。検査としては、血液検査、脳脊髄検査、画像検査（CT、MRI、MRA、SPECT、DATscan、心筋シンチなど）、頸動脈エコー、神経生物学的検査（脳波、神経伝導検査、針筋電図、誘発電位）、末梢神経生検、筋生検などを行います。診断確定のため、国内外の研究機関に検査を依頼するなども行っています。脳梗塞には急性期治療（t-PA、血管内治療は除く）を入院の下で、リハビリテーションとともに行います。パーキンソン病や脊髄小脳変性症などの神経変性疾患では、投薬加療と生活指導、場合によってはリハビリテーションを行います。

【主な疾患】

- ・脳脊髄：脳血管障害（脳梗塞、一過性脳虚血発作など）
- ・神経変性疾患（パーキンソン病、パーキンソン症候群、脊椎小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症など）
- ・認知症（アルツハイマー病、前頭側頭型認知症、レヴィー小体型認知症など）
- ・末梢神経疾患（ギランバレー症候群、遺伝性末梢神経障害など）
- ・髄膜炎（感染性、自己免疫性など）
- ・自己免疫疾患（多発性硬化症、視神経脊髄炎、重症筋無力症など）
- ・筋疾患（筋炎、ミオパチーなど）

《実績》

■ 統計実績

2020年4月～2021年3月の実績

●外来患者数 3,216人（1日当たり13.2人）

紹介率 95.4%、逆紹介率 89.8%

●退院患者総数 164人

平均在院日数 16.8日（平均在科日数 14.9日）

紹介入院率 32.3%、逆紹介率 55.5%、救急車搬送率 39.6%

内訳

主病名	退院患者数	平均在院日数
脳梗塞	44	15.9
ニューロパチー	11	30.6
一過性脳虚血発作	3	6.0
その他の脳血管障害	1	6.0
パーキンソニズム	17	19.6
脊髄症	1	29.0
てんかん・てんかん重積	4	5.5
前庭機能障害	18	3.0

主病名	退院患者数	平均在院日数
運動ニューロン疾患	10	27.7
中枢性脱髄性疾患	1	50.0
髄膜炎、脳炎、脳症	10	14.2
認知症性疾患	3	19.7
自律神経障害	1	21.0
脊髄小脳変性症	1	6.0
その他	39	17.5

《概要》

■組織・スタッフ

尾崎 由和（主任部長）：日本小児科学会指導医・専門医、大阪大学医学部臨床教授、大阪大学医学博士、日本内分泌学会、日本小児内分泌学会、日本小児栄養消化器肝臓学会、日本周産期・新生児医学会、日本小児感染症学会、日本小児アレルギー学会、日本肝臓会、日本エイズ学会

新谷 研（副部長）：日本小児科学会専門医、日本小児神経学会専門医、大阪大学医学博士

上野 圭司（副部長）：日本小児科学会、日本アレルギー学会、日本小児アレルギー会

辻 真之介（医長）：日本小児科学会専門医、日本小児栄養消化器肝臓学会、日本消化管内視鏡学会

非常勤医師は、藤原医師（腎臓）、中山医師（腎臓）、橘医師（発達）、篠原医師（心臓）が専門外来の診療をおこなっている。

小児の心身医療の分野は、臨床心理室の臨床心理士（小林、羽下、小野）と協力して発達評価及び心理カウンセリングをおこなっている。

■診療・業務内容

現在4人の医師スタッフで診療をおこなっており、感染症、川崎病などの急性疾患だけでなく、幅広い疾患に対応している。その中でも、喘息や食物アレルギーなどのアレルギー疾患、慢性神経疾患、低身長などの内分泌疾患は患者数も多く、ニーズに応えるように努力している。

外来では午前是一般外来と専門外来、午後は専門外来をおこない、入院加療が必要な患者は4階東病棟へ入院としている。また平日は19時まで救急患者と紹介患者を受け入れており、金曜日と隔週日曜日は、豊能広域こども急病センターの後送病院となっている。

4階東病棟には1997年から院内学級（池田小学校）が設置されている。該当児童にはベッドサイド指導や、院内学級への登校を指示し、入院中も病状に合わせた教育ができるように努めている。

新生児に関しては3階北病棟において、異常分娩の立ち会いや生後1日と退院前の小児科診察、新生児疾患を持つ患児の入院診療をおこなっている。また産科との連携強化の目的で産科との合同カンファレンスをおこなっている。

【主な疾患】

2020年度の入院患者数は297名であり、うち76名が他院からの紹介であった。うちわけは新生児疾患が184名、川崎病を含めた免疫アレルギー疾患が56名であった。本年度は新型コロナウイルスの影響で感染症が36名（昨年比242名減）と著明に減少した。本院の特徴として、食物アレルギーに対する負荷試験を積極的におこなっていることがあげられる。

専門外来は以下のように担当している。

- ・喘息／食物アレルギー（担当・上野副部長）
- ・神経疾患／発達障害（担当・新谷副部長）
- ・消化器（担当・辻医長）
- ・成長障害／内分泌疾患（担当・尾崎主任部長）

《実績》

■ 統計実績

外来患者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
342	291	396	477	576	412	486	398	460	412	371	573	5,194

男女別入院患者数

女	151
男	146
計	297

入院日数

中央値	6日
平均値	6.0日
最頻値	6日

月別入院患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
3北	16	12	17	16	18	17	16	12	20	10	16	14	184
4東など	11	6	7	10	8	16	12	7	10	8	4	14	113
計	27	18	24	26	26	33	28	19	30	18	20	28	297

年齢別入院患者数

新生児	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	8歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳以上
161	40	20	15	8	16	8	7	1	3	2	3	3	4	2	4

紹介状元別入院患者数

まきこどもクリニック	17
あしの小児科	14
豊能広域こども急病センター	5
たなべ小児科	5
市立豊中病院	3
たむらこどもクリニック	3
北村耳鼻咽喉科	3
その他	26
計	76

住所別入院患者数

大阪府	豊能医療圏	池田市	193
		豊中市	8
		豊能町	4
		能勢町	4
		箕面市	1
		吹田市	0
	大阪市	5	
	その他 大阪府	3	
兵庫県	川西市	51	
	猪名川町	4	
	その他 兵庫県	5	
他道府県		19	
計		297	

主病名別入院患者数

新生児疾患

帝切児症候群	41
新生児呼吸障害	26
早産児・低出生体重児	23
前期破水による新生児の障害	21
母体合併症	12
新生児黄疸	12
新生児低血糖	12
過体重児	8
新生児仮死	5
その他	24
計	184

免疫アレルギー疾患

食物アレルギー	33
川崎病	12
気管支喘息	8
アナフィラキシー	3

感染症

感染性腸炎	10
急性上気道炎・扁桃炎	9
尿路感染症	6
COVID-19 およびその疑い	4
頸部リンパ節炎	3
急性中耳炎	2
急性気管支炎	2
計	36

神経精神疾患

うつ病	1
摂食障害	1
不眠症	1
脳腫瘍の疑い	1
頭囲拡大	1
熱性痙攣	1
計	6

内分泌代謝疾患

ケトン性低血糖症・嘔吐症	4
低身長症	2
甲状腺機能亢進症	1
代謝性アシドーシス	1
計	8

消化器疾患

炎症性腸疾患の疑い	1
マロリー・ワイス症候群	1
便秘症	1
計	3

その他

ネフローゼ症候群	2
IgA 血管炎	1
特発性血小板減少性紫斑病	1
計	4

■組織・スタッフ

□研究会・講演会発表

発表者	演題名	学会名、会場、日時
鳥邊 泰久、荒井 洋、宇野 里砂、 柏木 充、九鬼 一郎、島川 修一、 田川 哲三、竹本 潔、田邊 卓也、 永井 利三郎、新居 敏、 最上 友紀子、西垣 敏紀、 尾崎 由和、村上 城子、田尻 仁、 松下 享	てんかんがある方の自転車の 利用に関するアンケート調査	第 123 回日本小児科学会学術集会 Web 開催 2020/8/21-23
尾崎 由和	座長	第 29 回大阪小児科医会救急・新生児研修会 Web 開催 2020/9/12
尾崎 由和	座長	第 30 回大阪小児科医会救急・新生児研修会 Web 開催 2021/2/20

■ 研修・教育実績

教育：尾崎主任部長が大阪大学医学部臨床教授になっており、大阪大学医学部学生 5 年生 6 名の臨床実習を受け入れた。

研修：初期研修医は 2 名が 4～6 週間のローテーションをおこなった。

なお当科は、日本小児科学会専門医研修施設の認定を受けている。

《概要》

■ 組織・スタッフ

北田 昌之（乳腺・内分泌外科、病院顧問）：

日本外科学会指導医・専門医、日本乳癌学会指導医・専門医、MMG 読影認定医、
日本消化器外科学会認定医、日本消化器病学会専門医、緩和ケア研修修了済

安座間 隆（乳腺・内分泌外科、部長）：

日本外科学会専門医、日本乳癌学会専門医、MMG 読影認定医、
日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本静脈経腸栄養学会認定医、
緩和ケア研修修了済

阿部 瑞穂（乳腺・内分泌外科、主任医員）：

日本外科学会専門医、日本乳癌学会専門医、MMG 読影認定医、緩和ケア研修修了済

■ 診療・業務概要

乳腺疾患を中心に、甲状腺や上皮小体の腫瘍にも対応しています。

迅速な診断治療を目指しており、乳腺の場合は受診当日に、マンモグラフィ・超音波検査・穿刺吸引細胞診、場合によっては針生検（CNB）まで行います。症例により吸引式乳房組織生検（VAB）やステレオマンモトーム生検を追加し、乳癌を診断します。手術は温存術か全摘ですが、乳房MRIを参考に患者さまと相談の上、術式を選択しています。温存の場合は整容性にこだわり、より綺麗な仕上がりを目指しています。センチネルリンパ節生検は色素法とICGを併用して行っています。

当院は乳房再建にも積極的に取り組んでおり、人工物の施設認定のもと形成外科と協力し、インプラントや自家組織による再建を行っています。その場合は皮下乳腺全摘術などの術式も用いています。術後や再発後の薬物療法、放射線治療法は原則外来で行い、適応に則って行っています。

2020年の新規乳癌手術は88名の方に95件の手術が行われました。温存手術が33例、乳房全摘術が55例、皮下乳腺全摘+同時乳房再建が7例に行われました。再発乳癌に対しての手術は7例あり、このうち1例に皮下残存乳腺全摘+同時乳房再建が行われました。

【主な疾患】

乳癌以外の乳腺疾患では、乳腺良性腫瘍・乳腺症・乳腺炎などです。葉状腫瘍や3cmを超える線維腺腫は摘出術を行っています。異型乳管過形成（ADH）などの境界病変は生検を行い、悪性か否かの判定をしています。

内分泌疾患では甲状腺癌では甲状腺全摘・頸部郭清の後、認定施設に紹介してアブレーションを施行します。限局型では亜全摘と中央部の郭清です。1cm以下では経過観察症例もあります。3cm以上の甲状腺良性腫瘍では葉切除です。高カルシウム血症で診断された原発性上皮小体機能亢進症、上皮小体腫瘍は積極的に切除しています。

2020年の甲状腺の手術は甲状腺癌に対して葉切除が1例に行われました。

《実績》

■ 統計実績

分類	手術名	30年	01年	02年	
乳腺	乳房温存手術	センチネルリンパ節生検	37	25	24
	乳房温存手術	腋窩リンパ節郭清	4	6	5
	乳房温存手術のみ		2	2	6
	乳房切除 or 全乳腺切除術	センチネルリンパ節生検	31	29	43
	乳房切除 or 全乳腺切除術	センチネルリンパ節生検	15	6	7
	乳房切除 or 全乳腺切除術	腋窩リンパ節郭清	12	19	13
	乳房切除 or 全乳腺切除術	腋窩リンパ節郭清	2	5	1
	乳房切除 or 全乳腺切除術のみ		3	0	1
	乳腺良性腫瘍摘出術		10	10	9
	その他		8	7	6
甲状腺	甲状腺癌	全摘術、亜全摘術	1	1	0
	甲状腺癌	葉切除	0	1	1
	甲状腺癌	リンパ節郭清のみ	0	1	0
	甲状腺癌	その他	0	0	0
	甲状腺良性腫瘍に対する手術		1	0	0
	バセドウ氏病に対する手術		0	0	0
	その他		0	0	0
副甲状腺	原発性副甲状腺機能亢進症		0	0	0
	その他		0	0	0

■ 学術業績

□学会発表

発表者	演題名	学会名、会場、日時
北田 昌之、安座間 隆	内分泌療法、化学療法、palbociclib 使用後に abemaciclib が奏功している再発乳癌の 1 例	第 28 回日本乳癌学会学術総会 WEB 開催 2020/10/09-10/31
安座間 隆、北田 昌之	手術不能局所進行癌にパルボシクリブ/ホルモン療法を行い、腫瘍の著明な縮小により切除術を施行した 2 例	第 28 回日本乳癌学会学術総会 WEB 開催 2020/10/09-10/31

呼吸器外科

《概要》

■ 組織・スタッフ

須崎 剛行（部長）：日本呼吸器外科専門医、日本外科学会専門医、がん治療認定医

■ 診療・業務概要

肺癌を中心に、気胸、縦隔腫瘍など。また、内科治療では難治性の膿胸など。基本的には、一般胸部外科領域の疾患であればなんでも診察いたします。

月曜日の午後、金曜日の午後に診察をしておりますが、救急対応は適宜行っております。

大阪大学医学部呼吸器外科関連施設であり、大学と連携しながらの診療を行います。

【主な疾患】

- ・肺癌
- ・転移性肺腫瘍
- ・良性腫瘍などの腫瘍
- ・気胸
- ・膿胸などの良性疾患
- ・縦隔腫瘍（良悪性とも）

《実績》

■ 統計実績

疾患	2017年	2018年	2019年	2020年
良性肺腫瘍	0	0	0	1
原発性悪性肺腫瘍	16	24	25	25
腺癌	8	19	18	18
扁平上皮癌	6	5	4	3
その他	2	0	3	4
転移性肺腫瘍	3	7	6	14
気管腫瘍	0	0	0	0
胸膜腫瘍	0	0	0	1
縦隔腫瘍	0	3	1	0
炎症性肺疾患	2	1	1	3
膿胸	0	2	2	3
気胸	18	11	13	10
その他の呼吸器手術	0	2	2	3
全治療手術総数	39	50	50	60

《概要》

■ 組織・スタッフ

柴田 邦隆（消化器外科、病院長）：

日本外科学会専門医、日本消化器外科学会指導医・専門医・消化器がん外科治療認定医、
日本がん治療認定医機構暫定教育医、近畿外科学会評議員、大阪大学臨床教授、
兵庫医大臨床教育教授、緩和ケア研修修了済

太田 博文（消化器外科、主任部長）：

日本外科学会指導医・専門医、日本消化器外科学会指導医・専門医、
日本大腸肛門病学会指導医・専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医
兵庫医大臨床教育教授、近畿外科学会評議員、緩和ケア研修修了済

赤丸 祐介（消化器外科、主任部長）：

日本外科学会指導医・専門医、日本消化器外科学会指導医・専門医、
日本消化器病学会指導医・専門医、日本内視鏡外科学会技術認定医（胃）、
日本食道学会食道外科専門医、日本食道学会認定医、
日本がん治療認定医機構がん治療認定医、近畿外科学会評議員、日本胃癌学会代議員、
日本食道学会評議員、日本内視鏡外科学会評議員、緩和ケア研修修了済

濱 直樹（消化器外科、部長）：

日本外科学会指導医・専門医、日本消化器外科学会指導医・専門医、
日本胆道学会指導医・専門医、日本膵臓学会指導医・専門医、
消化器がん外科治療認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、
日本肝臓学会指導医・専門医、日本肝臓学会西部会評議員、日本肝胆膵外科学会評議員、
日本肝胆膵外科学会肝胆膵外科高度技能指導医、日本消化器病学会専門医、
日本消化器病学会近畿支部評議員、近畿外科学会評議員、緩和ケア研修修了済

瀧内 大輔（消化器外科、副部長）：

日本外科学会指導医・専門医、日本消化器外科学会専門医、消化器がん外科治療認定医、
日本癌治療学会がん治療認定医機構がん治療認定医、
日本肝胆膵外科学会評議員、近畿外科学会評議員、緩和ケア研修修了済

宗方 幸二（消化器外科、副部長）

日本外科学会専門医、日本内視鏡外科学会技術認定医（大腸）、緩和ケア研修修了済

和田 範子（消化器外科、医長）：

日本外科学会専門医、日本消化器外科学会指導医・専門医、日本消化器病学会専門医、
消化器がん外科治療認定医、日本食道学会認定医、
日本がん治療学会がん治療認定医機構がん治療認定医、緩和ケア研修修了済

池嶋 遼（医長）

日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、消化器がん外科治療認定医、
日本がん治療認定医機構がん治療認定医、緩和ケア研修修了済

江口 聡 (専攻医)

日本外科学会、日本消化器外科学会、日本ヘルニア学会、日本胃癌学会、
緩和ケア研修修了済

原田 宗一郎 (専攻医)

日本外科学会、緩和ケア研修終了済

島岡 高宏 (専攻医)

日本外科学会、緩和ケア研修終了済

■ 診療・業務概要

消化器悪性腫瘍に対する手術および化学療法や消化器良性疾患に対する手術、肛門疾患に対する手術を行います。救急部と協力し、急性腹症に対する緊急手術に可及的に対応しています。上部消化管、下部消化管、肝胆膵疾患すべて、適応があれば腹腔鏡手術を優先させています。また、緩和ケアチームと協力した癌の終末期医療も患者さまの尊厳を重視した上で在宅医療や緩和ケア病棟への適切な紹介も行っています。

【主な疾患】

食道癌、胃癌、十二指腸癌、小腸癌、大腸癌（結腸癌、直腸癌）、肛門管癌、肝癌、膵癌、胆道癌、後腹膜腫瘍、胆石症や急性胆嚢炎などの良性胆道疾患、胃十二指腸穿孔、食道裂孔ヘルニア、虫垂炎、鼠径ヘルニア、大腿ヘルニア、閉鎖孔ヘルニア、腹壁癒痕ヘルニア、横隔膜ヘルニア、膈ヘルニア、内痔核、痔瘻、裂肛、直腸脱、肛門周囲膿瘍、大腸憩室による腹膜炎、腸閉塞など。

《実績》

■ 統計実績

項目	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
消化器外科手術症例数	740	814	822	845	886
そのうち全身麻酔による手術症例数	590	629	691	676	717
そのうち全身麻酔以外による手術症例数	150	185	131	169	169
腹腔鏡(胸腔鏡)手術症例数(原疾患を問わず)	316	361	458	492	544

項目	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
食道疾患 合計	4	9	8	16	13
食道癌(接合部癌扁平上皮癌含む)	0	8	7	12	6
頸部食道切除	0	0	0	0	0
胸部食道切除	0	3	3	7	6
開胸	0	3	2	1	0
胸腔鏡	0	0	1	6	6
縦隔鏡	0	0	0	0	0
その他	0	5	4	5	3
食道その他	4	1	1	4	4
胃・十二指腸疾患 合計	75	83	91	76	80

項目	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
胃癌	67	74	83	56	69
胃全摘	17	12	9	4	12
開腹	13	10	8	3	1
腹腔鏡	4	2	1	1	11
幽門側胃切除(PPG、分節切除含む)	32	41	43	28	26
開腹	12	14	12	6	6
腹腔鏡	20	27	31	22	20
噴門側胃切除	1	3	2	5	1
開腹	0	0	0	1	0
腹腔鏡	1	3	2	4	1
その他胃切除(局所切除/楔状切除など)	0	1	0	1	0
開腹	0	1	0	1	0
腹腔鏡	0	0	0	0	0
その他胃癌手術(バイパス/審査腹腔鏡など)	17	17	29	18	30
十二指腸癌	0	0	0	1	3
胃・十二指腸 GIST	3	6	4	5	2
胃・十二指腸その他(潰瘍/病的肥満/胃瘻など)	5	3	4	14	6
小腸・大腸・肛門疾患 合計	252	291	286	293	277
結腸癌	68	87	81	97	70
切除術	60	65	75	74	52
開腹	18	20	16	13	6
腹腔鏡	40	45	50	61	46
その他	2	0	9	0	0
非切除(人工肛門造設・閉鎖、バイパスなど)	8	22	6	23	18
直腸癌(肛門癌含む)	23	50	55	36	55
切除術(肛門温存)	11	24	39	16	29
開腹	4	10	5	2	1
腹腔鏡	7	14	22	14	28
その他	0	0	12	0	0
切断術(肛門非温存)	0	4	4	3	1
開腹	0	4	3	2	0
腹腔鏡	0	0	1	1	1
その他	0	0	0	0	0
局所切除(経肛門切除)	0	1	0	0	3
非切除(人工肛門造設・閉鎖、バイパスなど)	12	21	12	17	22
大腸 GIST(開腹/腹腔鏡を問わず)	0	0	0	0	0
小腸癌(開腹/腹腔鏡を問わず)	0	3	0	0	1
小腸 GIST(開腹/腹腔鏡を問わず)	1	3	0	0	0

項目	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
虫垂炎 合計	60	65	68	62	55
開腹	11	6	5	3	2
腹腔鏡(単孔式、RPSを含む)	49	59	63	59	53
イレウス(開腹／腹腔鏡を問わず)	27	22	17	15	24
直腸脱	8	15	21	19	13
ガント三輪法	0	0	2	0	1
アルテマイア法	6	11	13	3	2
アルテマイア法+腹腔鏡下結腸固定術	0	0	0	9	6
デロルメ法	0	2	2	0	0
直腸固定術	2	2	4	6	2
粘膜切除手術	0	0	0	1	2
結腸良性疾患	26	18	21	26	23
直腸良性疾患	14	5	4	10	14
肛門良性疾患(痔核、痔瘻など)	20	25	13	14	19
小腸良性疾患	5	9	8	13	3
ヘルニア(鼠径ヘルニア、大腿ヘルニアなど)	167	167	188	160	203
開腹ヘルニア根治術	158	165	105	69	79
腹腔鏡下ヘルニア根治術	9	2	83	91	124
腹膜炎・その他	26	30	25	76	16

分類		2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
	肝・胆・膵・脾 合計	216	234	211	224	247
<疾患>	原発性肝癌(肝細胞癌、肝内胆管癌)	24	24	30	20	22
	転移性肝癌	9	9	16	13	12
	胆道癌	5	10	16	16	10
	膵癌	16	15	14	19	16
	胆石症・胆嚢炎・胆嚢腺筋症など	150	163	122	148	166
	肝胆膵脾疾患他	12	13	14	8	21
<術式>	肝切除(開腹)	20	14	23	17	16
	肝切除(腹腔鏡下)	15	19	28	18	21
	膵頭十二指腸切除	7	11	13	19	17
	膵体尾部切除	5	6	4	8	5
	胆嚢摘出(開腹)	23	18	8	11	2
	胆嚢摘出(腹腔鏡下)	129	147	118	139	171
	他	17	19	17	12	15

■ 学術業績

□ 著書・総説

著 者	題 名	雑誌名、巻号
Ota H, Danno K, Ohta K, Matsumura T, Komori T, Okamura S, Okano M, Ogawa A, Tamagawa H, Uemura M, Matsuda C, Mizushima T, Yamamoto H, Nezu R, Doko Y, Eguchi H	Efficacy of Negative Pressure Wound Therapy Followed by Delayed Primary Closure for Abdominal Wounds in Patients with Lower Gastrointestinal Perforations: Multicenter Prospective Study	Journal of the Anus, Rectum and Colon 2020;4 巻3号:114-121
Tseng-Rogenski SS, Koji Munakata, Choi DY, Martin PK, Mehta S, Koi M, Zheng W, Zhang Y, Carethers JM	The Human DNA Mismatch Repair MSH3 Contains Nuclear Localization and Export Signals That Enable Nuclear - Cytosolic Shuttling in Response to Inflammation	Mol Cell Biol 2020 Jun;15 巻40号
和田 範子、赤丸 祐介、江口 聡、北國 大樹、和田 遼平、池嶋 遼、宗方 幸二、瀧内 大輔、森本 修邦、太田 博文、柴田 邦隆	多発肝転移を伴う進行胃癌に対して胃切除および化学療法を施行し長期生存中の1例	癌と化学療法 2020 12;47 巻13号 1913-1914

□ 学会発表

発 表 者	演 題 名	学会名、会場、日時
Akamaru Y, Wada N, Eguchi S, Hokkoku D, Wada R, Ikeshima R, Munakata K, Takiuchi D, Morimoto O, Ota H, Shibata K	Clinical significance of prealbumin on postoperative complication after gastric cancer surgery	第92回日本胃癌学会総会 静岡 2020/3/4-6
Wada N, Akamaru Y, Eguchi S, Hokkoku D, Wada R, Ikeshima R, Munakata K, Takiuchi D, Morimoto O, Ota H, Shibata K	The influence of the amount of peritoneal lavage on peritoneal recurrence in advanced gastric cancer	第92回日本胃癌学会総会 静岡 2020/3/6
赤丸 祐介、和田 範子、江口 聡、北國 大樹、和田 遼平、池嶋 遼、宗方 幸二、瀧内 大輔、森本 修邦、太田 博文、柴田 邦隆	大型 GIST に対してイマチニブによる術前化学療法後に腹腔鏡下切除術を施行した2例	第42回日本癌局所療法研究会 大阪 2020/5/29
和田 範子、赤丸 祐介、江口 聡、北國 大樹、和田 遼平、宗方 幸二、瀧内 大輔、森本 修邦、太田 博文、柴田 邦隆	多発肝転移を伴う進行胃癌に対して胃切除および化学療法を施行し長期生存中の1例	第42回日本癌局所療法研究会 大阪 2020/5/29
Akamaru Y, Wada N, Eguchi S, Hokkoku D, Wada R, Ikeshima R, Munakata K, Takiuchi D, Morimoto O, Ota H, Shibata K	Clinical significance of conversion surgery for Stage IV gastric cancer after effective chemotherapy	第74回日本消化器外科学会総会 東京 2020/7/17-19
Wada N, Akamaru Y, Hokkoku D, Wada R, Ikeshima R, Munakata K, Takiuchi D, Morimoto O, Ota H, Shibata K	The influence of the number of biopsy samples on lymph node metastasis in early gastric cancer	第74回日本消化器外科学会総会 東京 2020/7/17-19
赤丸 祐介、川上 尚人、藤谷 和正、松山 仁、後藤 昌弘、田村 茂、遠藤 俊治、木村 豊、辻仲 利政、間狩 洋一、杉本 直哉、坂井 大介、黒川 幸典、下川 敏雄、佐藤 太郎	Her2 陰性再発・進行胃癌に対する SP 療法と XP 療法との比較: HERBIS-2 (OGSG 1103) 試験と HERBIS-4A (OGSG 1105) 試験との統合解析	第120回日本外科学会定期学術集会 東京 2020/8/13-15
宗方 幸二、太田 博文、池嶋 遼、江口 聡、北國 大樹、和田 遼平、和田 範子、瀧内 大輔、森本 修邦、赤丸 祐介、柴田 邦隆	腹腔鏡補助下大腸癌手術における小開腹創に対して連続縫合を用いた新規閉腹方法の試み	第120回日本外科学会定期学術集会 Web 2020/8/13-15

発 表 者	演 題 名	学会名、会場、日時
島岡 高宏、太田 博文、宗方 幸二、池嶋 遼、原田 宗一郎、江口 聡、和田 範子、瀧内 大輔、濱 直樹、赤丸 祐介、柴田 邦隆	巨大肝転移を来したS状結腸癌に対して肝切除を先行し、原発巣治療切除を完遂できた1例	第203回近畿外科学会 大阪 2020/9/12
原田 宗一郎、宗方 幸二、太田 博文、池嶋 遼、島岡 高宏、江口 聡、和田 範子、瀧内 大輔、濱 直樹、赤丸 祐介、柴田 邦隆	子宮広間膜を介して生じたS状結腸憩室炎による結腸膀胱瘻の1例	第203回近畿外科学会 大阪 2020/9/12
赤丸 祐介、和田 範子、島岡 高宏、原田 宗一郎、江口 聡、池嶋 遼、宗方 幸二、瀧内 大輔、濱 直樹、太田 博文、柴田 邦隆	当院における切除不能進行・再発胃癌に対するニボルマブの治療成績	第58回日本癌治療学会学術集会 京都 2020/10/22-24
和田 範子、赤丸 祐介、江口 聡、北國 大樹、和田 遼平、宗方 幸二、瀧内 大輔、森本 修邦、太田 博文、柴田 邦隆	切除不能進行再発胃癌に対する治療と予後の検討	第58回日本癌治療学会学術集会 京都 2020/10/22-24
和田 範子、瀧内 大輔、江口 聡、北國 大樹、和田 遼平、宗方 幸二、森本 修邦、赤丸 祐介、太田 博文、柴田 邦隆	鼠径ヘルニアに対するTAPP法における手術時間延長因子の検討	第18回日本ヘルニア学会学術集会 東京 2020/11/3-4
江口 聡、瀧内 大輔、島岡 高宏、原田 宗一郎、池嶋 遼、和田 範子、宗方 幸二、濱 直樹、赤丸 祐介、太田 博文、柴田 邦隆	当院における閉鎖孔ヘルニア8例に対する術式の検討	第18回日本ヘルニア学会学術集会 東京 2020/11/3-4
宗方 幸二、太田 博文、池嶋 遼、生地 あゆみ、和田 範子、瀧内 大輔、濱 直樹、赤丸 祐介、柴田 邦隆	大腸癌術後 Surgical Site Infection (SSI) に対する Enhanced Recovery After Surgery を基本とした周術期管理の有用性	日本外科感染症学会 Web 2020/11/27-28
赤丸 祐介、和田 範子、島岡 高宏、原田 宗一郎、江口 聡、池嶋 遼、宗方 幸二、瀧内 大輔、濱 直樹、太田 博文、柴田 邦隆	一般市中病院における胸腔鏡下食道癌手術導入の取り組みと初期成績	第74回日本食道学会学術集会 徳島 2020/12/10-11
和田 範子、赤丸 祐介、江口 聡、北國 大樹、和田 遼平、宗方 幸二、瀧内 大輔、森本 修邦、太田 博文、柴田 邦隆	化学療法施行中に急な転帰をたどった食道小細胞癌の1例	第74回日本食道学会学術集会 徳島 2020/12/10-11
宗方 幸二、太田 博文、池嶋 遼、和田 範子、瀧内 大輔、濱 直樹、赤丸 祐介、柴田 邦隆	高齢者の大腸癌手術における Enhanced Recovery After Surgery (ERAS) プロトコルの有用性	第75回日本消化器外科学会総会 Web 2020/12/15-17

脳神経外科

《概要》

■ 組織・スタッフ

2010年4月から脳神経外科外来が開始され、現在、脳神経外科専門医が派遣され、診療に当たっている。

■ 診療・業務概要

外来は2010年4月から開設され、週2日（水曜日午前、金曜日午前）診療を行っている。外来診療は原則として紹介制にしている。入院は、定数1名として運用している。

地域基幹病院として、近隣からの紹介患者さんを中心に診療を行っている。神経学的診察に加えて、神経放射線学的検査も施行し、他部門・他診療科の協力を得ながら総合的に診断し、加療に当たる。

疾患として脳血管障害が多く、長期にわたる治療が必要となる場合も少なくないため、病診連携・病病連携を活用し、地域医療機関への逆紹介にも留意している。

《実績》

■ 統計実績

2020年4月～2021年3月の実績

●外来患者数 603人（1日当たり2.5人）

紹介率 98.6%、逆紹介率 73.3%

●退院患者総数 0人

平均在院日数 0日（平均在科日数 0日）

紹介入院率 0%、逆紹介率 0%、救急車搬送率 0%

《概要》

■ 組織・スタッフ

令和2年度末の整形外科スタッフは5名、リハビリ科が2名、計7名で、令和2年度中に2名の異動があった。

令和2年度末に在籍中

大河内 敏行（副院長、昭和58年卒）

日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医、脊椎脊髄外科専門医、
日本整形外科学会専門医、中部日本整形外科災害外科学会評議員、
日本整形外科学会認定リウマチ医・リハビリ医・脊椎脊髄病医、
日本リハビリテーション医学会認定臨床医、義肢装具判定医

若林 元（整形外科主任部長、平成5年卒）

日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会認定リウマチ医・リハビリ医

今井 優子（整形外科副部長、平成17年卒）

日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会認定リウマチ医

金山 完哲（整形外科医長、平成20年卒）

日本整形外科学会専門医

宮本 直（リハビリ科医長、平成21年卒）

日本整形外科学会専門医

石田 和大（整形外科医員、平成25年卒）

喜多 洸介（リハビリ科医員、平成27年卒）

令和2年度内に異動となったスタッフ

喜多 洸介（R1.10.1～R3.3.31）

■ 診療・業務概要

医師7名で診療にあたっています。うち5名が日本整形外科学会の専門医です。脊椎外科、股・膝関節疾患・下肢外傷を中心とした関節外科、手・肘など上肢の疾患を対象とした手外科の3つの専門領域に対し、エビデンスにもとづいた高度医療を目指しています。リウマチに対しても生物学的製剤などによるコントロール、手術を積極的に行っています。

近年、骨粗鬆症に伴う高齢者の骨折【大腿骨近位部骨折、上腕骨近位（肩）や前腕骨遠位（手首）の骨折、脊椎圧迫骨折など】が増えています。早期に機能回復が出来るよう努めています。また、手術が必要な骨折などの外傷に対しては、近隣の医院や救急から要請があれば、ほぼ受け入れ可能な状態を維持しています。

【主な疾患】

・ 関節外科

膝関節・股関節の人工関節を中心とした治療を行っており、関節内注射や物療など保存療法の効果がない患者さまが手術対象です。低侵襲と高機能を目指して手術手技を改良しております。

・ 脊椎外科

変性疾患では保存療法に抗する疼痛や麻痺など神経症状をきたす椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症の患者さま、また脊椎骨折などの患者さまが手術対象となります。

・ 手外科

手外科では、肩・肘を含む上肢の外傷をはじめ、リウマチ手、神経疾患（肘部管及び手根管症候群）、腱鞘炎、良性腫瘍などの専門治療を行っております。

《実績》

■ 統計実績

(表 1)

		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
外来	平均外来患者数 (人/日)	45.2	44.4	42.8	43.3	43.8	48.6	46.4
入院	病床稼働率 (%)	105.4	95.0	76.0	72.5	69.8	72.5	73.4
	在院日数 (日)	25.7	23.7	23.7	23.3	19.5	17.5	20.2
	紹介率 (%)	93.9	93.8	94.6	95.9	95.8	92.6	96.1
	逆紹介率 (%)	78.8	88.8	74.7	61.9	63.9	63.6	81.6

(表 2)

分類	手術	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
人工関節	人工膝関節	72	56	64	63	81	76	63
	人工股関節	38	43	35	37	40	56	52
	その他	0	0	0	0	0	0	1
脊椎	頚椎	23	23	14	21	19	23	12
	胸椎	8	3	6	6	10	10	6
	腰椎	50	47	46	58	66	76	97
腫瘍		7	14	5	23	13	19	14
外傷	骨折	110	178	184	166	180	212	203
	人工骨頭(股・肩)	31	37	46	38	43	55	33
	抜釘	45	38	42	42	46	50	51
関節形成術	前足部・肘・手関節	7	4	4	6	1	5	9
腱	アキレス腱縫合術	12	7	5	7	4	7	3
	その他の縫合・移行術	5	8	13	6	6	9	8
	腱鞘切開	45	61	51	69	59	64	91
神経	手根管開放術・尺骨神経移行術	47	54	49	74	53	67	73
膝 (鏡視下手術)	半月板、ACL、滑膜	2	8	0	3	6	2	2
	その他	16	21	40	23	35	55	33
	合計	518	602	604	642	662	786	751

■ 学術業績

□学会発表

発表者	演題名	学会名、会場、日時
今井 優子	腱鞘切開術後にPIP 関節進展制限を合併したばね指症例の検討	第 63 回日本手外科学会学術集会 ON-LINE 2020/6-8
金山 完哲	骨パジェット病に対する手術加療とデノスマブ投与加療の効能	第 23 回日本骨粗鬆症学会 ON-LINE 2020/10
金山 完哲	骨粗鬆性椎体骨折患者に対する全身評価によるリスク因子の検索および手術的加療が必要となるリスク因子の検索	第 23 回日本骨粗鬆症学会 ON-LINE 2020/10
金山 完哲	高齢者介護福祉施設における骨粗鬆症ケア介入の効果および 80 歳以上の高齢患者に対するテリパラチド週 1 回製剤の治療介入の効果	第 23 回日本骨粗鬆症学会 ON-LINE 2020/10

□研究会・講演会発表

発表者	演題名	講演会名、会場、日時
若林 元	変形性膝関節症の治療	池田ペインコントロール医療連携 WEB セミナー ON-LINE 2021/3/25

形成外科

《概要》

■ 組織・スタッフ

藤田 和敏（部長）：

日本形成外科学会専門医

日本創傷外科学会専門医

日本形成外科学会再建・マイクロサージャリー分野指導医

下肢静脈瘤血管内焼灼術実施医

乳房再建用エキスパンダー・インプラント責任医師

日本顎顔面外科学会所属

常田 沙紀（医員）：

日本形成外科学会専門医

下肢静脈瘤血管内焼灼術実施医

村西 佑美（専攻医）：

日本形成外科学会所属

平成25年12月13日より乳房再建用エキスパンダー・インプラント実施認定施設

平成27年4月より日本形成外科学会教育認定施設

■ 診療・業務概要

形成外科とは、先天的あるいは後天的な身体外表の醜状変形に対して、機能はもとより形態解剖学的に正常にすることで、個人を社会に適応させる事を目的とする外科です。

【主な疾患】

- ・眼瞼・眼窩疾患（眼瞼下垂、内反症、霰粒腫、鼻涙管閉塞、甲状腺眼症、眼窩腫瘍など）
- ・下肢静脈瘤
- ・顔面外傷（鼻骨、頬骨、眼窩骨折・皮膚軟部組織損傷など）
- ・皮膚腫瘍（良性・悪性）
- ・悪性腫瘍切除後の組織欠損（頭頸部癌、乳癌、軟部悪性腫瘍など）
- ・熱傷・瘢痕・ケロイド
- ・難治性潰瘍（糖尿病性壊疽、虚血肢、褥瘡など）
- ・手の外傷（切断指、デグロービング損傷など）
- ・その他（内シャント造設術、腋臭症など）

《実績》

■ 統計実績

手術(2020年4月～2021年3月)

入院 226件/ 外来 446件 計 672件

外傷	17例	一次再建(頭頸部、乳房など)	16例
先天異常	10例	二次再建(乳房など)	2例
良性腫瘍	384例	瘢痕・ケロイド	9例
悪性腫瘍	46例	難治性潰瘍	6例
眼瞼疾患(眼瞼下垂症等)	53例	変性疾患(内反症・下肢静脈瘤など)	78例
内シヤント造設術	41例	その他	41例

■ 学術業績

□原 著

著 者	演 題 名	雑 誌
Yumi Muranishi, Soh Nishimoto, Kenichiro Kawai, Hisako Ishise, Masao Kakibuchi	An occult case of the first branchial cleft anomaly	Journal of Surgical Case Reports, Volume 2020, Issue9, September

□学会発表

発 表 者	演 題 名	学会名、会場、日時
村西 佑美、常田 沙紀、藤田 和敏	ドキソルビシンの血管外漏出による左前腕難治性皮膚潰瘍の一例	第125回関西形成外科学会学術集会 大阪 2020/7/12
村西 佑美、常田 沙紀、宮崎 裕子、藤田 和敏	起壊死性抗がん剤の血管外漏出による左前腕難治性潰瘍の治療経験	第12回日本創傷外科学会総会・学術集会 徳島 2020/12/10-11

皮膚科

《概要》

■ 組織・スタッフ

吉良 正浩（主任部長）：日本皮膚科学会認定専門医、大阪大学臨床教授、大阪大学医学博士
 近藤 由佳理（副部長）：日本皮膚科学会認定専門医
 東 典子（主任医員）：日本皮膚科学会認定専門医
 吉村 亜紀（専攻医）：日本皮膚科学会

■ 診療・業務概要

湿疹、帯状疱疹、疣贅、白癬などの一般的な皮膚疾患から、重症薬疹、自己免疫性水疱症、血管炎、抗がん剤による皮膚障害、糖尿病や血流障害による皮膚潰瘍、熱傷等、母斑等の良性腫瘍から高齢者に多い皮膚悪性腫瘍まで幅広く診療にあたっています。

皮膚生検、皮膚超音波検査・CT等を用いた画像検査、ダーモスコピー、光線テスト、パッチテスト、下肢静脈エコー・動脈エコー等を用いた各種検査が可能で、ほとんどの場合は外来通院での検査が可能です。光線治療、外来での皮膚科小手術（火曜日午後 予約制）も行っております。

かかりつけ医と連携し積極的に入院加療を受け入れています。また当科は生物製剤承認施設であり、難治性の尋常性乾癬やアトピー性皮膚炎、慢性蕁麻疹、化膿性汗腺炎等に対して生物製剤導入にも力をいれております。（木曜日午後 予約制）

患者さまの病状に応じて、当院形成外科（一部皮の皮膚腫瘍、下肢静脈瘤など）、ペインクリニック（帯状疱疹後神経痛）と循環器内科や内分泌・代謝内科（閉塞性動脈硬化症や糖尿病性潰瘍）と連携して診療にあたり、場合によってはより専門性の高い病院へ当院の地域医療連携室を通じて紹介させていただきます。

《実績》

■ 学術業績

□ 原著

著者	題名	雑誌名、日時
Reika Aoyama, Yukari Kondo, Noriko Azuma, Masahiro Kira	Toxic epidermal necrolysis as a complication of pembrolizumab treatment in a lung cancer patient.	J Cutan Immunol Allergy 2020Dec;4(2) 41-42

□ 学会発表

発表者	演題名	学会名、会場、日時
近藤 由佳理、吉村 亜紀、東 典子、吉良 正浩	授乳間隔を調整し、イカチバンドの要時治療へ切り替えが可能だった産後 Hereditary Angioedema (HAE)1型	第69回日本アレルギー学会学術大会 web 日本 2020/9/17
吉村 亜紀、近藤 由佳理、東 典子、吉良 正浩	アトピー性皮膚炎として加療されていた弾性線維性仮性黄色腫の1例	第481回日本皮膚科学会大阪地方会 大阪 2020/12/05
代表者 近藤 由佳理	アトピー性皮膚炎患者における Dirty Neck 発症と進展のリスクファクターの検討	第50回日本皮膚免疫学会総会学術大会 高知 2020/12/22

発 表 者	演 題 名	学会名、会場、日時
東 典子、近藤 由佳理、 吉村 亜紀、吉良 正浩	ATLL に対しモガムリズマブ投与後、長期持 続する難治性紅斑を呈した1例～薬疹？ ATLL 皮疹？～	第2回関西皮膚リンパ腫症例検討会 日本 2021/2/20

■ 研修・教育活動

発 表 者	演 題 名	学会名、会場、日時
近藤 由佳理	入院患者の皮膚トラブル(真菌感染 褥瘡 編)	市立池田病院院内勉強会 2020/6
近藤 由佳理	キャリアアップと Dirty Neck と私の未来	サノフィ社内勉強会 大阪 2020/9/2
近藤 由佳理	皮膚科領域におけるHAE治療の実際 ～産 後にイカチバントにて良好にコントロールで きたHAEの一例～	HAE Remote Seminar web 2020/9/5
近藤 由佳理	血管性浮腫 ～当院での遺伝性血管性浮腫 の治療経験を含めて～	北摂皮膚科 WEB セミナー Web 2020/11/18
近藤 由佳理	血管浮腫について	大鵬薬品社内勉強会 2020/12/15
近藤 由佳理	産後にイカチバント良好に移行できたHAE の一例	遺伝性血管性浮腫(HAE) セミナー大阪 大阪 2121/3/13

泌尿器科

《概要》

■ 組織・スタッフ

令和2年1月は、井上 均主任部長(平成4年卒)以下、芝 政宏副部長(平成8年卒)、金城 孝則主任医員(平成21年卒)、大島 純平主任医員(平成23年卒)、弓場 覚医員(平成25年卒)、館 彩加専攻医(平成27年卒)の6人体制でスタートしました。令和2年4月には弓場 覚医員(平成25年卒)、館 彩加専攻医(平成27年卒)が退職し、代わりに金城 友紘医師、泉 はるか医師が赴任。6名体制でスタートしております。また毎週火曜日の外来応援は氏家 剛医師(大阪大学泌尿器科助教)をお願いしておりました。

井上 均 (主任部長) :

日本泌尿器科学会指導医・専門医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
緩和ケア研修終了済

芝 政宏 (部長) :

日本泌尿器科学会指導医・専門医
泌尿器腹腔鏡技術認定医
DaVinci ワークシステム認定医
緩和ケア研修終了済

金城 孝則 (主任医員) :

日本泌尿器科学会専門医
泌尿器腹腔鏡技術認定医
泌尿器ロボット支援手術プロクター認定医
緩和ケア研修終了済

大島 純平 (主任医員) :

日本泌尿器科学会専門医
緩和ケア研修終了済

金城 友紘 (医員) :

日本泌尿器科学会所属
緩和ケア研修終了済

泉 はるか (専攻医) :

日本泌尿器科学会所属
緩和ケア研修終了済

■ 診療・業務概要

当院では泌尿器がん(前立腺・腎・膀胱・精巣など)や尿路結石症、前立腺肥大症、男性・女性下部尿路症状、尿路感染症、尿路性器外傷など泌尿器科疾患全般に対応しています。

当院には泌尿器科指導医2名、さらに専門医2名が勤務しており、質の高い診療を提供することが可能です。病状を患者さまに丁寧にご説明し、最良の治療方針をお示ししつつ診療を進めるように心がけております。

令和2年の実績としては1日平均外来患者数が60.3人、入院患者が807人、前立腺生検や体外衝撃波結石破碎療法(ESWL)などを除外した手術件数が合計441件でした。ESWLは原則的に外来手術として行っています。

【主な疾患】

当院は大阪府がん診療拠点病院に指定されており、がんを患う多くの患者さまの診療に取り組んでおります。尿路性器がんで最も頻度の高いのは膀胱がんで、令和2年には経尿道的膀胱腫瘍切除術を132件行いました。浸潤性膀胱がんに対しては腹腔鏡下膀胱全摘除術を5例に施行しております。

腎がんに対する鏡視下腎摘除術・鏡視下腎部分切除術を11件・5件、腎盂尿管がんに対する後腹膜鏡下腎尿管全摘除術を21件行いました。

前立腺がんに対しては腹腔鏡下前立腺全摘除術を17件に施行しました。手術療法以外の根治治療として強度変調放射線療法（IMRT）を、放射線治療科立川先生にて年間36例を目途に施行が可能です。前立腺生検は170件、すべて手術室で施行しました。

尿路結石症に対しては、体外衝撃波結石破砕療法（ESWL）やレーザーなどを用いた経尿道的腎尿管碎石術（TUL）、大きな腎結石に対しては、経皮的腎碎石術（PNL）を行うことも可能です。令和2年にはESWLを延74件、TULを91件、PNLを3件行っております。膀胱結石に対する経尿道的手術は12件行いました。

前立腺肥大症による排尿障害に対し、経尿道的前立腺手術を35件行いました。

《実績》

■ 統計実績

令和2年の泌尿器科の入院患者数は807人でした。手術件数は前年737件に対して753件でした(表1)。

手術内容については前立腺生検が170件と最も多く、膀胱がんに対するTURBT(経尿道的膀胱腫瘍切除術)が132件と続きます(表2)。

尿路性器がんで最も頻度の高いのは膀胱がんで、令和2年には経尿道的膀胱腫瘍切除術を132件行いました。浸潤性膀胱がんに対しては腹腔鏡下膀胱全摘除術を平成30年より導入しました。

腎がんに対する鏡視下腎摘除術・鏡視下腎部分切除術を、腎盂尿管がんに対する後腹膜鏡下腎尿管全摘除術を計37件行いました。良性腎疾患に対する鏡視下手術も7件行いました。前立腺がんに対して腹腔鏡下前立腺全摘除術を17件に施行しました。手術療法以外の根治療法として平成28年9月から強度変調放射線療法（IMRT）を導入しております。放射線治療科の立川先生にて現在月平均3名、年間36名を目途に主にIMRTによる治療をしていただいております。

上部尿管結石に関しては、平成25年12月に軟性尿管鏡およびホルミウムレーザー機器を導入しました。経尿道的尿管碎石術(TUL)は平成25年の28件から平成26年には50件と増加し、令和2年には91件施行しました。ESWLは74件施行しました。

前立腺肥大症に対しては経尿道的前立腺切除術・核出術を35件施行しました。

表1 年次別入院患者数・手術件数・ESWL件数

年次	入院患者数	手術件数	ESWL 件数
20年	869	559	280
21年	921	625	289
22年	837	596	283
23年	718	413	129
24年	765	438	251
25年	802	521	249
26年	836	642	175
27年	732	566	211
28年	665	575	165
29年	635	581	127
30年	727	625	121
31年	811	737	106
令和2年	807	753	74

表2 手術統計

臓器	術式	件数	臓器	術式	件数	
腎	鏡視下腎盂形成術	3	前立腺	鏡視下前立腺全摘除術	17	
	鏡視下腎摘除術	14		TURP・TUEB	35	
	開腹腎摘除術	1		前立腺生検	170	
	鏡視下腎尿管全摘除術	21	尿道	尿道形成術	1	
	鏡視下腎部分切除術	5		尿道カルンケル切除術	6	
	鏡視下腎嚢胞切除術	1		尿道狭窄拡張術	2	
	経皮的腎腫瘍針生検	2		包茎手術	5	
	経皮的腎瘻造設/拡張術	6	陰嚢内容	高位精巣摘出術	3	
	経皮的腎砕石術	3		去勢術	16	
経皮的腎嚢胞穿刺硬化術	3	停留精巣固定術		4		
尿管	経尿道的尿管砕石術	91	陰嚢水腫手術	陰嚢水腫手術	6	
	尿管鏡(下生検・腫瘍切除)	24		精巣上体摘出術	1	
	経尿道的尿管拡張術	2		精索捻転手術	1	
	尿管ステント留置・交換	112	陰嚢切開排膿	2		
	逆行性腎盂造影	8	精索静脈瘤	腹腔鏡下結紮術	1	
	膀胱尿管新吻合術	1	副腎・後腹膜	鏡視下副腎・後腹膜腫瘍手術	8	
膀胱	鏡視下膀胱全摘除術	5		後腹膜膿瘍ドレナージ	3	
	TURBT・TURB	132	その他		5	
	経尿道的膀胱砕石術	10	尿路変向	回腸導管	4	
	経尿道的凝血塊除去・止血術	6		尿管皮膚瘻	3	
	膀胱水圧拡張術	5	合計			753
	膀胱瘻造設・拡張術	5				

■ 学術業績

□学会発表

発 表 者	演 題 名	学会名、会場、日時
館 彩加、弓場 覚、大島 純平、 金城 孝則、芝 政宏、井上 均	副腎腫瘍の指摘後4年の経過で増大 を認めた巨大副腎血腫の1例	第243回日本泌尿器科学会関西地方会 京都市 2020/2/15

《概要》

■ 組織・スタッフ

主任部長 竹原幹雄
 医 員 舟田里奈、芦原啓允、土橋裕允
 非常勤医師 林 正美、藤田太輔、田中智人、大門篤史、岩橋晶子

■ 診療・業務概要

1 産 科

Instagram を用いて診療内容の発信を開始した。新型コロナウイルス感染対策のため立ち合い分娩、母親学級、マタニティヨガを中止し、分娩室でスマホを通じて家族と面談できる体制を整えた。

2 婦 人 科

入院患者制限のため良性疾患の手術調整を要した。骨盤臓器脱に対する腹腔鏡下脛仙骨固定術を導入した。

《実績》

■ 統計実績

分娩数	283 例(帝王切開 57 例を含む)
開腹手術	67 例(良性 22 例、悪性 45 例)
腹腔鏡下手術	107 例(良性 91 例、悪性 16 例)
子宮鏡下手術	97 例
化学療法	25 例
放射線療法	3 例
子宮頸部円錐切除術	42 例
子宮内容除去術	22 例

■ 学術業績

□学会発表

発 表 者	演 題 名	学会名、会場、日時
土橋 裕允	関節リウマチ治療中に子宮に生じた悪性リンパ腫の 2 症例	第 61 回日本臨床細胞学会総会(春季大会) 千葉 2020/6/5-7
芦原 敬允	腔中隔を伴う中隔子宮に対して、腹腔鏡下観察を併用しつつ子宮鏡下手術を行った症例	第 43 回日本産婦人科手術学会 札幌 2020/11/7-8
土橋 裕允	子宮筋腫によりの確な小線源治療に難渋した 1 例	第 62 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 仙台 2021/1/29-30
芦原 敬允	当科で施行した BRCA1/2 遺伝子検査についての検討	第 62 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 仙台 2021/1/29-30

《概要》

■ 組織・スタッフ

小島 啓尚（部長）：

日本眼科学会認定眼科専門医、身体障害者福祉法第15条指定医（視覚障害）、
難病指定医、視覚障害者用補装具適合判定医師研修会修了、
日本眼科学会所属、日本白内障屈折矯正手術学会所属

三浦 健（主任医員）：（9月まで）

日本眼科学会所属

宮岡 怜美（医員）：（10月から）

日本眼科学会所属

視能訓練士（ORT）は、常勤の宮崎技師次長、福井技師、町野技師（月額）、伊田技師（月額）の4名。

■ 診療・業務概要

今年度は、常勤医2名（小島部長と三浦主任医員（9月まで）、宮岡医員（10月から））で、視能訓練士（4名）・看護師とともに、白内障はもとより網膜硝子体疾患・緑内障・角膜疾患等、幅広く診療している。十分な医療設備、迅速で正確な検査、的確な診断と治療、丁寧で分かりやすい説明、患者さまとの十分なコミュニケーションを心掛けている。治療のみならずロービジョンケアにも注力しており、患者さまにトータルで安心を提供すべく、チーム一丸となって努力している。

【主な疾患】

白内障は片眼1泊、2泊の入院ないし日帰りにて手術治療を行っており、通常の内障から成熟白内障・水晶体脱臼等の難治症例まで対応している。より良い術後視力のために徹底した術前検査を施行し、正確で低侵襲な手術を心掛けている。多焦点眼内レンズを使用した白内障手術にも対応している。水晶体・眼内レンズの脱臼に対しては眼内レンズ縫着術、もしくは強膜内固定術を施行している。硝子体手術は広角観察システムを併用したコンステレーション®ビジョンシステムにて25Gの小切開創より施行している。増殖糖尿病網膜症、黄斑上膜、黄斑円孔等の黄斑疾患、また網膜剥離手術にも対応している。加齢黄斑変性、網膜静脈閉塞症、糖尿病黄斑浮腫に対する抗VEGF薬の硝子体注射も施行している。緑内障はOCTも活用して細密にフォローアップし、必要な場合は手術も施行している。

《実績》

■ 統計実績

□ 手術実績(2020年4月～2021年3月)

手術

水晶体再建術 眼内レンズを挿入する場合	852 件
(うち多焦点眼内レンズ 15 件、眼内レンズ強膜内固定術 6 件)	
硝子体手術	75 件
外眼手術	18 件
レーザー手術	
網膜光凝固術	53 件
後発白内障手術	88 件
抗 VEGF 薬硝子体注射	256 件

■ ロービジョンケア

平成 14 年から眼科では、治療による視機能回復の見込みのない患者に対し、QOL 及び QOV (Quality of vision) の向上を目的にロービジョンケアを行っている。光学的ケア、精神的ケアを中心に福祉とのつなぎの役目も担っている。

ケアの一環として、視覚障害者の自立支援のため平成 17 年度より開催している「院内ロービジョンサロン」は、前半が講演会及び講習会、後半は座談会を開いている。

今年度はコロナ感染拡大防止のため全日程中止とした。

視覚の代わりに触れることで確認することの多い視覚障害者にとって、様々なコロナ感染対策は日常生活に影響を及ぼす。感染対策をしながら QOL を維持する工夫を患者と共に模索していく必要がある。

病院主催ではあるが当事者の意見も取り入れ、運営にも参加してもらうことで、より自立支援に向けたサロンを目指している。

今後も講演会で様々な情報提供を受けることにより安心感を得、座談会で当事者同士の話し合いにより孤独感から解放され互いに問題解決の道を見つけることで、社会参加・自立へのきっかけの場となるよう再開をめざしたい。

■ 研修・教育活動

□ ORT 臨床教育

当科では視能訓練士養成校の学生を受け入れ実習を行っている。

<令和元年度受け入れ人数>

大阪医専	2 名
大阪医療福祉専門学校	2 名
川崎医療福祉大学	0 名

今年度は緊急事態宣言や養成校の自主的判断により実習中止となった期間があった。

主な教育内容

- * 臨床の場における接遇
- * 眼科一般検査：屈折検査・視力・眼圧・眼位・写真撮影・超音波・視野 OCT
斜視弱視・眼鏡処方・白内障術前検査・色覚検査 他
- * 訓練：斜視・弱視訓練
- * ロービジョンケア：ケア計画の立て方・補助具の選定方法

□ ロービジョンケア普及活動

今年度は近隣眼科・市役所福祉課・保健所へロービジョンケアやサロンの案内は配布せず。

《概要》

■ 組織・スタッフ

- 中川 あや (耳鼻いんこう科部長) :
日本耳鼻咽喉科学会認定専門医・補聴器適合判定医、
日本耳鼻咽喉科学会認定専門研修指導医、日本宇宙航空環境医学会認定医、
身体障害者福祉法第 15 条第 1 項指定医、難病指定医、
日本めまい平衡医学会認定めまい相談医、
日本耳鼻咽喉科学会所属、耳鼻咽喉科臨床学会所属、
日本めまい平衡医学会所属、日本聴覚医学会所属、
日本小児耳鼻咽喉科学会所属、日本宇宙航空環境医学会所属、
緩和ケア研修会修了
- 山本 圭介 (耳鼻いんこう科部長) :
日本耳鼻咽喉科学会認定専門医、
日本耳鼻咽喉科学会認定専門研修指導医、
身体障害者福祉法第 15 条第 1 項指定医、
日本耳鼻咽喉科学会所属、耳鼻咽喉科臨床学会所属、
日本気管食道科学会所属、日本嚥下学会所属、日本喉頭科学会所属、
日本めまい平衡医学会所属
- 滝本 泰光 (耳鼻いんこう科部長) :
日本耳鼻咽喉科学会認定専門医、
身体障害者福祉法第 15 条第 1 項指定医、難病指定医、
日本めまい平衡医学会認定めまい相談医、
日本耳鼻咽喉科学会所属、
日本めまい平衡医学会所属、日本耳科学会所属、
日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会所属、日本解剖学会所属
- 前川 千絵 (耳鼻いんこう科副部長) :
日本耳鼻咽喉科学会認定専門医・補聴器適合判定医・補聴器相談医、
身体障害者福祉法第 15 条第 1 項指定医、難病指定医、
日本耳鼻咽喉科学会所属、
日本めまい平衡医学会所属、日本耳科学会所属、日本禁煙学会所属
- 鶴田 幸之 (耳鼻いんこう科主任医員) :
日本耳鼻咽喉科学会認定専門医、
日本耳鼻咽喉科学会所属、日本頭頸部外科学会所属、日本頭頸部癌学会所属、
日本鼻科学会所属、緩和ケア研修会修了
- 山根 有希子 (耳鼻いんこう科医員) :
日本耳鼻咽喉科学会所属、
緩和ケア研修会修了

嶋田 琢磨 (耳鼻いんこう科医員) :
日本耳鼻咽喉科学会所属、
緩和ケア研修会修了

■ 診療・業務概要

当科では急性期病院の役割として耳鼻咽喉・頭頸部（甲状腺）領域の手術を主に行い、扁桃周囲膿瘍、急性喉頭蓋炎などの救急疾患、突発性難聴、顔面神経麻痺等に対する入院治療も行っています。2020年3月に識名崇部長が退任し、4月から中川あや、山本圭介が部長就任となりました。山本圭介部長は、COVID-19の感染拡大期に多大な尽力をいただき、6月末に大手前病院部長へ栄転されました。7月から滝本泰光が部長就任、めまい外来を新設し平衡機能検査、顔面神経麻痺の最新のエビデンスに基づいた治療、リハビリを確立しました。9月末に山根有希子が大学へ赴任、嶋田琢磨が10月から着任しました。

COVID-19感染期もPPEを適切に使用し、感染者を出さず上気道病変の検査・加療を行いました。一方、マスク・手洗い励行により、感染症である副鼻腔炎・中耳炎・扁桃炎・鼻出血は激減、人流抑制による突発性難聴・顔面神経麻痺・めまい疾患も減少し、手術症例の減少も起こりました。

- ① 副鼻腔手術に関しては従来通り全症例ナビゲーション下にて安全に行い、手術難易度の高い好酸球性副鼻腔炎症例に関しては前部長の識名崇医師の指導の元、国内でも有数のハイレベルな手術を行いつつ3泊4日の短期入院にも対応しています。頭頸部手術の耳下腺・甲状腺・鼓室形成術には神経刺激装置（NIM）を使用し、繊細な神経温存を行っています。頭頸部がん専門医である鈴木基之医師の直接指導もあり、大学と同レベルの手術を施行、専攻医教育も行っています。
- ② 聴覚に関しては聴覚情報処理障害（APD）に対する最新の検査を開始しました。
- ③ 滝本部長主導のもと、平衡機能検査（vHIT、ENG、重心動揺検査、めまい短期入院検査、リハビリ指導）を改変、さらに充実させました。また、顔面神経麻痺に関しては最新の知見に基づいた大量ステロイド点滴を行い、リハビリ指導も行っています。
- ④ 成人に対する手術や点滴（ステロイド、デフィブラーゼ点滴）加療、補聴器外来も従来通り行っています。新生児から幼児に対する各種聴力検査（ABR、ASSR、遊戯聴力検査、DPOAE、幼児の補聴器作成、装用指導）を行い、対象児には聴覚支援教育機関を積極的に紹介・連携・情報共有に努めています。また、学童期にみられる心因性難聴に関しては、背景にあるストレス、学習障害、発達障害を臨床心理室と連携し早期発見、2次障害予防につなげています。
- ⑤ 言語に関しては、聴覚異常の有無にかかわらず、言語発達遅滞の患児（発達障害や自閉症スペクトラム症例含む）を受け入れています。小児科や市の健康増進課、発達支援課とも連携をとりながら言語リハビリ（2週間に1回程度の継続リハビリ）、吃音診察を行っています。
- ⑥ 音声に関しては、声帯結節やポリープの手術のみにとどまらず、再発予防のため、のどに負担をかけない発声指導も継続してリハビリとして行っています。
- ⑦ 嗅覚検査、味覚検査（北摂の公立病院では当科でのみ施行可能です）、狭帯域光強調観察（NBI）による悪性腫瘍の早期発見を行い、嚥下指導、リハビリも行っています。

当科の手術では、内視鏡下副鼻腔手術が最も多く、その他、扁桃など咽頭手術、耳下腺・顎下腺・甲状腺などの頸部手術、耳疾患に対する鼓室形成術などを行っています。また、

呼吸器・神経疾患等で入院中の患者さまの気管切開や悪性リンパ腫等の診断目的に頸部リンパ節生検も行っています。

【主な疾患】

鼻副鼻腔疾患：鼻副鼻腔悪性腫瘍※、好酸球性副鼻腔炎、鼻中隔湾曲症、副鼻腔乳頭腫、アレルギー性鼻炎、嗅覚障害、眼窩吹き抜け骨折、鼻涙管閉塞（狭窄）症、鼻出血

耳疾患：先天性難聴、突発性難聴、顔面神経麻痺、慢性中耳炎（鼓膜穿孔）、真珠腫性中耳炎、耳硬化症、先天性耳瘻孔（耳瘻管）、耳性めまい症（良性発作性頭位眩暈、メニエール病）

咽頭疾患：扁桃肥大、慢性（習慣性）扁桃炎、アデノイド増殖症、閉塞性睡眠時無呼吸、扁桃周囲膿瘍、上・中・下咽頭癌※

喉頭疾患：喉頭癌※、声帯ポリープ、ポリープ様声帯、声帯麻痺（反回神経麻痺）、急性喉頭蓋炎

頭頸部・甲状腺疾患：耳下腺腫瘍、甲状腺癌、甲状腺良性腫瘍、顎下腺腫瘍、唾石症

※一部の甲状腺癌を除く、悪性腫瘍の治療につきましては、大阪大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科に紹介させていただきます。

《実績》

■ 統計実績

手術件数

	全麻 (例)	局麻 (例)		全麻 (例)	局麻 (例)
鼓膜切開術	0	44	アデノイド切除術	23	0
鼓膜チューブ留置術	14	6	口蓋扁桃切除術	88	0
鼓室形成術	6	0	喉頭良性病変切除術	9	0
顔面神経減荷術	1	0	気管切開術	14	0
耳瘻孔摘出術	3	7	口腔良性腫瘍手術	0	2
外耳道形成術	1	0	喉頭形成術	0	1
外耳道腫瘍摘出術	0	1	唾石（口内法）摘出術	1	5
鼻中隔矯正術	53	0	耳下腺良性腫瘍手術	14	0
下鼻甲介切除術	95	0	顎下腺良性腫瘍手術（唾石含む）	5	0
鼻粘膜焼灼術	0	52	甲状腺腫瘍手術（副甲状腺含む）	9	0
内視鏡下鼻内開放術	88	0	その他（側頸嚢胞、皮様嚢種など）	5	0
経鼻腔的翼突管神経切断術	12	0	頸部リンパ節生検	0	12
涙嚢鼻腔吻合術	1	0	異物摘出（外耳・鼻腔・咽頭）	2	19
鼻骨変形治癒骨折矯正術	4	0			
顎・顔面骨骨折矯正術	1	7	合計	449	156

■ 学術業績

□原 著

著 者	題 名	雑誌名、巻号
Yukinori Tsuruta, Yohei Maeda et al.	A Case of Endonasal Endoscopic Surgery for Intraorbital Metastasis of Gastric Ring Cell Carcinoma	Ear, Nose& Throat Journal 1-4 2020

□学会発表

発 表 者	演 題 名	学会名、会場、日時
滝本 泰光、北村 江理、有賀 賢治、松代 直樹	当科で経験した顔面神経麻痺を伴わない不全型 Hunt 症候群 (HaymannIV型) 症例の平衡機能 聴覚機能の検討	第 121 回日本耳鼻咽喉科学会学術講演会 岡山 2020/10/6-7
今井 貴夫、滝本 泰光、真貝 加世子、武田 憲昭、北村 公二、猪原 秀典	運動性眼振の倒錯減少を示す先天性眼振の機序の解明	第 121 回日本耳鼻咽喉科学会学術講演会 岡山 2020/10/6-7
滝本 泰光	テーマセッション11—内耳の病態に迫る前庭刺激検査 回転検査—マウス回転検査を用いたシスプラチンによる内耳障害の検討	第 30 回日本耳科学会総会学術講演会 福岡 2020/11/11-14
滝本 泰光	顔面神経麻痺を伴わない不全型 Hunt 症候群 (HaymannIV型) 症例の平衡機能 聴覚機能の検討	第 79 回日本めまい平衡医学会総会学術講演会 神奈川 2020/11/25-27
原田 翔太郎、今井 貴夫、滝本 泰光、太田 有美、佐藤 崇、鎌倉 武史、猪原 秀典	マウスの Linear vestibulo-ocular reflex の三次元解析	第 79 回日本めまい平衡医学会総会学術講演会 神奈川 2020/11/25-27
鎌倉 武史、北原 紘、堀井 新、滝本 泰光、今井 貴夫、太田 有美、佐藤 崇、猪原 秀典	ラットにおける塩化カリウム鼓室内投与後の眼振、聴力の経時的変化	第 79 回日本めまい平衡医学会総会学術講演会 神奈川 2020/11/25-27

□研究会・講演会発表

発 表 者	演 題 名	学会名、会場、日時
中川 あや	当院での幼児・児童難聴外来、言語発達リハビリテーションの紹介	第 26 回北大阪耳鼻咽喉科地域医療講習会 大阪 2020/10/31

■ 研修・教育活動

指 導 者・講 師	内 容	実習名・日時
中川 あや	看護学科 学生講義(病態と治療 IV、感覚器・耳鼻科)	学校法人大阪滋慶学園 大阪医療看護専門学校 2020/6/19-7/17

《概要》

■ スタッフ数

- 医師（専任2名）：宮本 直、喜多 洸介
 （兼任2名）：大河内 敏行、若林 元
- 理学療法士（9名）：松山 博文、川南 香代子、面田 真也、丹羽 徹、佐々木 大地、
 横山 遙香、仲 健太、渡辺 彩
- 作業療法士（8名）：柳沢 崇、横山 由梨子、佐々木 奈央、濱田 亜紀、浅野 雅也、
 大原 千尋、上村 彩寧、奈良垣 大地
- 言語聴覚士（3名）：安藤 敏夫、立石 圭、片尾 奈緒子

■ 診療・業務概要

令和2年度は、昨年同様コロナ禍であったが、入院患者の依頼件数としては、令和元年度の5,672に対して、令和2年度は6,171と前年比108.8%であった。特に今年度は、新型コロナ患者の重症の人工呼吸器挿管中に対しても、早期から各部門介入し退院に向けてリハビリテーションを行ってきた。

1 理学療法部門

理学療法部門への診療依頼件数は、本年度2,697件（前年比98.6%）と前年度とほとんど変化なく、そのうち廃用症候群リハビリテーション935件（34.7%）、脳血管疾患等リハビリテーション99件（3.7%）、運動器リハビリテーション527件（19.5%）、呼吸器リハビリテーション419件（15.5%）、がん患者リハビリテーション523件（19.4%）、心大血管疾患リハビリテーション194件（7.2%）であった。今年度は、新型コロナ患者の介入が多く、そのため呼吸器リハビリテーションの件数が多くなったと思われる。重症者の人工呼吸器挿管中から体位ドレナージや腹臥位療法など、看護師と協働して対応してきた。

2 作業療法部門

作業療法部門への診療依頼件数は、本年度2,586件（前年比105.7%）であり、そのうち廃用症候群リハビリテーション888件（34.3%）、脳血管疾患等リハビリテーション99件（3.8%）、運動器リハビリテーション532件（20.6%）、呼吸器リハビリテーション377件（14.6%）、がん患者リハビリテーション497件（19.2%）、心大血管疾患リハビリテーション193件（7.5%）であった。本年度は新型コロナ患者に対するADLの維持改善を目的とした関わりが多かった。また部門において、感染予防対策の徹底をもとに臨床業務を行った。地域連携として池田市自立支援型ケア会議へも参加（年6回）し、患者情報の共有を行った。

3 言語聴覚療法部門

言語聴覚療法部門へのリハビリ依頼内容は、本年度884件（前年比110%）あった。本年度より言語聴覚士も呼吸器リハビリを算定できるようになり、廃用症候群リハビリテーションの一部がそちらに移行したため内訳は、廃用症候群リハビリテーション390件、呼吸器リハビリテーション242件、脳血管疾患等リハビリテーション183件、がん患者リハビリテーション69件と、やや変動があった。新型コロナ患者に対しては、感染予防対策を徹底したうえで従来の嚥下評価だけでなく、重症患者に対しても挿管後の嚥下評価、食事調整など積極的に介入した。

《実績》

■ 統計実績 (2020.4-2021.3)

◆ 療法別月別依頼件数

療法別月別依頼件数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
理学療法	がん患者リハビリテーション	47	41	42	47	50	48	29	38	45	47	38	51	523
	運動器リハビリテーション	55	29	48	53	35	47	54	46	43	54	19	44	527
	呼吸器リハビリテーション	24	33	33	36	35	38	33	36	48	38	31	34	419
	心大血管疾患リハビリテーション	20	15	17	18	17	14	11	22	14	17	7	22	194
	脳血管疾患等リハビリテーション	12	7	7	10	9	10	12	8	6	5	3	10	99
	廃用症候群リハビリテーション	64	69	83	83	86	79	107	73	96	66	58	72	935
作業療法	がん患者リハビリテーション	49	43	46	39	42	48	27	37	38	45	37	46	497
	運動器リハビリテーション	55	28	42	53	41	54	52	44	40	43	31	49	532
	呼吸器リハビリテーション	19	33	33	31	35	34	28	34	42	35	25	28	377
	心大血管疾患リハビリテーション	20	13	17	18	16	12	11	22	16	15	9	24	193
	脳血管疾患等リハビリテーション	12	6	6	11	10	10	11	9	7	5	3	9	99
	廃用症候群リハビリテーション	59	68	76	80	80	76	103	69	86	62	58	71	888
言語療法	がん患者リハビリテーション	6	5	9	4	5	7	6	4	7	5	4	7	69
	運動器リハビリテーション	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	呼吸器リハビリテーション	12	21	16	18	24	27	19	18	26	19	17	25	242
	心大血管疾患リハビリテーション	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	脳血管疾患等リハビリテーション	10	4	7	11	17	26	23	25	18	15	11	16	183
	廃用症候群リハビリテーション	26	28	38	25	39	43	44	29	44	22	23	30	390
総計		491	443	520	538	541	573	570	514	576	493	374	538	6,171

◆ 療法別月別実施単位数

療法別月別実施単位数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
理学療法	がん患者リハビリテーション料	331	390	432	463	438	492	473	299	428	354	310	502	4,912
	運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	1,036	921	991	1,374	980	1,012	1,093	1,024	1,023	938	795	1,056	12,243
	呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	201	305	425	288	287	453	382	376	422	459	287	355	4,240
	時間内歩行試験	3		2	2		1	2		2	1		2	15
	心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	249	208	208	155	157	112	189	183	241	161	116	216	2,195
	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	116	102	57	169	197	134	172	108	67	99	63	108	1,392
	廃用症候群リハビリテーション料(Ⅰ)	833	708	905	838	824	760	932	691	836	725	578	881	9,511
	早期リハビリテーション加算(初期加算14日以内)	1,309	1,066	1,154	1,108	1,075	1,004	1,320	1,097	1,225	949	736	1,161	13,204
	早期リハビリテーション加算(30日以内)	1,919	1,822	1,925	1,878	1,717	1,695	2,116	1,759	1,974	1,667	1,200	1,917	21,589
	早期リハビリテーション加算(30日以内)	1,686	1,605	1,589	1,647	1,636	1,612	1,831	1,552	1,674	1,522	1,100	1,729	19,183
作業療法	がん患者リハビリテーション料	358	374	470	415	424	439	431	264	354	297	294	444	4,564
	運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	934	889	897	1,163	904	959	1,051	832	900	843	793	1,028	11,193
	運動器リハビリテーション料(Ⅱ)						1	3						4
	呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	176	290	400	337	328	485	341	396	398	394	228	305	4,078
	心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	241	221	200	158	154	83	154	167	247	170	111	212	2,118
	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	146	110	64	169	188	153	147	116	71	88	61	102	1,415
	廃用症候群リハビリテーション料(Ⅰ)	838	704	824	815	880	759	885	667	846	767	572	871	9,428
	早期リハビリテーション加算(初期加算14日以内)	1,137	923	950	968	1,000	920	1,157	896	962	886	662	1,030	11,491
	早期リハビリテーション加算(30日以内)	1,686	1,605	1,589	1,647	1,636	1,612	1,831	1,552	1,674	1,522	1,100	1,729	19,183
	早期リハビリテーション加算(30日以内)	600	621	633	602	693	741	805	699	838	663	371	719	7,985
言語聴覚	がん患者リハビリテーション料	42	72	91	103	79	96	121	74	61	83	63	88	973
	呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	149	277	334	262	305	445	351	367	329	274	170	304	3,567
	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	125	99	80	165	171	204	226	193	192	172	126	159	1,912
	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)(廃用)												2	2
	廃用症候群リハビリテーション料(Ⅰ)	473	366	466	459	461	381	494	339	488	430	317	516	5,190
	早期リハビリテーション加算(初期加算14日以内)	428	409	426	395	460	506	557	459	618	404	271	445	5,378
早期リハビリテーション加算(30日以内)	628	621	633	602	693	741	805	699	838	663	371	719	7,985	
総計		13,330	12,482	13,523	13,933	13,358	13,447	15,233	12,558	14,196	12,346	9,224	14,152	157,782

■ 学術業績

□ 学会発表

発表者	演題名	学会名、会場、日時
奈良垣 大智	同姓、同年代のセラピストが共感と自己の治療的 目的利用を用いた介入を行い臨床回数が増えた Th6以下完全不全麻痺の脊髄損傷例 ～急性期でのMTDLPの利用～	大阪府作業療法士会 豊能ブロック事例検討報告会 Web開催 2021/2/25
上村 彩寧	劇症型心筋炎を呈した50代女性に対し自宅退院 を目指し介入した症例	大阪府作業療法士会 豊能ブロック事例検討報告会 Web開催 2021/2/25

■ 研修・教育活動

1 理学療法部門

臨床教育においては、長期臨床実習として甲南女子大学、大阪府立大学、大阪リハビリテーション専門学校から各1名ずつ（計3名）学生指導を行った。また、評価実習として大阪リハビリテーション専門学校（3名）、見学実習として大阪府立大学（1名）の学生指導を行った。

2 作業療法部門

臨床教育においては、長期臨床実習として大阪保健医療大学（1名）、箕面学園福祉保育専門学校（1名）、大阪府立大学（1名）、藍野大学（2名）、の学生指導を行った。

3 言語療法部門

臨床教育活動では、コロナ禍で例年よりも学生の受け入れが少なかったこともあり、臨床実習として大阪医療技術専門学校（1名）、見学実習として大阪医療技術専門学校（1名）の学生を受け入れ指導を行った。

《概要》

■ 組織・スタッフ

医師：藤田主任部長、伊藤部長、立川医長、非常勤医師 9 名

技師：関技師長以下 常勤技師 18 名、非常勤月額職員 7 名、非常勤日額職員 1 名、
非常勤時間給職員 1 名、アルバイト 2 名
補助婦 4 名

看護師：松本次長以下 常勤看護師 13 名、非常勤 12 名、補助婦 3 名（ステリ）

■ 診療・業務概要

令和 2 年 4 月～令和 3 年 3 月までの概要。

CT、MRI、IVR および放射線治療が業務の中心で、RI と一部の胸部 X 線写真の読影、autopsy imaging も行っている。

MRI については、1.5 T と 3T の 2 台体制となって 3 年目で、安定的に稼働している。コロナ禍の影響により、前年度 7,577 件から、今年度 6,895 件となり、9%減少した。造影検査の待ち日数が延長することもあるが、概ね問題はない。CT については、前年度 16,335 件から、今年度 15,552 件と 5%減少した。救急含め、当日依頼の CT 検査が全検査数の 1/3 以上を占めている。1 万 5,000 件を超えたあたりから、時間的余裕がなくなり、緊急検査が重なった場合などに、予約患者の遅延が問題となっているが、地下の治療用 CT も活用して何とかやり繰りしている。超音波検査については、前年度 9,305 件から今年度 8,865 件となり 5%減少した。

地域医療の MR 検査については、前年度 1,627 件から 1,364 件と、16%とかなり減少し、地域医療の CT 検査についても、前年度 1,302 件から 963 件と 26%の減少、超音波については、前年度 1,076 件から 959 件と 11%の減少であり、コロナ禍の影響による検査数の減少は、地域医療において厳しかった。

放射線治療については、立川医長の 3 年目にあたる。前年度は 249 例で、過去最高を更新したが、今年度は 201 件とやや減少した。令和 2 年 2 月からは、肺癌の定位照射を新規に開始したが、令和 3 年 3 月まで、11 件の実績であった。新規の肺癌定位照射 及び乳腺を中心とする地域医療からの紹介がやや増加していること（前年度は 73 件で、今年度は 84 件）を考えると、院内からの症例がかなり減っている。

他に、技師による超音波検査や応援医師による IVR、RI が行われている。

《実績》

■ 統計実績

令和2年度 年間放射線件数

◆外 来

診療科	一般撮影(単純)	一般撮影(造影)	CT	MR	核医学	計
内科	2,039	14	2,841	172	2	5,068
小児科	188	1	20	42	0	251
外科	232	0	243	9	0	484
整形外科	5,394	23	720	553	3	6,693
皮膚科	132	0	57	31	1	221
泌尿器科	791	20	1,251	378	156	2,596
産婦人科	91	5	300	229	0	625
眼科	5	0	13	28	0	46
耳鼻咽喉科	316	4	462	279	7	1,068
放射線科	29	0	952	1,364	71	2,416
麻酔科	14	17	13	71	0	115
リハビリ科	10	1	5	2	0	18
神経内科	23	0	29	325	112	489
消化器内科	398	2	1,528	1,650	0	3,578
循環器内科	904	0	351	16	128	1,399
脳神経外科	0	0	15	196	2	213
歯科口腔外科	4,252	0	147	89	0	4,488
健診科	12	92	45	161	0	310
歯科	0	0	0	0	0	0
救急総合科	0	0	0	0	0	0
総合内科	384	1	390	36	0	811
内分泌・代謝	271	0	188	21	29	509
血液内科	436	0	217	29	0	682
呼吸器内科	2,141	93	1,163	81	1	3,479
腎臓内科	136	0	44	45	3	228
消化器外科	449	7	1,771	216	2	2,445
形成外科	13	0	98	116	0	227
緩和ケア内科	0	0	0	0	0	0
精神科	2	0	5	23	3	33
乳腺・内分泌外科	451	0	439	99	13	1,002
呼吸器外科	161	1	235	16	0	413
心臓血管外科	3	0	25	5	1	34
放射線治療科	11	0	12	32	0	55
免疫・膠原病内科	78	0	26	9	0	113
小児外科	1	0	1	0	0	2
計	19,367	281	13,606	6,323	534	40,111

◆入 院

診療科	一般撮影(単純)	一般撮影(造影)	CT	MR	核医学	計
内科	130	5	18	12	0	165
小児科	37	0	5	2	0	44
外科	9	0	1	1	0	11
整形外科	1,507	5	194	53	1	1,760
皮膚科	47	1	15	13	0	76
泌尿器科	516	54	91	21	0	682
産婦人科	201	1	21	19	0	242
眼科	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科	27	7	21	33	0	88
放射線科	0	0	0	0	0	0
麻酔科	9	1	0	1	0	11
リハビリ科	10	0	3	1	0	14
神経内科	45	2	65	83	9	204
消化器内科	670	44	297	90	0	1,101
循環器内科	944	3	104	26	60	1,137
脳神経外科	0	0	0	1	0	1
歯科口腔外科	218	0	10	1	0	229
健診科	0	0	0	0	0	0
歯科	0	0	0	0	0	0
救急総合科	0	0	0	0	0	0
総合内科	284	2	107	33	3	429
内分泌・代謝	87	1	64	25	2	179
血液内科	403	3	180	32	1	619
呼吸器内科	1,661	30	230	61	4	1,986
腎臓内科	239	2	55	8	0	304
消化器外科	2,308	137	267	39	2	2,753
形成外科	7	0	5	3	0	15
緩和ケア内科	0	0	0	0	0	0
精神科	0	0	0	0	0	0
乳腺・内分泌外科	89	0	19	11	0	119
呼吸器外科	349	0	11	1	0	361
心臓血管外科	0	0	0	0	0	0
放射線治療科	0	0	1	1	0	2
免疫・膠原病内科	2	0	0	0	0	2
小児外科	0	0	0	0	0	0
計	9,799	298	1,784	571	82	12,534

◆外 来十入院

診療科	一般撮影(単純)	一般撮影(造影)	CT	MR	核医学	計
内科	2,169	19	2,859	184	2	5,233
小児科	225	1	25	44	0	295
外科	241	0	244	10	0	495
整形外科	6,901	28	914	606	4	8,453
皮膚科	179	1	72	44	1	297
泌尿器科	1,307	74	1,342	399	156	3,278
産婦人科	292	6	321	248	0	867
眼科	5	0	13	28	0	46
耳鼻咽喉科	343	11	483	312	7	1,156
放射線科	29	0	952	1,364	71	2,416
麻酔科	23	18	13	72	0	126
リハビリ科	20	1	8	3	0	32
神経内科	68	2	94	408	121	693
消化器内科	1,068	46	1,825	1,740	0	4,679
循環器内科	1,848	3	455	42	188	2,536
脳神経外科	0	0	15	197	2	214
歯科口腔外科	4,470	0	157	90	0	4,717
健診科	12	92	45	161	0	310
歯科	0	0	0	0	0	0
救急総合科	0	0	0	0	0	0
総合内科	668	3	497	69	3	1,240
内分泌・代謝	358	1	252	46	31	688
血液内科	839	3	397	61	1	1,301
呼吸器内科	3,802	123	1,393	142	5	5,465
腎臓内科	375	2	99	53	3	532
消化器外科	2,757	144	2,038	255	4	5,198
形成外科	20	0	103	119	0	242
緩和ケア内科	0	0	0	0	0	0
精神科	2	0	5	23	3	33
乳腺・内分泌外科	540	0	458	110	13	1,121
呼吸器外科	510	1	246	17	0	774
心臓血管外科	3	0	25	5	1	34
放射線治療科	11	0	13	33	0	57
免疫・膠原病内科	80	0	26	9	0	115
小児外科	1	0	1	0	0	2
計	29,166	579	15,390	6,894	616	52,645

検査別・月別件数

◆MR検査件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2019年度合計	635	613	653	733	634	633	695	631	636	626	568	520	7,577
2019年度地域医療室件数	135	117	135	165	132	156	180	121	131	111	125	119	1,627
2019年度地域医療室利用率	21%	19%	21%	23%	21%	25%	26%	19%	21%	18%	22%	23%	21%
2020年度	外来件数	346	341	449	419	416	441	481	414	421	396	376	4,959
	入院件数	52	43	52	64	55	49	38	43	56	40	33	571
	地域医療室	64	59	101	142	98	124	181	114	125	99	106	1,364
2020年度合計	462	443	602	625	569	614	700	571	602	535	515	656	6,894
2020年度地域医療室利用率	14%	13%	17%	23%	17%	20%	26%	20%	21%	19%	21%	23%	20%

◆CT検査件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2019年度合計	1418	1330	1311	1455	1374	1297	1395	1450	1408	1346	1221	1330	16,335
2019年度地域医療室件数	123	86	95	120	108	108	130	134	92	94	94	103	1,287
2019年度地域医療室利用率	9%	6%	7%	8%	8%	8%	9%	9%	7%	7%	8%	8%	8%
2020年度	外来件数	972	922	1118	1097	1107	1072	1195	1081	1081	960	945	12,654
	入院件数	123	147	164	162	163	151	169	144	154	146	127	1,784
	地域医療室	52	39	54	78	73	81	106	102	103	73	79	952
2020年度合計	1147	1108	1336	1337	1343	1304	1470	1327	1338	1179	1151	1350	15,390
2020年度地域医療室利用率	5%	4%	4%	6%	5%	6%	7%	8%	8%	6%	7%	8%	6%

◆核医学検査件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2019年度合計	56	51	47	43	45	46	55	48	60	59	49	53	612
2019年度地域医療室件数	8	7	4	6	5	8	4	5	13	4	5	7	76
2019年度地域医療室利用率	14%	14%	9%	14%	11%	17%	7%	10%	22%	7%	10%	13%	12%
2020年度合計	59	40	52	54	46	52	50	57	54	54	43	55	616
2020年度地域医療室件数	5	3	5	6	3	5	5	9	4	10	9	7	71
2020年度地域医療室利用率	8%	8%	10%	11%	7%	10%	10%	16%	7%	19%	21%	13%	12%

◆腹部血管造影装置

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2019年度(人)	19	9	11	16	19	16	17	17	6	11	14	21	176
2020年度(人)	12	14	19	14	14	18	16	17	9	7	13	7	160

◆心臓血管造影装置(ペーシング含む)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2019年度(人)	30	33	27	41	19	28	29	33	30	32	27	22	351
2020年度(人)	34	24	27	25	29	32	32	33	39	35	23	36	369

放射線治療 2020年度の件数

症例件数	
脳・脊髄腫瘍	0
頭頸部腫瘍(甲状腺腫瘍含む)	8
食道癌	4
肺癌・気管・縦隔腫瘍(うち肺)	31(20)
乳癌	134
肝・胆・膵癌	12
胃・小腸・結腸・直腸癌	15
婦人科腫瘍	2
泌尿器系腫瘍(うち前立腺癌)	44(35)
造血器リンパ系腫瘍	22
皮膚・骨・軟部腫瘍	1
原発不明癌	3
良性疾患	0
合計	276

2020年度放射線治療稼働実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
診察件数	初診	23	20	17	26	17	19	23	23	15	22	25	22	252
	再診	236	205	238	209	214	227	225	201	260	186	185	210	2596

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
診察件数	外来	255	211	245	209	207	218	235	197	259	204	194	214	2648
	入院	4	14	10	26	24	28	13	27	16	4	16	18	200

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
治療患者数	外来	428	360	451	312	325	365	382	354	426	294	336	357	4390
	入院	45	19	10	54	73	86	28	76	43	1	42	58	535

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
照射門数	外来	1501	1351	1608	1109	1268	1394	1466	1162	1382	952	1193	1372	15758
	入院	127	32	22	215	246	252	121	267	154	2	118	172	1728

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
治療計画CT 撮影件数		24	27	19	30	24	24	27	25	17	24	30	25	296

麻 酔 科

《概 要》

■ 組織・スタッフ

2020年度は9名のスタッフ構成

小野 まゆ（部 長）：日本麻酔科学会指導医・専門医、日本ペインクリニック学会専門医、
日本抗加齢学会専門医、日本緩和医療学会所属

森 梓（副部長）：日本麻酔科学会指導医・専門医、日本ペインクリニック学会所属

滝本 佳予（副部長）：日本麻酔科学会指導医・専門医、日本ペインクリニック学会専門医
日本区域麻酔学会認定医、日本緩和医療学会認定医

別府 曜子（副部長）：日本麻酔科学会専門医、日本ペインクリニック学会所属、

中田 由梨子（医長）：日本麻酔科学会専門医

神崎 由莉（医長）：日本麻酔科学会専門医、日本ペインクリニック学会専門医

神崎 亮（医員）：日本麻酔科学会専門医

吉藤正泰（医員）：日本麻酔科学会認定医、日本ペインクリニック学会所属

藤田三千恵（医員）：日本麻酔科学会認定医、日本ペインクリニック学会所属

■ 診療・業務概要

術前診察に重点を置きより安全に、又積極的に神経ブロックを取り入れ、より質の高い麻酔管理を目指しています。ペイン外来においても最先端の技術をもって、疼痛コントロールに努めています。

【麻酔部門】

予定手術の全例を麻酔科医による術前外来を受診していただき、より安全・快適な麻酔管理を目指しています。また、ペインクリニック認定施設の特徴を活かし、多様な神経ブロックの併用、術後 PCA なども用い、術中・術後の痛みをできるだけ軽減するよう努めています。

【ペイン外来】

硬膜外ブロックをはじめ、腕神経叢ブロック、頸部神経根ブロック、星状神経節ブロック、肩・膝・股関節ブロック、三叉神経ブロック、神経根ブロック、椎間板ブロック、内臓神経ブロックなど、X線透視下・超音波ガイド下で局所麻酔薬やステロイドを用いたブロック、高周波熱凝固、アルコールブロックなど、様々な神経ブロックを行っています。

【主な疾患】

頭痛、顔面痛、三叉神経痛、肩関節周囲炎、肩板断裂、頰椎症性神経根症、頰椎椎間板ヘルニア、肋間神経痛、腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、仙腸関節症、梨状筋症候群、帯状疱疹後神経痛、ASO や Burger 病などの血流障害の痛み、CRPS、幻肢痛、脳卒中後の痛みなどの難治性疼痛、癌性疼痛など専門的な治療を受けていただくことが可能です。痛みのほか顔面・眼瞼痙攣、頰性斜傾、漢方薬による便秘や冷え症、更年期症状などのコントロールも行っています。

《実績》

■ 統計実績

手術室での麻酔科管理症例は合計 2,435 件であった。

(全身麻酔 1,922 例、脊椎麻酔 691 例、緊急手術 1,218 例)

手術室で 2,434 例、ペインクリニック外来で 3,864 例の神経ブロックを施行した。

○手術室での超音波ガイド下神経ブロック

腹直筋鞘ブロック 1,060 例、腹横筋膜面ブロック 1,054 例、腰神経叢 30 例、
腕神経叢ブロック 55 例、浅頸神経叢ブロック 3 例、傍脊椎腔ブロック 15 例、
肋間神経ブロック 23 例、大腿神経 35 例、大腿神経カテーテル留置 22 例、
坐骨神経ブロック 67 例、外側大腿皮神経ブロック 19 例、閉鎖神経ブロック 56 例、
PENG ブロック 8 例、腸骨筋膜下ブロック 2 例の合計 2,449 例施行した。

○ペインクリニック外来における神経ブロック

硬膜外ブロック 1,356 例、腕神経叢ブロック 85 例、頸部神経根ブロック 330 例、
星状神経節ブロック 100 例、腰部神経根ブロック 324 例、頸部神経根ブロック 330 例、
肩ブロック 176 例、上肢ブロック 57 例、下肢ブロック 178 例、胸腹壁ブロック 26 例、
背部ブロック 200 例、トリガーポイントブロック 379 例、三叉神経末梢枝ブロック 19 例、
肋間神経ブロック 67 例、椎間関節ブロック 260 例、神経根ブロック 324 例、
椎間板ブロック 42 例、傍脊椎ブロック 129 例、頭頸部ブロック 64 例、関節内ブロック 21 例、
ボトックス 6 例など合計 3,864 例の神経ブロックを施行した。

初期臨床研修医の麻酔科研修 5 名、池田市消防本部の依頼で救命救急士 4 名の挿管実習を受け入れた。

■ 学術業績

□原 著

著 者	題 名	雑誌名、巻号
Kayo Takimoto, Mayu Ono	Efficacy of Erector Spinae Plane Block for Back Pain Referred from Visceral Pain in the Palliative Care Setting	Pain Medicine Case Reports2020; 4(2): 65-9.

□学会発表

発 表 者	演 題 名	学会名、会場、日時
滝本 佳予、吉野 葵	緩和ケア病床のない一般病院での苦痛緩和のための鎮静の現状と今後の展望	第 25 回緩和医療学会学術大会 Web 学会 2020/8/9-10
別府 曜子、武田 勇毅、神崎 由莉、 滝本 佳予、森 梓、小野 まゆ	乳がん術後の遷延痛と診断されていた急性胆嚢炎の 1 例	日本ペインクリニック学会第 1 回関西支部学術集会 Web 開催 2020/11/7
別府 曜子、井原 稔文、武田 勇毅、 神崎 由莉、滝本 佳予、森 梓、 小野 まゆ	神経ブロック直後に意識障害を来したアシクロビル脳症の 1 例	日本ペインクリニック学会第 54 回学術集会 Web 開催 2020/11/14-15

発 表 者	演 題 名	学会名、会場、日時
吉野 葵、滝本 佳予、江田 香代子、 松本 保子、木下 亨、立川 琴羽	症状緩和を目的とした放射線療法を受ける 患者への緩和ケアチーム介入の現状と今後 の展望	第 35 回日本がん看護学会学術集会 Web 開催 2021/2/27

□研究会・講演会発表

発 表 者	演 題 名	学会名、会場、日時
滝本 佳予	緩和医療分野での末梢神経ブロック	九州超音波麻酔アカデミー第 1 回ウェブ セミナーfrom 大分 LIVE 配信 2020/9/26
滝本 佳予	痛みへの早期からのアプローチ	池田ペインコントロール医療連携 WEB セミナー 2021/2/25
滝本 佳予	診断から看取りまで、地域における急性期病 院に求められる緩和ケア	第 14 回和歌山県がんの痛みを考える 会 LIVE 配信 2021/3/11

■ 研修・教育活動

指 導 者・講 師	内 容	実 習 名・日 時
滝本 佳予	企画責任者、ファシリテーター	第 5 回市立池田病院緩和ケア研修会 2020/9/26
滝本 佳予	ファシリテーター	日本生命病院緩和ケア研修会 日本生命病院 2021/2/27

歯科・歯科口腔外科

《概要》

■ 組織・スタッフ

雨河 茂樹（部長）：

日本口腔外科学会専門医、日本口腔科学会認定医、
日本口腔腫瘍学会所属、日本頭頸部癌学会所属、
日本がん治療認定医機構がん治療認定医（歯科口腔外科）

小川 芙美（副部長）：

日本口腔外科学会専門医、日本口腔科学会認定医、日本口腔ケア学会所属、
日本癌学会所属、日本がん治療認定医機構がん治療認定医（歯科口腔外科）

須澤 佳香（医長）

日本口腔外科学会所属、日本癌治療学会所属、日本口腔腫瘍学会所属、
日本化学療法学会所属、日本口腔感染症学会所属、日本感染症学会所属、
日本睡眠歯科学会所属、日本バイオマテリアル学会所属

佐藤 桂子（専攻医）

日本口腔外科学会認定医

26年の長きにわたり診療科長の労をとられ、当院の口腔外科診療の発展と口腔ケアの推進に大いに貢献された大西徹郎歯科医師が令和2年3月末で退職され、4月より雨河、小川、須澤、佐藤の4名の新体制で診療を担当しています。

■ 診療・業務概要

【外来部門】

1 はじめに

令和2年度の当科の外来部門は歯科医師常勤2名、常勤嘱託医2名に加えて前年度と同様に厚生労働省の歯科医師卒後研修（単独）卒後研修医1名の5名体制で外来診療や入院診療（手術）および口腔ケアセンターの業務に従事しています。

歯科衛生士は6名体制で、外来診療業務をはじめ、口腔ケア業務（詳細は口腔ケアセンターのページを参照）にあたっています。また歯科技工士は1名で口腔がん切除後の顎補綴や、入院患者の義歯の作成・修理、気管内挿管時の歯の破折予防のための口腔内装置の作成などを担当しています。

2 診療内容

当科では口腔外科疾患全般を幅広く診療しています。本年度から地域医療連携をより推進するため、初診を紹介患者に限定（急患は除く）しました。また新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、昨年度の初診患者数は3,988名で前年より1,141名（21%）減少しました。初診患者の居住地別分類は図1に示すように池田市、川西市がほぼ同数で74%を占めています。

紹介患者数は表1のとおりで、昨年度は2,432名、紹介率は60.9%でした。

3 疾患内容に関して

疾患内容および外来手術件数は表2の通りです。初診患者数の減少が影響し前年度より225件減少しました。しかしながら入院手術が必要な症例は増加しており北摂、阪神北地区において、引き続き良好な病診連携体制が構築できているものと思われま

【入院部門】

診療内容

入院手術件数は近年増加傾向にあり、本年度は291件と前年度と比較して32件増加しました。疾患別は表3の通りですが、昨年同様に歯根嚢胞、顎骨腫瘍、智歯などの抜歯、舌癌などの口腔悪性腫瘍の手術が増加傾向にあります。

《実績》

■ 統計実績

図1 初診患者居住地別分類

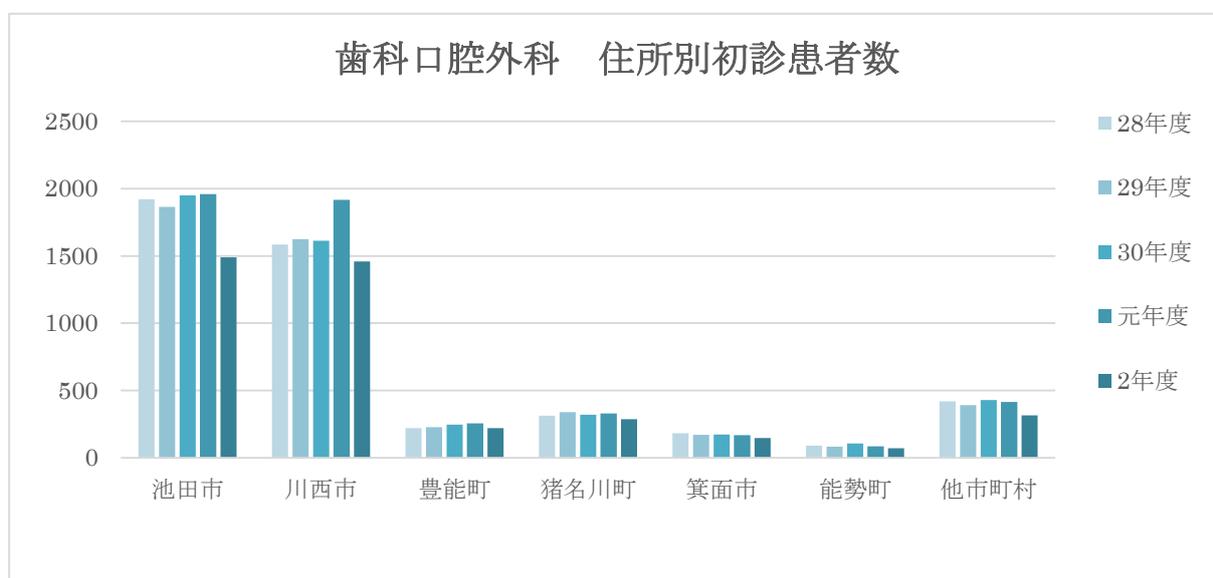


表1 初診患者紹介元分類

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
市内歯科医院から	1,060	1,019	997	1043	777
市外歯科医院から	1,461	1,457	1,445	1,631	1,407
その他の医院、診療所から	270	266	363	402	248
小計	2,791	2,742	2,805	3,076	2,432
紹介率 (%)	59.8	58.3	58.0	60.0	60.9

表 2 外来手術件数(単純抜歯は除く)

外来手術	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
埋伏歯手術	1,078	1,032	1,140	977	1,040
難抜歯手術	741	529	553	550	452
歯根嚢胞摘出術	185	194	321	393	268
歯根端切除術	25	16	17	26	22
歯肉歯槽腫瘍手術	9	14	9	10	17
口腔内外消炎手術	109	77	81	74	58
舌腫瘍摘出術	15	16	17	27	21
頬粘膜腫瘍摘出術	1	5	6	11	6
顎骨腫瘍摘出術	37	37	50	50	37
口唇、舌小帯形成術	23	15	13	10	7
口唇腫瘍摘出術	30	29	17	33	38
腐骨除去術	27	47	42	38	27
ガマ腫切開術	2	6	1	2	4
唾石摘出術	4	5	4	7	3
歯槽骨骨折非観血的整復術	7	2	2	2	4
下顎骨骨折非観血的整復術	7	11	6	9	3
上顎骨骨折非観血的整復術	0	1	1	0	0
歯科インプラント摘出術	4	5	6	5	4
その他(開窓術など)	113	51	37	50	38
計	2,417	2,092	2,323	2,274	2,049

表3 入院手術件数(主たる手術の症例数のみ)

入院手術件数	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
外傷関連手術					
下顎骨骨折	0	4	5	2	1
頬骨上顎骨骨折	1	0	0	0	2
抜釘術	2	2	3	4	0
嚢胞、良性腫瘍関連					
歯根嚢胞	11	12	15	41	29
顎骨腫瘍	48	55	51	64	65
口蓋腫瘍	2	2	1	2	4
その他の良性腫瘍	3	0	3	1	0
術後性上顎嚢胞	2	4	3	1	1
悪性腫瘍関連					
上顎歯肉癌	1	6	2	6	2
下顎歯肉癌	5	1	5	4	4
舌癌	6	11	9	13	15
口底癌	1	0	0	0	0
頬粘膜癌	2	0	1	1	2
口唇癌	0	0	0	0	0
その他	7	3	6	9	9
抜歯関連	40	56	68	84	89
炎症関連					
歯性上顎洞炎	0	0	0	0	0
消炎手術	4	2	7	6	8
骨髄炎関係	5	0	0	0	3
唾液腺関連					
唾液腺腫瘍	3	2	2	4	3
唾石	2	3	2	3	1
その他(顎変形症、先天異常等)	2	18	30	14	53
計	147	181	213	259	291

■ 学術業績

□学会発表

発表者	演題名	学会名、会場、日時
櫃ノ上 満大、須澤 佳香、小川 芙美、佐藤 桂子、雨河 茂樹	ミトコンドリア病患者に対して顎下腺摘出術を行なった1例	第51回日本口腔外科学会近畿地方会 大阪市 Web ハイブリッド開催 2020/6/7
岩下 亜未、雨河 茂樹、佐々木 好幸、鈴木 瞳、吉田 直美	某中規模病院における周術期患者の全身状況・生活習慣および口腔内状況の探索研究	第15回日本歯科衛生学会・学術大会 日本歯科衛生学会雑誌 Vol.15 No.1による誌上開催
小川 芙美、須澤 佳香、佐藤 桂子、古川 由紀子、雨河 茂樹	急性骨髄性白血病の寛解期に口腔内に生じた骨髄肉腫の1例	第65回日本口腔外科学会総会・学術大会 名古屋市 Web ハイブリッド開催 2020/11/13-15
須澤 佳香、小川 芙美、佐藤 桂子、雨河 茂樹	口蓋隆起部に発生した扁平上皮癌に対し、上顎前歯部の骨切り術を用いて切除した1例	第65回日本口腔外科学会総会・学術大会 名古屋市 Web ハイブリッド開催 2020/11/13-15
雨河 茂樹、小川 芙美、須澤 佳香、佐藤 桂子、古川 由紀子	当科における過去15年間の口腔扁平上皮癌患者の臨床統計的検討	第65回日本口腔外科学会総会・学術大会 名古屋市 Web ハイブリッド開催 2020/11/13-15
古川 由紀子、雨河 茂樹、小川 芙美、佐藤 桂子、須澤 佳香、櫃ノ上 満大	生物学的製剤使用中に発生した骨吸収抑制剤関連顎骨壊死に対し、腐骨除去を行なった1例	第32回日本口腔科学会近畿地方部会 Web 開催 2020/12/5

□研究会・講演会発表

発表者	演題名	学会名、会場、日時
雨河 茂樹	菌性感染症を攻略しよう ～みえる わかる なおる～	池田市歯科医師会学術講演会 池田市 Web ハイブリッド開催 2020/8/8

病理診断科

《概要》

■ 組織・スタッフ

医師：大橋 寛嗣（部長）：日本病理学会病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医

技師：向井 英代技師長（細胞検査士）、河合 賢技師次長（細胞検査士）、岩城 真理子技師（細胞検査士）、石田 圭子技師（細胞検査士）、大塚 真弓技師（細胞検査士）

■ 診療・業務概要

組織診断—生検材料や手術材料を組織標本として作製し診断する。

術中迅速診断—手術中に摘出された臓器・組織を液体窒素で凍結して標本を作り、病変断端の診断や悪性腫瘍の転移の有無などの診断。（近隣施設より業務委託有り）

細胞診—尿、胸腹水など液状検体、喀痰、婦人科子宮スミア、乳腺や甲状腺などの穿刺細胞診の標本作製から診断。

病理解剖—病変の広がりや治療効果の有無など、担当医が疑問に思う事柄を形態学的に追及する。

《実績》

■ 統計実績

1. 2020年度月別件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
組織診外来	202	156	320	302	260	273	371	292	288	256	241	311	3,272
組織診入院	193	153	189	224	200	235	243	212	257	190	159	224	2,479
細胞診外来	338	336	517	433	447	495	531	450	480	409	429	581	5,446
細胞診入院	84	71	97	75	88	90	98	84	87	61	85	93	1,013
合計	817	716	1,123	1,034	995	1,093	1,243	1,038	1,112	916	914	1,209	12,210

2. 病理診断年度別件数

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
組織診	4,717	5,119	5,042	5,506	6,028	6,485	5,751
細胞診	5,832	6,035	6,458	6,440	6,463	6,390	6,459
合計	10,549	11,154	11,500	11,946	12,491	12,875	12,210

3. 他院術中迅速細胞診断件数 2020年4月～2021年3月 0件

4. 2020 年度 剖検一覽

年齢	性別	出所	剖検施行日	臨床診断	剖検診断
80	M	血液内科	2020 年 9 月	平滑筋肉腫	肺扁平上皮癌、肉腫様癌の他臓器転移、 肺腺癌、前立腺癌
73	M	呼吸器内科	2020 年 12 月	肺癌	肺腺癌、胸水、間質性肺炎、肺気腫、 陳旧性心筋梗塞

臨床検査科

《概要》

■ 組織・スタッフ

医師：森山 康弘主任部長、米沢 毅臨床検査医

技師：越知技師長以下 25 名 2020 年 4 月 1 日現在

(正規職員 19 名、月額職員 2 名、日額職員 1 名、時間給職員 1 名、派遣職員 1 名、技能員 1 名)

- ・正規職員 1 名は育児休暇中
- ・日額職員の 1 名は終日採血業務（月曜日から木曜日の勤務）
- ・派遣職員の 1 名は産休要員

外部委託検査業者常駐員（午後 12：00～）1 名

●資格・認定取得（複数取得者あり）

超音波検査士（血管領域）	3 名	認定血液検査技師	1 名
超音波検査士（循環器領域）	5 名	認定輸血検査技師	2 名
超音波検査士（消化器領域）	1 名	血液二級臨床検査士	2 名
超音波検査士（泌尿器領域）	1 名	緊急臨床検査士	2 名
超音波検査士（体表領域）	1 名	糖尿病療養指導士	2 名
超音波検査士（健診領域）	1 名	臨床工学技士	2 名
血管診療技師	2 名	二級甲類臨床病理技術士(循環生理学)	1 名
認定心電図技師	2 名	第二種 ME 技術認定士	2 名

●所轄する委員会：臨床検査科運営委員会、輸血療法委員会

■ 診療・業務概要

【検体検査】

- 生化学・免疫：一般生化学、腫瘍マーカー、ホルモン、ウイルス抗体価、ウイルス抗原検査、他
- 血液：血算、血液像、骨髄像、止血、他
- 一般：検尿、便潜血、穿刺液、他
- 細菌：一般細菌、抗酸菌、各種迅速検査、PCR 検査、他
- 輸血：血液型、交差適合試験、不規則抗体、直接クームス、血液製剤管理、他

【生理検査】

- 心電図、ホルター心電図、超音波(心臓・頸動脈・上肢・下肢血管・腎動脈・アキレス腱)、トレッドミル、脳波、呼吸機能、ABI/CAVI、神経伝導速度、ABR、ASSR、InBody 検査、他
 - <時間外緊急検査> 生化学、免疫、血液、止血、一般、輸血、細菌(迅速)等の緊急対応項目
 - <外注委託検査> SRL(関西・八王子ラボ)、LSI メディエンス、保健科学、BML
 - <治験検査> 検体採取管の確認と検体の分離・保存・管理
- 従来全 4 社で対応していた外注業者を、今回新規入札でほぼ 1 社(SRL)へと一本化する事でコスト削減と外注依頼確認作業の簡素化を実現した。

新型コロナウイルス感染症の増加に伴い、検査室では PCR 検査装置とルミパルス検査装置を新規に導入した。特に PCR 検査件数の増加が著しく、現状人員のみでは対応困難な状況に陥った為、採血人員を増員して、従来までの採血担当者を検体検査や PCR 検査に割り当て急遽対応した。

院内での新型コロナウイルスの検体採取人員の不足に対応する為、13 時以降生理検査室人員で対応するようにした。

従来まで看護部主体で管理していた採血室を臨床検査科で運営することが決定した。来年度は、採血台と採血管準備装置を新たに導入し、レイアウトも患者様の導線を考慮して変更予定。加えて無人自動受付機の導入、予約採血システムへと移行して無駄を省いた効率的な採血室業務の運営を目指す。

来年度も臨床検査科として病院全体の運営を考え、柔軟に対応していきたい。

《実績》

■ 統計実績

<外来・入院別件数>

	月	一般	血液	生化学	細菌	輸血	生理	合計
	外 来	4	25,526	30,106	94,211	1,523	836	1,078
5		24,016	29,175	90,693	1,491	768	1,017	147,160
6		30,148	35,631	112,204	1,725	1,251	1,486	182,445
7		29,848	36,149	107,547	1,813	1,185	1,438	177,980
8		28,661	34,051	106,103	2,083	1,195	1,401	173,494
9		30,468	35,517	113,962	1,981	1,141	1,436	184,505
10		31,572	37,923	118,891	2,119	1,460	2,037	194,002
11		28,525	33,553	105,656	1,909	1,199	1,525	172,367
12		29,703	33,940	109,083	1,913	1,188	1,405	177,232
1		27,479	31,790	102,391	1,900	1,028	1,420	166,008
合 計	2	25,774	29,622	95,267	1,556	991	1,280	154,490
	3	31,074	36,525	117,762	951	1,165	1,705	189,182
	合計	342,794	403,982	1,273,770	20,964	13,407	17,228	2,072,145
	月	一般	血液	生化学	細菌	輸血	生理	合計
	入 院	4	2,773	14,632	37,480	871	304	308
5		2,695	13,529	33,848	894	366	303	51,635
6		3,499	15,712	39,659	959	386	301	60,516
7		3,316	16,178	40,407	941	413	299	61,554
8		2,803	16,040	40,255	933	360	295	60,686
9		2,974	16,117	40,627	884	438	338	61,378
10		3,581	16,721	41,513	1,092	434	463	63,804
11		2,967	16,685	41,947	910	485	287	63,281
12		3,314	16,850	42,378	1,008	437	335	64,322
1		2,932	13,463	34,905	1,027	307	313	52,947
2		2,054	11,784	28,578	1,017	272	211	43,916
3		2,929	14,909	38,090	1,436	424	333	58,121
合 計		合計	35,837	182,620	459,687	11,972	4,626	3,786
総 合 計	合計	378,631	586,602	1,733,457	32,936	18,033	21,014	2,770,673

<年度別件数>

	尿・糞便	血液	生化学	細菌	輸血	生理	合計
2016	398,219	593,111	1,754,387	39,073	15,114	22,064	2,821,968
2017	404,842	597,804	1,755,374	38,352	15,653	23,603	2,835,628
2018	387,218	597,873	1,752,288	36,481	16,832	25,301	2,815,993
2019	381,492	612,231	1,812,836	38,080	17,966	23,672	2,886,277
2020	378,631	586,602	1,733,457	32,936	18,033	21,014	2,770,673

<判断料・加算>

項目	算定料	件数	金額
時間外緊急院内検査加算	1,100	1,318	1,449,800
検体検査管理加算（Ⅰ）	400	57,416	22,966,400
検体検査管理加算（Ⅳ）	5,000	7,273	36,365,000
血液化学検査入院初回加算	200	5,998	1,199,600
外来迅速検体検査加算	100	42,670	4,267,000
骨髓像診断加算	2,400	350	840,000
輸血管理料Ⅰ	2,200	1,197	2,633,400
輸血適正使用加算Ⅰ	1,200	1,197	1,436,400
貯血式自己血輸血管理体制加算	500	92	46,000
嫌気培養加算	1,150	5,672	6,522,800
生化学的検査（Ⅰ）判断料	1,440	57,007	82,090,080
生化学的検査（Ⅱ）判断料	1,440	23,102	33,266,880
免疫学的検査判断料	1,440	54,153	77,980,320
血液学的検査判断料	1,250	56,752	70,940,000
尿・糞便等検査判断料	340	21,578	7,336,520
微生物学的検査判断料	1,500	15,221	22,831,500
呼吸機能検査判断料	1,400	2,622	3,670,800
脳波検査判断料	1,800	267	480,600
神経・筋検査判断料	1,800	688	1,238,400
合計			377,561,500

〈自主研究(消化器内科)〉

	名	件		
EBR/GZR	5名	10件	→	3本に分注し凍結保存
GLE/PIB	48名	100件	→	3本に分注し凍結保存
VEL/SOF	2名	4件	→	3本に分注し凍結保存
HCV コアジエノ(マヴイレット)	12名	12件	→	依頼書作成し検査提出

血清保存

血清保存1本	11名	11件	→	2本に分注し凍結保存
血清保存2本	20名	21件	→	4本に分注し凍結保存
血清未開栓保存1本	2名	7件	→	遠心後凍結保存

治験

治験外注	5名	57件
自主臨床 NY-ESO-1 保存用	7名	14件
自主臨床	21名	23件

■ 学術業績

□学会発表

発表者	演題名	学会名、会場、日時
越知 博之、古川 哲生、衣川 尚知、山本 毅、井手本 明子、柴本 将人、二宮 智紀、北川 元昭、永井 邦彦	腹部大動脈周囲に巨大腫瘤認め超音波検査で難治した一例	第45回日本超音波検査学会学術集会 場所:オンデマンド配信 2020年12月19日
衣川 尚知、越知 博之、古川 哲生、永井 邦彦、井手本 明子、北川 元昭、二宮 智紀、柴本 将人	MRSAによる感染性心内膜炎の1例	第45回日本超音波検査学会学術集会 WEB 2020/12/19-20

□研究会・講演会発表

発表者	演題名	学会名、会場、日時
兒谷 香里	これでバッチリ検体採取 ～適切な検体採取で感染症をサポート～	AST 主催勉強会 市立池田病院 2020/11/26

■ 研修・教育活動

【院内活動実績】

- 糖尿病教育入院<検査について>講義：毎週木曜日（15時～16時）
- ICT ラウンド：毎週水曜日（9時45分～11時30分）
- AST カンファレンス毎週火曜日、木曜日
- NST ラウンド：毎週木曜日（13時～14時）
- NST 専門療法士研修（外部実習生）講義：年2回（春、秋）
- 臨床検査技師学校学生臨地実習：2校
 - 森ノ宮医療大学：2名（10/1～11/30 9週間：41日間）
 - 神戸常盤大学：2名（1/12～3/8 8週間：38日間）
- 薬剤部実習生見学：年3回（4名、1時間）

【2020年度外部精度管理サーベイ評価】

- 日本臨床検査技師会（評価項目数:236） 99.2点
- 日本医師会（評価項目数:50） 97.6点
- 日本超音波検査学会超音波画像（心臓・血管）A評価

《概要》

■ 組織・スタッフ

平成 27 年 4 月から院内標榜であるが精神科が設置された。
令和 2 年度は常勤医師中島陽の 1 名体制で診療を行っている。

中島 陽：日本精神神経学会認定指導医・専門医・認知症診療医、精神保健指定医、
認知症サポート医、公認心理師

■ 診療・業務概要

外来診療は、月曜日の午後診察を担当している。外来診療は標榜していないこともあり、原則として入院中に精神科医師が対応した患者の退院後のフォローを行うものとし、外来での初診は対応していない。身体疾患のために当院精神科でなければ対応が困難な患者は継続通院としているが、それ以外の患者は地域への逆紹介を進めている。

入院診療は、当科による入院、すなわち精神疾患による入院は行わないが、身体疾患のために入院した患者の精神症状・精神疾患に対し、主科と連携して加療する。病状や緊急性により、精神科リエゾンチームや認知症ケアチーム、緩和ケアチームを介して対応する場合と、精神科医単独で介入する場合がある。

緩和ケアチームでは精神科の専任として上記医師が関わっている。がん患者や慢性身体疾患患者のせん妄や抑うつに対して専門性を生かし相談者に対して助言や指導を行っている。また、精神症状がみられる患者に対しては適宜精神療法を行っている。

認知症ケアチームでは、認知症患者や高齢者のせん妄予防、治療について相談者に対して助言と指導を行っている。

平成 29 年度から、池田市の認知症初期集中支援チームの活動では上記医師が認知症サポート医として認知症の診断、治療に関わっている。

《実績》

■ 統計実績

	R2 年度	R1 年度	H30 年度	H29 年度
外来患者数	379	425	457	375
入院精神療法(Ⅰ)	173	121	187	184
入院精神療法(Ⅱ)(6か月以内)	741	736	733	672
救急搬送後3日以内に入院精神療法を算定した件数	40	29	67	47

■ 学術業績

□ 研究会・講演会発表

発 表 者	演 題 名	学会名、会場、日時
中島 陽	「認知症の医学的理解」 ～オレンジパートナー養成講座～	池田市事業 介護者向け講演会 池田市保健福祉総合センター 2020/9/9

救急総合診療部

《概要》

■ 組織・スタッフ

日勤帯は専従医師 2 名、兼務ではあるが総合内科医 1 名、そして臨床研修医 2-3 名、看護師 6 名で診療に当たっています。夜間診療は各科の責任のもと、救急外来を中央部門として、内科系医師 1 名、外科系医師 1 名、循環器内科医師 1 名、産婦人科医師 1 名、初期研修医 1 名、看護師 2 名により診療が行われています。また、金曜日、日曜日（1、3、5 週）は小児科医師が豊能広域こどもセンターの輪番病院として当直をしています。

■ 診療・業務概要

当院は 2 次救急指定病院で、主な診療科は内科、外科、小児科（平日昼間・夜間は輪番日）、産婦人科となっています。昼間は専従の医師 2 名を配置し、夜間は内科系、外科系、循環器内科、産婦人科当直医により診療が行われています。救急総合診療部では救急車の受け入れ、時間外の救急受診患者、通常の外来を受診され緊急性が高いとトリアージされた患者さまの初期診療を行っています。診療にあたっては、必要に応じて各専門科と連携し、引き続き専門的な診療・治療が必要と判断された場合は、各専門科の入院加療または外来通院へ繋げていきます。また、重症肺炎、重症感染症、全身状態が不良の方の緊急手術など集中治療を要する場合は適時高次医療機関への転送も行っています。

内科系は、緊急対応が必要と考えられる症状を有する患者さまの診療を優先的に行います。外科系は、一般外傷（重症外傷は高次対応をお願いしています）の診療を行っています。

令和 2 年度は、COVID-19 の疑いを常に意識したトリアージと、それに伴う診療の場の需要が高くなり IC ルームを造設（計 4 室）しました。救急初療室として感染対策を整備した対応を行っています。

《実績》

■ 統計実績

病院統計＜業務概要 - 患者状況＞を参照

■ 研修・教育活動

令和 2 年度は、COVID-19 の影響もあり、例年通りの集合研修を開催することが困難な状況でした。診療に必要な PPE の着脱の指導を行い、感染対策をしながら IC ルームの診療を行うことができるようにしています。研修では、環境や感染に注意して DC や挿管困難事例の勉強会を行いました。初期研修医を中心に毎週金曜日勤務終了後には ICLS の教育を行っています。また、多くの方が参加できることを目的に、各部署単位の勉強会として、ミニ ICLS、急変時の対応（ラピッドレスポンス）などを行っています。初期研修医に対しては、毎週水曜日の朝に救急症例検討会が行われており好評です。

《概要》

■ 組織・スタッフ

中央手術部部長：太田博文（消化器外科主任部長）

看護師長：竹原陽子

主任看護師：小屋幸子、高雲奈津美、越智貴子

手術看護認定看護師：佐伯部紀子（～2020年7月）、脇本英昭

手術室を利用する各診療科医師、管理課、感染対策部、医療安全、臨床工学技士など多職種をメンバーとする中央手術部運営会議を毎月実施している。

■ 診療・業務概要

1) 安全かつ効率的な手術室の運用

WHO手術安全チェックリストを用いて、執刀医による患者氏名・予定術式・手術部位・予想出血量・予定手術時間などの宣言を実施し、手術チームメンバー間での情報共有を図って安全な手術の提供を行っている。手術部内のさまざまなインシデントは中央手術部運営会議で毎月内容を検討し再発予防に努めている。

効率的な手術室の運用については、中央手術部運営会議で手術実績に基づき手術枠の変更、および特定の診療科に固定で割り振らず、希望した診療科に振り当てる「オープン枠」を適宜設定している。

2) 急性期医療への対応と人材育成

断らない救急及び手術につながる質の高い急性期医療の提供を目指し、夜勤体制で時間外緊急手術への迅速な対応と、夜間の救急外来勤務を実施している。また、高度化、複雑化する急性期医療の変化に対応できる看護師の育成を手術室ラダーに基づき計画的に推進している。新卒看護師の配置も5年目を迎え、手術室看護師の平均年齢は34歳となった。教育体制の基盤の整備も進んでおり、若い世代の看護師のさらなる成長と活躍を期待している。

3) 手術室における COVID-19 対応の実際

2020年4月7日、大阪府など7都道府県に緊急事態が出され当院にも COVID-19 陽性患者の受け入れ要請があり、当部署もすみやかに COVID-19 マニュアルの作成を行った。手術室での感染のリスクを低減させるため、人工呼吸器に使用するフィルターの性能をレベルの高いものに変更し、さらに電気メス使用時の排煙を吸引できる電気メスや、口腔内手術時に発生するエアロゾルを吸引する装置を導入した。術前からのスクリーニングに加え、手術室入室前には体温が37度以上の場合は対応を慎重に検討した。そのうち4件は COVID-19 マニュアルにそって対応した。

また、COVID-19 病棟で挿管が必要となった際は麻酔科医と共に応援に出向いた。およそ30件の挿管が実施され、うち初期に行われた9件は手術室看護師が介助をおこなった。手術室看護師の挿管介助スキルを活用し、重症患者の迅速な治療開始に貢献することができた。

《実績》

■ 統計実績

手術件数と全身麻酔件数について

2020年度の手術件数は総数4,822件、全身麻酔の件数は1,922件、緊急手術の件数は274件であった。口腔外科、耳鼻科等関連学会からの指針により予定手術の制限があったが、緊急手術は断ることなく実施した。

手術件数と全身麻酔件数について

診療科	2020年度（2020年4月～2021年3月）		
	合計	全身麻酔	その他の麻酔
消化器外科	793	624	169
乳腺・内分泌外科	151	98	53
呼吸器外科	59	59	0
形成外科	692	51	641
整形外科	731	414	317
泌尿器科	698	198	500
耳鼻咽喉科	171	154	17
腎臓・消化器内科	61	2	59
産婦人科	379	159	220
眼科	807	2	805
口腔外科	188	161	27
総計	4,822	1,922	2,900



■ 研修・教育活動

院内講師

指 導 者	研 修 テーマ	対 象 ・ 月 日
脇本 英昭	新人職員研修 「手術看護について」	市立池田病院 新人看護職員 2020/8/7

臨床研修部

医師(医科・歯科)臨床研修

I. 初期研修

《概要》

■ 組織・スタッフ

臨床研修部 部長：福田和人、岡田拓也、事務：山本朗央、上保美由紀、西山サチコ
初期臨床研修医 研修医1年目 7名(大阪大学コース2名)、研修医2年目 6名
研修医1年目(R2) 安里美夕里、大川芹、佐々木美雪、東野克温、橋本拓人、
吉田侑佳、山路修平
大阪大学医学部附属病院(協力型研修病院—大阪大学コース)
吉川長伸、板持秀晃
研修医2年目(R1) 奥朝海、北中崇雄、佐野斎、杉町英香、住谷仁、水谷陽

<臨床研修管理委員会>

委員長：柴田邦隆(病院長)

副委員長：福田和人(副院長)

プログラム責任者：岡田拓也(臨床研修部、内分泌・代謝内科部長)

プログラム責任者補佐：上田真愉未(医療安全・質管理部)

基本診療科代表者：津川真美子(内分泌・代謝内科)、森山康弘(血液内科)、
橋本重樹(呼吸器内科)、梶原信之(腎臓内科)、井倉技(消化器内科)、
永井邦彦(循環器内科)、那波一郎(神経内科)、上岡孝人(総合内科)、
尾崎由和(小児科)、赤丸祐介(外科)、大河内敏行(整形外科)、井上均(泌尿器科)、
竹原幹雄(産婦人科)、雨河茂樹(歯科・歯科口腔外科)、吉良正浩(皮膚科)、
中川あや(耳鼻いんこう科)、小野まゆ(麻酔科)、藤田典彦(放射線科)、
大橋寛嗣(病理診断科)、伊藤基敏(救急総合診療部)

事務局代表：斎藤芳朗

看護部代表：満田昌代

薬剤部代表：下村一徳

コメディカル代表：関康

研修医1年目代表：安里美夕里

研修医2年目代表：佐野斎

協力型病院 実施責任者：澤滋(さわ病院)、原保夫(原クリニック)、

徳永正朝(公立種子島病院)、松永美佳子(千里ペインクリニック)、

芥川 茂(あくたがわクリニック)

外部委員：青木和男(元池田市立秦野小学校校長)、芥川茂(あくたがわクリニック)

■ 診療・業務概要

- 1 臨床研修管理委員会（年 4 回 6, 9, 12, 3 月の第 2 木曜日＋臨時で開催、歯科別途年 1 回）
基本診療科の代表に加え、医師以外の指導者（看護師、薬剤師、医療技術部技師、事務）代表、研修医 1 年目、2 年目代表各 1 名が参加。
指導医、研修医ごとの進捗状況について情報提供を受け、研修医ごとに研修進捗状況を把握し、改善すべき事項について話し合いを行った。
- 2 E P O C
多面的評価を行い研修の進捗状況をリアルタイムで把握した。
- 3 研修医ミーティング（月 2 回 毎月第 2, 4 月曜日 16:30～17:00 に開催）
連絡や相談、スケジュールの確認など。
- 4 内科カンファレンス（月 4～5 回 毎週火曜日 18:00～19:00）
担当研修医が病棟・外来で経験した症例を上級医の指導の下プレゼンテーションを行い臨床経験を共有できるようにした。
- 5 多職種のカンファレンスへの参加（月 1～2 回 不定期）
MRM（医療安全）NST（栄養管理）や ICT（感染制御）、ECC（倫理）地域連携などの横断的なチーム医療に対する理解を深めるため多職種カンファレンスへの参加を促進した。
- 6 臨床病理検討会（CPC）
2020 年度は 2 回開催。初期研修医が病理解剖に参加し、その症例の問題点を指導医とともに考察し、プレゼンテーションを行った。
- 7 学会発表
初期研修医は 1 年間 1 演題の学会発表を必須とした。

<2020 年度 主な年間活動等>

4 月 1 日	辞令交付式。初期研修医オリエンテーション
4 月 2 日～7 日	新採用初期研修医・職員に対して多職種合同オリエンテーション 新型コロナウイルス感染防止対策のため、人数を分けて座学中心に行った。 感染管理に関しては実習を行った。
4 月 6 日	On the job training を開始した。
4 月後半	当直業務を開始。 ER 型当直として内科系および外科系外来当直医師のサポートのもとに平日および休日の日当直業務を 3～4 回/月程度行った。
6 月 19 日、22 日	B L S 研修 研修医 2 年目がインストラクターとなり、新卒看護師、初期研修医を対象に行った。
6 月、7 月	学生・研修医向け病院説明会レジナビが新型コロナウイルスの影響のため中止となった。
8 月 1 日、7 日	初期臨床研修医採用試験「令和 3 年度採用マッチング試験」 医師、看護師、薬剤師の多職種で面接・評価を行った。31 名の応募から 8 名を採択。
10 月 12 日	秋の新規採用職員向け合同研修
12 月 4 日	倫理研修会「アドバンス・プランニングの実践」講師 浜辺先生

12月4日	感染症対応について「初期研修医向け感染症対応について」(実践) 講師 救急総合診療部 村上先生
12月10日	レジナビフェアオンライン関西 Week2020 に出展
1月～2月	研修医より進路などヒアリング。
1月25日～2月5日	池田市救急隊の協力のもと、臨床研修についてのアンケート調査を実施し、今後の資質向上と研修内容の改善を図った。
1月26日	日本医療教育プログラム推進機構(JMEP)主催の基本的臨床能力評価試験を実施。臨床能力の向上を自己確認することが出来た。
2月	「あなたのここがすばらしい」アンケート 研修医同士でお互いの良いところを認めあうことで、より一層チームワークを深め、研修への意欲を高めた。
3月6日	阪大内科系合同病院説明会オンラインに参加した。
3月23日	虐待への対応について 小児科 尾崎先生
3月23日	指導医、上級医、看護師、薬剤師、臨床検査技師ら多職種の投票によりベスト研修医(1年目、2年目)を選出し、医局会にて発表と表彰を行った。

《実績》

■ 職員研修 他 各種研修参加

1) 令和2年卒臨床研修医オリエンテーション(令和2年4月1日～7日)

4月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修プログラムについて ・研修理念について ・死亡診断書、死体検案書など診断書の書き方
4月2日	<ul style="list-style-type: none"> ・研修概要 ・メンタルヘルスについて ・市立池田病院の基本理念 ・地方公務員とは、労働者としての権利と義務 ・社会人としてのマナー、福利厚生について ・手術室研修 ・薬剤部研修 ・EPOCについて ・電子カルテ研修
4月3日	・診療科オリエンテーション
4月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・研修ローテーション開始 ・感染管理リスクマネジメント研修(講義)
4月7日	・感染管理リスクマネジメント研修(実習)

2) 令和2年度 臨床研修医 秋のオリエンテーション(令和2年10月12日)

- ・かかりつけ医から入院、そして在宅までの流れを知る
TPFM (Total Patient Flow Management)
- ・リスクマネジメント研修
- ・倫理研修「意思決定支援について」

3)その他の研修

- ・ B L S 研修、感染・M&Mカンファレンス、C V 穿刺シミュレーター研修、褥瘡対策チーム全体研修、D C ・挿管勉強会、虐待への対応、A C P、緩和ケア研修会など

4)令和2年度 臨床研修スケジュール

初期研修プログラム		※ (たすきは3/31まで)									
卒年		3	4/6-5/31	6/1-7/12	7/13-8/23	8/24-10/4	10/5-11/15	11/16-1/3	1/4-2/14	2/15-4/4	
R2	安里 美夕里		救急	呼吸器	総内/神経	消/血	救急	循環器	内分泌・腎	耳鼻科	
R2	大川 芹		救急	循環器	消/血	救急	産婦人科 10/5-	総外	内分泌・腎	総内/神経	呼吸器
R2	佐々木 美雪		内分泌・腎	総内/神経	救急	総外	産婦人科	呼吸器	救急	消/血	循環器
R2	東野 克温		救急	消/血	整形外科	循環器	救急	総内/神経	呼吸器	内分泌・腎	
R2	橋本 拓人		消/血	救急	内分泌・腎	救急	循環器	総外	外科 11/30	呼吸器	総内/神経
R2	吉田 侑佳		救急	内分泌・腎	呼吸器	総内/神経	消/血	救急	循環器	小児科	総外
R2	山路 修平		呼吸器	救急	循環器	救急	総内/神経	消/血	内分泌・腎	麻酔科 2/15-3/14	総外
R2	吉川 長伸	阪大たすき	総内/神経	循環器	救急	内分泌・腎	精神科 10/1-11/15	呼吸器	救急	総外	消/血
R2	板持 秀晃	阪大たすき	循環器	救急	外科	総内/神経	内分泌・腎	呼吸器	救急	消/血	

R1	奥 朝海	産婦人科	精神科	整形外科	皮膚科			放射線科					
R1	北中 崇雄	呼吸器	放射線科	総外	麻酔科	総外	精神科	皮膚科	外科	産婦人科	種子島	総合外来	放射線科
R1	佐野 斎	内分泌・腎	整形外科	総外	外科	産婦人科	総外	能勢町	精神科	麻酔科	皮膚科	総外	放射線科
R1	杉町 英香	総外	外科	総合外来	小児	麻酔科	種子島	整形外科	検査	総合外来	小児	総合外来	
R1	住谷 仁	総内・神経	総外	皮膚科	緩和ケア	種子島	総合外来	整形外科	麻酔科	精神科	放射線科	外科	
R1	水谷 陽	整形外科	総外	放射線科	精神科	麻酔科	総外	種子島	小児	産婦人科	総外	外科	総合外来

5)令和2年度 研修終了後の臨床研修医の進路(令和元年度入職)

- ・ 北中崇雄 市立池田病院 (消化器内科)
- ・ 住谷仁 市立池田病院 (呼吸器内科)
- ・ 水谷陽 市立池田病院 (血液内科)
- ・ 佐野斎 市立豊中病院 (神経内科)
- ・ 杉町英香 大阪労災病院 (腎臓内科)

6)病院説明会

新型コロナウイルス感染防止のため、対面での病院説明会はほぼ中止となり、オンラインでの開催となった。

民間医局主催・レジナビフェアオンライン関西 Week2020 に出展 (令和2年12月10日)

大阪大学内科系関連臨床研修病院 内科系科合同説明会オンライン (令和3年3月6日)

7)JMEP 基本的臨床能力評価試験 (令和3年1月26日実施)

令和2年度 (1年次) 初期研修医9名、令和元年度 (2年次) 4名 計13名
(2年次 1名休職中、1名は地域医療研修のため試験を受けられなかった。)

	受験病院数	順位	当院平均点	偏差値	全体平均点
1年次	485	110	30.22	53.24	28.49
2年次	525	83	32.50	55.58	29.35
総合	417	65	32.50	53.64	28.92

8) 学生実習

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で予定していた実習が中止となったが、3月には兵庫医科大学4名を受け入れた。

9) 学生見学 (計延べ 107名)

大学名	人	大学名	人数
大阪大学	38	福島県立医科大学	1
大阪医科大学	10	富山大学	1
大阪市立大学	7	浜松医科大学	1
鳥取大学	5	奈良県立医科大学	1
福岡大学	4	徳島大学	1
神戸大学	4	藤田医科大学	1
関西医科大学	4	大阪歯科大学	1
和歌山県立医科大学	3	滋賀医科大学	1
島根大学	3	山口大学	1
高知大学	3	香川大学	1
広島大学	3	弘前大学	1
京都府立医科大学	3	金沢大学	1
金沢医科大学	2	岐阜大学	1
琉球大学	1	岡山大学	1
名古屋市立大学	1	愛知医科大学	1
北里大学	1	合計	107

見学診療科	人
救急総合診療部	49
消化器内科	41
内分泌・代謝内科	26
循環器内科	11
消化器外科	10
腎臓内科	9
歯科・歯科口腔外科	9
呼吸器内科	6
小児科	4
産婦人科	4
神経内科	3
血液内科	3
麻酔科	3
総合内科	2
整形外科	2
その他	6

10) 臨床病理検討会 CPC(発表者)

3月16日(東野克温) 4月20日(山路修平)

病理診断医、指導医のもと、剖検症例の臨床経過を詳細に検討して問題点を整理し、剖検結果に照らし合わせて総括し、疾病・病態について理解を深めた。発表をしていない研修医は書記を務めた。

11) 臨床研修医採用試験 (マッチング試験)

令和3年度の臨床研修医に31名の応募があった。書類・面接による選考試験(2020年8月1日、8月7日)を行い、研修医選考会を開いてマッチングでの順位を決定。以下の8名の研修医がマッチングした。

今中友香(大阪大学)、櫻井義正(鳥取大学)、高木宏太(大阪大学)、谷口裕郁(大阪大学)、中山俊雄(大阪医科大学)、西健太郎(大阪大学)、花房賢爾(大阪大学)、山田雅彬(大阪大学)。

大阪大学のCプログラムでは、小泉遥(大阪大学)、八重敦博(大阪大学)が1年間研修することとなった。

12) ベスト研修医

全医師と看護部・薬剤部・臨床検査部代表の投票により2名のベスト研修医を選出。

2021年3月23日の医局会で発表。病院長より表彰を行った。

1年目ベスト研修医: 安里美夕里、2年目ベスト研修医: 杉町英香

■ 学術業績

□学会・研究会発表

	発表者	演題名	学会名、会場、日時
1	吉田 侑佳(令和2年度入職)	著明な高TG血症を伴う急性膵炎を発症した若年肥満2型糖尿病の2症例	第57回日本糖尿病学会近畿地方会 WEB開催 2020/10/17-10/31
2	佐野 斎(令和元年度入職)	経過中にサイトメガロウイルス感染症を合併したDIHSの1例(仮)	第230回日本内科学会近畿地方会 WEB開催 2020/12/12
3	大川 芹(令和2年度入職)	新規MMX-pH依存型メサラジン製剤への変更にて臨床的寛解が得られた潰瘍性大腸炎の3例	日本消化器病学会近畿支部第114回例会 WEB開催 2021/2/27
4	東野 克温(令和2年度入職)	肝細胞癌が完全自然退縮を来したと考えられる1例	日本消化器病学会近畿支部第114回例会 WEB開催 2021/2/27
5	北中 崇雄(令和元年度入職)	ESDで確定診断に至った大腸MALTリンパ腫の1例	日本内科学会第231回近畿地方会 WEB開催 2021/3/13
6	水谷 陽(令和元年度入職)	後天性赤芽球癆を合併し、Brentuximab Vedotin(BV)が奏功した血管免疫芽球性T細胞リンパ腫(AITL)の1例	日本内科学会第231回近畿地方会 WEB開催 2021/3/13
7	杉町 英香(令和元年度入職)	血液透析導入後にヘパリン起因性血小板減少症を発症したが、後日ヘパリンを用いた血液透析が可能となった1例	日本内科学会第231回近畿地方会 WEB開催 2021/3/13
8	住谷 仁(令和元年度入職)	骨髄異形成症候群に合併した続発性肺胞蛋白症の1例	日本内科学会第231回近畿地方会 WEB開催 2021/3/13
9	山路 修平(令和2年度入職)	伝染性単核球症との鑑別を要した単純ヘルペスウイルス咽頭炎の1例	日本内科学会第231回近畿地方会 WEB開催 2021/3/13
10	佐々木 美雪(令和2年度入職)	内服薬の詳細な聴取の重要性を感じたデュロキセン離脱症候群の1例	日本内科学会第231回近畿地方会 WEB開催 2021/3/13
11	吉田 侑佳(令和2年度入職)	著明な高TG血症を伴う急性膵炎を発症した2型糖尿病の3症例	日本内科学会第231回近畿地方会 WEB開催 2021/3/13
12	安里 美夕里(令和2年度入職)	胸水貯留の原因精査に難渋した乳癌に対して化学療法中の1例	日本内科学会第231回近畿地方会 WEB開催 2021/3/13
13	吉川 長伸(令和2年度入職)	ピロリン酸心筋シンチにてATTRwt心アミロイドーシスと診断した超高齢男性の1例	日本内科学会第231回近畿地方会 WEB開催 2021/3/13
14	板持 英晃(令和2年度入職)	厳格な脂質コントロールを行っていたにもかかわらずaVRのST上昇をとまなう急性心筋梗塞が再燃した1例	日本内科学会第231回近畿地方会 WEB開催 2021/3/13
15	橋本 拓人(令和2年度入職)	大型胃GISTに対してイマチニブによる術前化学療法後に腹腔鏡下切除術を施行した1例	第204回近畿外科学会 奈良春日野国際フォーラム 2021/3/20

外来化学療法センター

《概要》

■ 組織・スタッフ

センター長 : 太田博文 (消化器外科)

副センター長 : 森山康弘 (血液内科)、安座間隆 (乳腺・内分泌外科)

担当薬剤師 : 田井浩子、阪口紀子、大河万頭、山口唯、森井悠介、近谷仁志

担当看護師 : 岡下美香、諸石亨子、井出美里、山本紅葉

■ 診療・業務概要

大阪府のがん診療拠点病院として、がん患者に対する外来化学療法を推進していくため、安全で効果的な治療・ケア及び、がんとつきあえる患者環境を支援する。

《実績》

現在、化学療法は、支持療法の進歩、分子標的薬・免疫チェックポイント阻害薬などの新規薬剤の開発・導入により、効果及び治療期間の延長にて外来治療の意義はさらに大きくなっている。外来化学療法センターは、2016年3月末に8床から11床へ3床増床した。しかし、その後も利用患者数の増加は続いており、2020年1月にさらに3床増床し計14床での運用となった。しかし、化学療法件数も昨年度と比較して月平均で50件以上増加しており、ベッド不足の問題は引き続き検討課題となっている。

昨年度からの看護師配置の固定化、自然滴下制御式の薬剤注入コントローラー「フローサイン」使用に加え、毎朝看護師と薬剤師によるミニカンファを行い、その日の患者やレジメンに関する情報を共有することでより安全・安心な化学療法の施行が可能となった。

年々、がん患者の年齢層は高齢化してきており、外来化学療法センターのスタッフは、多様化・複雑化する治療方法や副作用への対応だけでなく、多岐にわたるケアが必要となっている。外来化学療法センターでは、治療開始時からの継続的なケアや副作用管理が重要であり、より高い専門性が求められている。薬剤師、看護師がそれぞれの視点で患者へ継続的に関わり、チームで情報を共有し、治療を受けながらも社会生活が維持できるように患者支援を行っている。看護師によるCVポート及び静脈穿刺の継続、薬剤師による継続的薬剤管理指導が出来ており、医師の負担軽減が図れている。特に新規治療導入前の薬剤師外来は医師の説明時間の短縮に貢献することはもちろん、患者の治療方法や副作用の理解を深め、セルフケアにも役立つ。また、抗がん剤の調製から投与まで閉鎖式システムを完備し、医療従事者への職業曝露防止対策を行う環境整備を継続している。

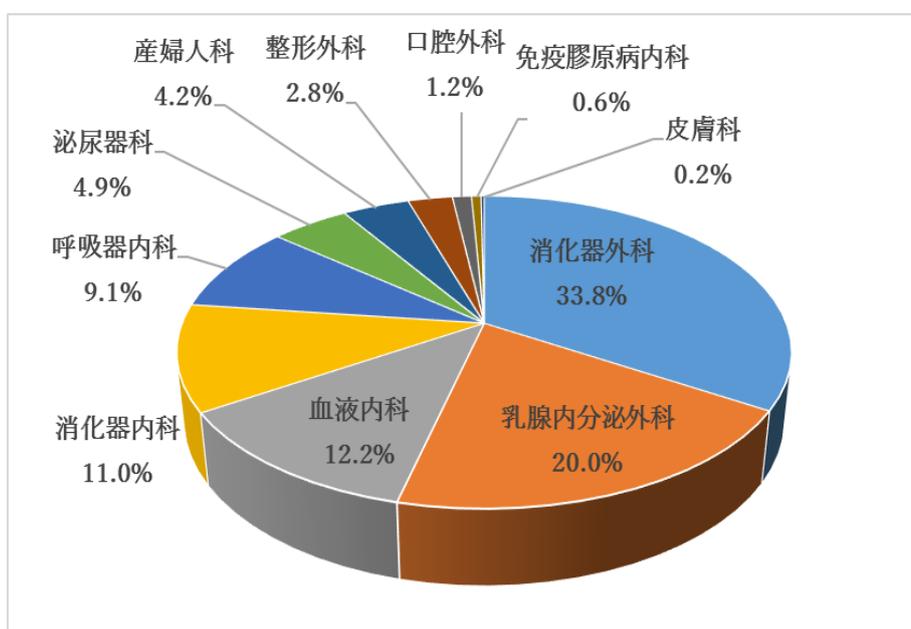
今後も外来化学療法がより安全で効果的に実施できるよう、専門性及びチームでの継続的な関わりの強化が必要であると考えます。

■ 統計実績

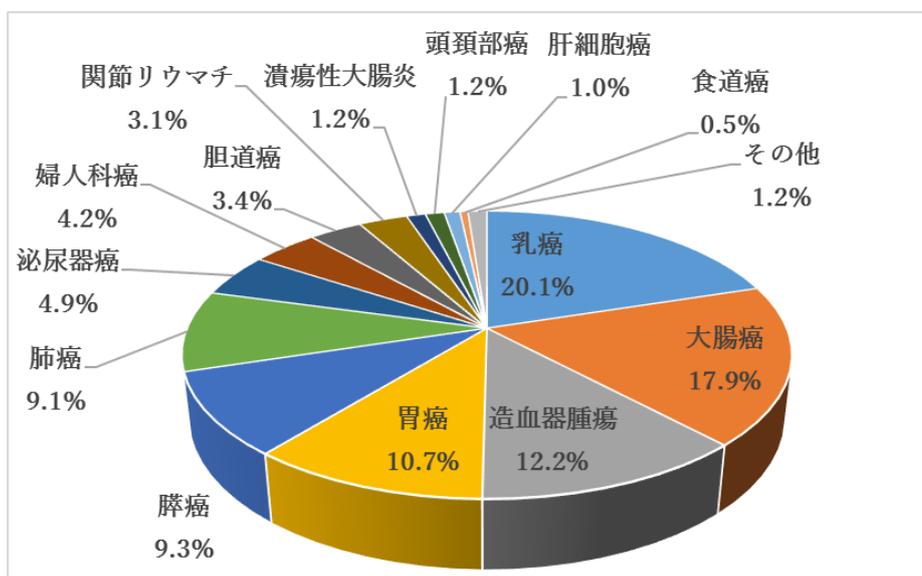
【外来化学療法センター利用実績の推移】



【診療科別割合】 施行件数 : 4,263 件/年



【疾患別割合】 施行件数 : 4,263 件/年



【新規レジメン申請】

化学療法レジメン審査会開催件数：13回／2020年度

新規レジメン登録件数：計32件

血液内科レジメン：9件、呼吸器内科レジメン：7件、消化器外科レジメン：9件

消化器内科レジメン：2件、泌尿器科レジメン：2件

乳腺外科レジメン：3件

《概要》

■ 組織・スタッフ

センター長：太田 博文（消化器外科主任部長）

看護師：森本 孝子、吉野 葵、小林 身和子、音地 真理、東 かおり

社会福祉士：林 浩美、岸 茜

■ 相談業務概要

がん診療連携拠点病院のがん相談支援センターでは、がん患者や家族、国民に対しての情報提供の担い手として、がん相談支援センターの業務の中で、拠点病院に関する情報提供を求められている。2008年の「がん診療拠点病院等の整備に関する指針」の中でがん相談支援センターが行うべき事項が明示されており、この指針はがん対策推進基本計画の改定に沿って更新されている。現在の指針は2018年7月に発出されたものである。現在の整備指針で示されているがん相談支援センターの役割は、予防・検診から、治療や療養全般に関わる相談、そしてゲノム医療や希少がん、AYA世代に特化した課題やがん生殖医療に関わる相談と多岐にわたり、地域情報の収集提供や患者会などへの支援など、地域ネットワークの構築や資源創出を含む広範な役割を担うことが求められている。

1. がん相談支援センターの業務

がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針（平成30年7月）より抜粋

- (ア) がんの病態や標準的治療法等、がんの治療に関する一般的な情報の提供
- (イ) がんの予防やがん検診等に関する一般的な情報の提供
- (ウ) 自施設で対応可能ながん種や治療法等の診療機能及び、連携する地域の医療機関に関する情報の提供
- (エ) セカンドオピニオンの提示が可能な医師や医療機関の紹介
- (オ) がん患者の療養生活に関する相談
- (カ) 就労に関する相談（産業保健総合支援センターや職業安定所等との効果的な連携による提供が望ましい。）
- (キ) 地域の医療機関におけるがん医療の連携協力体制の事例に関する情報の収集、提供
- (ク) アスベストによる肺がん及び中皮腫に関する医療相談
- (ケ) HTLV-1 関連疾患である ATL に関する医療相談
- (コ) 医療関係者と患者会等が共同で運営するサポートグループ活動や患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援
- (サ) 相談支援に携わる者に対する教育と支援サービス向上に向けた取組
- (シ) その他相談支援に関すること

以下に示す項目については自施設での提供が難しい場合には、適切な医療機関を紹介すること。

- (ス) がんゲノム医療に関する相談
- (セ) 希少がんに関する相談
- (ソ) AYA 世代にあるがん患者に対する治療療養や就学、就労支援に関する相談
- (タ) がん治療に伴う生殖機能の影響や、生殖機能の温存に関する相談

(チ) その他自施設では対応が困難である相談支援に関すること

2. がん看護相談について

2014年より、患者相談窓口と連携しながら対応を行っている。メンバーは、がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師・がん性疼痛看護認定看護師、がん化学療法看護認定看護師で構成されており入院後もサポートできるよう努めている。

3. がん看護外来について

がん看護相談窓口に先駆けて、2013年よりがん看護専門看護師による「がん看護外来」を開設し、病名や再発告知後の精神的支援や治療選択における意思決定などの支援を行っている。2020年度は、がん看護専門看護師が中心となり業務遂行にあたった。

相談窓口と異なる点として、医療者ががん看護に専門看護師の介入が必要と感じられた際に、患者・家族へ導入について説明があり、同意が得られた場合に受診していただく流れである。

4. 都道府県がん診療連携拠点病院連結協議会 がん相談支援センター部会

部会では、拠点病院で実施されている情報提供および相談支援体制の機能強化と質的な向上を図ることを目的としている。

大阪府では、「相談支援センター部会」として平成19年7月6日に設置され、年に2回大阪国際がんセンターが事務局となり活動を行っている。

5. がん患者サロンについて

当院では「ひまわりサロン」の名称で、当センターとも連携を図っている。

《実績》

■ 統計実績

がん看護相談及び、がん看護外来の実績

- がん看護相談件数・・・89件/年
相談内容：がんの治療、症状・副作用、不安・精神的苦痛、セカンドオピニオンなど
- がん看護外来件数・・・150件/年
介入内容：診療の同席、病状説明内容の確認、治療の選択、生活・療養の相談、療養場所の選択、不安など

■ 学術業績

□研究会・講演会参加

大阪府がん診療連携協議会 がん相談支援センター部会

日時：令和2年6月26日（金）15：30～17：00（オンライン会議で実施）

内容：全体連絡・報告事項

- ① がん対策におけるがん相談支援の動向（30分）
国レベル・大阪府の動向
- ② 相談員ががん相談支援センターの質の担保（30分）
プロセス評価（PDCA サイクルチェックリスト）
アウトカム評価：がん相談支援センター利用者アンケートについて

今年度の研修事業について

- ③ がん相談支援センター/正しいがん情報の周知・広報 (20分)
大阪府立図書館とがん相談支援センターの連携事業について

■ **研修・教育活動**

がん診療連携拠点病院の相談支援機能に関する指定要件により「国立がん研究センターがん対策情報センターによる研修会を修了した専従及び専任の相談支援に携わる者をそれぞれ1人以上配置すること」とあり、相談支援センターには、この要件を満たす看護師や社会福祉士等の資格を持つ複数人の相談支援を行うための人員配置が求められている。

<相談支援センター相談員研修・基礎研修 修了者 計5名>

◎相談支援センター相談員研修・基礎研修(1)～(2) 修了3名

◎相談支援センター相談員研修・基礎研修(1)～(3) 修了2名

内視鏡センター

《概要》

■ 組織・スタッフ

消化器内科医 15 名（専攻医 5 名含む）、呼吸器内科医 3 名、
内視鏡センター看護師 23 名（内視鏡技師 7 名）

当院は、日本消化器内視鏡学会により指導施設として認定されている。

（日本消化器内視鏡学会 指導医 今井/中原 2 名
専門医 今井/中原/澤井/山口/氣賀澤 5 名）

日本呼吸器内視鏡学会により認定施設として認定されている。

（日本呼吸器内視鏡学会 指導医 橋本/田幡 2 名
専門医 橋本/田幡 2 名）

令和 2 年 4 月入職

消化器内科専攻医 目連愛美（H28）・青地一樹（H28）

消化器内科専攻医 浜辺友也（H30）・岩元晃子（H30）

令和 2 年 4 月退職

消化器内科専攻医 大工和馬（H27）

消化器内科専攻医 （市立豊中病院へ戻る）辻井悠里（H28）・岡本明之（H28）

消化器内科専攻医 （市立豊中病院へ出向）杉尾諒（H29）・相馬一超（H29）

■ 診療・業務概要

- ▶安全で苦痛の少ない検査・治療の施行
- ▶検査待ちの少ない迅速な検査を行うため検査枠の拡充
（上部下部内視鏡検査・処置枠の拡大、鎮静下内視鏡・経鼻内視鏡検査枠の拡大）
- ▶緊急検査への柔軟な対応
- ▶若手医師の育成

上記内容为目标とし、上部消化管・下部消化管・胆膵・呼吸器疾患を対象とした内視鏡を用いた検査・治療業務を行っている。

<令和 2 年度の新規業務～前年度実績を踏まえて>

- ・令和元年度より効率的な検査の進行を目指して、上部内視鏡の咽頭麻酔前処置をキシロカインビスカスを口に含む方法からキシロカインスプレーを噴霧する方法に変更した。（新型コロナ感染症拡大に伴い、飛沫対策の為に再度、キシロカインビスカスを口に含む方法に変更している）
- ・平成 27 年 9 月より従来施行していた胃の ESD に加えて食道・大腸の ESD を本格的に開始。平成 28 年度/29 年度/30 年度/令和元年度と ESD 件数は順調に増加している。

- ・胆膵内視鏡の充実を目指して、平成 30 年度より EUS/FNA の検査枠を週三回に増やし、検査・処置件数は増加している。併せて、ERCP の件数も増加している。
- ・内視鏡技師（看護師）の役割拡大として、平成 28 年度より試験運用していた EMR/クリッピング/点墨等の直接介助を平成 29 年度より開始。平成 30 年度より ESD の介助も開始して、医師の増員なく、内視鏡処置件数の増加を図れる様に努めている。
- ・上部内視鏡の前処置を検査室内から検査室外へ変更し、時間あたりの検査件数増加を試みている。（平成 29 年度より継続）
- ・鎮静内視鏡の希望者増加に対応できるよう、従来のベッドをリクライニングシートに変更するなどして、リカバリースペースの効率的な運用を開始している。（平成 29 年度より継続）
- ・cold polypectomy の導入により、出血 risk が少なく小 polyp 切除が可能となった事で、外来大腸 polyp 内視鏡的切除の件数が増加している。
- ・平成 29 年度より富士フィルムの内視鏡システム（経口・経鼻上部内視鏡）を導入。BLI・LCI 等の特殊光観察が可能となった。ESD・EMR 件数の増加を目指して、より早期の段階での食道癌・胃癌の発見に努めている。
- ・平成 30 年度より閉塞性大腸癌における bridge to surgery としてのステント留置術を複数例行っている。緊急人工肛門形成外科手術を回避して、より良好な栄養状態での安全な待機的手術が可能となった。
- ・平成 30 年 3 月にショートタイプ・ダブルバルーン内視鏡「EI-580BT」を導入した事で、従来のスコープでは困難であった術後再建腸管症例においても乳頭への到達および胆道処置が可能となった。

2018 年；実績 4 症例（ERCP 4 例 小腸内視鏡 0 例）

2019 年；実績 10 症例（ERCP 6 例 小腸内視鏡 4 例）

2020 年；実績 8 症例（ERCP 3 例 小腸内視鏡 5 例）

2021 年；実績 7 症例（ERCP 5 例 小腸内視鏡 2 例）（6 月まで）

- ・2020 年 1 月大腸ロングビデオスコープ 「PCF-H290ZL」 導入

2020 年；実績 62 症例

2021 年；実績 27 症例（6 月迄）

挿入困難例に対する option としての大腸ロング内視鏡を使用できる様になった。

- ・2021. 6. 29 内視鏡センターヒアリング

下記内視鏡用具の必要性についてプレゼンテーションを行なった。

- ① 十二指腸ビデオスコープ「TJF-Q290V」（ERCP 用）
- ② 上部消化管汎用ビデオスコープ「GIF-2TQ260M」（ESD 用）
- ③ 高周波焼灼電源装置・アルゴンプラズマ凝固装置 ERBE 社/オリンパス社

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	GIF/CF/EMR EUS	GIF/CF /気管支鏡 カプセル内視鏡	GIF/CF EMR/EUS	PEG/ CF/EMR APC/EUS EIS/EVL	GIF/CF/EMR /気管支鏡
午後	GIF/CF/EMR ESD	ERCP/CF ESD	CF/EMR ESD	ERCP CF/EMR	GIF/CF/EMR

月曜日 18時 消化器内科回診
 木曜日 8時 消化器内科抄読会
 金曜日 17時 内視鏡病理カンファレンス

《実績》

■ 統計実績

内視鏡検査件数まとめ (MM コーポレーション情報提供)

2020 年度件数

上部	観察	経口内視鏡	2,958
		経鼻内視鏡	316
		超音波内視鏡	154
	治療	ESD	52
		止血	78
		EMR・ポリペクトミー	13
		EIS	11
		EVL	18
		APC	11
		PEG 造設	39
		PEG 交換	14
その他		45	
下部	観察	下部観察内視鏡	1,077
	治療	EMR・ポリペクトミー(入院)	250
		EMR・ポリペクトミー(外来)	711
		ESD	39
下部	治療	止血	21
		APC	2
		その他	18
肝胆膵	観察・造影	ERCP	17
	治療	総胆管結石治療 EST	20
		EML	56
		ERBD	114
		ENBD	2
その他	カプセル	カプセル内視鏡	9
気管支鏡	観察	気管支鏡検査(観察)	11

気管支鏡	治療	気管支鏡検査(生検)	22
		生検+気管支肺胞洗浄	14
		その他 気管支鏡検査	1
		トイレットイング気管支鏡処置	0
		その他 気管支鏡処置	1
		局所麻酔下胸腔鏡検査	8
		EBUS-GS	72
		EBUS-TBNA	11
総計		6,190	

■ 学術業績

□原 著

著 者	題 名	雑誌名、巻号
山口 典高、中原 征則、島越 洋美 氣賀澤 齊史、松本 康史、澤井 良之、 今井 康陽、大橋 寛嗣	リンパ管侵襲陽性であった粘液癌を含む胃 粘膜内癌の1例	日本消化器内視鏡学会雑誌 Gastroenterological Endoscopy 62巻11号 Page2940-2945

□学会発表

発 表 者	演 題 名	学会名、会場、日時
中原 征則、山口 典高、氣賀澤 齊史、 太田 博文、今井 康陽	当院における閉塞性大腸癌に対する術前 大腸金属ステント留置術の検討	第104回日本消化器内視鏡学会近 畿支部例会 京都テルサ 2020/6/27-7/10
山口 高典、中原 征則、島越 洋美、 氣賀澤 齊史、今井 康陽	上部消化管のESD治療における現状と課 題 食道ESDにおいて高周波はさみ鉗子 ClutchCutter は2nd デバイスとして有用 である	第104回日本消化器内視鏡学会 近畿支部例会 京都テルサ 2020/6/27-7/10
大工 和馬、中原 征則、松本 康史、 山口 典高、氣賀澤 齊史、島越 洋美、 小来田 幸世、澤井 良之、井倉 技、 福田 和人、今井 康陽	Linked Color Imaging でより明瞭となった早 期胃癌の3症例	第99回日本消化器内視鏡学会総会 京都国際会議場 WEB ハイブリッド開 催 2020/9/2-3
座長 中原 征則	一般演題 ポスター36 上部:食道 症例報 告2	第99回日本消化器内視鏡学会総会 京都国際会議場 WEB ハイブリッド開 催 2020/9/2-3
山口 典高、中原 征則、今井 康陽、 島越 洋美、氣賀澤 齊史、松本 康史、 澤井 良之	85歳以上の高齢者に対する食道・胃ESD におけるプロポフォルを使用した鎮静法 の安全性	第99回日本消化器内視鏡学会総会 京都国際会議場 WEB ハイブリッド開 催 2020/9/2-3
相馬 一超、中原 征則、島越 洋美、 松本 康史、山口 典高、氣賀澤 齊史、 辻井 悠里、大工 和馬、岡本 明之、 杉尾 諒、小来田 幸世、澤井 良之、 井倉 技、福田 和人、今井 康陽	小腸カプセル内視鏡の胃内滞留による検 査不成功例に対して、内視鏡補助下十二 指腸内挿入により小腸観察が可能となった 1例	第99回日本消化器内視鏡学会総会 京都国際会議場 WEB ハイブリッド開 催 2020/9/2-3

発 表 者	演 題 名	学会名、会場、日時
中原 征則、山口 典高、氣賀澤 齊史、 島越 洋美、鬻 瑛、小来田 幸世、 澤井 良之、井倉 技、池嶋 遼、 宗方 幸二、太田 博文、福田 和人、 今井 康陽	閉塞性大腸癌に対する術前大腸金属ステ ント留置術の安全性と有用性	JDDW 2020 広島 2020/11/4-7
大川 芹、中原 征則、山口 典高、 氣賀澤 齊史、島越 洋美、鬻 瑛、 青地 一樹、目連 愛美、浜辺 友也、 岩元 晃子、小来田 幸世、澤井 良之、 井倉 技、福田 和人、今井 康陽	新規 MMX- pH 依存型メサラジン製剤へ の変更にて臨床的寛解が得られた潰瘍性 大腸炎の 3 例	第 114 回日本消化器病学会近畿支 部例会 WEB 開催 2021/2/27

《概要》

■ 組織・スタッフ

センター長：岡田 拓也（内分泌・代謝内科部長）
医師：津川 真美子、橋本 重樹、林 和幸、井上 佳菜
看護師：河野 恵美、安部 圭子、西澤 千春、根来 絢子
管理栄養士：今仲 直美
薬剤師：畑原 照子
臨床検査技師：上月 咲穂
理学療法士：横山 遙香
歯科衛生士：山田 みつ子
医療管理課：高見 雅子

■ 診療・業務概要

- 1 生活習慣病・糖尿病患者の療養を指導・支援していく
保険診療で認められ推奨されている療養指導全てを対象とする。
自己療養が困難症例に対し、訪問看護その他の支援を推進していく。
 - * 自己血糖測定指導
 - * インスリン自己注射指導
 - * フットケア指導
 - * 栄養指導
 - * 運動療法指導
 - * 透析予防指導

- 2 禁煙外来について

2006年に禁煙治療に対する保険適用が認められ、タバコをやめられないこと自体「ニコチン依存症」という生活習慣病のひとつであると認識された。

当センターでは2009年度より、当院で診療中の患者及びかかりつけ医からの紹介患者限定で禁煙治療を施行している。

外来クリニカルパスを導入し、看護師による指導や呼気一酸化炭素濃度測定を実施し、診療の効率化を図っている。

《実績》

■ 統計実績

全病棟を対象に1回/週の回診をセンター所属各専門スタッフにて行い、糖尿病の療養指導についての検討をセンター所属全職種で行っている。(約50回/年)

2020. 4. 1～2021. 3. 31

看護指導	2,575 件
栄養指導	179 件
集 団	534 件
個 人	
服薬指導	580 件
運動療法指導	153 件
糖尿病教育入院	98 件
糖尿病透析予防指導	359 件
禁煙指導	27 件
フットケア	11 件

■ 研修・教育活動

糖尿病療養指導士認定者 10 名

看護師 : 3 名

管理栄養士 : 2 名

薬剤師 : 3 名

検査技師 : 2 名

人工透析センター

《概要》

■ 組織・スタッフ

平成10年9月14日から運用開始となった人工透析センター（平成16年10月に「人工透析室」から名称変更）は23年目を迎えた。

関係する主な職員とし、腎臓内科 梶原主任部長，林部長（平成17年4月より人工透析センター長）、臨床工学技士は穴井技士が主に従事し、芝技士、杉山技士により応援体制をとっている。

看護師は3北病棟管轄となり3北病棟より配置されている

林 和 幸：腎臓内科部長 兼 人工透析センター長

総合内科専門医、日本腎臓学会指導医、プライマリ・ケア認定医、
日本透析医学会専門医、日本糖尿病学会専門医、産業医

梶原 信之：腎臓内科主任部長

日本内科学会近畿支部評議員、総合内科専門医、日本腎臓学会指導医、
日本プライマリ・ケア連合学会代議員、プライマリ・ケア認定医、
総合診療専門研修指導医、日本透析医学会専門医、兵庫医科大学臨床教育教授

藁田 明希：腎臓内科医員

日本内科学会会員、日本透析医学会会員、日本腎臓学会会員、緩和ケア講習医

杉山 隆志：臨床工学技士次長・看護師・第二種ME 技術実力検定

穴井 恵理：臨床工学技士主任・臨床検査技師・透析療法認定士・第二種ME 技術実力検定
透析液安全管理者認定

芝 隆 史：臨床工学技士

■ 診療・業務概要

人工透析センターの運用については、年4回の人工透析センター運営委員会を開いて検討した。

平成30年度までと同様に「1. 急性腎不全を始めとした緊急に血液浄化法が必要となる疾患」、

「2. 保存期慢性腎不全患者様の慢性維持透析への導入」、「3. 慢性維持透析患者様の手術や特殊検査の予定入院」について対応した。平成18年1月以降は、前記1.～3. 以外に「4. 外来での白血球除去療法」にも対応している。病院全体の救急患者受け入れ強化の方針に沿って、上記以外の維持透析患者さんの緊急入院には可能な限り対応している。緊急の血液浄化療法に対応するために、梶原と林が交代で「透析オンコール」を行っている。

《実績》

■ 統計実績

保存期慢性腎不全からの導入46例と、慢性維持透析患者51例の計97例は、死亡した4例を除いて、他の透析施設に転院または外来通院となった。

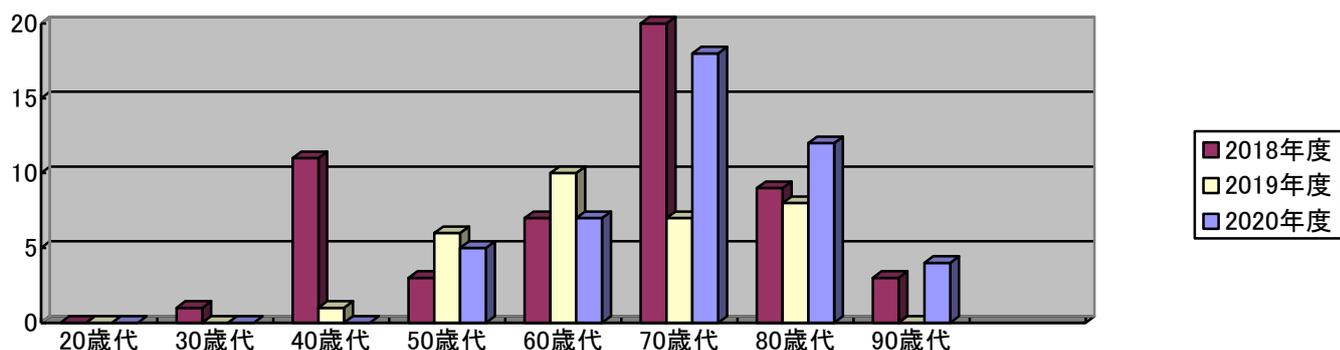
保存期慢性腎不全からの導入46例の詳細として、男性31例、女性15例であり、年齢別では、90歳代4例、80歳代12例、70歳代18例、60歳代7例、50歳代5例であった。原疾患では糖尿病性腎症25例、膜性腎症1例、分類不明腎炎2例、巣状分節性糸球体硬化症2例、原因不明が16例であった。

慢性維持透析患者の入院 51 例の内訳は、消化器内科 19 例、消化器外科 9 例、呼吸器内科 2 例、循環器内科 4 例、腎臓内科 8 例、整形外科 4 例、泌尿器科 1 例、皮膚科 1 例、形成外科 1 例、耳鼻科 1 例、眼科 1 例である。

血液透析療法以外の血液浄化法としては、血漿交換療法 1 例、腹水濃縮再静注 7 例を実施し、急性腎不全と慢性腎不全急性増悪に対する緊急透析は 21 例であった。

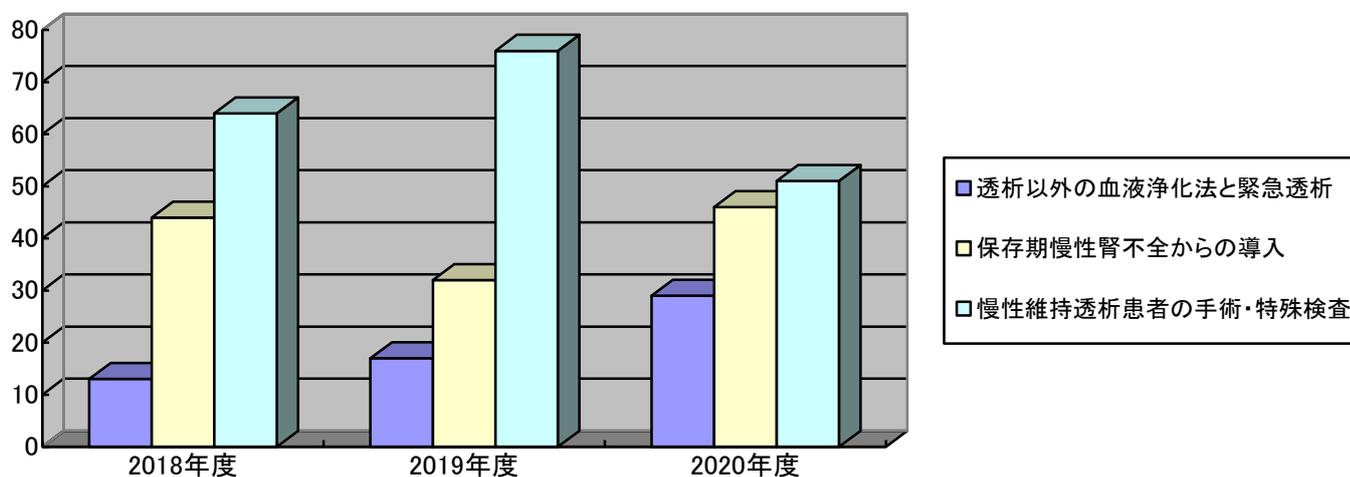
2018 年度から 2020 年度の保存期慢性腎不全からの導入の年齢は以下の表の通りである

	2018 年度	2019 年度	2020 年度
90 歳代	3	0	4
80 歳代	9	8	12
70 歳代	20	7	18
60 歳代	7	10	7
50 歳代	3	6	5
40 歳代	1	1	0
30 歳代	1	0	0
20 歳代	0	0	0



2018 年度から 2020 年度の血液浄化法関連患者数は以下の表の通りである。

	2018 年度	2019 年度	2020 年度
透析以外の血液浄化法と緊急透析	13	17	29
保存期慢性腎不全からの導入	44	32	46
慢性維持透析患者	64	76	51



口腔ケアセンター

《概要》

■ 組織・スタッフ

歯科医師：雨河 茂樹、小川 芙美、須澤 佳香、佐藤 桂子

歯科衛生士：山田 みつ美、銀羽 かおり、林 智代、松本 郷美、大嶋 桃子、田中 恵美子

■ 診療・業務概要

口腔ケアセンターでは、主に入院患者に対する口腔機能管理を行っている。周術期や化学療法、放射線治療を受ける患者に対する専門的口腔ケアやADLが低下した患者に対する病棟への往診は可能な限り柔軟に受け入れている。センター内ではベッド上での歯科治療も可能である。また、周術期口腔機能管理については地域歯科医療との連携システムを立ち上げ、地域医療との連携も行っている。

主な業務

1. 周術期患者に対する口腔機能管理
2. 化学療法、放射線治療を受ける患者に対する口腔機能管理
3. ADLが低下した患者、病棟での口腔ケアが困難な患者に対する口腔ケア
4. 摂食機能障害のある患者に対する口腔機能評価
5. 両親学級における口腔衛生指導
6. 糖尿病教育入院患者に対する口腔衛生指導、口腔ケア

《実績》

■ 統計実績

今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大による入院、手術患者の減少に伴い、周術期患者や口腔機能評価依頼患者は減少した。その一方で、化学療法・放射線治療患者数は増加した。

(表1) 年度別口腔センター初診患者数

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
周術期口腔ケア	990	1,198	1,256	1,459	1,305
化学療法・放射線治療	56	53	153	184	225
口腔機能評価依頼	321	350	345	393	284

(表2) 月別の口腔ケア患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
周術期口腔ケア	100	57	97	122	110	124	120	126	113	118	87	131	1305
化学療法・放射線治療	24	13	16	23	19	13	17	23	17	20	17	23	225
口腔機能評価依頼	22	23	30	19	31	20	31	21	31	9	20	27	284
往診口腔ケア	112	69	115	113	114	130	165	126	140	82	83	115	1364

超音波診断・治療センター

《概要》

■ 組織・スタッフ

診療放射線技師 8 名

関 康センター長、一樋 政宏主任、上月 喜予玲技師、比嘉 裕次技師、
澤 和孝技師、村上 裕紀技師、瀬川 奈央技師、平野 佳代技師

(超音波検査士取得者：消化器領域 5 名、表在領域 1 名、検診領域 1 名)

消化器内科医師

福田 和人副院長、井倉 技主任部長、澤井 良之部長、小来田 幸世副部長、
臨床研修医

検査補助員 5 名

■ 診療・業務概要

肝臓を中心とした上腹部実質臓器をはじめ、胃・大腸・虫垂などの消化管、sonazoid
による造影超音波検査、VTQによる肝臓の線維化測定、頸部（甲状腺・耳下腺・上皮小体）
の超音波検査を主に行っています。

各診療科からの依頼件数の増加と当日飛び入り検査の受け入れにも対応しながら、日々の
検査を施行しています。また、消化器内科医師による臨床研修医への指導も行っています。
乳腺エコー担当技師（瀬川奈央技師、平野佳代技師）による頸部超音波検査も継続してい
ます。また、月・火曜日の乳腺外来での乳腺エコーの混雑時には、当センターの検査室 1 を乳
腺エコーに使用して、患者様の待ち時間軽減にも努めています。

令和 3 年 3 月に TOSHIBA Aplio XG の更新にて LOGIQ E10 装置（GE ヘルスケアジャ
パン株式会社）が導入されました。また、H18 年 3 月導入の装置 “TOSHIBA Xario” が
本年度末で部品供給が終了となるため、装置更新を予定しております。

今年度では新型コロナウイルスの影響で前年度と比べて、腹部 95%、造影 82%、VTQ74%
甲状腺 89%と全体的に件数が減少となりました。

《実績》

■ 統計実績

《腹部エコー一件数》

	令和2年度		
	腹部	造影	合計
4月	583	13	596
5月	611	9	620
6月	865	20	885
7月	828	20	848
8月	737	11	748
9月	764	11	775
10月	848	13	861
11月	742	12	754
12月	711	19	730
1月	671	19	690
2月	636	10	646
3月	869	15	884
合計	8865	172	9037

《VTQ件数》

	令和2年度
4月	13
5月	11
6月	17
7月	18
8月	17
9月	12
10月	15
11月	25
12月	9
1月	18
2月	12
3月	12
合計	179

《甲状腺件数》

	令和2年度
4月	56
5月	52
6月	72
7月	76
8月	71
9月	99
10月	102
11月	71
12月	80
1月	70
2月	92
3月	118
合計	959

■ 研修・教育活動

指導者・講師	内容	実習名・日時
関 康	腹部超音波の実際	清恵会第二医療専門学院 放射線技師科 夜間部 2020/8/22

健診センター

《概要》

■ 組織・スタッフ

医師 津川 真美子 院長補佐、健診センター長（平成28年4月に就任）
 橋本 俊朗 嘱託（平成26年4月より）
 看護師 小谷 朱根
 看護補助 岡本 美智子（9月に着任）
 技師 山本 毅、井上 幸子（4月に着任）、中尾 かおり、清水 麻紀
 事務 花本 明子、澤吉 利恵、中野 麻衣子（5月に異動）、坂本 広美（7月に着任）

■ 診療・業務概要

◎月曜日から金曜日までを各業務に特化して運営

基本コース（各5～6名） 火曜日、金曜日
 脳ドックコース 月曜日、火曜日、金曜日
 レディースコース 火曜日、金曜日
 肺ドックコース 月曜日（H29年1月より開始）
 歯科ドックコース 金曜日
 委託検診 水曜午後に市内の会社よりレディースドックを受託
 健康診断 水曜日、木曜日
 原子爆弾被爆者健康診断（定期検診、がん検診） 水曜日、木曜日
 被爆二世健康診断 水曜日、木曜日
 入職時ワクチン

《実績》

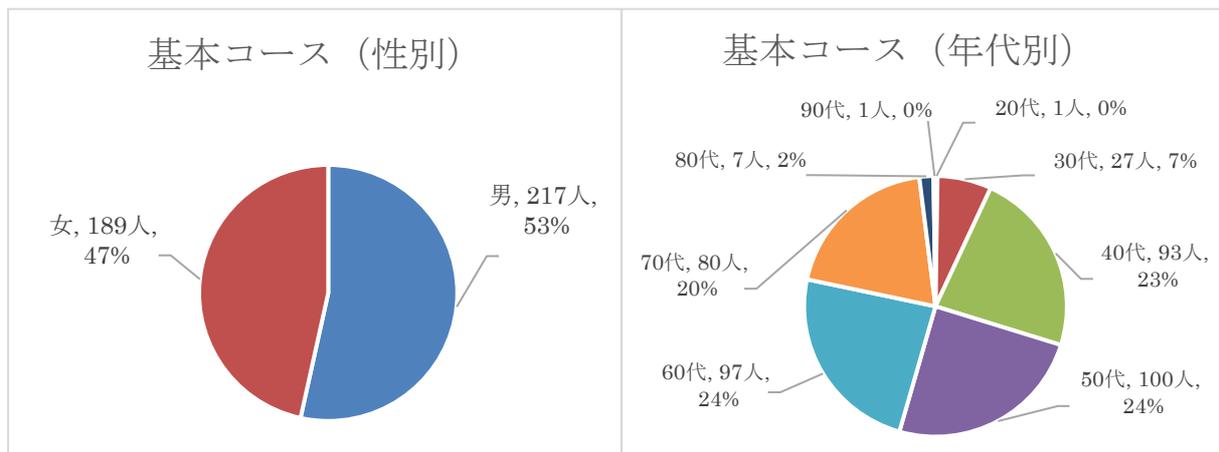
■ 統計実績 2020年4、5月は緊急事態宣言により業務停止期間あり

	基本コース			脳ドック			レディース	歯科ドック			肺ドック		
	男	女	計	男	女	計	女	男	女	計	男	女	計
4月	7	5	12	4	1	5	3	0	0	0	1	0	1
5月	1	0	1	1	1	2	5	0	0	0	0	0	0
6月	15	8	23	6	1	7	14	0	0	0	0	0	0
7月	21	17	38	4	2	6	14	0	0	0	1	1	2
8月	16	13	29	5	3	8	24	0	0	0	0	0	0
9月	25	15	40	0	6	6	18	0	0	0	0	0	0
10月	25	26	51	8	4	12	21	0	0	0	1	0	1
11月	18	22	40	7	2	9	15	0	0	0	0	1	1
12月	24	20	44	4	8	12	19	0	0	0	0	0	0
1月	24	18	42	6	5	11	19	0	0	0	0	0	0
2月	19	20	39	11	3	14	17	0	0	0	2	0	2
3月	22	25	47	4	5	9	20	0	1	1	0	0	0
合計	217	189	406	60	41	101	189	0	1	1	5	2	7

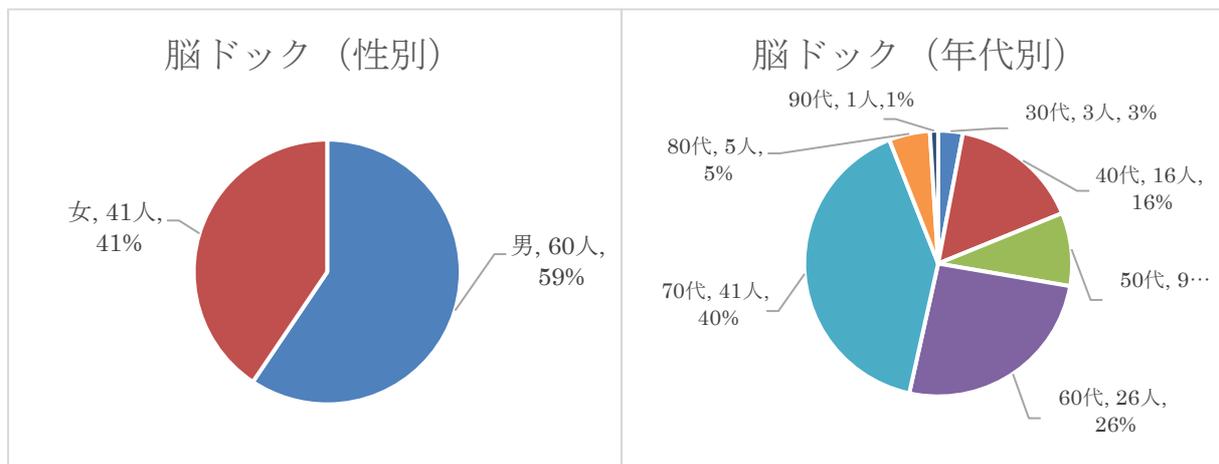
オプション件数

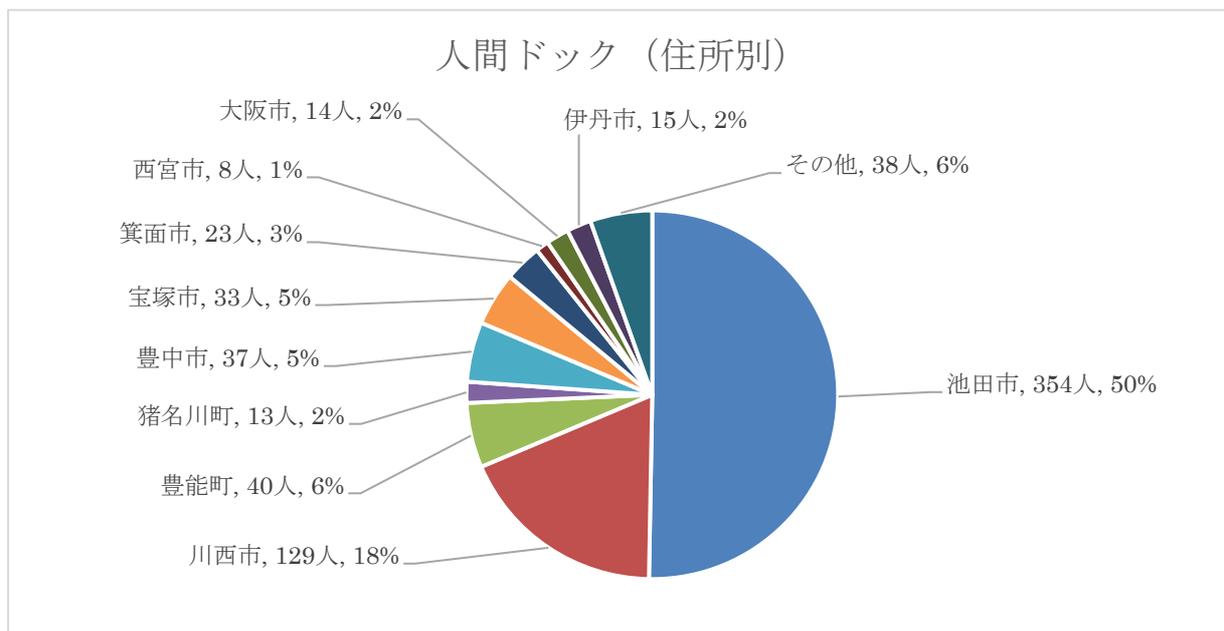
上部消化管内視鏡	269	経膈エコー	1
ヘリコバクターピロリ検査	73	ヒトパピローマウイルス	4
乳房健診	37	骨密度	12
マンモグラフィ	46	動脈硬化度	96
乳腺エコー	32	甲状腺機能	16
簡易脳MR	63	A B C 検診	8
頰動脈エコー	63	内臓脂肪	4
胸部C T	38	婦人科腫瘍マーカー	18
喀痰細胞診	14	前立腺腫瘍マーカー	76
婦人科検診	23	肺腫瘍マーカー	40
子宮頸部細胞診	47	P E T - C T	7
オプション総合計		987	

基本コース分析



脳ドック分析





健康診断件数とワクチン件数（インフルエンザ含まず）

	一般	市職員	病院職員	被爆者健診	合計	ワクチン
4月	6	4	26		36	69
5月	1	1	5		7	52
6月	5	3	5		13	28
7月	6	5	5	12	28	15
8月	4	1	8	3	16	7
9月	6	2	8		16	11
10月	12	1	8	8	29	49
11月	7	0	1	19	27	19
12月	4	0	2	11	17	26
1月	18	0	31		49	14
2月	18	2	37		57	6
3月	28	0	33		61	0
計	115	19	169	53	356	296

■ その他

脳ドックを池田市ふるさと納税返礼品として登録→3件の申し込み有り

脳ドックのPR動画を作成しYouTubeに投稿（病院HPから視聴可）

薬 剤 部

《概 要》

■ 組織・スタッフ

下村 一徳 (薬剤部長) :

日本医療薬学会 指導薬剤師、日本医療薬学会 認定薬剤師

日本病院薬剤師会 病院薬学認定薬剤師

日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師、大阪府病院薬剤師会理事

田井 ひろこ (副薬剤部長) :

日本医療薬学会 がん専門薬剤師

日本糖尿病療養指導士認定機構 日本糖尿病療養指導士

日本病院薬剤師会 病院薬学認定薬剤師

日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師

瀬名波 宏昌 (薬剤次長) :

日本医療薬学会 指導薬剤師、日本医療薬学会 認定薬剤師

日本医療薬学会 薬物療法指導薬剤師、日本病院薬剤師会 感染制御認定薬剤師

村山 洋子 (薬剤次長) :

緩和医療薬学会 麻薬教育認定薬剤師、日本病院薬剤師会 病院薬学認定薬剤師

中西 晶子 (主任薬剤師) :

日本緩和医療薬学会 緩和薬物療法認定薬剤師

日本病院薬剤師会 生涯研修認定薬剤師

阪口 紀子 (主任薬剤師) : 日本病院薬剤師会所属

岩本 千晶 (主任薬剤師) :

日本医療薬学会 認定薬剤師、日本静脈経腸栄養学会 NST専門療法士

大河 万頭 (主任薬剤師) :

日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師

日本薬剤師研修センター 研修認定薬剤師

三代地 みゆき : 日本医療薬学会 認定薬剤師、日本静脈経腸栄養学会 NST専門療法士

竹島 暁子 : 日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師

日本糖尿病療養指導士認定機構 日本糖尿病療養指導士

日本病院薬剤師会 病院薬学認定薬剤師

小畑 紋菓 : 日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師

日本糖尿病療養指導士認定機構 日本糖尿病療養指導士

日本病院薬剤師会 生涯研修認定薬剤師

林 麻衣 : 日本緩和医療薬学会 緩和薬物療法認定薬剤師

山口 唯 : 日本病院薬剤師会 病院薬学認定薬剤師

森田 望 : 日本静脈経腸栄養学会 NST専門療法士

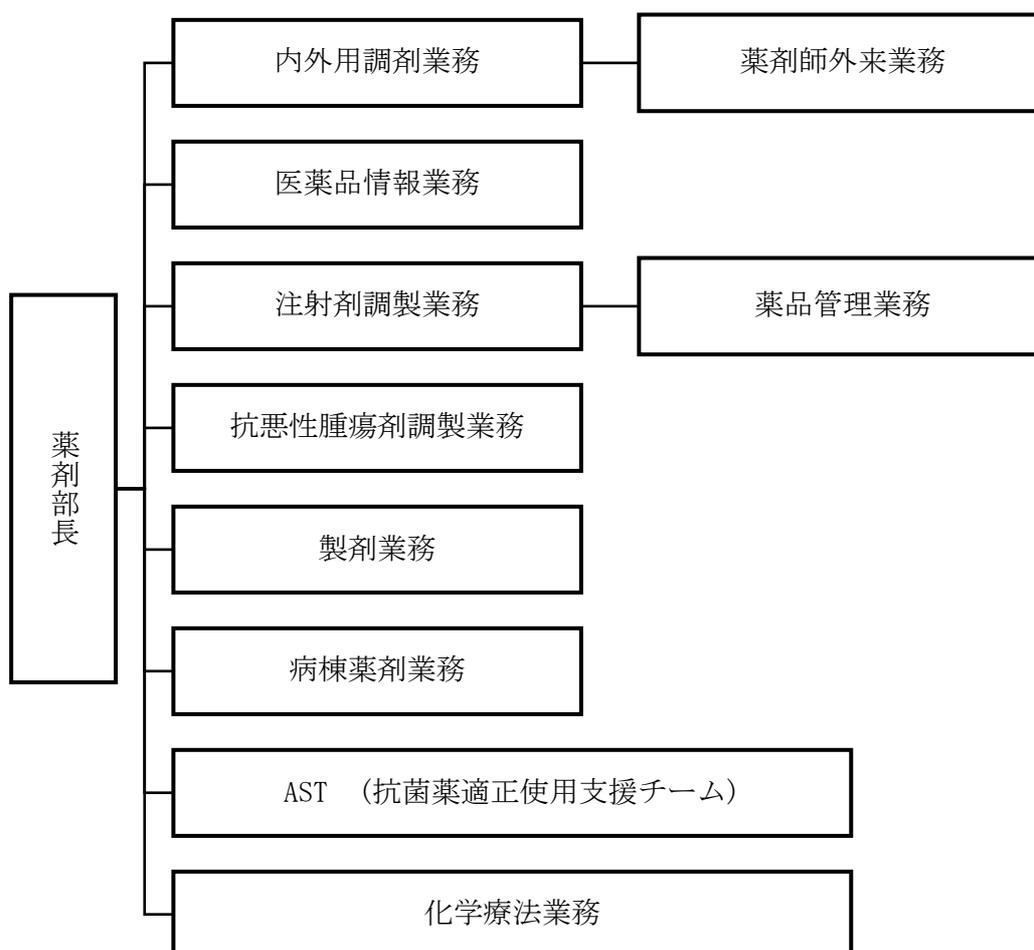
日本病院薬剤師会 病院薬学認定薬剤師

太田 麻衣子 : 日本病院薬剤師会所属

新居 万莉 : 日本病院薬剤師会 病院薬学認定薬剤師

森井 悠介：日本病院薬剤師会 病院薬学認定薬剤師
 佐藤 真弓：日本病院薬剤師会所属
 岩下 多恵：日本病院薬剤師会 病院薬学認定薬剤師
 畑原 照子：日本病院薬剤師会 病院薬学認定薬剤師
 高橋 勝史：日本病院薬剤師会所属
 岡本 京子：日本病院薬剤師会所属
 和田 日香里：日本病院薬剤師会所属
 近谷 仁志：AMAT 隊員
 松井 駿亮：日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師

■ 診療・業務概要



各病棟に病棟担当薬剤師を専任で7名、サポートとして兼任で5名配置している。薬剤部本体業務として、内外用調剤、注射剤調剤・調製、抗悪性腫瘍剤調剤・調製、医薬品情報、薬品在庫管理、製剤を9名で実施している。化学療法部門に2名配置し、抗悪性腫瘍剤の外来患者説明、化学療法レジメンを作成しており、また抗菌薬適正使用支援チームに1名配属し、広域抗菌薬のモニタリングおよび長期間使用患者への診療支援等を実施している。チーム医療にも各々参加しておりAST, ICT、NST、褥瘡、緩和ケア、リエゾン等の回診に同行し、糖尿病教室、肝臓病教室でもスタッフが講義、参加している。

- ・内外用調剤業務：担当 瀬名波薬剤次長兼任、中西主任兼務
入院、外来の内外用調剤、適正使用と院外処方箋の疑義照会、入院持参薬の識別を担当。
- ・薬剤師外来業務：担当 中西主任兼務
入院前に服用薬を確認し、手術前に中止する薬剤の選択、中止の指示を担当。
- ・医薬品情報業務：担当 中西主任
医薬品情報を管理し、院内 Web への薬品情報の配信、日々の医師、薬剤師、院内スタッフからの問い合わせの回答・対応、薬事委員会資料の作成、システム薬品マスターなどを担当。
- ・注射剤調剤・調製業務：担当 瀬名波薬剤次長兼任、阪口主任兼務
入院、外来の注射薬を調剤・調製する部門。附随して適正使用、配合変化・点滴時間等より質的向上も目指している。
- ・薬品管理業務：担当 阪口主任兼務
年間約 20 億円を超える薬剤を購入する部門であり、日々の発注、納品から数量・期限の在庫管理や棚卸、薬価改定時の在庫圧縮などを担当。実務は薬剤師以外のスタッフが担当し、方針決定や確認業務などは薬剤師が実施している。
- ・抗悪性腫瘍剤調剤・調製業務：担当 阪口主任
数多くのレジメンを取り扱い、抗悪性腫瘍剤を取り扱うので、専門的適正使用・安全性と共に取扱者の危険性（暴露の問題など）を熟知して取り組んでいる。
- ・製剤業務（薬品試験部門を兼ねる）：担当 山口
医薬品や試薬から個々の患者のニーズに対応するため院内で新たに薬品調製する部門。製造物責任法の関係で、必要な製剤以外は少なくする方針。
- ・病棟薬剤業務：担当 村山薬剤次長、岩本主任
病棟全般の薬剤業務を担当する部門。病棟では医療安全・質的向上、医薬品適正使用、チーム医療への貢献など薬剤師の活動が一層求められていると考えている。
- ・AST(抗菌薬適正使用支援チーム)：担当 小畑
治療効果向上、副作用防止、耐性菌出現のリスク軽減を目的として抗菌薬の適正使用を支援するチーム。医師、薬剤師、看護師、検査技師で活動している。
- ・化学療法業務：担当 田井副薬剤部長、大河主任
患者への化学療法レジメン説明、抗悪性腫瘍剤投与患者の副作用確認、抗悪性腫瘍剤のレジメン作成などを担当。

《実績》

■ 統計実績(2020.4~2021.3)

1 処方箋枚数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外来院外処方箋	5,968	5,049	6,230	6,706	5,831	6,415	6,899	5,938	6,550	5,867	5,621	6,831
外来院内処方箋	603	633	646	742	756	713	711	632	650	518	523	574
入院処方箋	4,737	4,476	5,167	5,540	5,288	5,352	5,588	5,404	5,683	5,023	3,847	4,873

2 注射処方箋枚数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外来注射処方箋	1,109	1,065	1,221	1,266	1,330	1,288	1,354	1,130	1,155	934	926	1,058
入院注射処方箋	3,319	3,221	3,452	3,841	3,913	4,113	4,337	3,983	4,174	3,518	2,752	3,575
外来化学療法注射箋	354	343	384	409	389	405	416	382	359	340	359	391
入院化学療法注射箋	263	306	281	275	237	235	234	229	262	247	182	229

3 薬剤管理指導件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
薬剤管理指導	1,185	963	1,322	1,335	1,274	1,250	1,344	1,258	1,263	1,059	794	1,198
退院時 薬剤管理指導	279	233	343	328	330	313	388	324	388	266	240	330

4 年間薬品購入金額上位 10 銘柄(2020 年度)

順位	薬品名	金額
1	レブラミド cap (5mg)	¥111,537,724
2	オブジーボ点滴静注 (240mg)	¥106,432,047
3	キイトルーダ点滴静注 (100mg)	¥101,229,312
4	アバスチン点滴静注 (400mg)	¥99,694,816
5	テセントリク点滴静注(1200mg)	¥77,001,474
6	ポマリスト Cap (3mg)	¥63,977,106
7	マヴィレット配合錠	¥59,736,704
8	パージェタ点滴静注 (420mg)	¥45,242,540
9	サイラムザ点滴静注液 (500mg)	¥44,736,827
10	アバスチン点滴静注用 (100mg)	¥38,187,030

5 院内製剤製剤量及び件数

[]は種類

月	内用剤		外用剤				注射剤	特殊製剤
	散剤(kg)	液剤(L)	液剤(L)	軟膏剤(kg)	坐薬(個)	点眼・点鼻・点耳剤(本)	注射剤(本)	特殊製剤
4			14.03 [6]	3 [1]	100 [1]	80 [2]		
5			9.5 [3]	5.5 [3]				
6			1.53 [2]		200 [1]	40 [1]		1 [1]
7	0.01 [1]		4.5 [2]	3.5 [2]	100 [1]	40 [1]		
8		0.5 [1]	9.35 [4]	0.15 [1]	300 [1]	40 [1]		
9			2.17 [6]	3.55 [4]		60 [2]		
10			1.15 [3]	0.2 [1]	400 [1]	40 [1]		
11			5 [3]	4.5 [3]	500 [1]			1 [1]
12			1.6 [2]	1 [1]	100 [1]	80 [1]		
1			1.25 [2]	2.5 [2]	100 [1]			
2			8.54 [4]	2 [1]		40 [1]		
3			8.1 [3]	3.5 [3]	228 [2]	90 [2]		
合計	0.01 [1]	0.5 [1]	66.99 [12]	29.4 [5]	2028 [2]	470 [3]		2 [1]

6 薬剤師外来件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
術前薬剤師外来	180	140	241	237	230	230	279	239	236	220	172	234
化学療法薬剤師外来	86	85	93	102	87	87	99	78	64	80	80	72
化学療法薬剤師外来 (請求件数)	59	50	54	71	39	53	53	38	31	12	24	7

7 化学療法件数

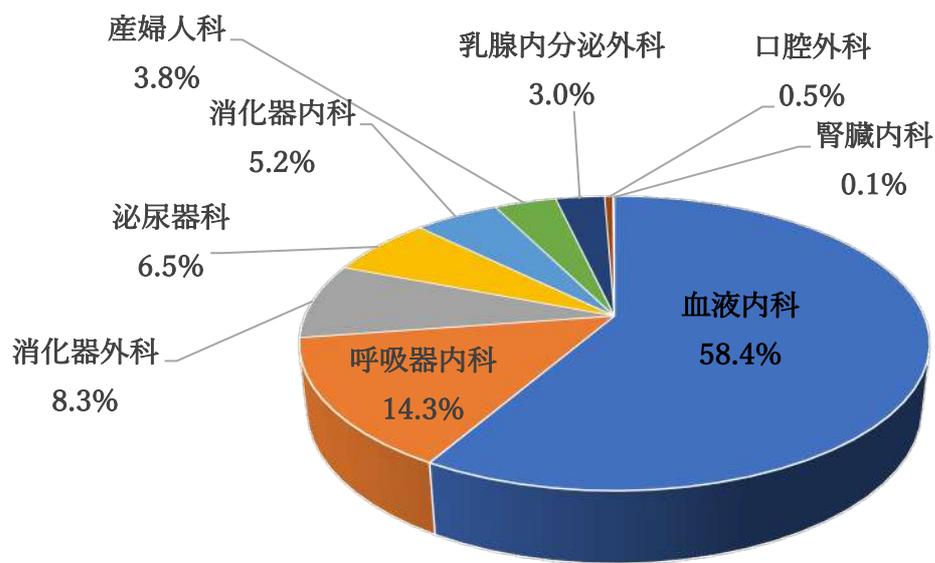
① 入院:年間総数 2,813 件、月平均 234.4 件 (前年度:223.9 件)

血液内科、呼吸器内科、消化器外科の順に多い。

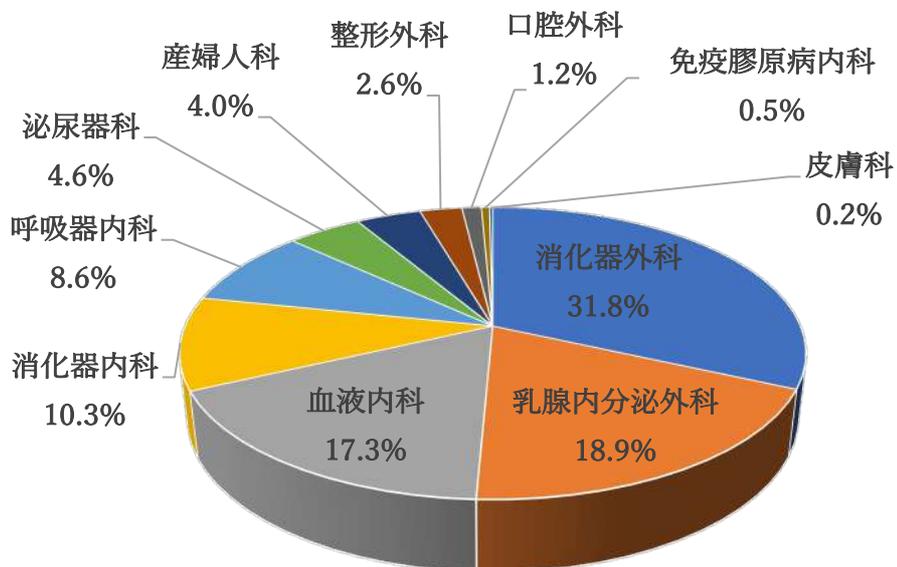
② 外来:年間総数 4,531 件、月平均 377.6 件 (前年度:326.8 件)

(外来皮下注・膀注・動注を含む)

消化器外科、乳腺内分泌外科、血液内科の順に多い。



入院



外来

8 薬剤部見学

訪問施設・団体名	人数	日時
大阪大谷大学 薬学部(早期体験学習)	7名	2020年8月25日
医療法人 北辰会 有澤総合病院	2名	2020年10月26日

■ 学術業績

□原 著

著 者	題 名	雑誌名、巻号
Tsubaki M, Seki S, Takeda T, Chihara A, Arai Y, Morii Y, Imano M, Satou T, Shimomura K, Nishida S.	The HGF/Met/NF- κ B Pathway Regulates RANKL Expression in Osteoblasts and Bone Marrow Stromal Cells.	Int J Mol Sci. 2020 Oct;21(21):7905
Tsubaki M, Genno S, Takeda T, Matsuda T, Kimura N, Yamashita Y, Morii Y, Shimomura K, Nishida S.	Rhoin Suppressed Tumor Cell Metastasis through Inhibition of Rho/YAP Pathway and Expression of RHAMM and CXCR4 in Melanoma and Breast Cancer Cells.	Biomedicines. 2021 Jan;9(1):35

□学会発表

発 表 者	演 題 名	学会名、会場、日時
岩下 多恵、瀬名波 宏昌、名徳 倫明、下村 一徳	院内製剤ミアンセリン坐剤の処方実態調査	第42回日病薬近畿学術大会 WEB学会 2021/1/30-31
高橋 勝史、瀬名波 宏昌、下村 一徳	注射剤における調剤包装単位 バーコード(GS1 データバー)表示の利便性の検討～副片ラベル使用していますか～	第42回日病薬近畿学術大会 WEB学会 2021/1/30-31

□研究会・講演会発表

発 表 者	演 題 名	学会名、会場、日時
田井 ひろこ	がんとうまく付き合うために ～調剤薬局さんの助けが必要です～	池田市薬剤師会 2 月度研修会 WEB 研修会 2021/2/28

□研修・教育実績

指 導 者・講 師	内 容	実習名、会場、日時
下村 一徳	病院薬剤師実務 注射剤調剤・調製、抗がん剤投与患者への患者指導、チーム医療	実務実習事前学習 大阪大学薬学部 2020/10/28

■ 学生実習指導

学 校 名	人 数	内 容
京都薬科大学	2名	実務実習(11 週)
大阪薬科大学	3名	実務実習(11 週)
神戸薬科大学	3名	実務実習(11 週)
大阪大谷大学	1名	実務実習(11 週)
武庫川女子大学	2名	実務実習(11 週)
神戸学院大学	1名	実務実習(11 週)

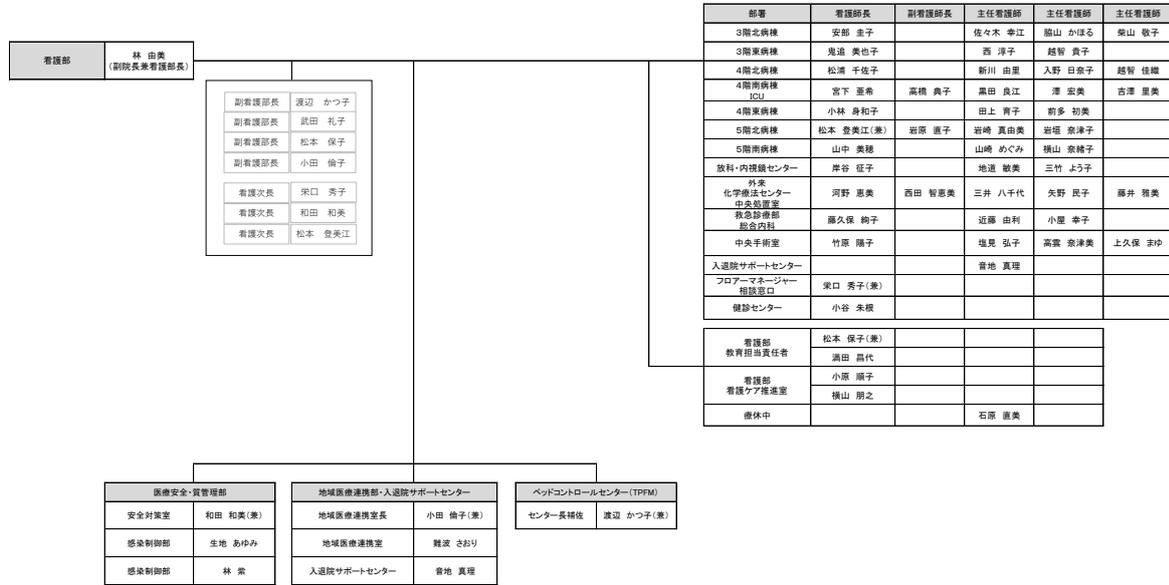
看護部

《概要》

■ 組織・スタッフ

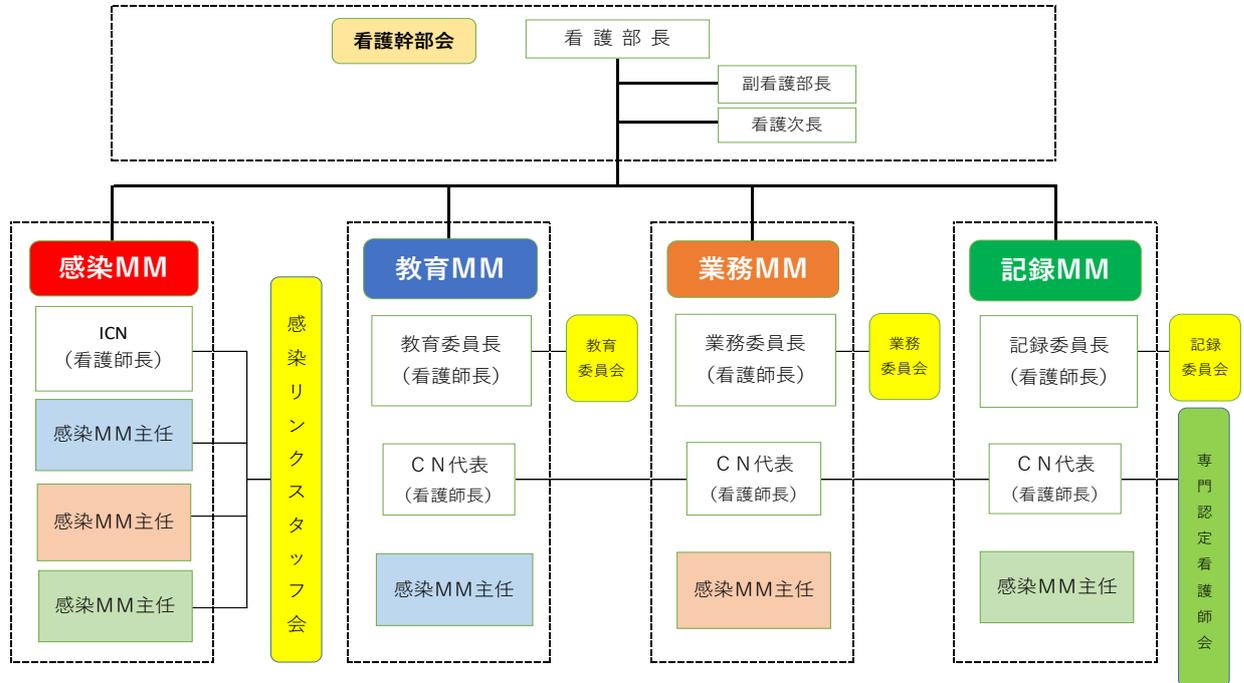
令和3年度看護部組織図

令和3年4月1日現在



令和3年度 看護部委員会の運営機能図

令和3年4月1日現在



■ 業務概要

- ・2020年度看護部管理室は、副院長兼看護部長と副看護部長2名、事務1名体制で管理室を運営した。他に医療安全対策室長兼副看護部長1名、看護次長5名を看護職幹部として位置づけた。
- ・当院の新型コロナウイルスの感染拡大による影響は、年度初めより池田保健所管轄として帰国者・接触者外来、屋外PCR検査、特設外来（発熱外来）などが開設され、救急外来、感染症病棟の看護師を活用して対応した。看護部では、有熱患者を病院玄関先でいち早くトリアージし、一般診療に紛れないよう特設外来へと誘導した。また地域の施設でのクラスター発生時には、速やかに感染管理認定看護師と他2名の看護師を出向しPCR検体採取に協力した。コロナ陽性患者の受け入れの体制としては中等症～軽症患者 30～36床の届出を踏まえ、患者数の変化に合わせて看護師配置ができるよう対応した。感染制御部と看護管理者による様々な対策を講じる中で、感染症病棟の運営を改革するために、異例ではあったが3月に看護師長の人事異動を決定した。その後第4波の感染拡大時には、COVIDチームにより人工呼吸器を必要とする重症患者を最大5名まで受け入れることができた。
- ・コロナ禍における学生実習の受け入れや院内外の研修や学会の参加が制限された。そこで在宅でも学習ができる環境として、eラーニングによるオンライン学習を推進した。看護部では、主任看護師のクリニカルラダーⅢの取得を目指し全員承認することができた。併せて看護管理職に対しては、マネジメント能力向上を目標に、役職が上の者から学ぶシャドウイング研修を取り入れた。

《実績》

■ 学業実績

□著書・総説

著者	題名	雑誌名、巻号
稲野 聖子	テーマ:在宅介護で役立つ高齢者の医学知識 (全4回) 第1回:高齢者特有の身体状況を知る 第2回:高齢者によく見られる疾患・症状の基礎知識 第3回:「何か変」に気づくためにどこを見る?観察ポイント① 第4回:「何か変」に気づくためにどこを見る?観察ポイント②	隔月刊誌 訪問介護サービス 2021年春号
稲野 聖子	第4章 パーソン・センタード・ケアを基盤とした高齢者看護過程の展開 認知症のあるがん患者の意思決定支援のケース	パーソン・センタード・ケアに基づく急性期病院の高齢者看護 (2021年6月発売予定)
吉野 葵	特集テーマ:終末期の痛みのケア実践事例集 記事1:【がん患者編】 一般病棟における終末期の痛みのケア実践	情報誌 エンド・オブ・ライフケア 2021年1,2月号

□学会発表

発表者	演題名	学会名、会場、日時
稲野 聖子	在宅医療から、ふとく、ながく、私らしく生きる未来に向けて発進 ～多様な暮らしを支える高い専門性と多職種協働～	第2回 日本在宅医療連合学会大会 名古屋国際会議場 2020/6/27-28
佐伯部 紀子	見たい・言いたい・聞きたい口腔ケア	第17回 日本口腔ケア学会総会学術大会 長崎ブリックホール 2020/9/2-3

発表者	演題名	学会名、会場、日時
河野 恵美	高齢患者の意思決定を支援するための入院支援での関わり	日本看護学会 看護管理(急性期看護・慢性期看護)Web学会 2020/10/1～抄録掲載(日本看護協会HP)
池田 真澄	看護療養指導により劇的な血糖コントロール改善に至った2型糖尿病の症例	第57回 日本糖尿病学会近畿地方会 Web開催 2020/10/17-10/31
渡辺 かつ子	施設間合同研修による次世代看護管理者育成への効果～四市立病院合同研修の新たな取り組み～	第51回 日本看護学会学術集会 Web学会 2020/11/1-11/30
生地 あゆみ	手指衛生の勉強会後の病棟看護師の行動変容	第51回 日本看護学会学術集会 Web学会 2020/11/1-11/30
地道 敏美	断らない救急を目指して～救急外来の滞在時間が長くなる要因～	第51回 日本看護学会学術集会 Web学会 2020/11/1-11/30
松田 幸世	大腸内視鏡検査における排便チェックリストを用いた患者への介入	第51回 日本看護学会学術集会 Web学会 2020/11/1-11/30
難波 さおり	危機の時代と救急看護	第22回 日本救急看護学会学術集会 Web開催 2020/12/1-12/31

■ 研修・教育活動

□ 院外講師

指導者	内容	依頼元、場所、日時
渡辺 かつ子	2020年度認定看護管理者教育課程セカンドレベル 統合演習Ⅱ	藍野大学 キャリア開発・研究センター 2020/7/23-10/17(うち6日)
稲野 聖子	大阪府看護協会 2020年度研修 「みんなで考える看護倫理①②」	公益社団法人大阪府看護協会 ナーシングアート大阪 2020/9/8. 2021/1/25
稲野 聖子	オンライン講義 「認知症ケア方法論」	兵庫医療大学 兵庫医療大学(オンライン講義) 2020/10/6
稲野 聖子	研修会 「在宅医療高齢者の意思決定支援とグリーフケア」	公益社団法人広島県看護協会 広島県看護協会会館 2021/2/17
稲野 聖子	Web講演 「看取りと多職種連携」	三重大学医学系研究科・医学部 小山田老人保健施設:四日市市 Web講演 2021/3/17
藤井 雅美	講演会 「命のバトンタッチ」	箕面市教育委員会子ども未来創造局 箕面市立とよかわみなみ幼稚園 2021/3/3
藤井 雅美	講演会 「命のバトンタッチ」	箕面市教育委員会子ども未来創造局 箕面市立なか幼稚園 2021/3/5

□院内講師

指 導 者	研 修 テ ー マ	対 象 ・ 月 日
松本 登美江、鬼追 美也子、 岸谷 征子、安部 圭子、 横山 奈緒子、澤 宏美	新人研修 電子カルテ操作	新人看護師 2020/4/2. 3. 6
岩原 直子、山崎 めぐみ、 小屋 幸子、前多 初美、 藤久 保絢子、高橋 典子	看護技術研修 採血、吸引、皮下注射	新人看護師 ※採血のみ初期研修医も参加 2020/4/9
田上 育子、高雲 奈津美	新人研修 看護記録、看護必要度について	新人看護師 2020/4/17
難波 さおり、越智 貴子	新人研修 BLS	初期研修医・新人看護師 2020/6/19. 22
小田 倫子	入退院支援 Eラーニング 病院看護師が行う入退院支援・入退院支援部門の役割	全看護師 2020/7/1-7/31
小田 倫子	入退院支援 Eラーニング 病棟看護師の役割・外来看護師の役割	全看護師 2020/8/1-8/31
脇本 英昭	新人研修 手術看護	新人看護師 2020/8/7
満田 昌代	看護研究の基本を学ぶ Eラーニング	ラダーレベルⅢ看護師 2020/8/17-9/30
小谷 朱根	医療者に必要な接遇マナー Eラーニング	全看護師 2020/8/24-9/25
山中 美穂	NHF の基礎知識	ラダーレベルⅠ看護師 2020/8/27
和田 和美	多職種で取り組む転倒転落予防 Eラーニング	ラダーレベルⅠ看護師 2020/9/1-9/25
安部 圭子	病院で働く職員に向けた臨床倫理 Eラーニング	ラダーレベルⅠ看護師 2020/9/7-10/31
安部 圭子	日常の看護ケアで考える倫理 Eラーニング	ラダーレベルⅡ看護師 2020/9/7-10/31
小原 順子	新人研修 キネステティック体験講座	新人看護師 2020/9/10
河野 恵美	複数患者への対応 ～アセスメント力の強化～ Eラーニング	ラダーレベルⅠ看護師 2020/10/1-10/31
満田 昌代	統計データと分析 Eラーニング	ラダーレベルⅢ看護師 2020/10/1-10/31
稲野 聖子	新人研修 倫理研修	初期研修医・新採用コメディカルスタッフ・ 事務職員・新人看護師 2020/10/12
山中 美穂	ベネット 840 の応用	全看護師 2020/10/15
松浦 千佐子	アサーティブコミュニケーション Eラーニング	ラダーレベルⅡ・Ⅲ看護師 2020/10/26-12/28
満田 昌代	論文の書き方・研究発表 Eラーニング	ラダーレベルⅢ看護師 2020/11/4-12/20
西田 智恵美	経腸栄養 胃瘻管理の実際	ラダーレベルⅠ看護師 2020/11/6

指 導 者	研 修 テーマ	対 象 ・ 月 日
河野 恵美	血ガス・レントゲンの見方	ラダーレベルⅡ看護師 2020/11/10
岩崎 真由美、音地 真理、 近藤 由利、新川 由里、 高雲 奈津美、田上 育子、 西澤 千春、藤井 雅美	ラダー研修 メンバーシップ	ラダーレベルⅠ看護師 2020/11/16. 27
難波 さおり	意思決定支援 聴く力 Eラーニング	ラダーレベルⅠ看護師 2020/11/2-11/24
難波 さおり	意思決定支援 ACPとは Eラーニング	ラダーレベルⅡ看護師 2020/11/2-11/24
小原 順子	褥瘡の基本的・標準的なアセスメントとケア実践 Eラーニング	全看護師 2020/12/17-2021/1/20
地道 敏美、山崎 めぐみ	新人研修 急変時対応シミュレーション	新人看護師 2020/12/11
横山 朋之	標準予防策を遵守しよう Eラーニング	ラダーレベルⅠ看護師 2021/1/25-2/8
横山 朋之	標準予防策と経路別予防策を遵守しよう Eラーニング	ラダーレベルⅡ看護師 2021/2/8-2/22

■ 学生実習指導

指 導 者	受 け 入 れ 校	実習名、期間、日数、延べ人数
3階北病棟	藍野大学	母性看護学 2020/9/28-10/1 4日間 20人
		母性看護学 2020/10/6-10/9 4日間 16人
		母性看護学 2020/11/10-11/13 4日間 20人
		母性看護学 2020/11/30-12/3 4日間 16人
4階南病棟		成人看護学(慢性期) 2020/9/29-10/2 4日間 16人
4階北病棟	成人看護学(慢性期) 2020/10/20-10/23 4日間 20人	
5階北病棟	成人看護学Ⅰ 2020/9/28-10/2 4日間 12人	
	成人看護学Ⅰ 2020/9/28-10/2 4日間 8人	
3階北病棟	大阪医療看護専門学校	母性看護学 2020/6/29-7/2 4日間 24人
		母性看護学 2020/7/6-7/9 4日間 24人
		母性看護学 2020/7/13-7/16 4日間 24人
		母性看護学 2020/7/27-7/30 4日間 24人
		母性看護学 2020/8/10-8/13 4日間 24人
		母性看護学 2020/8/17-8/20 4日間 24人
		母性看護学 2020/8/24-8/27 4日間 24人
4階南病棟		成人看護(終末期) 2020/6/29-7/3 5日間 25人
		成人看護(終末期) 2020/7/6-7/10 5日間 25人
		成人看護(終末期) 2020/7/13-7/17 5日間 25人
4階北病棟		成人看護学Ⅱ 2020/7/27-7/31 5日間 20人
5階北病棟		成人看護学Ⅱ 2020/7/27-7/31 5日間 20人
4階南病棟		成人看護学(慢性期) 2020/8/31-9/4 4日間 9人
		成人看護学(慢性期) 2020/9/7-9/11 4日間 9人
		成人看護学(慢性期) 2020/9/14-9/17 4日間 9人
5階南病棟		成人看護学(慢性期) 2020/8/31-9/4 4日間 9人
		成人看護学(慢性期) 2020/9/7-9/11 4日間 9人
		成人看護学(慢性期) 2020/9/14-9/17 4日間 9人
4階北病棟		総合看護学 2020/11/2-11/13 8日間 48人
		総合看護学 2020/11/16-11/26 8日間 48人
5階北病棟	総合看護学 2020/11/2-11/13 8日間 48人	
	総合看護学 2020/11/16-11/26 8日間 48人	
4階南病棟	老年看護Ⅱ 2020/11/24-12/10 12日間 72人	

指 導 者	受 け 入 れ 校	実習名、期間、日数、延べ人数
5 階南病棟		老年看護Ⅱ 2020/11/24-12-10 12 日間 72 人
5 階南病棟 5 階北病棟	大阪医専	成人看護学(慢性期) 2020/9/23-10/1 6 日間 24 人 成人看護学Ⅰ 2020/10/12-10/22 8 日間 40 人
4 階北病棟 5 階北病棟 5 階南病棟	四条畷学園大学	成人看護学Ⅱ 2020/12/1-12/11 8 日間 32 人 成人看護学Ⅱ 2020/12/1-12/11 8 日間 40 人 成人看護学(慢性期) 2020/11/4-11/18 10 日間 40 人
3 階北病棟 4 階北病棟 4 階南病棟 5 階北病棟 5 階南病棟 4 階北病棟 5 階北病棟	千里金蘭大学	助産総合看護学 2020/8/11-8/14 4 日間 8 人 助産総合看護学 2020/8/24-8/28 4 日間 4 人 助産基礎学 2020/8/24-9/18 16 日間 32 人 成人看護学Ⅰ・Ⅱ 2020/8/17-8/27 8 日間 52 人 成人看護学Ⅰ・Ⅱ 2020/8/17-8/27 8 日間 50 人 成人看護学Ⅰ・ 2020/8/17-8/27 8 日間 52 人 成人看護学Ⅰ・Ⅱ 2020/8/17-8/27 8 日間 52 人 総合看護学 2020/8/31-9/18 15 日間 57 人 総合看護学 2020/8/31-9/18 15 日間 60 人
3 階北病棟	兵庫医療大学	助産総合看護学 2020/10/28-12/18 36 日間 36 人

《概要》

■ 組織・スタッフ

管理栄養士

今仲直美（正規職員）

栄養サポートチーム専門療法士、糖尿病療養指導士、初級在宅栄養ケアスタッフ研修修了、特定保健指導実践者育成研修修了、大阪府知事表彰受賞（2017年）

今西成雄（正規職員）

栄養サポートチーム専門療法士、臨床栄養代謝専門療法士（がん専門療法士）、初級在宅栄養ケアスタッフ研修修了、特保健指導実践者育成研修修了、自衛消防業務講習修了、肝炎医療コーディネーター、大阪府知事表彰受賞（2020年）

長谷良太（正規職員）

栄養サポートチーム専門療法士、糖尿病療養指導士、初級在宅栄養ケアスタッフ研修修了、肝炎医療コーディネーター

田中芳子（会計年度月額職員）

栄養サポートチーム専門療法士、初級在宅栄養ケアスタッフ研修修了、特定保健指導実践者育成研修修了、肝炎医療コーディネーター

高雲隆史（会計年度月額職員）

栄養サポートチーム専門療法士、初級在宅栄養ケアスタッフ研修修了、特定保健指導実践者育成研修修了、肝炎医療コーディネーター

松本千穂（会計年度月額職員）

所属する委員会は感染対策委員会、栄養管理委員会、業務改善委員会、クリニカルパス委員会、病棟運営委員会、職員研修委員会、ERAS会議、病院食調理業務委託連絡会、医療技術部会議、がん化学療法運営委員会。

所属するチームは栄養サポートチーム、褥瘡対策チーム、生活習慣病・糖尿病センターチーム、緩和ケアチーム。

調理業務は委託（エームサービス株式会社）。

■ 業務概要

食事は日本人の食事摂取基準（2020年版）の改訂により、高齢者を細かく年齢、性別で分け、食種（常食M-S、常食F-S）を新たに作った。行事食（子供の日、七夕等）9回、イベント食（土用の丑、食育等）6回の食事を提供した。出産した妊婦さんにお祝い膳（フレンチ風の食事、お菓子の詰め合わせ）を提供した。コロナ患者の食事は病態、嚥下状態に合わせた食事を使い捨て食器で提供した。経腸栄養剤、栄養補助食品は充実させるために、商品変更を行った。

電解水生成装置を入れ替え、衛生面の充実を図った。

(1) チーム活動について

栄養サポートチームは事務局として、回診予定表の作成、回診患者の情報の収集を行った。医師・看護師・薬剤師・管理栄養士の専任を置き、週に2回の回診を行った。回診後、事務局が栄養治療実施計画兼栄養治療実施書を作成し、患者に配布し、算定を行った。

褥瘡対策チームは毎週水曜日に回診し、褥瘡ハイリスク加算算定者の確認を行った。また、NSTとの連携強化、患者の栄養管理のアドバイスを行い、勉強会、全体研修会を担当し、ラダーⅢ研修用のDVDを作成した。

生活習慣病・糖尿病センターチームは毎週火曜日に回診し、糖尿病教室、外来患者対象の生活ニーズ（夏バテ予防、調味料の使い方等）に合わせた内容の糖尿病教室を行った。医師、看護師・管理栄養士のチームによる糖尿病透析予防指導は5回シリーズで実施し、算定条件が昨年より倍になった。療養指導に役立たせるために、糖尿病患者の症例検討、各職種による講義を実施した。

緩和ケアチームは毎週水曜日にカンファレンスをし、情報共有を行った。患者の食事量が少しでも増えるようにふくまる食（カレー、お好み焼、ざるそば等）、そうめん食、フルーツ食、ゼリーやヨーグルトを付加するなどし、食事の調整を行った。また、お誕生日にはケーキの提供も行った。緩和チーム介入患者の個別栄養食事管理をし、算定を行った。

ICUカンファに参加し、重症患者の特定集中治療入室後、早期から経腸栄養等の必要な栄養管理に携わり、6月より早期栄養介入管理加算を算定した。

(2) 個別栄養食事指導

入院は病棟担当制で指導を行った。

3北病棟は糖尿病患者の入院時、退院時。3東病棟はCOPD教育入院患者。4東病棟は血液内科の食欲不振、低栄養患者。4南病棟は心疾患患者の入院時、退院時。5北病棟は胃切術後患者の食事開始時、退院時。大腸、膵、肝、胆のう切除患者の食事開始時。5南病棟は肝臓パス、胃・腸の内視鏡的切除術、胆のう・胆管炎患者。4東病棟、5北病棟のカンファレンスに参加し、患者の情報共有を行った。

外来は小児科のアレルギー負荷試験入院予定患者、泌尿器科の前立腺癌の放射線治療前患者、生活習慣病・糖尿病センターで妊娠糖尿病やかかりつけ医からの紹介患者の指導をした。入院、外来の栄養食事指導件数はコロナの影響により、少し減少した。

入院医療機関と在宅担当医療機関等切れ目のない栄養連携を図る観点から、退院後も栄養管理に留意が必要な患者について、入院中の栄養管理等に関する情報を提供した。算定要件を満たす患者は栄養情報提供加算を算定した。

(3) その他

池田市民対象に特定保健指導を健診センターにて食事・運動・生活習慣等健康保持のために指導を行った。

院外での活動としては、大阪府池田保健所管内集団給食研究会役員（副会長）、池田市地域支援事業在宅医療・介護連携事業の入退院支援検討会委員、大阪府公立病院栄養士代表者会役員を担当した。

《実績》

■ 統計実績

1 個別栄養食事指導件数

種 類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
糖尿病	72	58	75	103	65	88	94	83	77	65	61	77	918
潰瘍・胃切	16	15	7	16	11	17	13	8	19	24	16	16	178
膵臓(胆石)・肝炎	13	10	18	17	11	13	13	13	11	12	12	9	152
胆のう摘出術	7	6	10	18	7	9	13	21	14	3	6	8	122
腎臓	22	6	17	15	7	7	16	9	13	7	15	12	146
心臓・高血圧	13	9	21	10	14	20	15	11	10	21	7	16	167
アトピー性皮膚炎 (アレルギー含)	1	0	4	3	3	0	5	0	4	1	0	3	24
炎症性腸疾患・腸切	14	10	6	13	14	17	16	11	19	13	14	13	160
がんの栄養管理	16	21	25	16	14	13	13	9	24	24	11	43	229
その他	8	8	12	11	6	6	9	3	5	7	2	7	84
計	182	143	195	222	152	190	207	168	196	177	144	204	2,180

2 糖尿病透析予防管理指導件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
22	21	31	37	30	36	42	25	34	25	31	27	361

3 個別栄養食事管理(緩和ケア)件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
34	29	41	48	61	36	37	55	27	32	11	20	431

4 早期栄養介入管理件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	0	3	5	16	21	41	6	24	26	25	48	215

5 集団栄養食事指導件数

糖 尿 病 教 室	延 202 人
母 親 教 室	延 50 人

6 特定保健指導件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2	0	0	2	3	2	0	0	1	0	0	2	12

7 食数構成比

常食	43,131	16.8
軟菜	49,467	19.3
特別食加算	141,242	55.1
特別食非加算	22,603	8.8
合 計	256,443 食	100.0%

8 調乳数

14,949 本

■ 研修・教育活動

□研究会・講演会発表

発 表 者	演 題 名	学会名、会場、日時
田中 芳子	栄養管理のポイント	褥瘡委員会による勉強会 DVD作成 2021/2/18
今仲 直美	妊娠糖尿病の食事療法	生活習慣病・糖尿病センター運営委員会 による勉強会 講堂 2021/3/19

□教育活動

管理栄養士の実習生受け入れ

武庫川女子大学（3週間コース3名）梅花女子大学（2週間コース5名）

《実績》

■ 統計実績

1 医療機器保守管理業務

- (1) 医療機器点検・修理件数 約 15,000 件
- (2) 時間内医療機器関連呼び出し対応（電話対応含む） 約 5,600 件
- (3) 時間外医療機器関連呼び出し対応（電話対応含む） 約 820 件

2 臨床技術提供業務

- (1) 冠動脈造影検査 158 件
- (2) 経皮的冠動脈インターベンション 70 件
- (3) 恒久的ペースメーカ植え込み（電池交換含む） 34 件
- (4) 体外式ペースメーカ挿入 11 件
- (5) カテーテルアブレーション 42 件
- (6) 手術立会い 約 80 件
- (7) その他、医療機器操作関連対応 約 930 件

医療機器管理室開設以来、臨床工学技士（看護師）1名での運用であるが、各種保守点検機器の導入や保守点検プログラムの工夫により、効率的な運用が実施できている。今後も保守が簡素化された最新医療機器への更新と、各種保守点検機器の増設を優先的に行い、既存の人員で更なる効率的な運用を目指す。

医療機器管理業務においては、厚生労働省や日本医療機能評価機構などで推進されている、医療機器の標準化及び完全中央管理化を早期に実現させ、診療科や部門の枠を越えた総合的な医療機器管理体制の構築を目指す。

臨床技術提供においては、人工呼吸器や補助循環装置など生命維持管理装置の操作が中心であるが、時間外緊急心カテの積極的受け入れに対応するため、緊急症例発生時には直ちに対応できるよう体制を整備する。

《概要》

■ 組織・スタッフ

部長：福田和人（副院長兼任）

スタッフ：入潮佳子（薬剤師）、服部美千代（看護師）、四広知香（薬剤師）（～20/12）、
服部美紗冬（事務）（20/05～）

■ 診療・業務概要

1 治験（治験コーディネーター業務）

腎臓内科の治験を継続して実施した。当院において重篤な有害事象が発現し報告を行った。（入院による報告1件、死亡による報告1件）COVID-19感染による非常事態宣言下等で開始延期になっていた新規案件（整形外科 医療機器 HANZ）が12月に当院 IRB にて承認され、1月より開始となった。COVID-19感染拡大の中、被験者が定期来院を拒否することも想定されたが、問題なく実施した。依頼者の直接閲覧も、継続に支障がないように最低限で実施した。

2 臨床研究（データマネージャー業務、臨床研究コーディネーター業務）

医師主導臨床研究の5科56試験を支援した。

COVID-19の治療にファビピラビル（アビガン）を使用するにあたり必須の観察研究に登録した。また詳細なデータを収集するCOVID-19レジストリ研究（国立国際医療センター）にも登録した。消化器外科・呼吸器内科・消化器内科の研究では、血液検体・組織検体・画像提出を各部門の協力を得てスムーズに対応した。

3 製造販売後調査（データマネージャー業務、対応窓口業務）

昨年度に引き続き、申請、審査対応から契約、登録支援、調査票記載支援（再調査を含む）を経て終了、入金までの一連の管理を行った。提出PMSの減少は、調査期間のタイミングの問題であり、新規契約数も減少していないことからCOVID-19感染の影響は少ないと考える。

4 事務局業務

治験事務局業務（GCP省令に則った事務局業務）

委員会事務局：治験審査委員会（毎月第1月曜開催）倫理委員会（奇数月第4木曜日開催）治験審査委員会8回、倫理委員会5回開催した。病院より各種会議体の原則開催中止が通知された。また厚生労働省から「事務連絡：新型コロナウイルス感染症に係る治験に関する審査委員会での審査の取り扱いについて」が通達され、オンラインや持ち回りでの審査を考慮できることとなった。既に治験審査委員会、倫理委員会の外部委員にオンライン環境のアンケートを実施しており、当院の状況も併せて現状は書類審査で対応することとした。「市立池田病院治験審査委員会・倫理委員会における対面会合以外の会議開催手順書」を作成し、治験依頼者の確認の上で、書類審査を実施した。（治験審査委員会21年2月 倫理委員会20年5月）特定臨床研究は、新規2件が病院長承認となった。

《実績》

■ 統計実績

【実施治験】

	実施科	治験薬名 (相)
継続(1件)	腎臓・内代	RTA-402(Ⅲ)
新規(1件)	整形外科	HANZ(探索的試験)

【支援臨床研究(56試験)】

診療科	試験名	依頼者
呼吸器内科 (13)	LC-SCRUM_SCLC	国立がん研究センター東病院
	LC-SCRUM_IBIS	国立がん研究センター東病院
	LC-SCRUM-Liquid	国立がん研究センター東病院
	LC-SCRUM-Asia	国立がん研究センター東病院
	抗ウイルス薬投与 COVID-19 背景因子治療効果	藤田医大微生物学講座・感染症科
	COVID-19 Registry	国立国際医療研究センター
	ABPM 全国調査	東海大学医学部内科学系呼吸器内科学
	WJOG8415L	WJOG
	WJOG9416L	西日本がん研究機構
	WJOG11518L	西日本がん研究機構
	WJOG 13119L	WJOG
	ABCP Study	関西医科大学附属病院
	LC-SCRUM-TRY	国立がん研究センター東病院
循環器内科 (2)	PURSUIT-HFpEF	大阪大学医学部附属病院
	RCR-OAC 試験	ブリストル・マイヤーズスクイブ株式会社
消化器外科 (32)	NY-ESO-1 抗体価	大阪大学消化器外科
	胃切除ピロリ菌	大阪大学消化器外科
	進行胃癌腹腔鏡下胃切除術における安全性	大阪大学消化器外科
	ステロイド試験観察	大阪大学消化器外科
	ラコール観察研究	大阪大学消化器外科
	OGSG1701	OGSG
	HER2 陽性進行・再発胃癌/3次治療以降観察研究	大阪大学消化器外科
	OGSG1402	OGSG
	RINDBeRG	OGSG
	DELIVER:JACCRO GC-08	日本がん臨床試験推進機構
	GC08-AR	JACCRO(日本がん臨床試験推進機構)
	OGSG1902	OGSG(大阪消化管がん化学療法研究会)
	LANDMARC Study	横浜市立大学 外科治療学
	EnSSURE study	北海道大学病院 消化器外科
	VTE	兵庫医科大学病院下部消化管外科
	ACHIEVE Trial	財団法人がん集学的治療研究財団
	JFMC46-1201	がん集学的治療研究財団
	diverting loop ileostomy 前向き観察研究	大阪大学消化器外科
	JACCRO CC-13 DEEPER	日本がん臨床試験推進機構
	Cancer-VTE	第一三共/ジェイクルーズ株式会社
	RAINCLOUD	大阪大学消化器外科
	RAINCLOUD-TR	大阪大学消化器外科
	JACCRO CC-16	日本がん臨床試験推進機構
JACCRO CC-16AR	日本がん臨床試験推進機構	
EssentiAL study	札幌医大 消化器総合乳腺内分泌外科	

診療科	試験名	依頼者
	Pmab 皮膚毒性追跡研究	大阪大学消化器外科
	OSNA 法によるリンパ節微小転移診断意義の検討	大阪大学消化器外科
	GALAXY trial	九州大学大学院消化器・総合外科
	VEGA trial	札幌医大消化器総合乳腺内分泌外科
	JACCRO CC-17	JACCRO(日本がん臨床試験推進機構)
	TAS+Bev	大阪大学消化器外科
	ヘルニアコホート	国立病院機構
消化器内科 (7)	EBR/GZR 安全性有効性	大阪大学消化器内科
	SVR 後 HCC EOB	山梨大学放射線科
	B 型慢性肝疾患における核酸アナログの治療効果	大阪大学消化器内科
	C 型 IFNfree 治療 安全性有効性	大阪大学消化器内科
	PEGIFN/RBV 併用療法後の予後検討	大阪大学消化器内科
	HCC 薬物療法	大阪大学消化器内科
	HCV 抗ウイルス療法予後	大阪大学消化器内科
内分泌・ 代謝内科 (2)	SPIKE 継続 EXTENSION study	大阪大学内分泌代謝内科/順天堂大学
	UTOPIA Extension Study	大阪大学内分泌・代謝内科

【製造販売後調査 報酬確定調査】

	製造販売後調査		副作用報告 報告数
	調査数	(提出冊数)	
整形外科	4	(74)	1
消化器内科	4	(19)	
血液内科	5	(19)	1
外科・消化器外科	1	(5)	1
循環器内科	1	(1)	
呼吸器内科	1	(1)	3
泌尿器科	1	(1)	2
神経内科	2	(2)	
内分泌・代謝内科	1	(5)	
麻酔科	1	(5)	1
小児科			1
計	21	(132)	10

【治験審査委員会・倫理委員会審査件数】

委員会 対象	治験審査委員会		倫理委員会			CRB	
	本審査	迅速審査	製販後調査 本審査	臨床研究			
区分	本審査	迅速審査	本審査	本審査新規	迅速新規	迅速変更	病院長承認
4月	休会	1			4	1	
5月	休会			2			
6月	2		1		3	2	
7月	1			5	1		
8月	休会				2	2	
9月	4		5	2	1	2	1
10月	2		2		1	3	
11月	1		4	5	6		
12月	2		4		5	5	1

委員会	治験審査委員会			倫理委員会			CRB
対象	治験		製販後調査	臨床研究			
区分	本審査	迅速審査	本審査	本審査新規	迅速新規	迅速変更	病院長承認
1月	休会			休会	1	4	
2月	2		3		1	1	
3月	3		1	1		2	
計	17	1	20	15	25	22	2

地域医療連携部

《概要》

■ 組織・スタッフ

1 組織

前方支援・後方支援・予約相談・返書管理・かかりつけ医紹介窓口

2 スタッフ

部長（総長） 今井 康陽

室長（看護次長） 小田 倫子

看護師 2名

社会福祉士 5名

事務員 8名

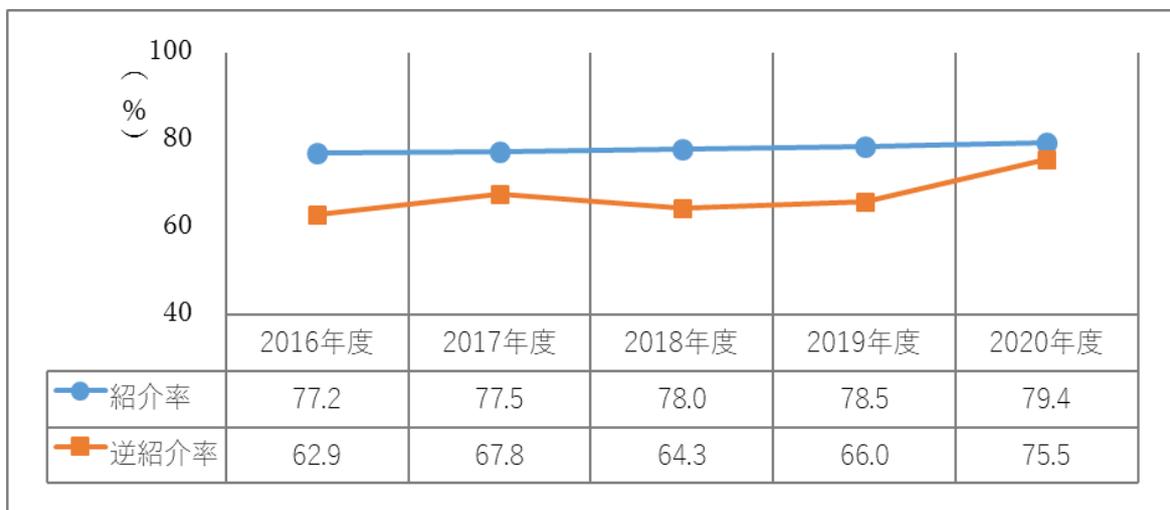
■ 地域医療支援病院としての業務概要

- (1) 地域医療連携に関すること
- (2) 患者の入退院・救急に関すること
- (3) 施設共同利用に関すること
- (4) 医療相談に関すること
- (5) 諸記録の閲覧窓口に関すること
- (6) 地域医療研修に関すること
- (7) 地域の広報に関すること
- (8) 地域の医療専門職の生涯教育に関すること
- (9) 地域住民に対する医療、保健衛生の普及に関すること

《実績》

■ 統計実績

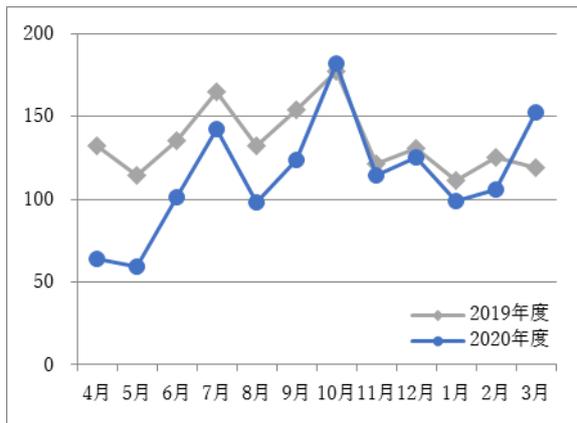
1 年度別推移 紹介率 逆紹介率



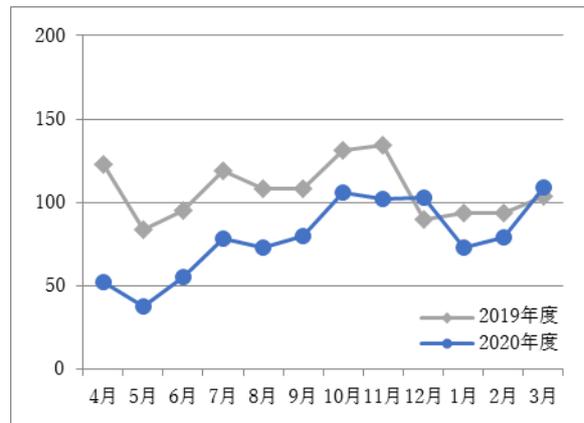
地域医療連携登録医 医科 310名 歯科 148名 計 458名

2 検査予約件数

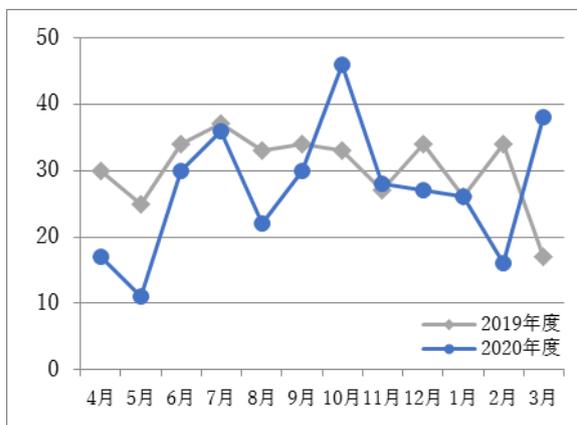
MRI 件数



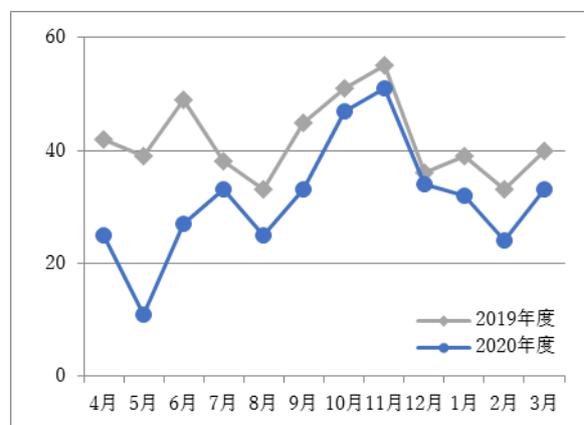
CT件数



腹部・甲状腺エコー件数



内視鏡件数



3 研修実績

研修会・講演会

開催日	研修会・講演会名	テーマ
9月16日 10月28日	地域密着型エリア WEB ミーティング	コロナ禍における糖尿病診療の現状と病診連携について
9月24日	市立池田病院 地域連携の会	COVID-19 禍における新しい医療連携を考える

地域ケア連携会 ※毎月開催の予定であったが、新型コロナウイルス感染症に伴い開催中止。

開催日	担当部門	テーマ
5月14日	地域医療連携室	「看護の日」訪問看護ステーション紹介
7月10日	地域医療連携室 医療安全質管理部	新型コロナウイルス感染症に関する情報交換 男性導尿について泌尿器科医師による講義、男性導尿実技演習 (訪問看護師対象)

4 市民公開講座

※毎月開催の予定であったが、新型コロナウイルス感染症に伴い開催中止。

■ その他の活動実績

- ・大阪府がん診療連携協議会・各部会
- ・豊能がん医療ネットワーク協議会・各部会
- ・豊能圏域大腿部頸部骨折地域連携会議
- ・豊能圏域脳卒中地域連携クリティカルパス会議
- ・豊能糖尿病地域連携クリティカルパス検討会
- ・池田保健所連携会議
- ・川西・猪名川病院連携会議
- ・病-病連携会議 他

感染制御部

《概要》

■ 組織・スタッフ

* ICT (感染制御チーム)

医師：橋本重樹 (ICD)

医師：尾崎由和

薬剤師：瀬名波宏昌 (感染制御認定薬剤師)

薬剤師：小畑紋菓 (抗菌化学療法認定薬剤師)

臨床検査技師：兒谷香里

臨床検査技師：今村友美

看護師 (専従)：横山朋之 (感染管理認定看護師)

看護師 (専従)：生地あゆみ (感染管理認定看護師) 4/20～

看護師 (専従)：林紫 (感染管理認定看護師) 1/4～

* AST (抗菌薬適正使用支援チーム)

医師：橋本重樹 (ICD)

医師：若林元 (ICD)

医師：中尾真一郎

薬剤師：瀬名波宏昌 (感染制御認定薬剤師)

薬剤師 (専従)：小畑紋菓 (抗菌化学療法認定薬剤師)

臨床検査技師：兒谷香里

看護師：横山朋之 (感染管理認定看護師)

* 感染リンクスタッフ

医療安全・質管理部 安全対策室室長兼看護副部長：上田真愉未

感染制御部 感染対策室室長兼看護師長、感染管理認定看護師：横山朋之

感染制御部 感染管理認定看護師：林紫

看護部 中央手術室看護師長：竹原陽子

臨床検査技師：衣川尚加

放射線技師：上月喜予玲、平野佳代

歯科技工士：嶋本正嗣

理学療法士：渡辺千尋、田中大貴

薬剤師：新居万莉

看護師：濱田恵美、前田純子、関麻璃奈、小野涼子、宮原育大、東真澄、金城幸佑、

平川美和子、西尾荒志、新枝麻椰、堀江裕美子、吉川里恵子

■ 業務概要

1) ICT

医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師の4職種でチーム構成され、感染管理認定看護師が専従となり、感染防止対策加算1、感染防止対策加算地域連携加算を算定している。毎週水曜日に ICT 環境ラウンドを実施している。また、厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業の検査部門、手術部位感染 (SSI) 部門に参加をしている。院内の全職員対象の全体研修を年2回実施し、院内感染対策に取り組んでいる。

2)AST

チームメンバーは医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師で構成され、薬剤師 1 名が専従として抗菌薬適正使用支援加算を算定している。AST 対象患者は、広域抗菌薬使用患者、抗 MRSA 薬使用患者、血培陽性患者、抗菌薬長期使用患者（8 日以上）とし、毎日専従薬剤師がリストアップし、確認している。その中から見直し・介入が必要な患者を抽出し、週 2 回チームカンファレンスを行っている。院内での感染症・抗菌薬に関わる相談は随時行い、感染症診療をサポートしている。また、AST 主催の院内勉強会を 2 回開催し、抗菌薬適正使用を推進している。

《実績》

1. 地域連携

- 1) 感染防止対策加算 2 施設と合同カンファレンスを年 4 回実施
- 2) 院内にて全職員対象全体研修を年 2 回実施
- 3) 厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業（JANIS）に検査部門・手術部位感染（SSI）部門に参加
- 4) 感染防止対策加算 1 施設病院の ICN による COVID-19 対策の病院ラウンドを実施
 11/20 箕面市立病院訪問 11/26 市立豊中病院訪問 11/30 大阪刀根山医療センター訪問
 12/8 市立池田病院訪問

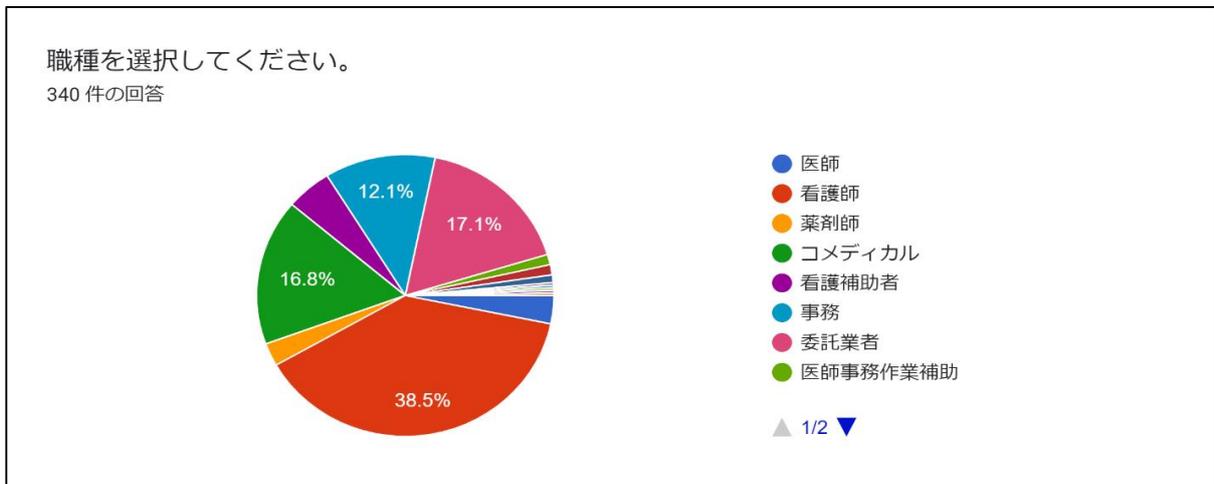
2. 感染防止対策加算 1

	開催日	開催場所	参加施設	内容
感染防止 対策加算 1	7/13	市立池田病院	池田回生病院 市立池田病院	耐性菌の報告 特定抗菌薬使用状況 COVID-19 関連
	9/23	市立池田病院 (WEB 開催)	池田回生病院 市立池田病院	耐性菌の報告 特定抗菌薬使用状況 COVID-19 対策
	11/9	市立池田病院	池田回生病院 市立池田病院	耐性菌の報告 特定抗菌薬使用状況 COVID-19 情報共有
	3/8	市立池田病院	池田回生病院 市立池田病院	耐性菌の報告 特定抗菌薬使用状況 COVID-19 情報共有

3. 全職員対象全体研修

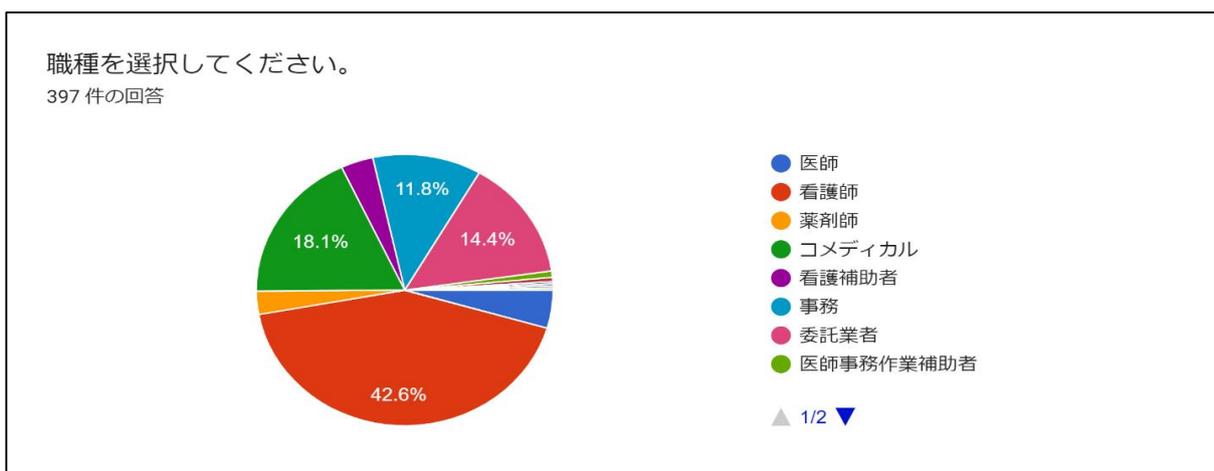
第1回全体研修「新型コロナウイルス感染症の概要と対策」

2020年12月11日～2021年1月31日（動画配信）



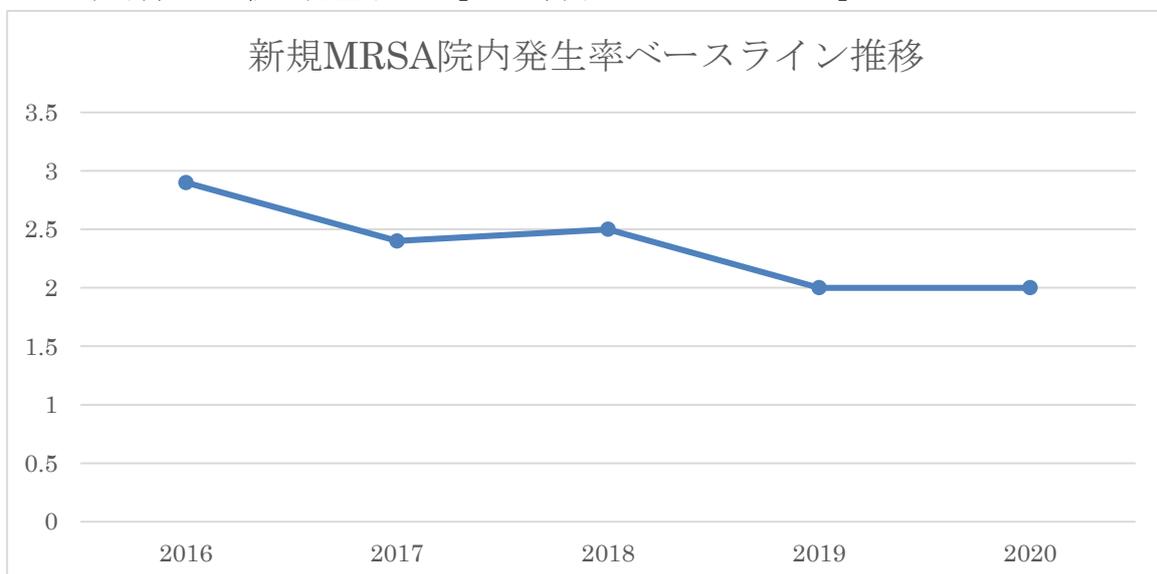
第2回全体研修「新型コロナウイルス感染症～現状と当院の感染対策～」

2021年3月29日～4月5日（動画配信）

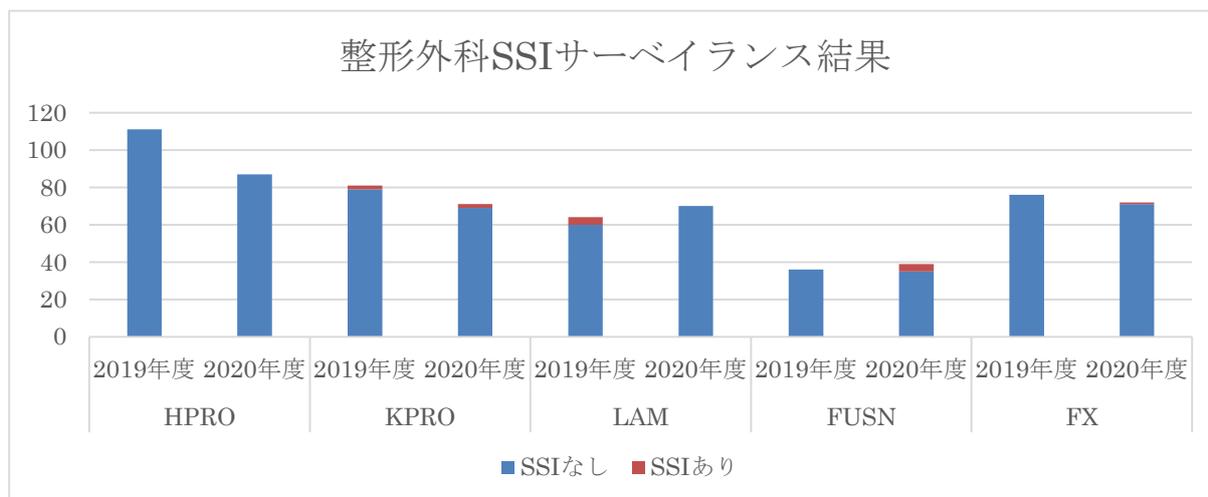


4. サーベイランス

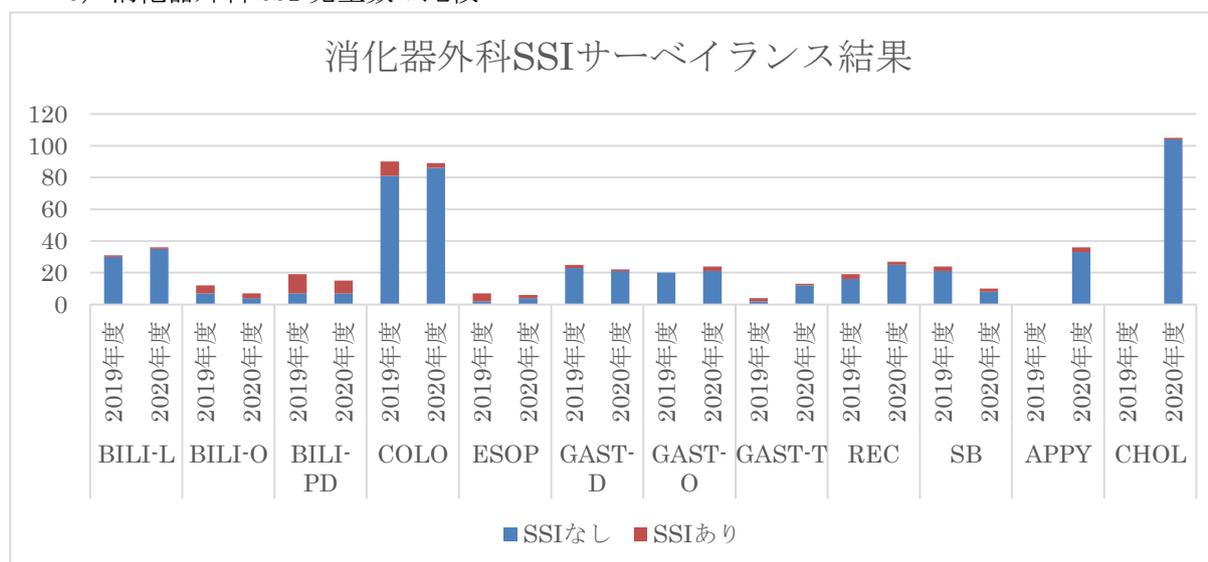
1) 新規MRSA院内発生率2.0 [2019年度のベースライン2.0]



2) 整形外科 SSI 発生数の比較



3) 消化器外科 SSI 発生数の比較



5. 届出感染症

	届出数	感染症
2類感染症	343件	COVID-19 333件 結核 10件
5類感染症	5件	ウイルス性肝炎 1件 梅毒 2件 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 1件 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件

6. 感染管理教育

医療関連感染対策の充実に向けた取り組み

■ ICT 環境ラウンド実施回数と結果のフィードバック回数：58 回／年

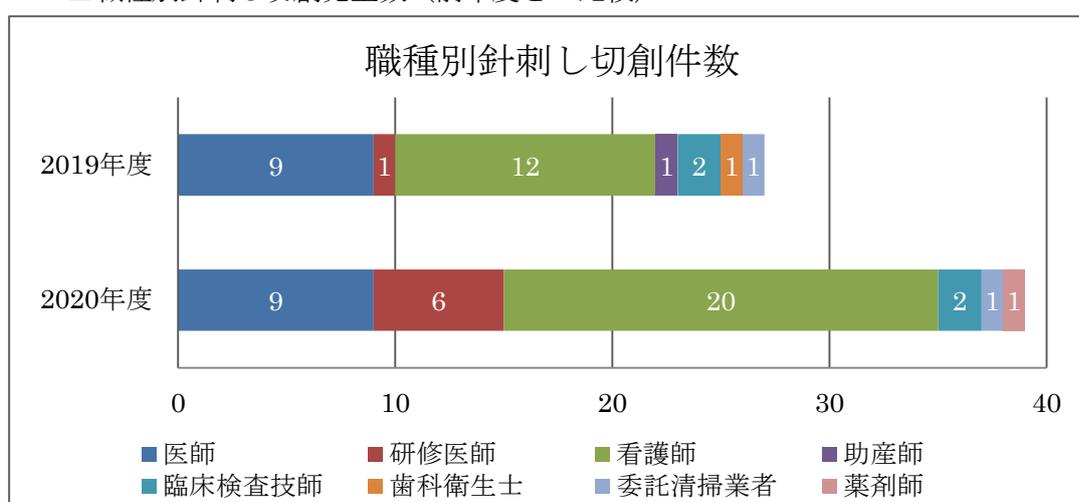
■ 職員対象研修実績

研修対象	実施回数
新規採用職員研修（研修医師、看護師、コメディカル）	1
職員対象研修	7
中途採用者職員研修	2

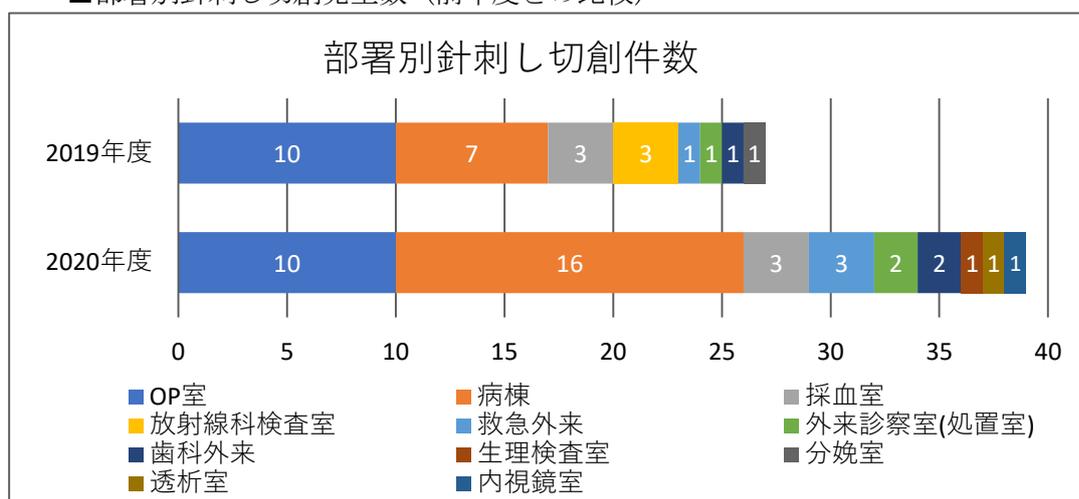
7. 職業感染管理

1) 針刺し切創・粘膜皮膚曝露発生数：39 件

■ 職種別針刺し切創発生数（前年度との比較）

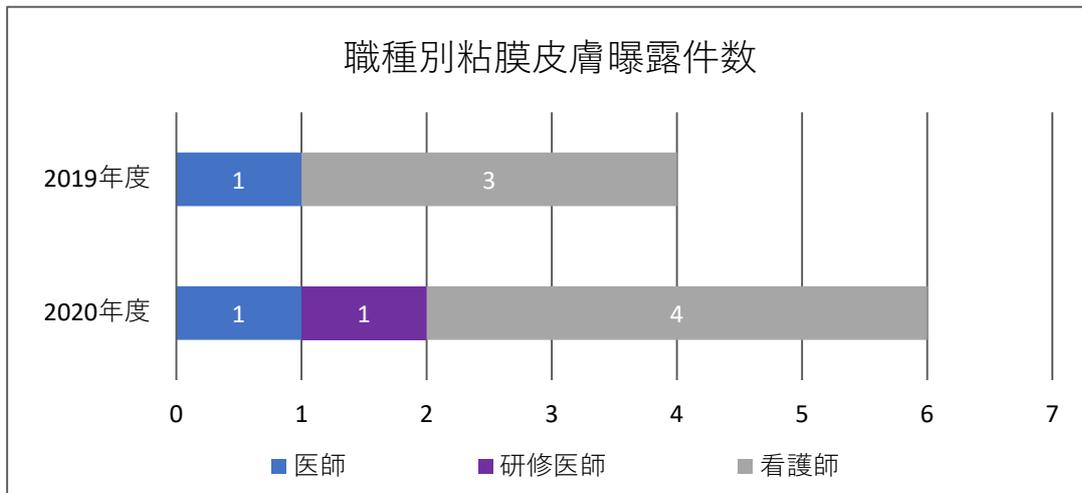


■ 部署別針刺し切創発生数（前年度との比較）

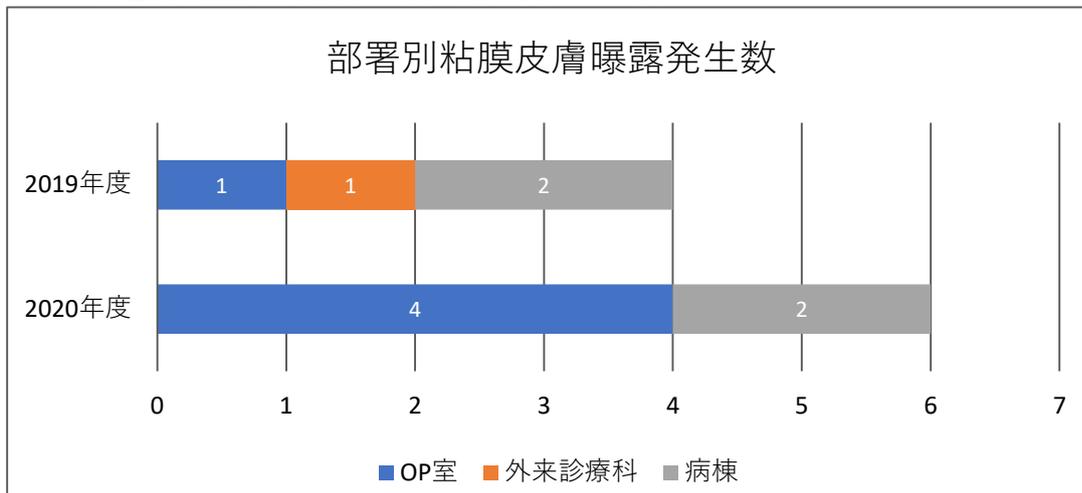


2) 粘膜皮膚曝露発生数：6件

■ 職種別粘膜皮膚曝露発生数（前年度との比較）



■ 部署別粘膜皮膚曝露発生数（前年度との比較）

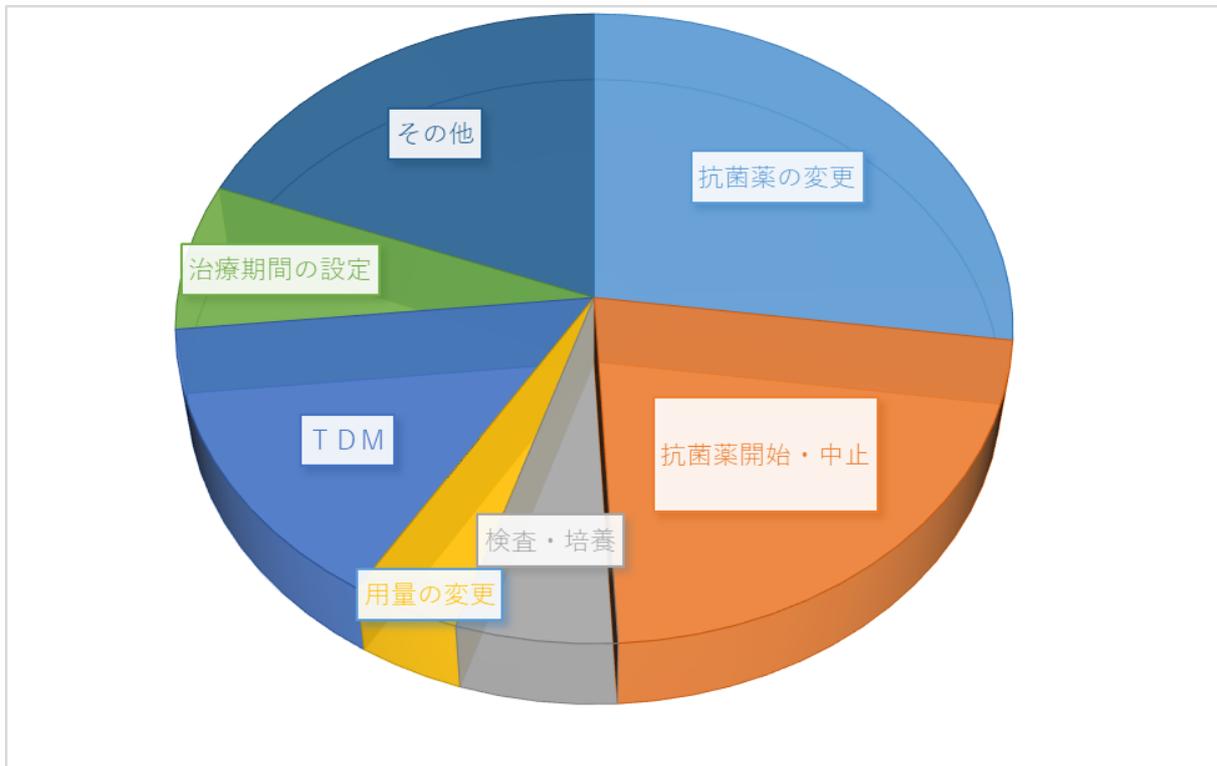


8. 抗菌薬適正使用支援

1) 特定抗菌薬使用患者・血液培養陽性患者に対する早期介入

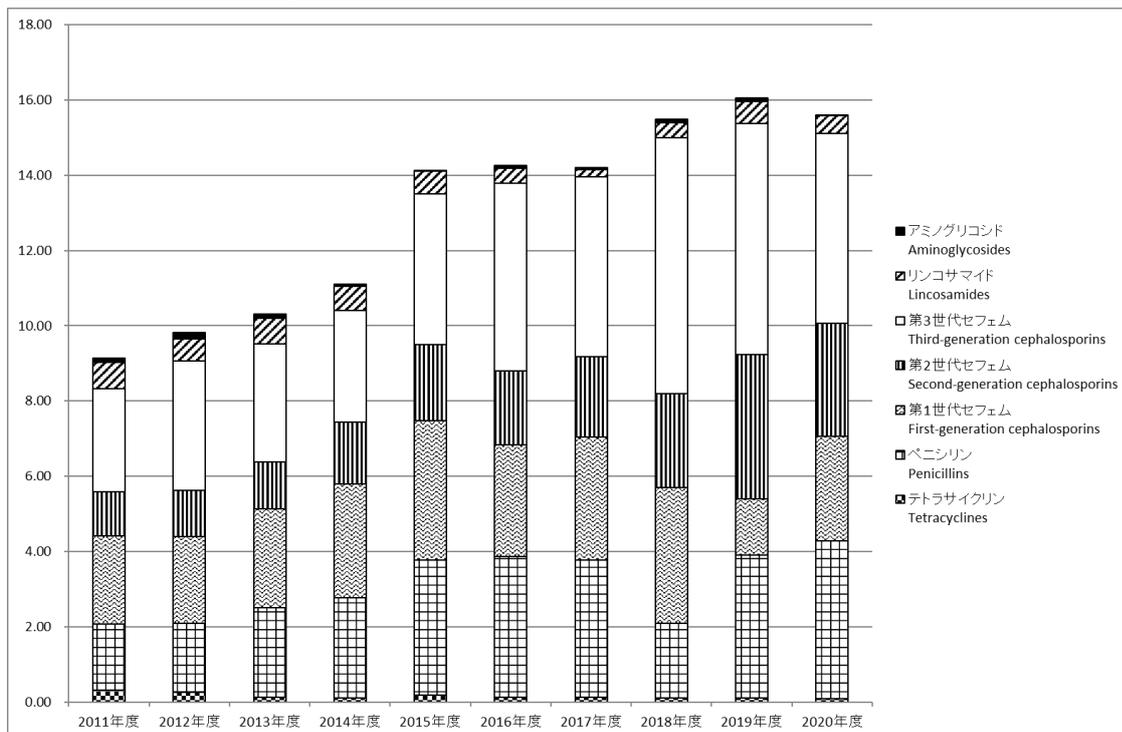
■ 延べ介入患者数：5667名（うちチームによる確認件数：330件）

■ 治療に対する提案数：429件，相談件数：165件（下記グラフ：提案・相談内容の内訳）

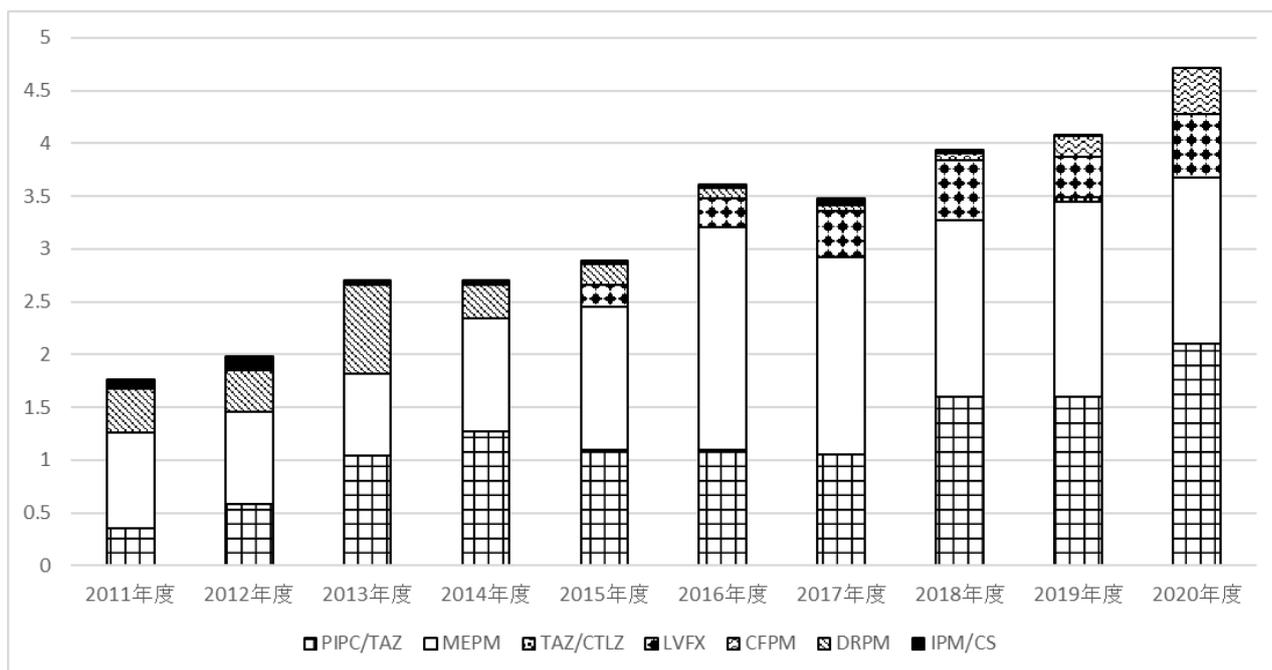


2) 一般抗菌薬使用量推移

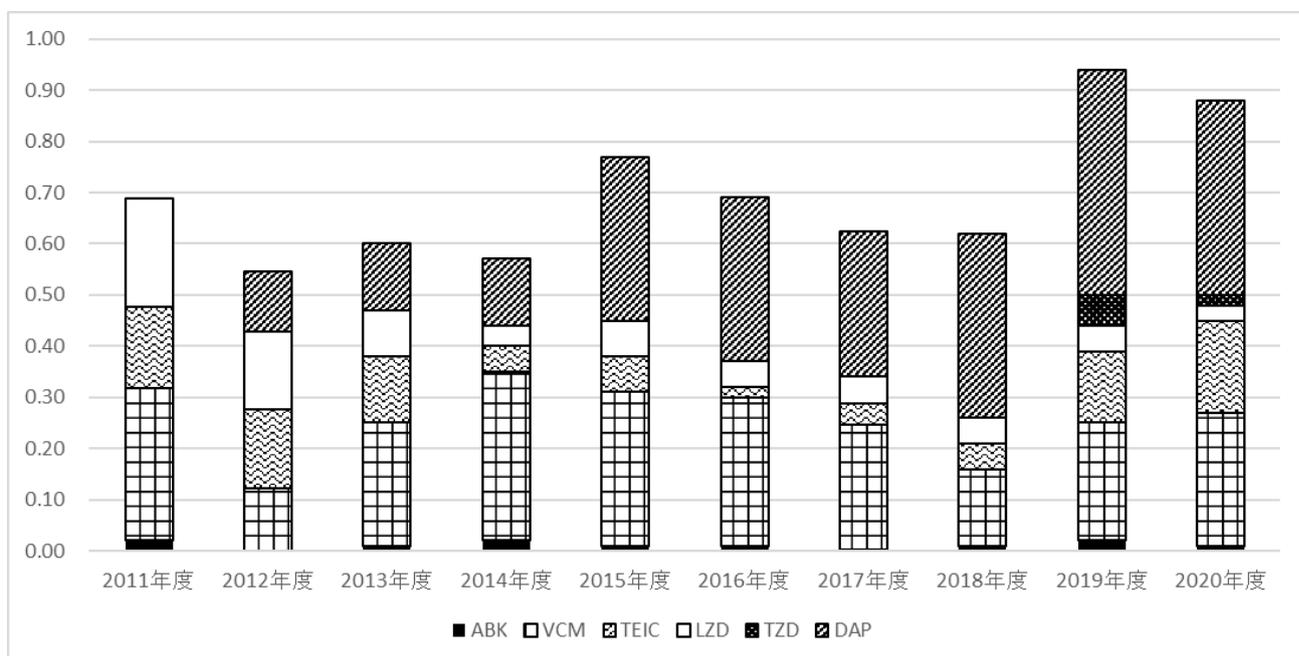
(DDDs/100bed-days)



3) 広域抗菌薬使用量推移
(DDDs/100bed-days)



4) 抗MRSA薬使用量推移
(DDDs/100bed-days)



《概要》

■ 組織・スタッフ

1 組織

部内に安全対策室がある

2 スタッフ

部長（副院長兼務）	大河内 敏行
副部長兼安全対策室長	上田 真愉未
安全対策室 室員（兼務）	和田 和美
（専任）	下村 一徳
（専任）	松田 和穂

■ 業務概要

1 安全対策室の業務概要

- 1) インシデントレポートの分析・集計
- 2) 安全対策室カンファレンスを週1回程度で開催し、インシデント事例を検討
- 3) 患者相談窓口における患者対応
- 4) 第三者機関へのインシデント・アクシデント事例報告
- 5) 医療事故発生時の初期対応と事例検討
- 6) MRM委員会の円滑な運営と決定内容の推進
- 7) 医療安全マニュアルの作成と遵守の推進
- 8) 医療安全活動の推進・指導
- 9) 医療安全に関する相談・教育
- 10) 地域への医療安全情報の発信・啓発

《実績》

■ 統計実績

1. 2020年度インシデント報告件数（報告者の職種別件数）

報告者の職種	件数	%
医師	80	2.9
薬剤師	160	5.7
看護師	2,354	84.3
地域連携室	65	2.3
放射線技師	26	0.9
臨床検査技師	29	1.0
リハビリ(PT・OT・STなど)	19	0.7
病理診断技師	1	0.04
栄養管理科技師	20	0.7
臨床工学技士	3	0.1
眼科技師	0	0.0
医療管理課・受付職員	6	0.2
診療録管理室	1	0.04
医師クラーク	20	0.7
その他	8	0.3
合計	2,792	100

2. 改善実績一覧

年	月	関連部署	問題状況の概要	改善内容	関連委員会など
令和2年度	9	病院全体	術後の抗血栓薬再開のタイミングについて	手術運営委員会で再開のタイミングについて再検討	M&Mカンファレンス 手術室運営委員会
	11	病院全体	入院治療をうける患者の認知症・せん妄	多職種介入プログラム作成	業務改善委員会 高齢者サポートチーム 医局会
	3	看護部 MRM	経腸栄養コネクターISO規格変更	3月より導入、院内の周知と在宅使用者への指導	内視鏡利用者会 MRM推進チーム会 NST委員会

《概要》

■ 組織・スタッフ

<スタッフ>

専任職員1名、委託職員6名の構成で、サポートデスク窓口は365日体制としている。

経営企画室長 山本 朗央

情報システム担当 梶本 幸彦、上田 淳 (委託)

情報システムサポートデスク 安達 元 他4名 (委託) ※ 365日交替制

<組織> (令和3年3月31日時点)

主に情報システム運用管理委員会が継続的な改善活動を担う。

総合情報システム統括委員会：システム全般に関する基本的事項を協議し決定する。

情報システム運用管理委員会：システム運用管理に伴う事項を協議し決定する。

■ 診療・業務概要

- (1) 情報システムに係わる院内の総合的企画及び調整
 - ・ 情報システムの導入・更新計画の立案及び調整
 - ・ 情報システムの運用に係わる改善計画の立案及び調整
 - ・ 情報システムの予算の管理
- (2) 情報システムの調達に係わる業務
 - ・ 情報システムの仕様策定に係わる業務
 - ・ 情報システムの発注に係わる業務
- (3) 情報システムの導入・更新に係わる管理業務
 - ・ 情報システム導入・更新時の進捗管理
 - ・ 情報システム導入・更新時のベンダー及び部門間の調整
 - ・ 情報システムの構成情報の管理
- (4) 情報システムに係わる院内の総合的運用管理
 - ・ 問合せ、要望、障害等への対応を担うサポートデスク業務
 - ・ マニュアル作成、操作研修等を担うユーザーサポート業務
 - ・ 情報システム委員会の開催
- (5) 情報システムのオペレーション業務 (保守・維持管理)
 - ・ 情報システムの安定稼働に係わる業務
 - ・ 情報システムのアクセス管理
 - ・ 情報セキュリティ管理
- (6) 情報システムのデータ二次利用の推進
 - ・ データ統計・分析の支援
 - ・ 簡易システムの作成

《実績》

■ 業務実績

(1) 地域連携システムの運用拡大に向けた取り組み

地域包括ケアシステムへの対応として、地域連携システムの運用を既存の病診連携に加えて病病連携、医療介護連携へと拡大するため、当該運用拡大について池田市情報公開・個人情報保護審査会へ諮り、議案について承認する旨の答申を受けた。

また、地域連携システムを活用した病病連携として、大阪大学医学部附属病院（以下「阪大病院」という。）と診療情報を相互参照することを決定した。阪大病院との病病連携では各病院が運用している地域連携システムを介して自院の診療情報を連携病院へ提供する。実際の運用で診療業務の使用に耐える効率性を担保するため、病病連携を支援するシステム環境は、各病院が診療に用いている電子カルテ端末からシームレスに参照できるように構築した。

(2) ICT活用の推進について

新型コロナウイルスの感染拡大防止と働き方改革に向けた業務改善を目的として、ICT環境を強化し、コミュニケーションの効率化と質の向上を図った。

ICT環境の強化は、ICTインフラの整備とサービスの追加からなる。ICTインフラの整備について、患者・一般向けインターネットWi-Fi環境及び職員向けインターネットWi-Fi環境を構築した。患者・一般向けのWi-Fi環境は、患者・一般向けにICTを使ったサービスを提供する際の、携帯電波環境の補完とサービス利用に掛かるパケット料発生回避を主な目的とする。職員向けWi-Fi環境は、タブレット端末の配布と合わせて、院内及び院外とのコミュニケーション手段の強化を目的とする。ICTを使ったサービスの追加については、主に情報提供を目的とするものと、コミュニケーションの支援を目的とするものに分かれる。情報提供を行うサービスとしては、外来受診の際に患者の携帯電話やスマホで診察の待ち時間が確認できるサービスを導入した。また、コミュニケーションを支援するサービスとしては、安全に配慮しつつ院内情報とインターネット情報とを同時に参照しながらペーパーレス会議やWeb会議が開催できる環境を構築した。

【インターネットWi-Fi環境の構築】

新規に外来診療棟、管理棟、病棟（詰所、デイルーム他）にインターネットWi-Fi環境を構築した。

【多目的タブレットの導入】

ペーパーレス会議、Web会議、オンライン面談、その他情報共有などの多目的用のタブレットを導入した。

【仮想ブラウザの導入】

イントラネット環境に仮想ブラウザを導入することで、安全を確保しつつインターネット端末側から院内グループウェアを参照できる環境を構築した。

【診察状況Web確認サービス】

携帯電話やスマートフォン等から診察の進行状況が確認でき、電子メールによる通知機能を備えたサービスを導入した。

◇委員会開催状況

情報システム運用管理委員会 8回開催 ※緊急事態宣言により4月5月1月2月は中止

診療情報管理部 - 診療情報管理・診療支援

《概要》

■ 組織・スタッフ

診療情報管理士	: 8名
医師事務作業補助	: がん登録1名 文書作成補助3名 データベース登録2名 (うち派遣1名) 診療支援30名 (うち派遣13名)
スキャナセンター	: 2名 (委託)
委員会等事務局	: 診療情報管理委員会 診療支援委員会 クリニカルパス委員会 クリニカルパス・DPCプロジェクト 広報委員会

■ 診療・業務概要

主な業務内容は次のとおり

- 1 DPC 管理
 - (1) DPC 請求に関する業務
 - (2) DPC 分析に関する業務
 - (3) DPC 基礎調査に関する業務全般
- 2 診療情報管理
 - (1) 診療録管理に関する業務
 - (2) 退院サマリに関する業務
 - (3) カルテ監査に関する業務
 - (4) 診療情報統計に関する業務
 - (5) クリニカルパスに関する業務
 - (6) 診療情報抽出・集計・分析に関する業務
 - (7) QI(Quality Indicator)に関する業務
 - (8) 重症度、医療・看護必要度に関する業務
 - (9) 内科専門医制度 J-OSLER に関する業務
 - (10) 紹介状に関する業務
- 3 診療報酬算定向上に関する業務
- 4 経営分析に関する業務
- 5 広報に関する業務
- 6 医師事務作業補助者の業務管理と研修計画・実行
- 7 スキャナセンター運営管理に関する業務

8 医師事務作業補助業務

- (1) 院内がん登録
- (2) 診断書・証明書作成補助
- (3) 診療支援（電子カルテオーダ代行入力、病棟業務等）
- (4) 臨床データ登録（NCD、手術台帳等）

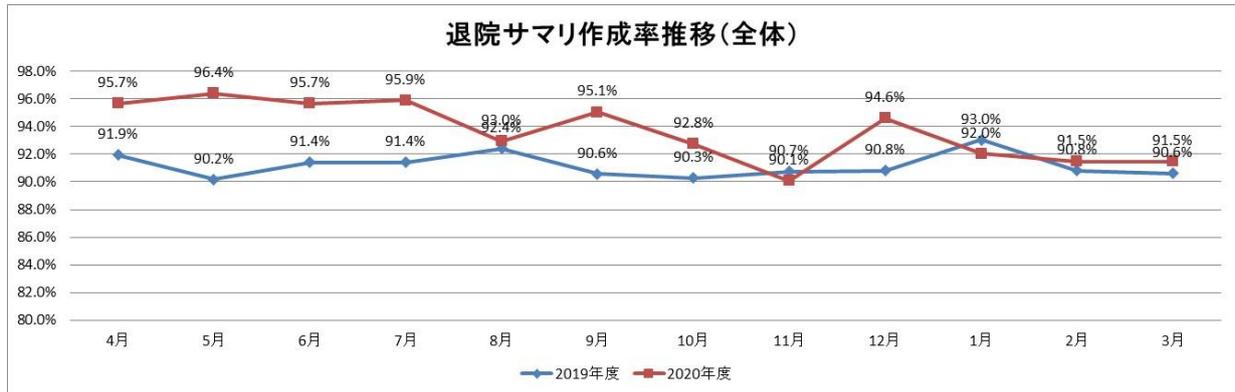
《実績》

■ 統計実績

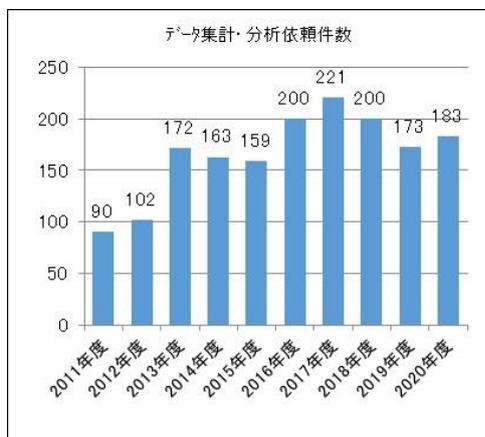
(1) 退院患者数



(2) 2週間以内退院サマリ作成率



(3) 診療情報提供件数



(4)DPC 集計

①MDC2 別 退院患者数

MDC2	MDC2 名	退院患者数
01	神経系疾患	146
02	眼科系疾患	840
03	耳鼻咽喉科系疾患	317
04	呼吸器系疾患	1007
05	循環器系疾患	564
06	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	2481
07	筋骨格系疾患	362
08	皮膚・皮下組織の疾患	225
09	乳房の疾患	174
10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患	330
11	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患	980
12	女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩	552
13	血液・造血器・免疫臓器の疾患	624
14	新生児疾患、先天性奇形	117
15	小児疾患	12
16	外傷・熱傷・中毒	336
17	精神疾患	10
18	その他	262

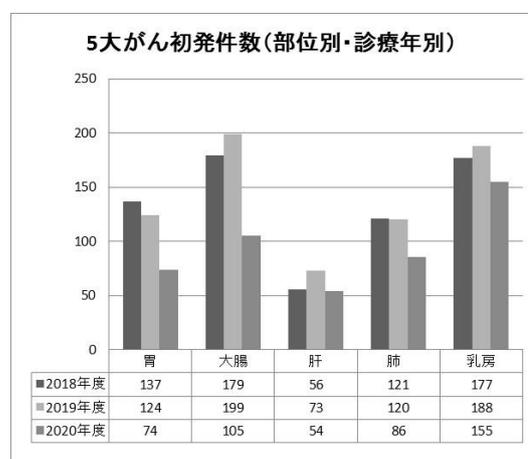
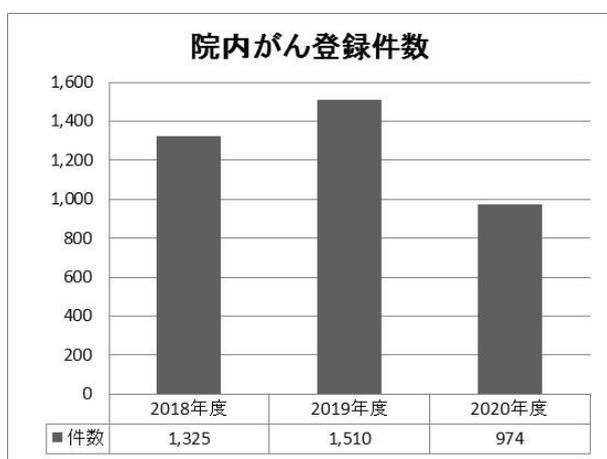
②MDC6 別 退院患者数(TOP10)

順位	MDC6	MDC6 名	手術有無	退院患者数	
1	20110	白内障、水晶体の疾患	あり	697	701
			なし	4	
2	40040	肺の悪性腫瘍	あり	42	433
			なし	391	
3	130030	非ホジキンリンパ腫	あり	41	314
			なし	273	
4	60050	肝・肝内胆管の悪性腫瘍(続発性を含む)	あり	181	270
			なし	89	
5	60100	小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む)	あり	202	236
			なし	34	
6	60020	胃の悪性腫瘍	あり	126	229
			なし	103	

順位	MDC6	MDC6 名	手術有無	退院患者数	
7	40080	肺炎等	あり	5	204
			なし	199	
8	60035	結腸(虫垂を含む)の悪性腫瘍	あり	114	184
			なし	70	
9	110080	前立腺の悪性腫瘍	あり	42	174
			なし	132	
10	110070	膀胱腫瘍	あり	133	172
			なし	39	

(5) 医師事務作業補助者業務

① 院内がん登録



② 診断書等作成補助、臨床データ登録



■ 研修・教育活動

指導者	内容	受入れ校・実習期間
熱田 麻衣、高橋 美幸	診療情報管理業務 医師事務作業補助業務 医事業務等	大阪医療秘書福祉専門学校 2020/11/16-12/4(3週間) 1名

栄養サポートチーム (NST)

《概要》

■ 組織・スタッフ

委員長	安座間 隆 (JSPEN 認定医)
副委員長	村上慎一郎、今西成雄 (NST 事務局)
委員	
医師	小川英美、和田範子、清水裕平、三砂雅裕、影山美沙紀、塩出俊亮、三橋靖大、末崎慎也
看護師	西田智恵美、廣森仁美、鏡栄利子、中野絢香、川染睦美、藤林沙綺、谷口礼子、上野恵里佳、坂本聖子、木田 瞳、芥川尚子、山本真理、柴口秀子、横山朋之 (医療安全)
薬剤師	岩本千晶、三代地みゆき、森田 望
臨床検査技師	井上幸子
言語聴覚士	立石 圭、片尾奈緒子
歯科衛生士	山田みつ美
管理栄養士	田中芳子 (NST 事務局)

*NST 専任資格者 (4 職種) : 医師 6 名、看護師 1 名、薬剤師 3 名、管理栄養士 2 名

NST 専門療法士 : 5 名

オブザーバー

医師	津川真美子、赤丸祐介、上岡孝人
看護師	小原順子、佐伯部紀子、稲野聖子
薬剤師	名徳倫明 (外部委員)
臨床検査技師	金澤佳代
言語聴覚士	安藤敏夫
管理栄養士	今仲直美、長谷良太、高雲隆史

■ 業務概要

年度目標「低栄養のことを一生懸命やる」(患者の QOL の維持と向上を目指す)

引き続き NST の中に「栄養アセスメント・回診チーム」「摂食嚥下障害チーム」「経腸栄養・PEG チーム」の 3 チームを設置して活動を行った。

「摂食嚥下障害チーム」「経腸栄養・PEG チーム」の 2 チームについてはラダー研修の企画も目標の一つとした。

1) NST 加算

昨年度より引き続き、患者に配付する栄養治療実施計画書兼栄養治療実施報告書に必須検査項目 (5 項目 : アルブミン、リンパ球数、ヘモグロビン、中性脂肪、トランスサイレチン) に漏れないよう啓蒙が必要と考えられ、検査オーダーに項目漏れがある場合は、昨年同様に NST で検査項目追加する方法をとらせていただき、対象患者の患者掲示板にその旨を記載させていただいた。

NST 加算件数としては、昨年度 734 件より増加し 2020 年度は 841 件であった。

また、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士のNST専任資格者が同時に回診していないとNST加算算定はできないため、NST専任資格者の特に看護師確保についても努力した一年であった。まだ十分とはいえない人数のため継続課題である。

2) NST ラウンド (回診)

COVID-19の影響で、NST医師でもある呼吸器内科・総合内科医師の確保が困難となり年度当初は、全体回診を一時中断し個別対応のみとさせていただいた。その後は、医師間で調整をしていただき、年間を通して、止めることなく回診ができた。

また、年間を通してアセスメントをしっかりとさせていただいたおかげもあり、件数も昨年度766件より増加し2020年度は846件であった。

NST加算の条件上、1日のラウンド(回診)患者数を15名以内にするために、病棟に協力をいただき調整しながら曜日配分させていただいた。

(2020年度末現在)：水曜日 11時～ (4東・3東・3北・4北)

木曜日 13時～ (5北・5南・4南・ICU)

3) 摂食機能療法

毎月540件前後を目標とし、引き続き医療事務(ソラスト)に毎月の件数を提示していただき、会議で算定漏れの検討を行った。しかし、COVID-19の影響が大きく入院患者数が減少したこともあり、結果的に昨年度7,297件より大幅に減少し2020年度は5,111件となった。

委員の声掛けにより、対象外患者を算定しないようにしながら対象患者の算定漏れを減少できると考察できるので、通年、正しい算定が継続できるよう努めたいと考える。

4) NST 勉強会

目標にあげている、年2回のラダー研修と、NST会議の際にミニ勉強会として開催できるように企画したが、COVID-19の影響もあり会議・研修が開催できない時期があったため、NST稼働施設認定に必要な年12回には到達せず、ラダー研修1回を含めた年6回の開催となった。

摂食嚥下障害チームのラダー研修については時期未定のまま延期となり実施できなかった。

5) NST ニュース

各科担当制で6回発行した。(栄養管理科2部、臨床検査科1部、薬剤部1部、看護部1部、リハビリテーション科1部)

「カリウム制限のポイントについて」「口腔ケア(プラーク)について」「プレアルブミン(トランスサイレチン)について」「簡易懸濁について」「摂食機能療法について」「嚥下機能訓練(シャキア法)について」

6) NST 専門療法士受験に必須の臨地修練研修の受け入れ

例年、ホームページ上で外部実習募集を行い、9月から11月の10週間、外部実習生を受け入れてきたが、COVID-19もあり外部実習生の募集は見送った。

(参考)実習カリキュラムは1単位4時間で合計40時間とし、NST回診に参加後、各科のスタッフが2~3時間の講義、実習を行ない、症例レポート発表及びカンファレンスを実施。(実習費：30,000円/人)

内部実習については、委員会活動を通して適宜実施(外部実習と同レベルになるようにカリキュラム調整)

7) NST 専任資格取得

- 2020 年度 NST 医師教育セミナー修了 影山美沙紀医師
- 2020 年度 NST 医師教育セミナー修了 塩出俊亮医師
- 2019 年度臨地実習研修（市立池田病院内部研修）修了 川染睦美看護師
- 2020 年度臨地実習研修（市立池田病院内部研修）修了 松本千穂管理栄養士

8) 栄養サポートチーム専門療法士・臨床栄養代謝専門療法士認定

- 2019 年度 JSPEN 栄養サポートチーム専門療法士認定 森田 望薬剤師
- 2019 年度 JSPEN 栄養サポートチーム専門療法士認定 高雲隆史管理栄養士
- 2019 年度 JSPEN 臨床栄養代謝専門療法士(がん専門療法士)認定 三代地みゆき薬剤師
- 2019 年度 JSPEN 臨床栄養代謝専門療法士(がん専門療法士)認定 今西成雄管理栄養士

《実績》

■ 統計実績

□ NST ラウンド回数・延べ人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ラウンド回数	5	7	8	9	8	9	9	8	8	8	7	9	95
延べ人数	32	62	54	78	76	76	90	74	84	69	57	94	846

□ NST 加算算定件数 [250 点] (NST 加算 200 点＋歯科医師連携加算 50 点)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	32	62	54	76	76	75	89	74	83	69	57	94	841

□ 摂食機能療法算定件数 [185 点]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	292	203	541	523	544	452	609	433	519	310	248	437	5,111

■ 研修・教育活動

担当者	演題名	会場・日時
今西 成雄 (栄養管理科)	NST の基礎知識、NST 専門療法士について	セミナー3 2020/4/10
立石 圭 (リハビリテーション科)	誤嚥対策について	第3会議室 2020/9/4
森田 望 (薬剤部)	輸液の基礎について	第3会議室 2020/10/2
井上 幸子 (臨床検査科)	栄養指標に利用される検査項目について	第3会議室 2020/11/6
経腸栄養・PEGチーム 芥川 尚子 (看護部) 山本 真理 (看護部) 上野 恵里佳 (看護部)	胃瘻・経腸栄養の基本について (ラダー研修)	第3会議室 2020/11/6
テルモ (株) 今西 成雄 (栄養管理科)	経腸栄養ポンプについて	第3会議室 2020/12/4

褥瘡対策チーム

《概要》

■ 組織・スタッフ

チーム役割	所属		氏名
委員長	専任 医師	医局 皮膚科主任部長	吉良 正浩
副委員長	専任 医師	医局 皮膚科医師	近藤 由佳理
委員	専任 医師	医局 皮膚科医師	東 典子
委員	専任 医師	医局 皮膚科医師	吉村 亜紀
委員	専任 看護師	看護部 次長	松本 保子
アドバイザー	専任 看護師	医療安全対策室	上田 真愉未
委員	専任 看護師	看護部 3北病棟	和佐田 真歩
委員	専任 看護師	看護部 4北病棟	矢野 優貴 (旧姓：田中)
委員	専任 看護師	看護部 4北病棟	池田 真侑 (10月～)
委員	専任 看護師	看護部 4北病棟	鳥取 紗富 (10月～)
委員	専任 看護師	看護部 4南→3東病棟	山口 佑季 (1月～)
委員	専任 看護師	看護部 5南→4南病棟	高橋 京香 (7月～)
委員	専任 看護師	看護部 5南病棟	石本 琴絵 (7月～)
委員	専任 看護師	看護部 5北→3東病棟	桜田 裕美 (1月～)
委員	専任 看護師	看護部 5北病棟	清田 瑤子 (1月～)
委員	専任 看護師	看護部 3東病棟	土井 徳子
委員	専任 看護師	看護部 4東→4北病棟	北谷 季子 (1月～)
委員	専任 看護師	看護部 4東病棟	竹田 みずほ (1月～)
委員	専任 看護師	看護部 中央手術室	脇本 英昭 *手術看護認定看護師
委員	専任 看護師	看護部 中央手術室→5南	石井 麻央 (7月～)
委員	専任 看護師	看護部 外来	寺尾 藍
委員	専任 看護師	看護部 内視鏡センター	伊藤 絵里
委員	褥瘡管理者	看護部	小原 順子
委員		リハビリテーション科	佐々木 大地 *PT
委員		リハビリテーション科	奈良垣 大智 *OT
委員		薬剤部	山口 唯
委員		薬剤部	竹島 暁子
委員		栄養管理科	今西 成雄
委員		栄養管理科	田中 芳子
委員		医療管理課	松田 和穂
委員		医療管理課 (ソラスト)	伊達 昭江
委員		ソラスト (電算)	山田 敏之
委員		ソラスト (電算)	村松 靖介

■ 業務概要

褥瘡対策チームは、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、事務職、といった多職種により構成される医療チームである。褥瘡専任医師と褥瘡専任看護師からなる褥瘡対策チームが、褥瘡管理者やコメディカル、病棟スタッフと多職種でカンファレンスを行ない治療やケアについて検討している。

活動内容は、褥瘡リスク要因あるいは褥瘡ハイリスク項目のある患者に対し褥瘡予防対策を行ない、褥瘡保有者に対しては、治療やケアに関する相談と指導を実施している。さらに、褥瘡発生率と有症率の算出や褥瘡対策マニュアルの見直し、褥瘡対策に関する研修や事例検討、診療報酬上必須の褥瘡全体研修の開催等を行なっている。2020年度は、新型コロナウイルス防止対策による会議や集合研修の制限により例年のような活動はできなかった。しかし、メール機能やEラーニング、DVDを使用して活動を継続することができた。

近年、超高齢社会となり、褥瘡リスクやハイリスク患者が増加し予防対策への早期介入が求められている。予防対策で重要なのは体圧分散マットレスであり入院基本料や褥瘡ハイリスク患者ケア加算の施設基準としても「体圧分散マットレスの整備」が求められている。しかし、当院では、耐用年数の超過した標準マットレスや体圧分散マットレスが多く、安楽や必要な体圧分散を患者へ提供することが難しくなっている。さらに、ポジショニングやシーティングに必要なクッション類も不足している状況なので、病院の備品として整備して頂けるようチームで提言し取り組んでいきたい。

《実績》

■ チーム活動の実績

1) 年間褥瘡発生率の実績

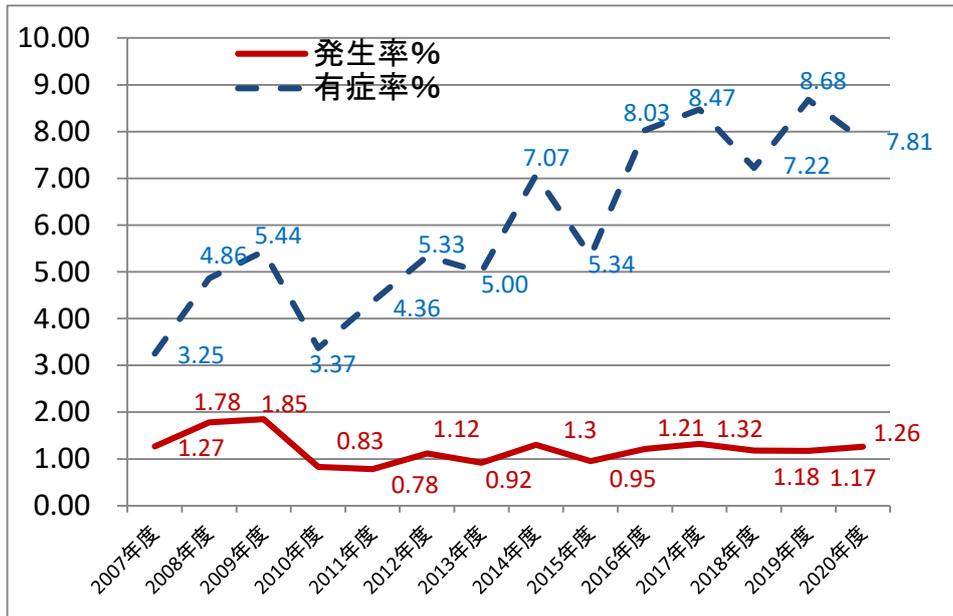
令和2年度の褥瘡発生率は、前年度比0.09%増の1.26%で、年間目標である褥瘡発生率1.2%以下を達成できなかった(表1参照)

<表1> 年間の褥瘡発生率の推移

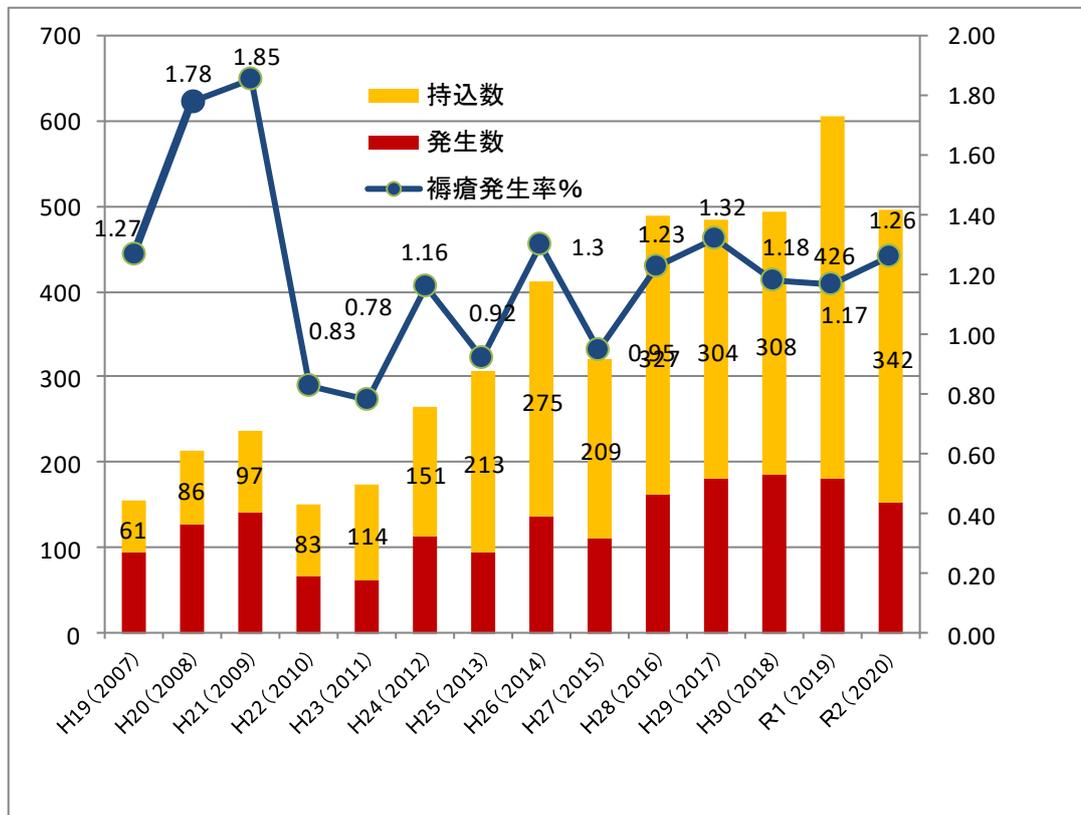


令和2年度褥瘡有症率は、前年度比0.87%減の7.81%であった。今年度は、入院患者実数の減少に伴い有症率も減少したと考えられる。しかし、依然として高い数値にて業務の繁雑化の要因となっている。(表2、3参照)

<表 2> 年度別褥瘡発生率と有症率の推移



<表 3> 褥瘡発生率と褥瘡の個数の推移



■ 研修・教育活動

指導者・講師	内 容	研 修 名・日 時
医師:近藤 由佳理	1. これで解決！入院患者の皮膚トラブル	褥瘡対策DVD全体研修 2020/10/21-2021/1/31
ナーシングスキル:動画講義	褥瘡の基本的・標準的なアセスメントとケア実践	看護師リーダー研修Ⅰ・Ⅱ 2020/10/1-2021/1/20

呼吸療法サポートチーム（RST）

《概要》

■ 組織・スタッフ

委員長	橋本 重樹、山中 美穂
運営委員	
看護師	越智 貴子、諸石 享子、岩佐 奈美、下脇 怜、吉田 幸美、 西尾 荒志、粕谷 楓花、篠原 ゆみ、片岡 優佳、植浦 紗希、 児島 順子、岸谷 征子（オブザーバー）
理学療法士	川南 香代子、丹羽 徹、渡辺 彩
歯科衛生士	銀羽 かおり
臨床工学技士	杉山 隆志

■ 業務概要

市立池田病院「呼吸療法サポートチーム」（以下 RST という）として患者の呼吸問題に関して検討、改善をはかり医療の質及び患者の QOL や医療安全の向上を図ることを目的として平成 22 年度に発足した。

活動と役割は

- ① 人工呼吸器装着患者の安全管理、合併症予防、人工呼吸器離脱計画、呼吸リハビリテーションなどを行う。
- ② 呼吸器疾患患者に関する問題の抽出及び情報収集・提案。
- ③ RST の啓蒙活動。
- ④ 院内研修会の開催。
- ⑤ 呼吸機器に関する安全管理。

前年度に引き続き、継続したチーム回診と院内研修会を開催することを中心に活動を行った。

《実績》

統計実績

□ 1年間の実績

ラウンド期間	2020 年 4 月 7 日～2021 年 3 月 30 日
総ラウンド日数	50 日（1 回/週：火曜日）
患者数	69 名（コスト発生患者数 64 名）
一人あたりのラウンド回数	1～9 回（平均 1.9 回） (全ラウンド 133 回・うち RST 加算算定件数 127 件)
気管挿管患者	23 名
NPPV 患者	41 名

気管切開	5名
人工呼吸器離脱に至った患者	35名（挿管14名 NPPV21名 気切0名）
一人あたりの人工呼吸器装着日数	平均13.8日
VAP発生数	2名
再挿管事例	1名

□院内勉強会

担当者	演題名	会場・日時
理学療法士	呼吸リハビリ	講堂 2020/6/3
歯科衛生士	口腔ケア	講堂 2020/7/1
5階北病棟、4階東病棟、4階南病棟	NHF使用方法	講堂 2020/8/28
4階北病棟	呼吸音	講堂 2020/9/2
4階北病棟、5階南病棟、3階北病棟、外来	人工呼吸器基礎編	講堂 2020/9/29
4階東病棟	在宅酸素	講堂 2020/10/7
4階南病棟、5階北病棟、リハビリ、杉山 隆志	人工呼吸器応用編	講堂 2020/10/15
救急外来、外来	ジャクソンリースとBVMとの違い	講堂 2020/11/4
橋本 重樹	血ガス・X-P	講堂 2020/11/10
手術室	挿管介助	講堂 2020/12/2
3階東病棟、4階東病棟、手術室	NPPV装着の観察・看護	講堂 2021/3/18

緩和ケアチーム

《概要》

■ 組織・スタッフ

柴田 邦隆（外科）、福田 和人（消化器内科）、太田 博文（消化器外科）
滝本 佳予、小野 まゆ（麻酔科）、中島 陽（精神科）
中西 晶子、村山 洋子、大河 万頭、小角 麻衣（薬剤師）、面田 真也（理学療法士）、
浅野 雅也（作業療法士）
森本 孝子、松浦 千佐子、岡下 美香、小林 身和子、音地 真理、吉野 葵（看護師）
尾関 茜（MSW）、今仲 直美、高雲 隆史（管理栄養士）
小林 優子（臨床心理士）

<リンクナース>

高井 恵子、山崎 梨恵、江田 香代子、小久保 直美、白枝 愛子、夏秋 乃々花、
山本 若菜、中山 佳子、辰巳 貴子、平岡 寿子、平山 夏美、横家 麻里、宮永 樹里

■ 診療・業務概要

緩和ケアチームは、麻酔科医、内科医、精神科医、外科医、薬剤師、理学療法士、作業療法士、看護師、臨床心理士、MSW、管理栄養士で構成されている。緩和ケアチーム診療加算を算定し毎日の回診を実施している。回診は主にコアメンバー（麻酔科医、精神科医、薬剤師、看護師）で行い、組織全体による定期カンファレンスを週1回（水曜日）行っている。コンサルテーションシステムにより、随時チーム内のメンバーが対応できる体制をとっている。個別栄養食事管理加算を算定し、管理栄養士による栄養食事管理も行っている。また、緩和ケアチームが介入している患者を対象に緩和ケア食として”ふくまる食”の提供を行っている。

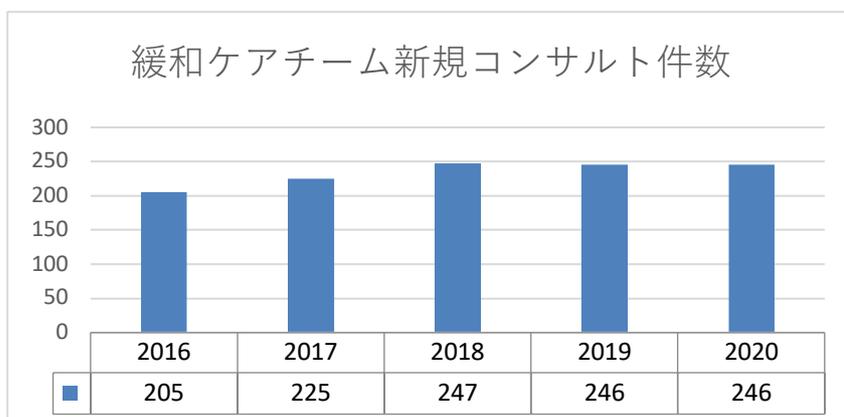
例年、地域連携の一環として五月山緩和ケア研究会を年に2回開催しているが、今年度は covid-19 対策のため開催を見送った。

《実績》

■ 統計実績

1. 緩和ケアチーム活動状況

① コンサルト新規件数・・・246件（前年度 246件）。



- ② 入院がん患者の緩和ケアサービス利用率・・・8.0%
- ③ 依頼時期（がん患者のみ）・・・診断から初期治療前 10.8%、がん治療中 51.5%、がん治療終了後 37.7%

④ 依頼時の依頼内容（がん患者のみ）

疼痛	71.0%
疼痛以外の身体症状	50.6%
精神症状	33.2%
家族ケア	13.7%
倫理的問題	4.6%
地域との連携・退院支援	8.7%
その他	0%

⑤ 依頼時の PS 値（がん患者のみ）

PS=0	0%
PS=1	7.5%
PS=2	24.9%
PS=3	33.6%
PS=4	34.0%

⑥ 転帰（がん患者のみ）

介入終了（生存）	1.7%
緩和ケア病棟転院	17.8%
その他の転院	2.1%
退院（死亡退院、転院は含まない）	53.1%
死亡退院	24.9%
介入継続中（3月31日時点）	0.4%

⑦ 依頼の割合・・・がん 98.0%、非がん 2.0%

- 緩和ケアチームでは毎朝 9 時からショートカンファレンスを行い、きめ細やかな対応ができるよう努めた。また、定期カンファレンスでは主科の医師に参加を呼びかけ、患者を中心とした治療の方向性や今後の療養について共通理解ができるよう努めた。
- 緩和ケア研修として院内医療職向けの研修を 1 回/年行った。
- 緩和ケア委員会では、毎月各部署から持ち寄った事例で看護の振り返りを通し、がん看護の質の向上と知識や情報の共有を行った。

■ 学術業績

□原 著

発 表 者	演 題 名	学会名、会場、日時
Kayo Takimoto, Mayu Ono	Efficacy of Erector Spinae Plane Block for Back Pain Referred from Visceral Pain in the Palliative Care Setting	Pain Medicine Case Reports2020; 4(2):65-9.

□著書・総説

著 者	題 名	雑誌名、巻号
吉野 葵	特集 終末期の痛みへのケア実践事例集 がん患者編 一般病棟	日総研 エンド・オブ・ライフケア 2021 1・2月号

□学会発表

発 表 者	演 題 名	学会名、会場、日時
滝本 佳予、吉野 葵	緩和ケア病床のない一般病院での苦痛緩和のための鎮静の現状と今後の展望	緩和・支持・心のケア 合同学術大会 2020 2020/8/9-10
吉野 葵、滝本 佳代、 江田 香代子、木下 亨、 立川 琴羽	症状緩和を目的とした放射線療法を受ける患者への緩和ケアチームの現状と今後の展望	第 35 回日本がん看護学会学術集会 2021/2-4

■ 研修・教育活動

□講演会

発 表 者	演 題 名	学会名、会場、日時
滝本 佳予	緩和医療分野での末梢神経ブロック	九州超音波麻酔アカデミー第 1 回ウェビナー from 大分九州超音波麻酔アカデミー第 1 回ウ ェビナーfrom 大分 2020/9/26
滝本 佳予	診断から看取りまで、地域における急性期病 院に求められる緩和ケア	第 14 回和歌山県がんの痛みを考える会 (zoom webinar による LIVE 配信) 2021/3/11

□研修会

市立池田病院 緩和ケア研修会 PEACE 2020 in IKEDA

【日時】2020年9月26日(土) 9時～16時30分

【場所】東館2階 講堂 【参加者】 17名

【内容】集合研修(講義、ワークショップ、ロールプレイ等)

高齢者サポートチーム (OST: old person support team)

《概要》

■ 組織・スタッフ

神経内科	那波一郎 (認知症専門医)	
老人看護専門看護師	稲野聖子 (認知症地域支援推進員)	
社会福祉士	塚本夏希 (認知症地域支援推進員)、岸茜	
管理栄養士	今西成雄	
作業療法士	柳沢崇 (認知症地域支援推進員)、上村彩寧	2021年7月現在

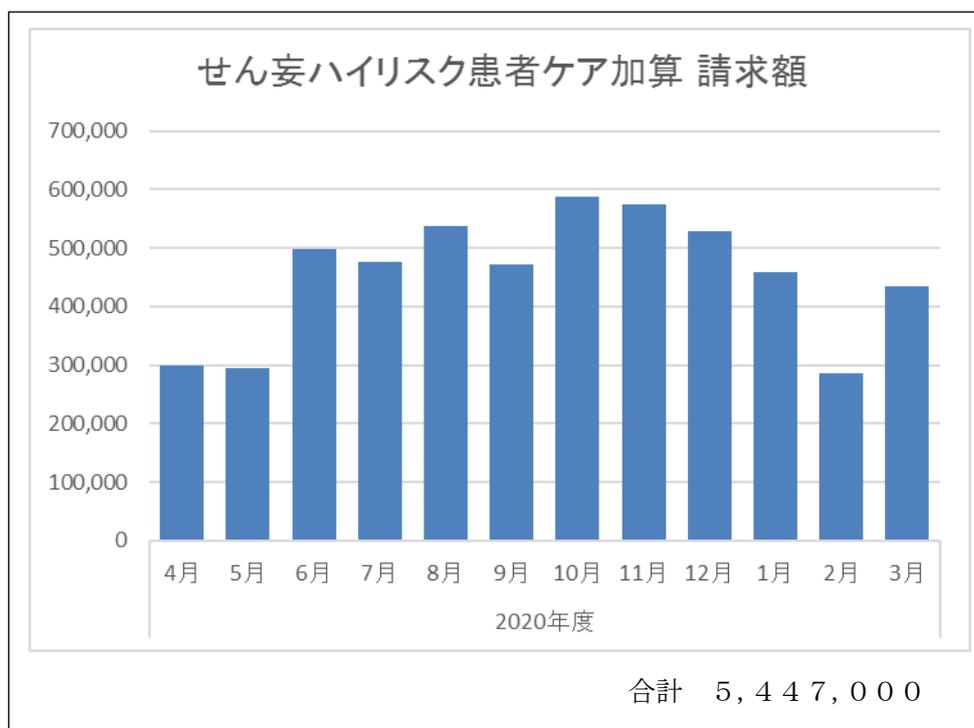
■ 業務概要

1. せん妄ハイリスク患者ケア加算
入院時に、せん妄リスクの確認と対策のチェックリストを作成する。
2. 認知症ケア加算 I
日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さがみられ、介護を必要とする患者への対応について、週に1回以上のチームで回診で、多職種に助言する。

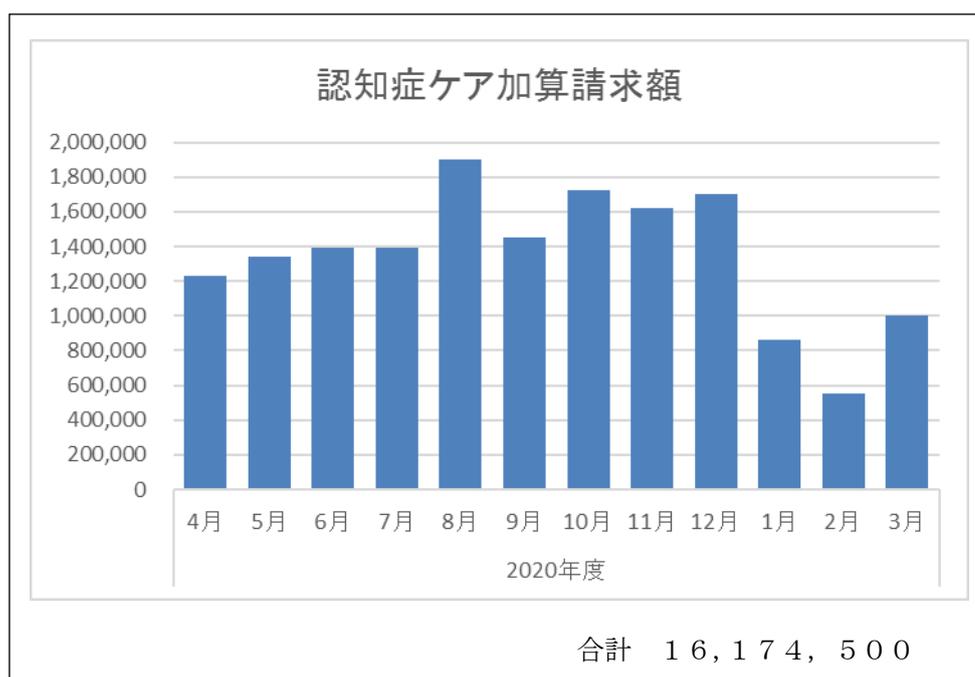
《実績》

■ 統計実績

1. せん妄ハイリスク患者ケア加算



2. 認知症ケア加算 I



■ 業務実績

1. 院内での取り組み

- ①消化器内科を中心に、消化器外科、整形外科、循環器内科、総合内科等の先生から助言をもらい、安全対策室、リハビリと検討し、「せん妄・認知症患者への対応マニュアル」を作成した。
- ②せん妄・認知症の症状に使用する適応外使用の薬剤については、使用時の同意書を整備し、2021年3月に薬事委員会で承認を得た。
- ③入院のしおりに、せん妄の内容を加え、入院患者と家族への啓発を行った。
- ④クリティカルパスの不眠時と不穏時指示の見直しを各診療科に伝えた。
- ⑤病棟看護師などを対象に、認知症やせん妄、倫理、エンドオブライフ・ケア等の講義を行った。講義回数は36回、延べ参加人数453人であった。

2. 認知症の地域連携

池田市認知症初期集中支援チーム、医師会認知症サポート医と連携し、地域の多職種とともに、個別に介入できた事例があった。

- ・入院中に認知症の症状が目立った患者には、退院後の自宅訪問ができ、家族へのケアとサービスの導入で、生活が安定した。
- ・医師会認知症サポート医からの連絡で、入院中に病院と在宅の多職種が話し合い、認知症夫婦が自宅退院できた。
- ・外来担当医からの相談で、認知症専門医への早期診断と家族支援ができた。
- ・医療・ケアチームで意思決定支援をした結果、息子さんの介護負担を軽減し、「息子とふたりで暮らしたい」という本人の希望を実現することができた。

<資料>

「せん妄・認知症患者への対応マニュアル」を抜粋した、院内の医療職向けのチラシ

市立池田病院 高齢者サポートチーム OST:Old person Support Team 2021/1/21

せん妄に対応するときの注意点

Step 1 発症前から対応をはじめる

せん妄のなりやすさ

アルコール多飲 認知症 70歳以上
 脳血管疾患の既往 重症患者
 睡眠薬（ベンゾジアゼピン系）服用 不安が強い

せん妄は一般的に可逆性
 本人と家族が覺かないように、
 起こらうリスクを事前に伝えて
 おきましょう

カレンダールや時計、補聴器などは、
 現状認識に役立ちます
 入院前の生活スタイルにあわせて環
 境調整をしましょう

今の対応方法を踏くことで、
 患者さんは安心され、混乱や
 興奮を予防できます

Step 2 発症後は早く治す

多職種で一致団結

モニタリングや点検、薬剤などせん妄を長
 引かせる要因を取り除く

せん妄状態を早めに
 家族等へ知らせる

不眠や不安には、夕食後トラゾドン25mg 1錠から開始
 興奮時には、クエチアピン25mg 1錠やリスパダール0.5mg 1錠を使用
 効果不発時には、ミアンセリン薬量の減量、セレンレス25mg SAを使用

【不眠時・不穏時の指示薬を使用するときの注意点】
 ①糖尿病があれば、クエチアピンとオランザピンは使用しない
 ②パーキンソン病、レビー小体型認知症の既往があれば、セレンレスとリスパダール以
 外を使用する
 ③腎機能低下時は、リスパダールの使用は少量にする
 ④使用する薬剤の種類は少なめに（頓用は、定期と同じ薬を使用するのが基本）
 ⑤改善がなければ、早めに相談を

倫理的判断
 End of Life Care

せん妄や認知症の症状が重度になってきたときは、
 その治療や検査が患者さんのためになっているのか、
 家族等と医療者間で話し合う時期に来ていると思います

ご意見・ご質問、また上記以外に実施していることがあれば、ぜひ教えてください
 連絡先: 老人看護専門看護師 船野友子

市立池田病院 高齢者サポートチーム OST:Old person Support Team 2021/1/21

コロナウイルス感染症（疑い）で入院する認知症患者への対応の注意点

Step 1 病棟からはじめる予防対策

せん妄のなりやすさ

アルコール多飲 認知症 70歳以上
 脳血管疾患の既往 重症患者
 睡眠薬（ベンゾジアゼピン系）服用 不安が強い

毎日朝い休養を行うこと
 は、お車の機能低下を予
 防します

感染症には通常の1.2倍の消
 毒カロリーが必要です。低空
 層予防に、エンジューアなどの
 補充食料を使用しましょう

認知機能低下の患者さんは、消
 毒カロリーが高いので、「ゆら
 か表」が食べやすいでしょう

カレンダールや時計、補聴器な
 どは、現状認識に役立ちます

Step 2 専門職に早めに相談

専門的介入

興奮や攻撃性が
 少ない
 涙腺に向けてリ
 ハビリが効果
 興奮や攻撃性が強い

レベル2以上が持続し、興奮や攻撃性が強い場合は、相談を
 せん妄リスクが高い患者（レベル1）
 夕食後トラゾドン25mg 1錠
 不眠時：トラゾドン25mg 1錠（3回まで）
 夜間の不眠・不穏が出現（レベル2）
 睡眠薬なし 夕食後定期：クエチアピン25mg 1錠
 不眠時：クエチアピン25mg 0.5錠（3回まで）
 睡眠薬あり 夕食後定期：リスパダール0.5mg 1錠とトラゾドン25mg 1錠を併用
 不眠時：トラゾドン25mg 1錠（3回まで）
 睡眠薬とパーキンソン病あり：トラゾドン25mg 2錠
 不眠時：トラゾドン25mg 1錠（3回まで）
 日中の不眠が出現（レベル3）
 朝、起床後など定期：リスパダール0.5mg 1/錠
 不眠時：リスパダール0.5mg 1/錠（2回まで）
 ※パーキンソン病の患者は、夕食後クエチアピン25mg 0.5錠を使用する
 ※夕食後定期内服は、レベル2に準ずる
 薬物調整でコントロールできないとき（レベル4）
 身体抑制を検討

家族科に、併診できている
 カロリーを計算してもらっ
 て、メニューを検討

身体治療等の倫理的問題を検討

安全に食べられる食事
 摂取の確保

入院前の生活に戻る
 ための練習

ご意見・ご質問、また上記以外に実施していることがあれば、ぜひ教えてください
 連絡先: 老人看護専門看護師 船野友子

精神科リエゾンチーム

《概要》

■ 組織・スタッフ

委員長 中島 陽（精神保健指定医・精神科専門医）
運営委員
看護師 稲野 聖子（老人看護専門看護師）
薬剤師 太田 麻衣子、岩下 多恵

■ 診療・業務概要

★目的

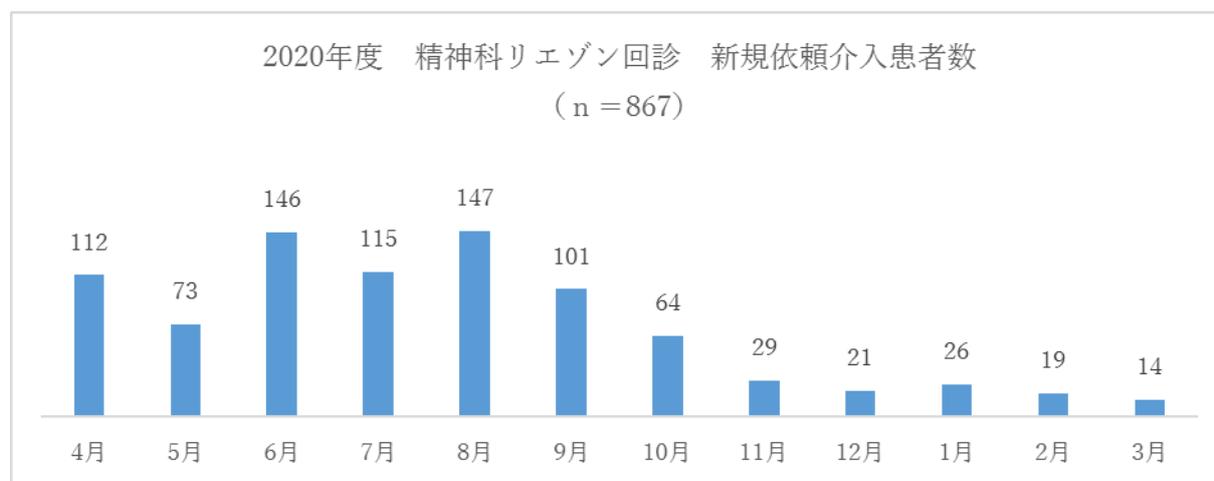
身体疾患診療の中で問題となる、さまざまな精神症状・精神疾患に対して、医師・看護師・薬剤師からなるチームにより、主治医・病棟スタッフと連携して対処するため、平成27年度5月より発足した。

★リエゾン回診

- ・週1回の定期回診と個別の臨時診察、助言を行う。
- ・不眠、せん妄、不安、抑うつ症状などの様々な精神症状に対応する。
- ・救急搬送された高齢者・認知症合併者、ICU入室者、ベンゾジアゼピン系薬使用者、向精神薬多剤大量使用者などをあらかじめ拾い出し、早期に対応する。
- ・精神症状には、薬剤により誘発ないし悪化するものがあり、薬剤調整により症状の改善をはかる。
- ・以上の対応を、主治医と病棟スタッフと連携して行う。

《実績》

■ 統計実績



ライフサポートチーム

《概要》

■ 組織・スタッフ

委員長	◎伊藤 基敏
副委員長	難波 さおり、高橋 典子
医師	上岡 孝人、村上 慎一郎
看護師	中林 好美、宮井 詩麻、宅間 里奈、古川 真知子、森岡 倫代、 デレールバ 幸子、森 須美子、北風 眞理子、丸尾 沙織、酒村 三春、 青井 季実子、井川 真梨子
理学療法士	浅野 雅也
放射線科	村上 裕紀
臨床検査科	大谷 美奈子
薬剤部	森井 悠介
ソラスト	益田 陽子

■ 業務概要

- 1) 市立池田病院ライフサポートチームとして、院内のスタッフが統一した技術・知識を身につけることによって、急変時に対応できるチーム医療を行うことができる。
- 2) CPRの事例を検証することにより、医学的客観性あるフィードバックができ、蘇生の質が向上することを目的とする。
- 3) 役割として
 - ・院内教育として ICLS コース開催、BLS 研修、ラピットレスポンスシステム (RRS) の実施とリーダーの育成
 - ・CPR 事例の検証を行い、情報を共有し、担当委員が部署へ建設的フィードバックを行う
 - ・ライフサポートチームの啓発活動
 - ・救急カートの整備 (監査と物品定数見直し)
 - ・自部署の大規模災害机上訓練計画に参加し、シミュレーション実施に関わる

《実績》

■ 統計実績

部署別ミニ ICLS・BLS勉強会	4 回
救急カート監査	2 回(8 月・3 月)
CPR 事例検討	25 件
除細動・挿管	2 回(8 月・12 月)

開催日	講師	研修内容	対象者
8月20日	村上、難波、高橋	致死性不整脈患者の急変時対応	医師・5北看護師 計12名
8月24日	上岡、村上、難波、高橋	除細動・挿管、ガムエラスティックブジー	医師・看護師・薬剤師・放射線技師 計43名
9月17日	村上、難波、高橋	ミニICLS	臨床検査技師6名
10月中	ワーキングコアメンバー	大規模災害机上訓練	計26部門・部署
12月7日	上岡、村上、難波、高橋	除細動・挿管、ガムエラスティックブジー	医師・看護師・薬剤師・放射線技師 計26名
12月18日	村上、高橋	急変発見から2次救命処置につなぐ	5南看護師 9名

患者サポートチーム

《概要》

■ 組織・スタッフ

相談員：看護師 森本 孝子（相談窓口）
 大江 つよみ（相談窓口）
 事務職員 松田 和穂、祝田 繁樹（医療管理課渉外）
 フロアマネージャー担当（ソラスト）

■ 業務概要

病院1階ロビーで患者様、ご家族様、地域の皆様が、安心して当院を受診いただくために、気軽に相談を受けられる窓口としての体制を整え、各診療科の医師、看護師や多部門の職員と連携をとりながら対応をしています。

相談内容：

- ・受診相談 … 病状について、どの診療科を受けたらよいのかわからないなど。
- ・受療相談 … 今、受診するつもりは無いが、病気について気になること。
- ・看護相談 … 入院、通院患者様やご家族様の様々な不安、疑問、お悩みなど。
- ・がん相談 … 患者様、ご家族様の病気や治療に伴うお悩みなど。
- ・お薬相談 … お薬に関すること。
- ・栄養相談 … 食事・栄養に関すること。
- ・医療福祉相談 … 介護保険、社会福祉制度、自宅での療養上の不安など。
- ・医療費用相談 … 入院、通院での経済的問題や各種保険について。
- ・苦情相談 … 病院の様々な苦情、ご意見など。
- ・受診支援 … 車椅子の患者様の受診にかかわる介助など。

《実績》

■ 統計実績

令和2年度 相談件数

□ 月別相談内容別件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
受診	238	215	270	256	265	243	274	230	228	217	237	232	2,905
受療	138	102	160	190	163	145	173	161	160	162	161	168	1,883
医療福祉	3	2	1	4	2	0	2	0	4	2	2	2	24
医療費用	4	0	7	5	0	5	3	5	6	2	10	5	52
苦情	0	1	1	0	4	2	1	3	1	4	3	4	24
看護・がん	1	1	6	1	3	4	3	2	3	2	7	5	38
その他	54	44	69	67	55	65	85	64	78	70	71	124	846
合計件数	438	365	514	523	492	464	541	465	480	459	491	540	5,772

《概要》

■ スタッフ

臨床心理士（非常勤） 小林 優子・羽下 飛鳥・小野 潤子

臨床心理室について

市立池田病院では、小児科の児童心理として約 25 年にわたり心理療法が行われていた。平成 16 年 7 月には、病院の増築に伴い臨床心理室を整備し、カウンセリング室、プレイルームの 2 室が新たに設けられた。小児科以外からの心理療法へのニーズに応えられるよう、臨床心理室を病院の中央部門として独立させ、臨床心理士による心理療法を行っている。

対象は、全科からの依頼に応じて、子どもから大人までとなっており、心身症、神経症、うつ症状、発達障害などの内容を扱っている。特に、子どもへの心理的ケアについては、平成 18 年度から、心理士を増員し、母子へのカウンセリングを行っている（現在は、心理士 3 名）。親へのカウンセリングでは、子どもに対する接し方を共に考えたり、さらには、親自身の悩みなども扱っている。子どもに対しては、プレイセラピーやカウンセリングを行う。このように、親子を双方から支えることで、その親子にとって、よりよい方向に向かうようなサポートができると考えている。

また、入院患者に対しての心のケアも行っている。総合病院に属する心理室という特色から、守秘義務に配慮しつつ、医師・コメディカルスタッフとの連携を密に行い、総合的なサポートが可能な体制を目指している。

心理療法の内容は、カウンセリング、子どもへのプレイセラピー、芸術療法、箱庭療法、ソーシャルスキル・トレーニングなど多岐にわたり、その他、子どもの発達相談にも応じている。心理・発達検査では、描画などの投影法や質問紙法、発達検査などのテストバッテリーを組み、患者の心の状態や発達面、それぞれが抱えるテーマを見立てている。その上で、それぞれが自己の可能性を生かし、自己実現を図れるよう、共に考え、サポートしている。また、平成 28 年度からは、神経心理学検査を実施しており、神経内科と連携し、認知症患者や高次脳機能障害の患者に対し、神経心理学的評価を行っている。

また、平成 20 年 4 月より、病院職員に対する心理相談を設け、精神的な支援が必要と思われる職員の相談を受け、助言や他機関への紹介などを行っている。また、平成 23 年 4 月から 6 年間にわたり、院内掲示版において、『臨床心理室だより』を掲示し、臨床心理学の理論から映画にまつわる心理的なテーマなど様々な話題を提供して、院内スタッフがより身近に臨床心理の理論に接してもらえるよう努めた。

今後も上記内容に加え、地域における関係機関との連携をより強化し、当病院における臨床心理の充実を考えている。

《実績》

■ 統計実績

2020年度 実績数(延べ件数)

種 別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
心理面接・経過フォロー等	13	7	15	22	20	20	
心理検査・知能検査	7	4	8	10	10	8	
神経心理学検査	5	0	7	6	8	6	
合 計	25	11	30	38	38	34	
種 別	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計
心理面接・経過フォロー等	20	24	30	28	22	24	245
心理検査・知能検査	11	14	11	11	9	7	110
神経心理学検査	6	6	5	6	6	8	69
合 計	37	44	46	45	37	39	424

■ 研修・教育活動

指導者・講師	内 容	実習名・日時
小林 優子	「メンタルヘルスについて」	2020年度 新規採用職員向け合同研修 2020/4/2

《臨床心理室の利用方法のご案内》

一般患者さんのカウンセリング、心理療法、各種検査については、院内各診療科から依頼を受けて予約制で行っています（予約管理は小児科で行っています）。院外からは直接お受けしていませんので、各診療科を通して予約ください。

詳細ならびに職員の心理相談に関しては、臨床心理室の院内メールにて、お問い合わせください。

からだのとしよしつ

《概要》

東館2階常設のからだのとしよしつは、主に入院患者様、外来患者様を対象にご利用いただいております。

令和2年度の書籍利用傾向として、平日は、がん・薬剤関係の閲覧・貸し出し、週末には雑誌の貸し出しが主となり、特に一般雑誌はバックナンバーの豊富さが多くの方々にご好評いただいております。

PCのご利用に関しても、快適な閲覧・検索ができるとご好評いただいております。

また、1階光の庭のがん患者様向けのリーフレットコーナーも、定期的な内容の刷新・増刷により、多くの方々にご利用いただいております。

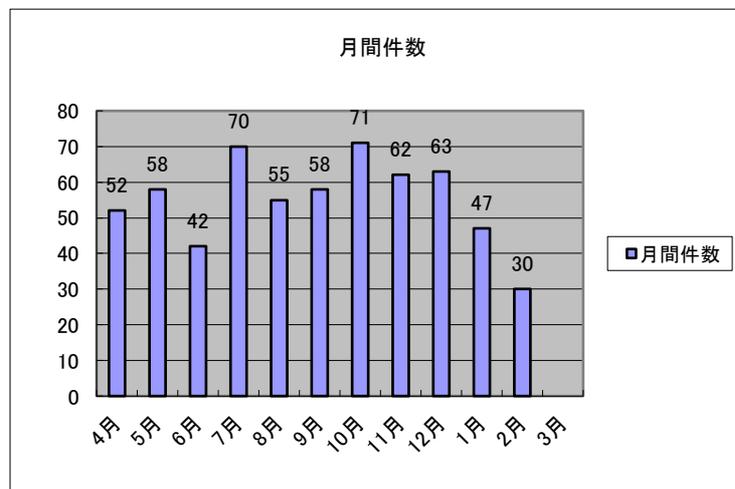
現在、新型コロナウイルス感染症対策のため、令和3年2月よりサービスを休止しております。

《実績》

年間利用総数 608件 (R2, 4/1~R3, 3/31)

内訳	件数
見学・書籍閲覧	156
PC利用	252
貸し出し・返却	200

利用者分類	件数
入院患者	441
外来患者	167
ご家族	0



利用時間

平日
午前9時から
午後3時まで
(土・日・祝は休み)

病院だより

- 第35号 2020年4月発行
- 第36号 2020年7月発行
- 第37号 2020年10月発行
- 第38号 2021年1月発行



市立池田病院だより

基本理念

創意に富み 思いやりのある 信頼される病院をめざして

第35号

2020年4月発行

新任医師のご紹介



はま なおき
濱 直樹

消化器外科

大阪医療センターから赴任してきました。肝胆膵外科を専門としています。気軽に何でもご相談下さい。



あべ みずほ
阿部 瑞穂

乳腺・内分泌
外科

阪大大学院での研究生活を終え、4月より赴任いたしました。患者さんに寄り添った医療ができるよう精進してまいります。よろしくお願いいたします。



さとう けいこ
佐藤 桂子

歯科・歯科口腔
外科

日々精進して知識、技術、技能全て磨いて参りますので、よろしくお願いいたします。



かなき ともひろ
金城 友紘

泌尿器科

患者さんに満足いただける医療を提供できるよう頑張ります。



やまね ゆきこ
山根 有希子

耳鼻いんこう
科

大阪市立総合医療センターより赴任して参りました。精一杯頑張りますのでご指導の程よろしくお願いいたします。



いわもと あきこ
岩元 晃子

消化器内科

市立東大阪医療センターで初期研修を受けていました。1つ1つ出来ることを増やしてみなさまに貢献できるよう頑張ります。よろしくお願いいたします。



よしむら あき
吉村 亜紀

皮膚科

神戸の病院で研修していました。皮膚科の専攻医としてお世話になります。よろしくお願いいたします。



すさき よしゆき
須崎 剛行

呼吸器外科

大阪大学医学部附属病院、大阪刀根山医療センター、大阪国際がんセンター、星ヶ丘医療センターなどで呼吸器外科医として勤務して参りました。肺癌や胸腺腫、気胸、膿胸など一般胸部の疾患に対し手術により治療の一翼を担えれば幸いです。手術は胸腔鏡手術を第一として低侵襲手術を心がけております。どうかよろしくお願いいたします。



いしだ かずひろ
石田 和大

整形外科

目の前のことから一つずつ頑張ります。よろしくお願いいたします。



わだ あき
藁田 明希

腎臓内科

腎臓内科医として4年目ですが、何卒よろしくお願いいたします。



いさか ともこ
猪阪 知子

内分泌・代謝
内科

市立豊中病院から赴任してきました。地域医療に貢献できるように頑張りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。



すえざき しんや
末崎 慎也

総合内科

患者さんのお気持ちに寄り添い、診療させていただきます。よろしくお願いいたします。



はらだ そういちろう
原田 宗一郎

消化器外科

阪大病院から専攻医として赴任してきました。いち早く池田の皆様にも馴染んで情熱ある医療を届けられるよう努めてまいります。



つじ しんのすけ
辻 真之介

小児科

池田市とその周辺地域の皆様のお役にたてるよう努めて参ります。



たなか けいすけ
田中 啓介

循環器内科

患者さん1人1人に真摯に対応したいと思います。よろしくお願いいたします。



きとう まさやす
吉藤 正泰

麻酔科

中央市民病院より赴任させていただきました。麻酔領域のスキルアップに邁進して参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



たてがみ あきら
蜷 瑛

消化器内科

西宮市立中央病院より赴任しました。よろしくお願いいたします。



いずみ はるか
泉 はるか

泌尿器科

1年間専攻医としてお世話になります。何卒よろしくお願いいたします。



まつもと ゆうこう
松本 祐幸

内分泌・代謝
内科

専攻医としてお世話になります。よろしくお願いいたします。

患者さまの権利

- ・ 個人として常にその人格を尊重される権利があります。
- ・ 自分が受ける医療に参加して自ら決定する権利があります。
- ・ 良質な医療を平等に受ける権利があります。
- ・ 自分が受けている医療について知る権利があります。
- ・ 十分な説明を受ける権利があります。
- ・ 診療上の個人情報やプライバシーが守られる権利があります。

大腸癌の内視鏡治療

大腸癌は近年増えており、部位別の死亡数では、男性は3位、女性は1位、男女計で2位になっています。しかし、大腸癌は早期発見で治癒が見込める癌であり、特に内視鏡治療が可能なstage0～Ⅰの段階では5年生存率が90%以上あります。（予後が悪いとされる膵癌の場合、stageⅠでも40%程度）

早期発見のためには、40歳を過ぎたら大腸癌検診（便潜血検査）を受けること、また、便潜血が陽性であった場合は必ず内視鏡検査を受けることが重要です。

部位別死亡数（2016年）

	1位	2位	3位	4位	5位
男性	肺	胃	大腸	肝臓	膵臓
女性	大腸	肺	膵臓	胃	乳房
男女計	肺	大腸	胃	膵臓	肝臓

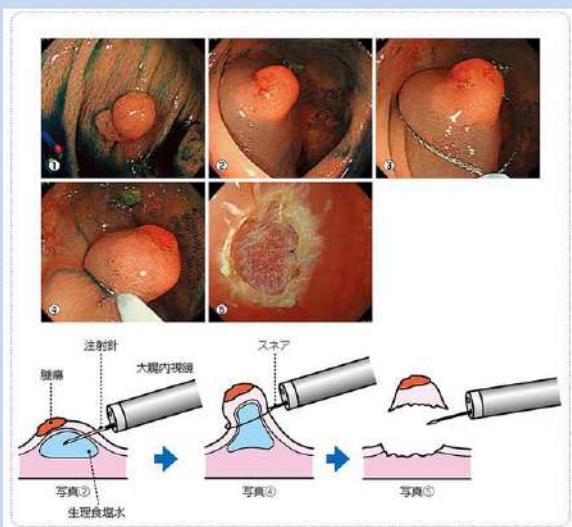
〔出典〕 国立がん研究センター

大腸癌のstageごとの5年生存率

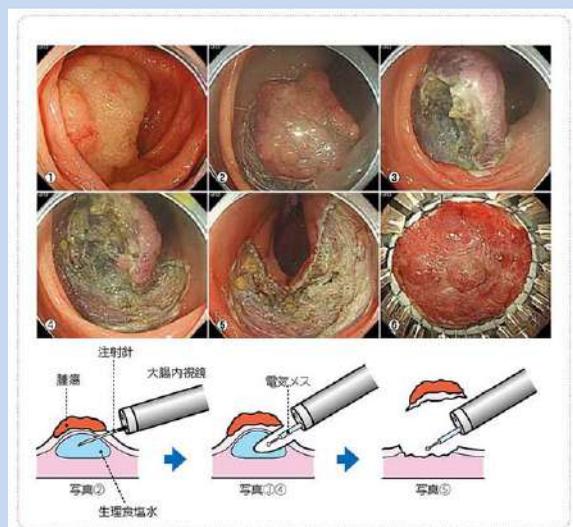
Stage	0	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ
生存率	94.0%	91.6%	84.8%	77.7%	60.0%	18.8%

〔出典〕 大腸癌研究会・全国登録 2000～2004年症例

大腸癌の内視鏡治療には、ポリペクトミーやEMR（スネアという金属の輪をかけて切除する方法）、ESD（電気メスを使って切開剥離を行う方法）があり、お腹を切らずに内視鏡を使って腫瘍の部分だけを切除することが可能です。特にESDでは、早期癌であればポリペクトミーやEMRで摘除できないような大きな腫瘍の切除も可能で、当院では全ての治療に対応しています。



EMR



ESD

大腸外科治療について

外科治療の特徴

当院では、太田博文、宗方幸二、池嶋遼の医師3名が大腸治療を専門にしており全国に先駆けてERAS（イーラス）管理を採用しています。

ERASとは、早期回復に関して良いとされることを手術前後に多く適応させることで早期回復を促し、その結果、合併症を低下させ、入院期間を短縮させます。

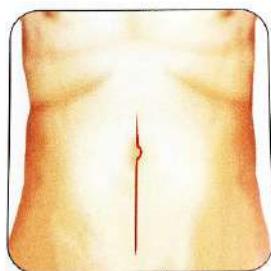
当院のERAS管理の取り組みは、日本外科学会の英語論文誌で発表され、読売新聞でも紹介されました。

ERAS管理による大腸の手術では、その多くが術後1週間以内に退院が可能です。

【ERASとは】

- ① 小さな創部、腹腔鏡手術
- ② 早期経口摂取
- ③ 早期離床・リハビリ
- ④ 術後疼痛対策、吐き気・嘔吐対策

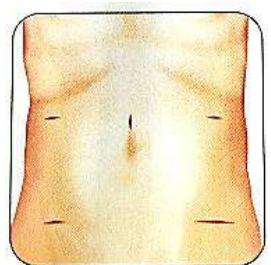
手術について



【開腹手術】

腹部を大きく切開します。

(20-30cm)



【腹腔鏡手術】

腹部に5-10mmの小さな穴を開け、腹腔内を炭酸ガスで膨らませます。そこから腹腔鏡を挿入してお腹の中の様子をモニター画面に映し出します。別の穴から細長い手術器具を挿入して手術をします。

最後に4-5cmの創部から癌を取り出します。

腹腔鏡手術のメリット

- ◆ 傷が小さい
- ◆ 術後の痛みが少ない
- ◆ 回復が早い
- ◆ 合併症が減る
- ◆ 入院期間が短い



当院は地域医療の拠点病院として近隣の病院や診療所との連携を進めております。初診の患者さまは、一度かかりつけ医にご相談ください。

市民公開講座開催中止のお知らせ



内閣総理大臣から新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく「緊急事態宣言」が4月7日に出されました。不要不急の外出を自粛するよう要請がなされたほか、密閉、密集、密接の「3つの密」を防ぐことなどで新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組みが進められているところです。

そうした状況を踏まえ、大阪府では、イベントの延期・中止や府有施等の休館などの措置について、5月6日まで継続することとされ、池田市でも同様の措置がとられています。

この方針に基づき、市立池田病院としても、開催を予定していた「市民公開講座」や「ひまわりサロン」などの講演会等は、当面、中止とさせていただきます。

ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

なお、再開などのお知らせについては、当院ホームページにてご案内します。

新型コロナウイルス感染症について

PCR検査等、診療に関する情報についても、あわせてホームページにて最新の情報をご確認ください。

[URL] <https://www.hosp.ikeda.osaka.jp>



求人募集

看護師・助産師・看護補助者

当院が急性期病院としての機能を維持するうえで、医師を支える看護職の存在は不可欠です。24時間365日対応の救急医療やその後の入院生活を支える看護職を募集しております。

資格のある方もない方も、病院を必要としている患者様のために力を貸していただけませんか？

採用の詳細については、こちらからご確認ください。



看護部の温かい動画もあわせてご覧ください。



医師事務作業補助者

医師事務作業補助者は、医師の事務作業を補助する仕事です。

主な業務内容は、以下の通りです。

- ・外来診察での電子カルテ入力など
- ・入院・手術証明書などの文書作成代行
- ・病棟での書類作成補助や回診同行
- ・手術の症例登録

30名ほどの医師事務作業補助者が医師の負担軽減に寄与すべく業務を行っています。

勤務形態は、月額、日額、時間給と幅広い形態を取っていますので、ライフスタイルに合った働き方を選択できます。

給料など詳細については、当院ホームページ採用情報をご確認ください。



お問い合わせ

ご意見箱を院内に設置しておりますので、病院だより等のご意見・ご感想などをお寄せください。

〒563-8510 大阪府池田市城南3丁目1番18号
Tel 072-751-2881 (代表) Fax 072-754-6374
URL <https://www.hosp.ikeda.osaka.jp>
編集・発行：市立池田病院 広報委員会



市立池田病院だより

基本理念

創意に富み 思いやりのある 信頼される病院をめざして

第36号

2020年7月発行

初診時及び再診時の選定療養費について

選定療養費とは、病院と診療所の機能分担の推進を図るために、他の医療機関等からの紹介状なしに大病院を受診した場合、保険適用の診療費とは別に病院が定める料金を患者さまにご負担いただく制度です。

令和2年度の診療報酬改定により、特定機能病院及び一般病床200床以上の地域医療支援病院（当院は364床の地域医療支援病院）を受診した患者さまについては、初診時5,000円（税別）以上、再診時2,500円（税別）以上の選定療養費徴収が義務付けられました。そのため、当院でも令和2年4月1日から対象の患者さまには下記の料金をご負担いただいております。皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

令和2年3月31日まで

令和2年4月1日から

初診

2,200円（税込）



5,500円（税込）

※歯科・歯科口腔外科は
3,300円（税込）

対象

初診の際、他の医療機関からの紹介状を持参せずに受診される場合

再診

0円



2,750円（税込）

※歯科・歯科口腔外科は
1,650円（税込）

対象

当院から他の医療機関への紹介を申し出たにも関わらず、患者さまのご希望により引き続き当院を受診される場合

徴収の対象とならない場合

- 救急搬送等、緊急受診の場合
- 公費負担医療制度の対象となる場合
- 当院の他の診療科を受診中の場合
- 特定健診やがん検診等の結果により精密検査の指示があった場合
- 外来受診後そのまま入院になった場合
- 労働災害や公務災害、交通事故、自費診療の場合など

患者さまの権利

- ・ 個人として常にその人格を尊重される権利があります。
- ・ 自分が受ける医療に参加して自ら決定する権利があります。
- ・ 良質な医療を平等に受ける権利があります。
- ・ 自分が受けている医療について知る権利があります。
- ・ 十分な説明を受ける権利があります。
- ・ 診療上の個人情報やプライバシーが守られる権利があります。

肺がんの胸腔鏡治療

呼吸器外科の治療

当院では、2017年から呼吸器外科を開設しております。現在、呼吸器外科専門医師1名の体制ではありますが、大阪大学医学部附属病院の連携施設として、協力して手術を実施しております。また、低侵襲な手術として、カメラ（胸腔鏡）を使用して、傷をできるだけ小さくするように努めております。当科では、胸腔鏡手術を肺がんに対しても積極的に実施しております。

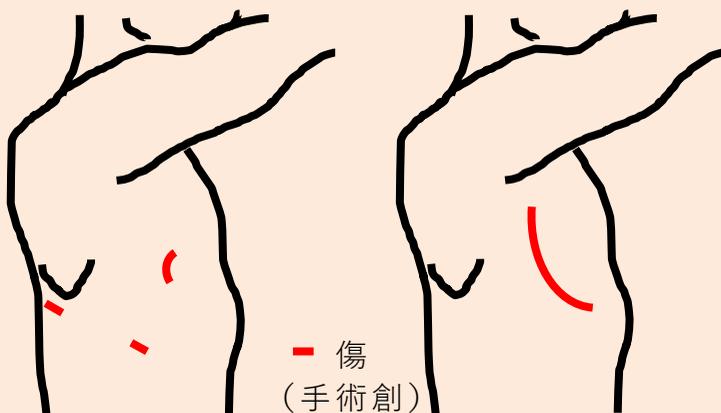
肺がんについて

肺がんは、わが国においては現在、がん死亡原因の第1位となっています。肺がんでは手術を受ける方は増加しており、近年の傾向としては女性や高齢者の割合が増加しています。リスクの1つは喫煙であり、受動喫煙も含まれます。肺がんの治療には、手術や放射線治療、抗癌剤治療があり、組織型やステージにより治療方針が異なります（下表）。大まかに言えば、手術が有効なのは病巣が広がる前の比較的早期であり、さらに早期であるほど胸腔鏡手術を適応しやすいため、早期発見が重要になります。

	I期			II期		III期			IV期	
	IA			IIA	IIB	IIIA	IIIB	IIIC	IVA	IVB
	1	2	3							
非小細胞肺癌	手術			手術+術後化学療法		化学療法+放射線治療			化学療法	
小細胞肺癌	手術+化学療法	化学療法+放射線治療								化学療法

当院では、肺がんの胸腔鏡手術を下図（左）に示すような3カ所の傷で施行しております。適応には肺がんの大きさや癒着（肺が周囲の組織とくっつくこと）の程度など、いくつかの条件があります。

胸腔鏡手術のメリットは、傷の痛みが軽減しやすい、回復が早い、美容に優れるなどが挙げられます。



【胸腔鏡手術】

2-3カ所の穴を開け、モニターで確認しながら肺を切除します。

傷のサイズ:

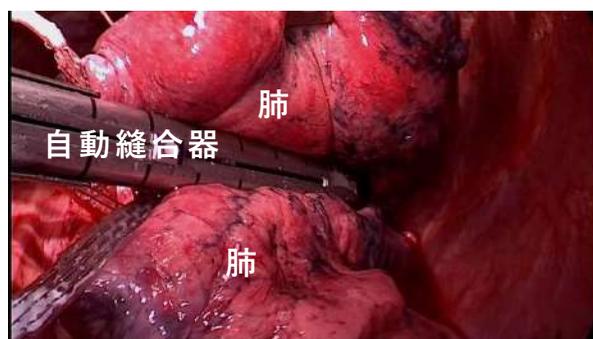
- 1.5cm×1-2カ所
- 3.5-5.0cm×1カ所

【開胸手術】

1カ所の大きな傷から、直接目で見ながら肺を切除します。

傷のサイズ:

- 20-30cm



【モニター画像】

穴から自動縫合器を挿入して肺を切除するところ

当院からのお知らせとお願い

来院される際のお願い

新型コロナウイルス感染症対策のため、外来診療などで当院へ来院される方は、必ずマスクを着用してください。

また、受付や診察室、採血室、検査室など対面で対応する際は、マスクを着用したままお話しいただくようご協力をよろしくお願いいたします。

里帰り分娩について

新型コロナウイルス感染症の流行により、里帰り分娩について悩まれている方も多いと思います。

当院では、里帰り分娩を継続しており、さまざまなご相談にも応じております。お悩みの際は、お電話にてご相談ください。

【お問い合わせ先】

072-751-2881（産婦人科病棟助産師まで）
（対応可能時間 平日12時～16時）

母親教室再開のお知らせ

新型コロナウイルス感染症の流行により、一時中止していた母親教室を再開しました。3密を避け、感染予防に留意しながら実施しています。

ご予約のうえ、マスク着用でご参加ください。



健診センターからのお知らせ

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、人間ドック及び健診業務を一時中止していましたが、6月1日より再開しています。

がん相談支援センターからのお知らせ

診療で不安や悩みごとなどはありませんか。当院では、がん患者さまやご家族の皆さまに安心して受診していただけるよう、がん相談支援センターの窓口を本館1階ロビーの『各種相談窓口』に設置しております。お気軽にお申し出ください。

当院で治療中のがん患者さまとご家族が対象です。

【受付日時】月曜日から金曜日（年末年始・祝日を除く。）の午後1時から午後4時まで

【受付窓口】本館1階ロビー『各種相談窓口』

【電話対応】072-751-2881 がん相談支援センターまで

対面でのご相談は、事前予約が必要です。電話でのご相談は、予約不要です。

37.5度以上の熱がある方や咳などの呼吸器症状がある方は、来院前に電話でご連絡ください。

お問い合わせ

ご意見箱を院内に設置しておりますので、病院だより等のご意見・ご感想などをお寄せください。

〒563-8510 大阪府池田市城南3丁目1番18号
Tel 072-751-2881（代表） Fax 072-754-6374
URL <https://www.hosp.ikeda.osaka.jp>
編集・発行：市立池田病院 広報委員会





市立池田病院だより

基本理念

創意に富み 思いやりのある 信頼される病院をめざして

第37号

2020年10月発行

耳鼻いんこう科でのめまい診療について

めまいの原因にはいろいろありますが、耳鼻いんこう科が担当する内耳（耳の奥にあるバランスの神経）が原因のめまい（良性発作性頭位めまい症、メニエール病など）が約半数を占め、脳卒中や腫瘍など脳が原因のものは約10%、原因がわからないものが約20%、心の不調や自律神経失調による血圧異常によるものがそれぞれ数%程度とされています。

実際に命にかかわるようなものはとても少ないですが、激しい症状であったり、たとえ日常生活は送れていても、めまいやふらつきがすっきり治っていなければ、その原因やめまいの種類が分からないことで不安な気持ちになると思います。

めまいの原因を調べる検査

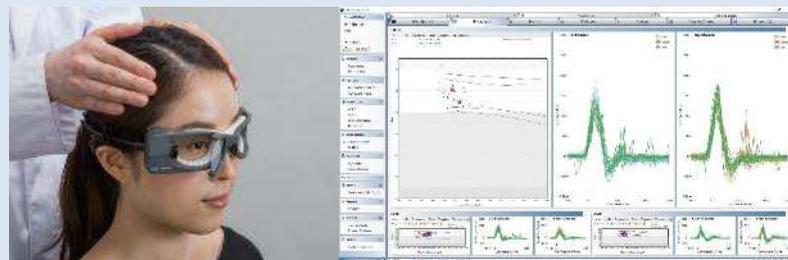
西日本でも大学病院を含む数施設しかない最新のめまいの検査(Video head impulse test、vHIT：前庭誘発電位検査、VEMP)をはじめ、関西でもトップレベルの検査体制が整っています。さらにCTやMRIの画像検査などを用いて脳に異常がないかも調べ、それらの結果を原因究明や治療方針に役立てています。



(ビデオフレンチェル眼鏡)



(VEMP 耳石器機能検査)



(vHIT 半規管機能検査)

患者さまの権利

- ・ 個人として常にその人格を尊重される権利があります。
- ・ 良質な医療を平等に受ける権利があります。
- ・ 十分な説明を受ける権利があります。
- ・ 自分が受ける医療に参加して自ら決定する権利があります。
- ・ 自分が受けている医療について知る権利があります。
- ・ 診療上の個人情報やプライバシーが守られる権利があります。

治療について

治療は、通院での内服治療に加え、症状がひどい場合には、入院していただき、回復、退院までチームでしっかりサポートさせていただきます。

効果がありそうであれば、めまいのリハビリテーションも考えていきます。なかなか治らない重症のメニエール病などに対しては、日本ではまだ新しく導入施設も少ない中耳加圧治療や手術（大阪大学と連携）の実施も相談していきます。検査で耳からのめまいではない（脳、心臓、足腰、血圧異常など）ことが判明した場合は担当の専門診療科へ紹介いたします。

めまい検査入院について

たくさんの検査と結果説明を受けていただくためには、頻回に受診が必要となる場合があります。また、めまいをわざと起こして調べる検査もあり心配される方もしばしばおられます。そこで、たくさんの検査を短期間に効率よく安心して受けられるように、2泊3日程度の短期入院でのプログラムを用意しています。興味のある方はぜひ、かかりつけ医を通じてご相談ください。

めまい検査入院スケジュール

	1日目（火）	2日目（水）	3日目（木）
午前		診察	退院
午後	診察 検査	検査 結果説明	

2020年8月から月曜日の午後にめまい専門外来を新しく設けさせていただきました。めまいだけでなく耳の聞こえについても詳しく調べます。受診希望の場合は、かかりつけ医へご相談のうえ、紹介予約してください。



当院は地域医療の拠点病院として近隣の病院や診療所との連携を進めております。初診の患者さまは、一度かかりつけ医にご相談ください。

めまい治療の流れと看護について

耳鼻いんこう科でのめまいの入院は、4階北病棟で担当しております。

入院期間は短期間ですが、症状の改善が見られなければ期間を延長することもあります。



めまい入院での看護について

・患者さまの状態をお聞かせください。

めまいの程度、聞こえの程度、耳鳴り、耳閉感、複聴の有無と程度などお聞きします。めまい症状の出現で食欲低下が出現している場合は点滴での補液を行うことや、食べやすい食事形態など配慮させていただきます。

状態に応じ医師に伝達することで速やかな対応が可能です。

・ご自身でできること、できないことをお聞かせください。

ご自身で行えることを確認し、入院生活での生活・医療が安全に行えるよう援助させていただきます。

・転倒、転落しないよう環境を整えます。

耳鼻いんこう科の耳性めまいは脳性めまいと違い、できるだけ早期に動くことで改善します。症状出現時は辛いかと思いますが、危険がないよう看護師が常にサポートさせていただきますので活動を維持しましょう。

・お気軽にご相談ください。

患者さまのいろいろな悩みなどによって症状出現がみられます。入院期間中は医師に聞けないことなど看護師にお気軽に相談してください。



Instagram開設のご案内

妊婦さんとそのご家族の方々へ情報を発信するとともに当院における出産の魅力を幅広く知っていただくためにInstagramプロアカウントを開設しました。

Instagramをご利用されている方は、ぜひフォローや「いいね！」をお願いします。

アカウント：ikeda_city_hospital



お問い合わせ

ご意見箱を院内に設置しておりますので、病院だより等のご意見・ご感想などをお寄せください。

〒563-8510 大阪府池田市城南3丁目1番18号
Tel 072-751-2881 (代表) Fax 072-754-6374
URL <https://www.hosp.ikeda.osaka.jp>
編集・発行：市立池田病院 広報委員会





市立池田病院だより

基本理念

創意に富み 思いやりのある 信頼される病院をめざして

第38号

2021年1月発行

新年のご挨拶



新年あけまして
おめでとうございます



病院長 柴田 邦隆

2020年を振り返ってみると、テニスの大坂なおみ選手が全米オープン女子シングルスで2度目の優勝、また、将棋の藤井聡太二冠は棋聖と王位を獲得して最年少でのタイトル二冠保持など、若者が活躍する明るいニュースも多くある年でした。しかし、昨年を語るうえでは、やはり「新型コロナウイルス感染症」の一言に尽きるのではないかと思います。一昨年に中国・武漢市で報告された新型コロナウイルス（COVID-19）は、瞬く間に全世界へと感染が拡大し、昨年は世界中がその対応や対策に翻弄されました。我が国でも、昨年1月に最初の感染者が報告され、累計感染患者数は、緊急事態宣言が発令された期間では横ばいとなったものの、その後は右肩上がりが増加し、12月には20万人を突破しました。感染防止の3つの基本である①身体的距離（ソーシャルディスタンス）の確保、②マスクの着用、③手洗いのほか、「3密」の回避など、感染拡大を防ぐための「新しい生活様式」といった新たな価値観が示された1年でした。

そうしたコロナ禍にあっても、市立池田病院は通常診療を止めることなく、急性期医療を担う地域の基幹病院としての役割を果たし続けています。昨年4月・5月は、自主的に受診を控える人も多く、入院、外来ともに患者数は大幅に減少しましたが、6月以降は例年並みにまで戻り、万全の対策を取ったうえで各種検査や手術も普段どおりに行っています。

新しい年を迎えたからといってコロナ禍が終息するわけではなく、今後、第4波や第5波がやって来るかもしれません。しかし、ワクチンや治療薬の開発、また、一人一人が万全の感染対策を取ることで、近い将来に新型コロナウイルス感染症を克服できると信じています。

少子高齢化、人口減少、働き方改革、地域医療構想、公立・公的病院の再編・統合など、新型コロナウイルス感染症以外にも直面する課題は山積していますが、当院の基本理念である「創意に富み 思いやりのある 信頼される病院をめざして」のもと、職員が一丸となって取り組み、解決していきたいと考えております。

今後ともどうぞよろしく願いいたします。

患者さまの権利

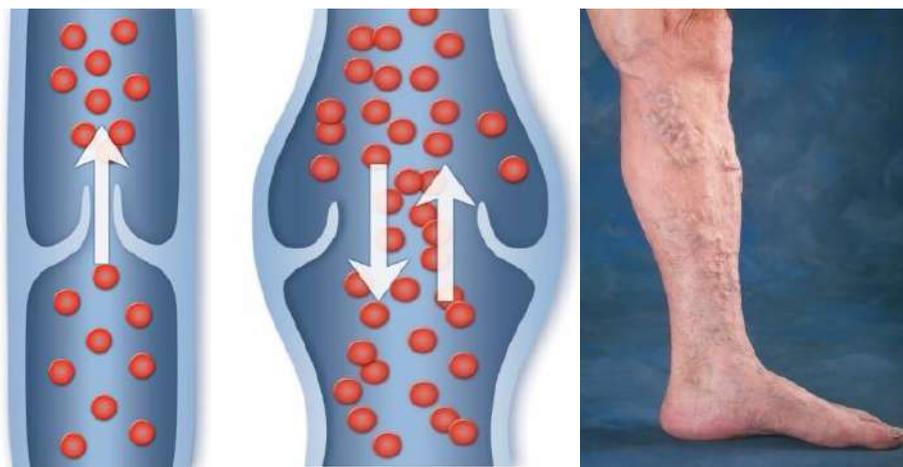
- ・ 個人として常にその人格を尊重される権利があります。
- ・ 自分が受ける医療に参加して自ら決定する権利があります。
- ・ 良質な医療を平等に受ける権利があります。
- ・ 自分が受けている医療について知る権利があります。
- ・ 十分な説明を受ける権利があります。
- ・ 診療上の個人情報やプライバシーが守られる権利があります。

- ・ 当院では、下肢静脈瘤に対する治療を積極的に施行しています。
- ・ 当院は、下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の中で2019年12月から保険適用となった血管内接着剤治療（血管内塞栓術）の実施施設となっております。
- ・ 従来より行われていた血管抜去術（ストリッピング手術）をはじめ、上記のような低侵襲の手術方法を患者さまの病態に応じて選択して手術を施行しております。
- ・ 現在は入院手術を基本としておりますが、今後は状況に応じて、日帰り手術も選択できるように体制を整えております。
- ・ 下肢静脈瘤を疑う症状や、血管内治療を中心に説明させていただきます。

静脈と下肢静脈瘤について

静脈弁は、立っている時に血液が足の方に戻ってしまうのを防いでいます。この弁が壊れると、血液が逆流してその下にある静脈に血液がたまってしまいます。

血液がたまった状態が毎日毎日、何年も続くと徐々に静脈の壁がひき伸ばされて太くなります。さらに太くなると静脈はへビのようにグネグネと曲がりくねった状態になります。この「静脈が曲がりくねった状態」が「下肢静脈瘤」です。



下肢静脈瘤の症状

- 足の血管が浮き出て見える
- ふくらはぎがだるい・重苦感
- 足のむくみ
- 足のコむら返り（つり）
- 足がほてる・熱く感じる
- 足のむずむず感・不快感
- 足のかゆみ・湿疹
- 足の色素沈着
- 足の潰瘍

下肢静脈瘤の悪化について

下肢静脈瘤は命にかかわる病気ではありませんが、放置しておいて自然に改善することはなく、時間の経過とともに徐々に悪化していきます。

重症化すると湿疹や脂肪皮膚硬化症などの「うっ滞性皮膚炎」を合併し、さらに悪化すると「潰瘍」になってしまいます。

下肢静脈瘤の悪化



静脈瘤



腫脹



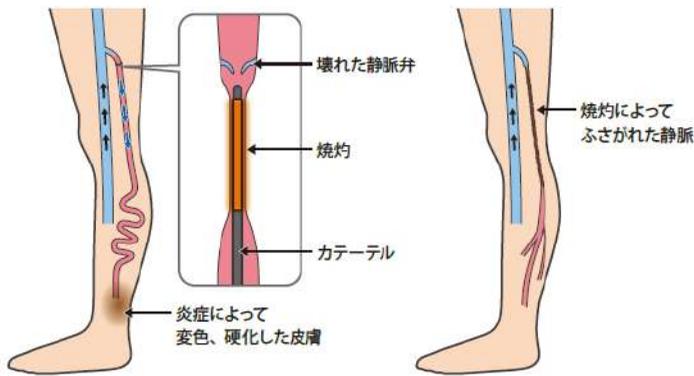
皮膚変色



皮膚潰瘍

下肢静脈瘤血管内治療（血管内焼灼術）

血管内治療は、静脈を焼灼する治療です。弁不全に陥った静脈にカテーテルを挿入し、内部から熱を加えて焼灼します。焼いた静脈は固く縮み、治療後半年ぐらいで吸収されます。

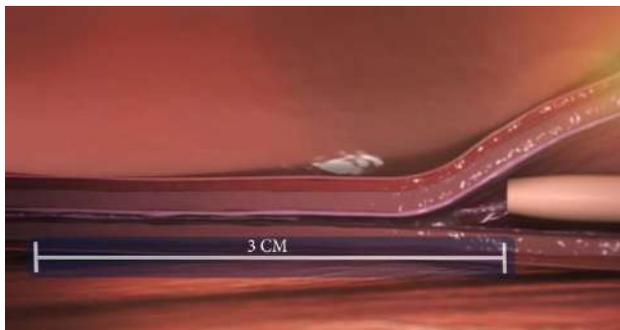


このカテーテルを血管内に挿入し、中から焼灼します。

最新治療！！ 血管を接着剤でふさぐ「血管内塞栓術」

2019年12月から保険適用となった下肢静脈瘤の最新治療が血管を接着剤でふさぐ「血管内塞栓術」です。

従来の血管内焼灼術は、熱を発するので、火傷防止に麻酔液を血管外に注入しますが、血管内塞栓術は熱を発しないので、その手技も不要となりました。また、熱による神経損傷のリスクもないため、より低侵襲な治療法です。



このカテーテルを血管内に挿入し、左図のように接着剤（グルー）を注入して血管を閉塞させます。

その他の治療法

“硬化療法”

硬化療法は、下肢静脈瘤に薬を注射して固める治療です。固めた血管が硬くなることから硬化療法と呼ばれています。硬くなった静脈は、半年程度で吸収されます。外来で施行可能な手技ですが、軽症の下肢静脈瘤が適応になります。進行した症例に対しては、血管抜去や血管内治療でないと効果が期待できない場合もあります。また、薬剤によるアレルギーや色素沈着が起こることがあります。

“保存的加療”

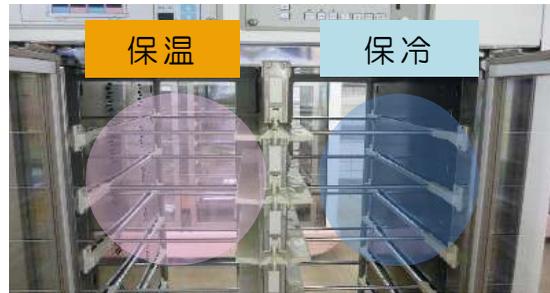
運動・マッサージなどによる生活習慣の改善はもちろんですが、弾性ストッキングの着用がメインになります。ふくらはぎのポンプ作用を助けることによって静脈還流を促し、下肢静脈の血流うっ滞を防ぎます。正しく着用すれば、下肢静脈瘤の症状緩和に役立ちます。手術を希望されない方にお勧めしております。

下肢静脈瘤の症状に合致する方、下肢静脈瘤を指摘され症状を認めているが手術を悩んでいる方、下肢静脈瘤なのかどうか気になっておられる方などがおられましたら、まずはかかりつけ医で診察を受け、症状に応じて当院へ紹介していただければと思います。

入院された皆さまに召し上がっていただくお食事は、温かい物は温かく、冷たい物は冷たく、適温でお届けしております。

お食事を用意している厨房から皆さまがいる病棟まで運んでいる間も、適温を保てるように、栄養管理科では「温冷配膳車」というアイテムを使用しています。

温冷配膳車



庫内は保温と保冷に分かれていて、トレー上で温かいお料理と冷たいお料理をそれぞれ適温に保つことができます。

この温冷配膳車にて適温を保ち、衛生管理を行った安全で安心していただけるお食事を皆さまのもとへ運んでいます。



ほかほか
炊きたてご飯を
よそいます



温かいうちに
保温側のトレーへ



ひんやりさせて
よりうま味が
ますものを



冷たいうちに
保冷側のトレーへ



保温・保冷を保ち
皆さまのもとへ
お届けします



お問い合わせ

ご意見箱を院内に設置しておりますので、病院だより等のご意見・ご感想などをお寄せください。

〒563-8510

大阪府池田市城南3丁目1番18号

Tel 072-751-2881 (代表)

Fax 072-754-6374

URL <https://www.hosp.ikeda.osaka.jp>

編集・発行：市立池田病院 広報委員会



編集後記

市立池田病院の令和2年度病院年報（第28号）が刊行となりました。

令和3年8月末現在、新型コロナウイルス（COVID-19）のデルタ株感染が急拡大し、日本は「第5波」の渦中にあり、大阪府にも緊急事態宣言が発出されました。1日当たりの新規感染者数も1万人を超えることが常態化し、不要不急の外出自粛や飲食店での酒類提供の一律停止の要請など社会経済活動にも大きな影響が出ています。当院に対しても災害級非常事態である「フェーズ5」でのCOVID-19病棟運用体制をとる要請があり、戻りつつあった通常診療に影響が出始めています。感染収束に向けたワクチン接種の加速が望まれるところです。

COVID-19の診療と通常診療の両立は極めて難しいことではありますが、引き続き、公立病院としての責務を果していきたいと思えます。また、ポストコロナにおけるICTやAIの導入による新たな診療の在り方を探りながら、これからも地域医療に貢献していくことができればと思えます。

原稿の作成および編集に携わっていただきました皆様に深謝いたします。多くの皆様に本年報をご覧いただければ幸いです。今後とも、よろしく願い申し上げます。

広報委員長 今井 康陽

病院年報 第28号 (令和2年度)

令和3年9月発行

発行 市立池田病院
編集 市立池田病院広報委員会
池田市城南3丁目1番18号
電話 072-751-2881
FAX 072-754-6374
E-Mail : info@hosp.ikeda.osaka.jp